2026年度

履修の手引き

〈2024年度入学者用〉

新潟医療福祉大学

２０２６年度 学部学事暦

◇ 印は、15週回目授業日を示す。
○ 印は、定期試験日を示す。
□ 印は、追試・再試日、振替授業日を示す。
■ 灰色は、休業日を示す。

（注1） 土曜日、日曜日も必要に応じ授業を行います。
（注2） 上記日程は変更される場合があります。その際は、掲示等で連絡します。

前期

月	日	月	火	水	木	金	土	事項	
4月								3/23	3年生オリエンテーション
								3/24	2年生オリエンテーション
								4/1	学生寮入寮オリエンテーション
								4/1～6/20	健康診断（詳細別途連絡）
								4/1～9/30	臨床技術4年・臨床実習Ⅰ・Ⅱ
				1	2	3	4	4/2	新入生オリエンテーション(Web)
								4/3・4/6	新入生オリエンテーション(対面)
								4/3～4/8	履修登録期間（前期・後期）
								4/7	桃迎会
								4月上旬～7月下旬	鍼灸健康4年・臨床実習Ⅲ
								4/6～6/6	理学療法4年・地域リハビリテーション実習（1期）
								4/6～5/29	作業療法4年・総合臨床実習（前半）
	5	6	7	8	**9**	10	11	4/6～6/13	理学療法4年・臨床実習Ⅲ（1期目）
								4/8	入学式
								4/9	前期授業開始
								4/10～4/15	履修登録内容 確認・修正期間
								4/11	合同就職説明会（CT・RT）
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25	4/20～7/10	言語聴覚4年・臨床実習Ⅲ
	26	27	28	29	30			4/29	授業実施日（昭和の日）
								4/30	大学休業日
5月								5/1	大学休業日
						1	2	5/1～10/31	社会福祉4年・精神保健福祉援助実習
								5月上旬～11月下旬	健康スポーツ4年・教育実習
								5/4	みどりの日
	3	4	5	6	7	8	9	5/5	こどもの日
								5/6	授業実施日（振替休日）
								5/11～8/12	診療放射線4年・臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（A日程）
								5/10	新潟県・新潟市教員採用試験（小学校教諭）
								5/11～6/5	視機能4年・臨床実習Ⅲ(A日程)
	10	11	12	13	14	15	16	5/11～7/18	理学療法4年・臨床実習Ⅲ（2期目）
								5/11～8/28	看護4年・公衆衛生看護学実習Ⅰ
								5/13(予)	眼鏡作製技能検定（学科試験）
								5/18～5/29	健康栄養4年・教育実習（栄養教諭）
									健康栄養4年・応用臨地実習
								5/18～6/5	看護4年・養護実習
	17	18	19	20	21	22	23	5/25～8/12	診療放射線4年・臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（B日程・前期）
								5月下旬～12月中旬	健康スポーツ3年・介護等体験実習
								5月下旬～9月下旬	鍼灸健康3年・臨床実習Ⅱ
	24	25	26	27	28	29	30	5/25～5/29	夏季集中授業の履修再確認期間（履修取消・履修登録）
								5/30	義肢装具自立支援学科企業説明会
	31								
6月		1	2	3	4	5	6	6/1～8/7	看護4年・公衆衛生看護学実習Ⅱ
								6/1～6/12	看護4年・統合実習
								6/8～7/31	作業療法4年・総合臨床実習（後半）
	7	8	9	10	11	12	13	6/8～11/13(予)	看護4年・助産学実習Ⅰ～Ⅳ（日程変更・延長の可能性あり）
								6/9～7/6	視機能4年・臨床実習Ⅲ(B日程)
								6/14	来場型オープンキャンパス
								6/15～6/26	看護4年・統合実習
								6/15～8/22	理学療法4年・臨床実習Ⅲ（3期目）
	14	15	16	17	18	19	20	6/17	創立記念日
									防災・避難訓練
								6/15～7/24	義肢装具4年・臨床実習Ⅳ
								6/20	業界・仕事研究会
								6/22～7/18	理学療法4年・地域リハビリテーション実習（2期）
	21	22	23	24	25	26	27	6/27	鍼灸健康学科企業説明・体験会
	28	29	30						

後期

月	日	月	火	水	木	金	土	事項	
10月								10月上旬～11月下旬	健康スポーツ2年・観察参加実習
					1	2	3		
								10/4	来場型オープンキャンパス
								10/10～10/11	大学祭
	4	5	6	7	8	9	10		
								10/12	授業実施日（スポーツの日）
	11	12	13	14	15	16	17	10/12～10/31	理学療法3年・臨床実習Ⅱ（2期目）
								10/17	総合型選抜（専願制）Ⅰ期、総合型選抜（探求学習評価型）
								（学内立入禁止）	総合型選抜（探求学習評価型）高大接続連携校、看護学科3年次編入学選抜
	18	19	20	21	22	23	24	10/19～10/23	健康栄養3年・公衆栄養学実習Ⅱ
								10/28～11/26	視機能3年・臨床実習Ⅱ（A日程）
								10/24	新潟医療福祉学会
	25	26	27	28	29	30	31	10/31	保護者会（後援会役員会）
11月								11月上旬～2月下旬	健康スポーツ2年・教職インターンシップ
	1	2	3	4	5	6	7	11/2～11/6	奉手集中授業の履修再確認期間（履修取消・履修登録）
								11/3	授業実施日（文化の日）
								11/7	学内企業等説明会
	8	9	10	11	12	13	14	11/9～11/13	健康栄養3年・給食経営管理実習Ⅲ（前半）
								11/10～11/26	理学療法2年・臨床実習Ⅰ（見学）
								11/16～11/20	健康栄養3年・給食経営管理実習Ⅲ（後半）
								11/21	総合型選抜（スポーツ活動評価型）前期日程、学校推薦型選抜（指定校制）
	15	16	17	18	19	20	21	（学内立入禁止）	外国人留学生選抜Ⅰ期
								11/23	勤労感謝の日
								11/28	総合型選抜（専願制）Ⅱ期、総合型選抜(併願制)、
	22	23	24	25	26	27	28	（学内立入禁止）	学校推薦型選抜（公募制）、社会人等特別選抜、特待生選抜Ⅰ期
	29	30						11/30～12/25	視機能3年・臨床実習Ⅱ（B日程）
12月			1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12		
								12/19	総合型選抜（スポーツ活動評価型）後期日程、総合型選抜（専願制）Ⅲ期、
								（学内立入禁止）	健康スポーツ学科　3年次編入学選抜、社会福祉学科　3年次編入学選抜、
	13	14	15	16	17	18	19		医療情報管理学科　3年次編入学選抜
	20	21	22	23	24	25	26	12/25	年内授業最終日
								12/26～1/3	冬季休業期間
	27	28	29	30	31				

7月

			1	2	3	4	7/5 新潟県・新潟市教員採用試験
5	6	7	8	9	10	11	7/6～7/17 看護4年・統合実習
12	13	14	15	16	17	18	7/12 来場型オープンキャンパス 7/15 新入生中間オリエンテーション 7/18 高校生対象チーム医療体験会
19	20	21	◇22	◇23	◇24	25	7/20 授業実施日(海の日) 7/22～7/28 30時間科目15回目授業日 7/25 医療福祉施設求人説明会
26	◇27	◇28	29	30	31		7/29～8/4 前期定期試験期間 7/27～8/29 理学療法4年・地域リハビリテーション実習(3期)

8月

						1	8/1～9/20 社会福祉2年・児童館実習Ⅰ 8/1～9/30 医療情報3年・医療福祉施設基礎実習
2	3	4	5	6	7	8	8/6 大学休業日 8/8～8/9 来場型オープンキャンパス 8/8～8/16 夏季休業期間
9	10	11	12	13	14	15	8月中旬～9月中旬 健康スポーツ・野外活動Ⅱ(夏期)
16	17	18	19	20	21	22	8/17～9/11 義肢装具3年・臨床実習Ⅲ 8/18～8/21 追試・再試(定期試験予備日含む) ※追試・再試は、期間外に実施する場合も有 8/17～9/11 看護2年・基礎看護学実習Ⅱ 8/16～9/11 夏季集中講義期間(対象科目履修者のみ) 8/17～8/28 診療放射線4年・臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(B日程・後期) 8/18～9/18 社会福祉2年・介護実習ⅠC 8/18～10/9 社会福祉3年・ソーシャルワーク実習Ⅰ 8/22(予) 視機能科学科・夏休みの自由研究(イベント) 8月下旬(予) 第1種・第2種放射線取扱主任者試験
23	24	25	26	27	28	29	8/24～8/28 連携総合ゼミ(4年生) 8/24～9/18 視機能4年・臨床実習Ⅲ(C日程) 8/24～10/9 視機能3年・多職種連携実習 8/24～8/28 作業療法2年・体験実習 8/24～9/11 健康栄養3年・臨床栄養学実習Ⅲ 8/24～9/18 健康栄養2年・入門臨地実習 8/26～9/9 言語聴覚2年・臨床実習Ⅰ
30	31						8/31 大学休業日 8/31～9/4 視機能2年・臨床実習Ⅰ(A日程) 8/31～9/11(予) 看護1年・地域生活実習

9月

		1	2	3	4	5	9/2～9/7 新潟医療福祉大学公開講座 同行援護従業者養成研修
6	7	8	9	10	11	12	9/3 交通安全無事故の誓い 9/4 9月卒業者発表 9/7 大学休業日 9/6(予) 臨床技術・第2種ME技術実力検定試験 9/7～9/11 視機能2年・臨床実習Ⅰ(B日程) 作業療法1年・基礎実習 9/7～10/16 作業療法3年・評価実習 9/8～1/12 救急救命3年・医療機関実習、救急車同乗実習
13	14	15	16	17	18	19	9/14～9/19 作業療法3年・地域実習(過年度生のみ) 9/14～2/12 看護3年・領域別看護学実習 9/14～9/18 視機能2年・臨床実習Ⅰ(C日程) 9/14～9/20 履修登録内容 確認・修正期間 9/16 9月卒業式 9/18 大学休業日
20	**21**	22	23	24	25	26	9/21 後期授業開始・授業実施日(敬老の日) 9/22 授業実施日(国民の休日) 9/23 授業実施日(秋分の日) 9/21～10/10 理学療法3年・臨床実習Ⅱ(1期目) 9/21～11/6 言語聴覚3年・臨床実習Ⅱ 9/22～9/25 履修登録内容 確認・修正期間 9/26 QOLサポーターと学生との集い 救急救命学科・10周年記念事業(イベント) 9月下旬～2月中旬 鍼灸健康2年・臨床実習Ⅰ
27	28	29	30				9/28～10/9 健康栄養3年・介護栄養学実習 9/28～10/16 作業療法3年・評価実習(過年度生のみ)

授業回数	前半	8	8	8	8	8
	後半	7	7	7	7	7
授業合計		15	15	15	15	15
試験＋追再試		1	2	2	2	2
合計		16	17	17	17	17

	(前半)	(後半)
月曜日	4/13～6/8	6/15～7/27
火曜日	4/14～6/9	6/16～7/28
水曜日	4/15～6/3	6/10～7/22
木曜日	4/ 9～6/4	6/11～7/23
金曜日	4/10～6/5	6/12～7/24

1月

						1	2	1/1～1/3 冬季休業期間
3	4	◇5	◇6	◇7	◇8	9	1/4 授業再開 1/5 ～8 30時間科目15回目授業日(火曜～金曜科目) 1/9(予) スクーリング(入学予定者対象)
10	11	◇12	13	14	15	16	1/11 成人の日 1/12 ※ 30時間科目15回目授業日(※月曜科目) 1/15 (学内立入禁止) 大学入学共通テスト準備日(大学閉鎖日) 1/16～1/17 大学入学共通テスト (学内立入禁止)
17	18	19	20	21	22	23	1/19 大学休業日 1/20～1/26 後期定期試験期間
24	25	26	27	28	29	30	1/24(予) 介護福祉士国家試験 1/30(予) 精神保健福祉士国家試験
31							1/31(予) 社会福祉士国家試験

2月

							2/3～2/4 一般選抜(前期日程)、特待生選抜試験Ⅱ期
	1	2	3	4	5	6	2/4 外国人留学生選抜Ⅱ期 (学内立入禁止) 2/5～2/10 追試・再試(定期試験予備日含む) ※追試・再試は、期間外に実施する場合も有
7	8	9	10	11	12	13	2/8～3/5 義肢装具2年・臨床実習Ⅱ 2/8～3/31 春季集中講義期間(対象科目履修者のみ:4年生除く) 2/11 建国記念の日 2/11(予) 助産師国家試験 2/12(予) 保健師国家試験 2月中旬～2月下旬 健康スポーツ・野外活動Ⅰ(冬期) 全学科2年・スポーツ・実践(スキー)
14	15	16	17	18	19	20	2/14(予) 看護師国家試験 診療情報管理士試験(3、4年) 2/17(予) 臨床検査技師国家試験 2/18(予) 視能訓練士国家試験 2/15～3/4 看護1年・基礎看護学実習Ⅰ 2/15～3/19 社会福祉2年・介護実習Ⅱ 2/15～4/7 社会福祉2年・児童館実習Ⅱ 2/15～3/26 社会福祉3年・ソーシャルワーク実習Ⅱ 2/18(予) 診療放射線技師国家試験 2/18 卒業者発表 2/19(予) 義肢装具士国家試験 2/20(予) 言語聴覚士国家試験 2/19～3/12 理学療法2年・臨床実習Ⅰ(検査測定)
21	22	23	24	25	26	27	2/21 理学療法士・作業療法士国家試験 (予) 2/23 天皇誕生日 2/24 新4年生オリエンテーション
28							2/28(予) 管理栄養士国家試験 はり師・きゅう師国家試験

3月

	1	2	3	4	5	6	3/1、3/3～3/5 連携総合ゼミ(3年生) 3/2 一般選抜(後期日程)、外国人留学生選抜Ⅲ期 (学内立入禁止)
7	8	9	10	11	12	13	3/7(予) 救急救命士国家試験 臨床工学技士国家試験 3/8 大学休業日 3/12 総合型選抜(面接試験重視型) (学内立入禁止)
14	15	16	17	18	19	20	3/14 視機能新2年～4年・臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ指導者説明会 第10回視機能科学科公開講演会 3/18 卒業式
21	22	23	24	25	26	27	3/21 春分の日 3/22 振替休日 3/26 高校生対象チーム医療体験会
28	29	30	31				3/23 新3年生オリエンテーション 3/24 新2年生オリエンテーション 3/28 来場型オープンキャンパス

授業回数	前半	8	8	8	8	8
	後半	7	7	7	7	7
授業合計		15	15	15	15	15
試験＋追再試		2	2	2	1	2
合計		17	17	17	16	17

	(前半)	(後半)
月曜日	9/21～11/ 9	11/16～1/12 ※1/12火曜
火曜日	9/22～11/10	11/17～1/5
水曜日	9/23～11/11	11/18～1/6
木曜日	9/24～11/12	11/19～1/7
金曜日	9/25～11/13	11/20～1/8

目　　次

◆　共通編　◆

Ⅰ．授業について
1．学期…… 1
2．単位制…… 1
3．授業時間…… 1
4．授業科目の種類…… 2
5．メディアを利用した授業…… 2
6．休講・補講・集中講義…… 2
7．出席確認…… 3
8．欠席…… 4
9．禁止事項：授業の録画・録音・撮影…… 4
10. 学生による授業評価…… 4
11. オフィスアワー・連絡先…… 4

＊ポータルサイトとは…… 5

Ⅱ．履修について
1．卒業要件…… 6
2．CAP制…… 7
3．履修登録とは…… 8
4．履修登録の流れ…… 8
5．履修登録の注意点…… 9
6．履修登録に関するよくある質問…… 9
7．入学前の既修得単位の認定…… 11
8．他学科科目の履修・聴講…… 11

＊ポータルサイト履修登録マニュアル…… 12

Ⅲ．試験について
1．試験の種類…… 17
2．受験資格…… 17
3．定期試験に関する注意事項…… 17

Ⅳ．成績評価について
1．評価区分…… 21
2．成績通知…… 21
3．再履修…… 21
4．GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度…… 21

Ⅴ．本学が求める学修成果
1．アセスメントプランの目的…… 22
2．アセスメント対象と指標（具体的な検証方法）…… 22

3．評価の基準…… 23

Ⅵ．大学院への進学について
1．内部進学…… 25
2．早期進学制度…… 25
3．学部４年次在学中の大学院修士課程科目等履修制度…… 26
4．修士課程在学期間短縮制度…… 26

Ⅶ．生成AI利用に関する本学の方針と留意事項について
1．本学の方針…… 27
2．留意事項…… 27

Ⅷ．遠隔教育の実施に関する質保証について…… 28

Ⅸ．著作物の利用に関する指針
1．指針の目的…… 30
2．授業での著作物の利用について…… 30
3．本学の本指針に関する基本的な考え…… 30
4．著作権法上、留意すべき点の一例について…… 30
5．学生が著作物を利用する場合の注意点…… 31
6．問い合わせ窓口…… 32
7．参考資料（令和６年12月時点）…… 32

Ｘ．学外実習に関わる費用および学生負担金の基本方針
1．学生負担となる費用…… 33
2．学生負担金に関する基本方針（抜粋）…… 33

◆　学科別編　◆

理学療法学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 34
カリキュラム表…… 35　　学外実習と履修基準…… 39
資格と免許…… 41

作業療法学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 46
カリキュラム表…… 47　　学外実習と履修基準…… 51
資格と免許…… 52

言語聴覚学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 57
カリキュラム表…… 58　学外実習と履修基準…… 62
資格と免許…… 63

義肢装具自立支援学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 68
カリキュラム表…… 69　学外実習と履修基準…… 73
資格と免許…… 74

鍼灸健康学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 80
カリキュラム表…… 81　学外実習と履修基準…… 85
資格と免許…… 86

臨床技術学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 92
カリキュラム表…… 93　学外実習と履修基準…… 97
資格と免許…… 98

視機能科学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 102
カリキュラム表…… 103　学外実習と履修基準…… 107
資格と免許…… 108

救急救命学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 114
カリキュラム表…… 115　学外実習と履修基準…… 119
資格と免許…… 119

診療放射線学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 123
カリキュラム表…… 124　学外実習と履修基準…… 128
資格と免許…… 129

健康栄養学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 134
カリキュラム表…… 135　学外実習と履修基準…… 140
資格と免許…… 141

健康スポーツ学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー…… 146
カリキュラム表…… 147　学外実習と履修基準…… 152
資格と免許…… 155

看護学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー …… 161
カリキュラム表 …… 162　学外実習と履修基準 …… 167
資格と免許 …… 170

社会福祉学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー …… 186
カリキュラム表 …… 187　学外実習と履修基準 …… 192
資格と免許 …… 194

心理健康学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー …… 200
カリキュラム表 …… 201　学外実習と履修基準 …… 205
資格と免許 …… 206

医療情報管理学科
優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー …… 209
カリキュラム表 …… 210　学外実習と履修基準 …… 214
資格と免許 …… 214

◆　教職課程編　◆

教職課程履修規則 …… 217
健康栄養学科　健康スポーツ学科　看護学科

＊学外実習で起こりうる個人情報の漏洩の防止－ガイドライン－ …… 230

在学生の皆さんへ

本学では、大学全体および各学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）とディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針)、およびカリキュラム概念図（教育課程の俯瞰図）を定めており、本学ホームページにて公表しています。

在学生の皆さんは、卒業し学士の学位を取得するにあたってどのような知識や理解、技能、姿勢を修得することが求められているのか、またその目標を達成するためにどのような方針および体系のもとでカリキュラムが編成されているのかを把握しながら、日々の学修に努めてください。

新潟医療福祉大学全体のディプロマ・ポリシー

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を 学び続ける力	持続可能な社会を支える保健・医療・福祉・スポーツ分野の一員として、幅広い教養とともに、自らの専門職種に関する確かな知識と技術を身につけている。
T	Teamwork & Leadership チームワークと リーダーシップを 発揮する力	多職種間連携の技能を活かし、多様な背景を持つ他者とコミュニケーションを図りながら、チーム共通の目標に向けて主体的に行動することができる。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と高潔な倫理観を有し、多様な背景を持つ対象者のQOLへの理解と共感に基づき、適切な支援を行うことができる。
P	Problem-solving 問題を解決する力	自らの専門職種における課題を特定した上で、他の専門職種の知見も活かしながら、科学的な手法を用いてこれを分析・考察し、その解決に取り組むことができる。
S	Self-actualization 自己実現を 達成する力	自らを継続して高める意欲を有し、自らの専門職種を中心とした学びを生涯にわたり続けることで、国際化・情報化に対応し自らの可能性を拓げようとする姿勢がある。

カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの閲覧方法

■大学全体のカリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシー

本学ホームページ トップページ　→　大学概要　→　大学の理念　→　３つのポリシー

URL　https://www.nuhw.ac.jp/applicant/admissions/diploma/college.html

Ⅰ．授業について

1．学期

本学は、次のとおり前学期・後学期のセメスター制としています。セメスター制とは、一つの授業を一つの学期の中で集中的に学修し、学期毎に完結させることで、学修効果を高めることを目的とした制度です。

前学期　　4月1日から9月30日まで　　※前期授業は4月9日（木）から開始します。
後学期　　10月1日から翌年3月31日まで　※後期授業は9月21日（月）から開始します。

前期授業	各年度の前学期で完結する授業
後期授業	各年度の後学期で完結する授業
集中授業	期間を限定して集中して行う授業（例：土日のみで実施、夏季休業期間で実施）
通年授業	1年間の継続授業

2．単位制

授業科目を履修し、その試験等に合格すると所定の単位が与えられます。1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。

講義	15時間の講義と30時間の事前・事後学修をもって1単位とする。 （教育上必要があるときは、30時間の講義をもって1単位とすることができる）
演習	30時間の演習と15時間の事前・事後学修をもって1単位とする。 （教育上必要があるときは、15時間の演習をもって1単位とすることができる）
実験・実習・実技	45時間の実験・実習・実技をもって1単位とする。 （教育上必要があるときは、30時間の実習をもって1単位とすることができる）

3．授業時間

本学の授業時間は次の通りです。授業科目によっては別に指定することがあります。

時　限	授　業　時　間　帯	時　間
第1時限	9：00～10：30	90分
第2時限	10：40～12：10	90分
昼休み	12：10～13：10	60分
第3時限	13：10～14：40	90分
第4時限	14：50～16：20	90分
第5時限	16：30～18：00	90分

＊授業科目によっては授業時間が変更される場合があります。この場合はポータルサイト（後述）の掲示で知らせるか、授業内に担当教員が指示します。
＊土、日曜日も必要に応じ授業を行うことがあります。

4．授業科目の種類

1）科目群

本学の科目群は、基礎教養科目群、保健医療福祉教養科目群、保健医療福祉連携科目群、専門基礎科目群、専門専攻科目群から構成されています。

基礎教養科目群	学修・研究を進めていく上で必要な、基礎的スキルと心構えを全学共通科目として学びます。
保健医療福祉教養科目群	QOL（生活の質や健康の質など）の基本について考える能力を全学共通科目として学びます。
保健医療福祉連携科目群	医療福祉関連専門職者として様々な専門知識を修得する上でベースとなる基礎能力を身につけ、専門職種間の相互理解を促すための全学共通科目です。
専門基礎科目群	各分野の高度な専門知識や技術を学ぶための前提となる知識・技術を学びます。
専門専攻科目群	各分野の高度な専門知識・技術を学びます。

2）必修科目、選択科目等

本学の各科目は、必修科目、選択科目、自由科目から構成されています。

必修科目	卒業のため必ず単位を修得しなければならない科目
選択科目	定められた条件内で選択できる科目
自由科目	卒業単位に含まれない科目

5．メディアを利用した授業

本学では、メディアを利用した授業（メディア授業）を一部の科目で導入しています。メディア授業は遠隔授業、オンライン授業と呼ばれることがあります。

メディア授業の主な形式は以下のようになります。

1）同時双方向型

リアルタイムで配信する授業形式です。オンライン上で教員と学生が双方向で繋がり、その場での質疑応答や履修者同士で意見交換をすることができます。

2）オンデマンド型

オンライン上で事前に収録された講義動画や資料によって学ぶ授業形式です。ポータルサイト（後述）等を活用した課題提出、質疑応答ができ、履修者同士の意見交換も可能です。

6．休講・補講・集中講義

1）休講

担当教員の都合により授業ができなくなった場合は、休講になります。休講の連絡は、ポータルサイト（後述）上やメール等で行われます。

2）補講

休講となった授業または時間数が不足している授業等に対して行うものです。

3）集中講義

授業科目により、ある一定期間に集中して講義を行うことがあります。

※上記のほか、教室変更や試験に関する情報はポータルサイト（後述）上に掲示されるか、授業時間内に担当教員が知らせます。

7．出席確認

講義室および一部の実習室の出入口付近に出席確認用ICカードリーダーを設置しています。また、一部授業ではスマホ出席を導入しています。授業に出席したら、以下のように出席確認を行ってください。

○カードリーダー出席の場合

1）学生証をカードリーダーの右下にかざしてください。

2）出席と認識されると「ピコーン！」と音がして、青色のランプが点灯します（授業開始後は消音）。

3）「ブブー！」と音がした場合はエラーですので、再度学生証をかざしてください。それでも読み取られない場合は、画面にエラーメッセージが表示されていないか確認し、教務課窓口に来てください。

4）授業開始時刻10分前から受付を開始します。授業開始から30分までは、受け付けられますが遅刻扱いとなります。授業開始後30分以降は、受付ができず欠席扱いとなります。

5）学生証を忘れると、このシステムで出席を確認することができません。学生証は忘れずに持参してください。もし忘れた場合は、授業担当教員の指示に従ってください。

※非常勤講師の担当科目の場合、講義棟（D棟）1階に設置されている「出席カード」を記入のうえ、担当教員へ提出してください。

6）担当教員によっては出席確認の取り直しを行うことがあります。また、ゼミごとに実施する授業や、カードリーダーが設置されていない場所で実施する授業では、この方法で出席確認を行わないことがあります。その場合は、担当教員の指示に従ってください。

7）自身の学生証を他の学生に渡して、実際には欠席しているにもかかわらず「出席」として記録されている事例が見られます（出席偽装）。

・この場合、他人にカードリーダーにかざすことを依頼した学生、および依頼を承諾した学生の双方を「欠席扱い」とします（懲戒処分の対象となる場合もあります）。

・出席偽装を依頼することは、他の学生を巻き込むことになります。このような行為を依頼することも、また依頼を承諾することもやめましょう。

端末設置教室

D201　D202　D203　D204　D205　D207　D301　D302　D303　D304　D305　D401　D402　G104　G203　G209　G407　G410　G412　G417　GA101　GA303a　GA303b　GA403　IA301　IA302　K102　K201　K301　K305　L312　L313　N201　O301　O302　O303　P104　P105　P106　P107　P203　P317　Q101　Q102　Q103　Q104　Q105　Q106　Q107　Q108　Q201　Q202　Q203　Q321a　Q321b　S101　S301　T101　T201　T202　T203　T301　T302　T303　T304　U101a　U101b　U201　U202　U203　U204　U205a　U205b　U206　U207　U502　U503　V402　V403　V404

※端末は、各教室の出入口付近もしくは教室の前後に設置されています。

○スマホ出席の場合

※教員から「スマホ出席で出欠確認を行う」と指示があった場合のみ利用できます。

1）ポータルサイトのスマホサイトにログインしてください。（アプリでは利用できません。）

2）出席登録時間中は、ログイン後すぐに「出席登録」画面が表示されます。（※表示されない場合は、スマホサイトのメニューから「出席登録」を押下してください）

3）教員から指示された「認証コード」（数字4桁）を入力し「出席登録する」を押下します。
4）出席を登録した時刻により、判定結果が表示されます。
5）出席確認時刻を過ぎている場合は、「出席確認終了」が表示され出席登録はできません。
6）履修登録前でも、「出席登録」画面を表示させて「認証コード」を入力することができます。
7）スマートフォンを忘れて出席登録ができない時は、教員に申し出てください。

注意点
・スマホ出席に割り当てられている授業でカードリーダーに学生証をかざした場合、正常に出席が反映されませんのでご注意ください。
・機器の不調や故障の場合は、教務課窓口に知らせてください。
・メディアを利用した授業（メディア授業）の出席確認方法は授業科目によって異なります。担当教員の指示に従ってください。

8．欠席

事故や病気・ケガ、強化指定クラブの公式大会等により授業を欠席する場合は、「欠席届」とともに必要に応じて診断書や事故証明書等を添えて、担当教員に提出してください。「欠席届」は講義棟で配布しています。

欠席理由の如何を問わず、授業科目の成績評価等に関する取り扱いについては、担当教員の判断によります。なお、本学には公欠制度はありませんので、忌引やドナーによる欠席などやむをえない理由で授業を欠席する場合には、担当教員まで相談してください。

9．禁止事項：授業の録画・録音・撮影

本学の授業では、患者様等の協力を得て記録された映像や音声を用いることがあります。また、症例検討のように個人情報（診断名、年齢、職業、家族構成など）をもとに授業を行うこともあります。

よって本学では、個人情報の保護および人権・プライバシーへの配慮や著作権保護等の観点より、本学で行われる授業（演習や実習を含む）のすべてにおいて、録画・録音・撮影を禁止します。

個別の事情により録画・録音・撮影が必要となる場合は、授業開始時までにあらかじめ担当教員の承諾を得てください。

なお、無断で録画・録音・撮影を行った場合は、退学や停学等の懲戒処分の対象となります。

10. 学生による授業評価

本学では、より良い授業が行われるようになることを目的として、授業科目の内容および方法に関して、学生による授業評価を実施しています。授業評価はポータルサイト（後述）上で行われます。

これは、授業の質を高めるために行うもので、個々の教員の人気投票ではありませんので、皆さんの真剣な評価を期待します。誰がどのような内容を回答したかという個人情報は担当教員に開示されることはありませんので、皆さんの成績に影響を与えることはありません。

学生の皆さんからの授業評価によって良い授業を作るという趣旨を理解していただき、必ず実施対応のご協力をお願いいたします。

11. オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーとは、学生からの質問や相談に応じるために、教員が研究室に待機している対応可能な時間帯のことです。授業内容の質問や履修について相談できますので、積極的に活用してください。

1．オフィスアワーの確認方法

オフィスアワーや科目担当教員の連絡先は、シラバスに記載されています。シラバスは、大学ポータルサイト（後述）から閲覧可能です。また、一部の教員については研究室のドア前等にも予定が掲示されている場合があります。

2．対象となる相談内容

・授業内容に関する質問
・履修や学修の相談
・その他

3．教員への連絡について

臨時の会議や出張などにより担当教員が不在の可能性もありますので、メールなどで事前に連絡をとることを推奨します。また、非常勤の教員は学内に常駐していないため、授業の前後で質問をするか、シラバスに記載されているメールアドレス宛に連絡を取るようにしてください。

オフィスアワーの活用は、理解を深め、充実した学生生活を送るための大切な機会です。ぜひ積極的に利用してください。

ポータルサイトとは…

本学の学生のための、様々な情報や便利な機能が集まったサイトです。

学生への連絡（授業の変更、お知らせ、呼び出しなど）、履修登録、時間割の確認、成績の確認といった、大学生活を送る上で欠かせない情報と機能が、全てこのポータルサイトに集約されています。

重要な告知を見逃したり、必要な手続を忘れたりしないために、ポータルサイトをお気に入りに登録して、毎日チェックしましょう！

≪ポータルサイトへのアクセス≫

PC：https://portal.nuhw.ac.jp/

スマートフォン：https://portal.nuhw.ac.jp/sm

Ⅱ．履修について

1．卒業要件

本学に入学した学生が卒業するためには、所定の科目を履修し、必要な単位を修得しなければなりません。

各学科で指定された卒業に必要な単位数は下表のとおりです。学科によって履修しなければならない科目が異なりますので、各学科のカリキュラム表を参照して履修漏れのないように注意してください。

学部	学科	基礎教養	保健医療福祉教養	保健医療福祉連携	専門基礎	専門専攻	計[注1]
リハビリテーション学部	理学療法学科	7	7		42	72	128
	作業療法学科	7	7		38	80	132
	言語聴覚学科	7	7		46	64	124
	義肢装具自立支援学科	7	7		42	73	129
	鍼灸健康学科	6	8		44	66	124
医療技術学部	臨床技術学科	6	8		52	103	169
	視機能科学科	6	8		37	73	124
	救急救命学科	6	8		43	69	126
	診療放射線学科	6	8		35	79	128
健康科学部	健康栄養学科	6	8		47	63	124
	健康スポーツ学科	7	7		25	76[注2]	125[注3]
看護学部	看護学科	6	8		27	76[注4]	124[注5]
心理・福祉学部	社会福祉学科	6	8		60	51	125
	心理健康学科	10	14		42	62	128
医療経営管理学部	医療情報管理学科	7	7		65	45	124

※注１　卒業に必要な単位数のうち、メディア授業により修得可能な単位数の上限は60単位まで

※健康スポーツ学科　注２　専門専攻科目群から76単位以上修得

注３　不足分10単位は健康スポーツ学科の専門基礎科目群および専門専攻科目群から選択のうえ修得

※看護学科　注４　専門専攻科目群および養護教諭一種科目から76単位以上修得

注５　不足７単位は全科目群から選択のうえ修得

※９月期卒業について

前期終了時に卒業に必要な単位を全て修得できている場合は、９月期卒業を希望することができます。希望者は、原則としてその年度の４月の履修登録時に教務課に申し出て、手続等について指導を受けてください。その後、６月末日までに必要書類を教務課に提出する必要があります。

2．CAP制

CAP制とは、１年間に履修できる科目の単位数に上限を設けることを指します。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的とした制度です。学科によって内容が異なりますので、次の表を確認し、CAP制に基づいた履修計画を立ててください。

理学療法学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。
作業療法学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。
言語聴覚学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。 ただし、前年度のGPAが2.7以上の者は、上限を60単位とする。
義肢装具自立支援学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。
鍼灸健康学科	年間履修単位の上限を50単位とする。
臨床技術学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。 ただし、１、２、３年次のみ上限を60単位とする。
視機能科学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。
診療放射線学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。
救急救命学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。
健康栄養学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。 ただし、学外実習、人間と生活の科学、基礎実践演習はこれに含まない。 栄養教諭コースの１、２年次のみ上限を55単位とする。
健康スポーツ学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。 ただし、集中授業はこれに含まない。 ※集中科目とは、野外活動Ⅰ（冬期）、野外活動Ⅱ（夏期）、基礎運動学実験Ⅰ、水辺実習、スポーツ救急法実習の５科目である。 前年度のGPAが2.0以上の者は、上限を55単位とする。 前年度のGPAが2.5以上の者は、上限を60単位とする。 編入生および転部転科生にはこれを適用しない。
看護学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。 ただし、前年度のGPAが2.0以上の者は、上限を55単位とする。 前年度のGPAが2.5以上の者は、上限を60単位とする。 編入生にはこれを適用しない。
社会福祉学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。 ただし、介護福祉コースの１年次のみ上限を55単位とし、２年次以降は上限を50単位とする。 編入生および転部転科生にはこれを適用しない。
心理健康学科	年間の履修単位の上限を46単位とする。
医療情報管理学科	年間の履修単位の上限を50単位とする。 ただし、１年次のみ上限を55単位とする。 編入生および転部転科生にはこれを適用しない。

※学外実習科目はすべての学科でCAP制の履修単位に含まれません

※GPA（グレード・ポイント・アベレージ）については21ページを参照

適切な履修指導体制の整備について

・各学科の履修モデルに基づき年間履修単位数を確認し、教育課程上の妥当性を検証のうえ、CAP制の趣旨に沿った適切な履修指導を実施します。

・学生の履修状況を把握し、適切な履修基準の設定や見直しを実施します。

・各種オリエンテーションによる周知、ゼミ教員による定期的な履修計画の確認および指導を実施し

ます。
・個別面談や履修相談を通じ、適切な履修および学修へ繋げるための支援を実施します。

3．履修登録とは

科目の履修には、履修登録が必要です。履修登録をしていないと、たとえ授業に出席していても、その科目の単位を修得することはできません。

履修登録は、指定された期日までに、ポータルサイト上で所定の操作を行うことにより完了します。

4．履修登録の流れ

オリエンテーション（履修説明）
時間割、抽選科目一覧、プランニング時間割表を配布します。

↓

プランニング時間割表の作成
本書のカリキュラム表やシラバスを参考にしながら、前・後期のプランニング時間割表を作成してください。
（シラバスはポータルサイト上で閲覧できます。）

↓

履修登録期間（抽選科目履修希望登録期間）
4月3日～4月8日
プランニング時間割表に基づき、ポータルサイトで履修科目の登録を行ってください。
抽選科目は、この期間内の登録者を対象に、履修定員を超過した場合に抽選を行います。

↓

抽選結果発表
4月10日
抽選で履修が認められた科目は時間割表に反映されますので、必ずポータルサイトで結果を確認してください。
落選などにより別の科目の履修が必要となった場合は、履修登録内容確認・修正期間に科目の追加を行ってください。

↓

履修登録内容確認・修正期間
4月10日～4月15日
ポータルサイトで履修登録内容を変更することができます。
ただし、抽選が行われた科目の追加や削除はできませんので注意してください。
この期間が終了した後の変更は一切認められません。
時間割表が正しく登録されているか、必ずポータルサイトで確認してください。

↓

履修登録完了！　時間割表を印刷し、大切に保管してください

ポータルサイトは、登録期間中毎日3時00分～5時30分の間を除き利用可能です。
履修登録期間最終日は23時59分で締め切ります。

※後期科目および集中授業は以下の確認期間内に科目の追加・削除が可能です。

	履修登録内容確認・修正期間	履修内容の変更方法
夏季集中授業	5月25日～5月29日	教務課へ「履修科目変更届」を提出
後期科目	9月14日～9月20日	ポータルサイトで科目の追加・削除が可能
	9月22日～9月25日	
春季集中授業	11月2日～11月6日	教務課へ「履修科目変更届」を提出

5．履修登録の注意点

1）抽選科目について

履修者数に制約がある科目は、履修希望者数が定員を上回った場合、抽選を行います。

抽選の結果履修が可能となった科目の取り消しは認められませんので、責任を持って履修登録を行ってください。

2）履修希望調査・事前登録について

科目により履修希望調査または事前登録を行う場合があります。その際の手続方法については掲示等で連絡しますので、締切厳守で手続を行ってください。なお、履修希望調査後に抽選を行う場合もあります。

3）その他、履修登録にあたっては以下の点に注意してください。

（1）年間の必修科目・選択科目のすべてを忘れずに登録してください。ただし、クラス指定のある科目は教務課にて登録しますので、登録内容を確認してください。

（2）原則として、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ等のついた科目は、数字の順番に履修してください。

（3）既に単位を修得した科目を再度履修することはできません。

（4）ポータルサイト上で登録や削除ができない科目があった際は、「履修登録（再履修等）申請書」を提出してください。

（5）後期の履修登録内容確認・修正期間で通年の授業科目の変更を行うことはできません。

（6）ポータルサイトでは、必修科目の履修登録漏れがあった場合はエラーとなりますが、選択科目についてのエラーは表示されません。資格取得のために必要な選択科目は各自で十分確認してください。

（7）履修登録を行っていない科目は、出席確認がカードリーダーではできません（スマホ出席では可能）。

6．履修登録に関するよくある質問

Q．前期（4月）の履修登録期間中に、前期と後期の全ての科目を履修登録する必要がありますか？

A．前期（4月）の段階で年間の履修科目の単位の総数を把握する必要があるので、必ず前期と後期の全ての科目を履修登録してください。

ただし、後期の科目、夏季集中授業、春季集中授業については、それぞれ所定の履修登録内容確認・修正期間中に修正することができます。

Q．履修登録画面で「提出ボタン」を押すと、その後、履修登録を修正することはできませんか？

A．履修登録期間中であれば、「提出ボタン」を押した後でも、何度でも履修登録をし直すことができます。

Q．抽選科目のうち、当選した科目を削除することはできますか？

A．当選科目を削除することはできません。

Q．抽選科目は、落選した時のことを考えて、多めに登録した方が良いですか？

A．落選した時に備えて多めに登録した方が安心できると思います。しかし、抽選の結果、当選した科目は、取り消すことができません。登録した全ての抽選科目に当選する可能性もありますので、よく考えた上で履修登録をしてください。

Q．抽選科目のうち、コミュニケーション学入門など複数のクラスが存在する科目がありますが、その全部に履修登録をしても良いですか？

A．コミュニケーション学入門のように、同一科目が複数クラス開設されている場合は、一つのクラスのみ履修登録をすることができます。（※複数のクラスを履修登録するとエラーになります。）

Q．登録していた抽選科目が全て落選してしまいました。どうすれば良いですか？

A．希望登録の結果、定員に達しなかった抽選科目があれば、履修登録期間中に追加で希望登録することができます。定員に達しなかった抽選科目はポータルサイトの掲示などでお知らせしますので、確認してください。

Q．配当年次が「1」になっている科目は、2年次で履修登録してはいけないのですか？

A．配当年次より上の学年で履修登録してもかまいません。しかし、可能な限り1年次に履修することが望ましいです。

Q．時間割などに「前半」や「後半」と記載されている科目は何ですか？

A．前期の場合は、4月上旬～6月上旬の期間に行われる科目が「前半科目」、6月中旬～7月下旬の期間に行われる科目が「後半科目」です。

　また、後期の場合は、9月下旬～11月中旬の期間に行われる科目が「前半科目」、11月下旬～1月下旬の期間に行われる科目が「後半科目」です。

　今年度の前半・後半科目実施期間は学事暦で確認してください。

Q．同じ曜日・時限に、別々の前半科目と後半科目を履修登録することはできますか？

［例］後期火曜5限の前半に「科目A」、後半に「科目B」を履修登録すること

A．同じ曜日・時限であっても、前半と後半で別々の科目の履修登録をすることができます。

Q．CAP制の上限をオーバーしているのに登録完了になりました。それでも良いですか？

A．実習科目など、一部CAP制に含まれない科目がありますので、登録画面でエラーが表示されなければ、CAP制の上限を超えていてもかまいません。

7．入学前の既修得単位の認定

入学前に他大学（短期大学を含む）等で修得した科目の単位がある場合は、申請により本学の科目の単位と読み替えて認定を受けることができます。申請した科目の単位の認定が承認された場合は、その科目を受講することなく単位を修得することができます。

希望者には申請書類を配布しますので、教務課に申し出てください。

なお、申請は４月末まで受け付けますが、申請から認定までに時間を要しますので、可能な限り早めに行ってください。

また、申請しても必ず単位が認定されるとは限りません。申請した科目も必ず履修登録を行ってください。

申請条件	他大学等で修得した科目と申請する本学の科目が同等であること。 ただし、認定する単位数は60単位までとする。
申請書類	①他大学等において修得した単位等による単位認定申請書（本学指定様式） ②出身学校の成績証明書 ③出身学校の科目の概要がわかる書類（シラバス、講義要録等、コピー可） ※申請に必要な科目の分だけでよい。科目の内容、単位数（時間数）がわかること。
申請期限	４月末日　※この日を過ぎての申請は一切受け付けません。

8．他学科科目の履修・聴講

他学科の科目の履修または聴講を希望する場合は、事前に申請が必要です。申請に際しては、学修に無理のない範囲で受講することが望ましいので、必ずアドバイザーの教員に相談してください。その後、当該科目の担当教員に願書を提出し、許可を得てください。得られた許可書を教務課窓口に提出することにより、履修または聴講が可能となります。

希望者には願書を配布しますので、教務課に申し出てください。

ただし、演習科目、実習科目、教室の都合上履修人数に制限のある科目、その他何らかの不都合が生じる科目については、履修および聴講することはできません。

申請書類	他学科科目履修願書または他学科科目聴講願書

ポータルサイト履修登録マニュアル

ポータルサイトにアクセスする

下記URLにアクセスします。
スマートフォンの場合は、QRコードを読み取ってアクセスすることもできます。

※履修登録はPCでの操作を推奨します。スマートフォンでの不具合の事例が報告されているため、最終的な確認は必ずPCで行ってください。

PC：https://portal.nuhw.ac.jp/
スマートフォン：https://portal.nuhw.ac.jp/sm

本学ホームページ「在学生の方へ」≫「ポータルサイト」からアクセスすることもできます。

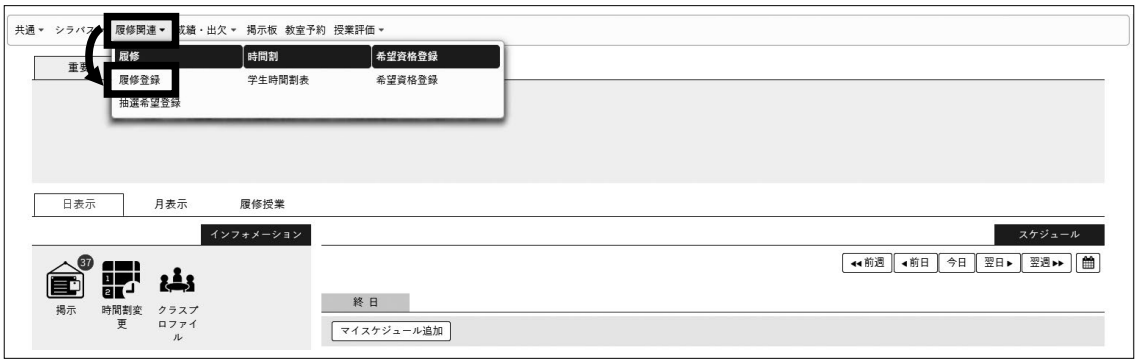
ポータルサイトにログインする

User IDとPasswordを入力し、「LOGIN」ボタンを押します。

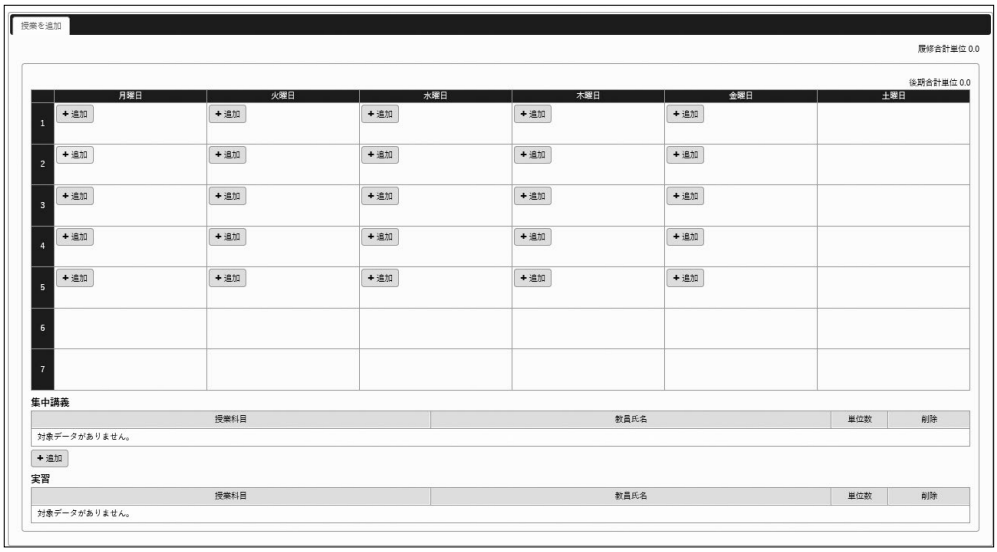
POINT
User ID：学籍番号
（アルファベットは半角小文字）
Password：入学時に配布された4桁の数字

履修登録（抽選科目を除く）

「履修関連」≫「履修登録」を選びます。



時間割表の「＋追加」ボタンを押すと、登録可能な科目が表示されます。



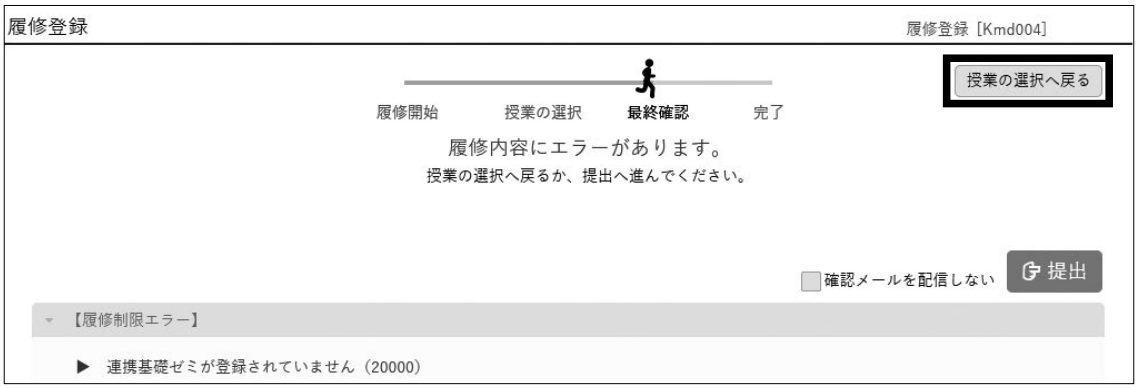
登録する科目にチェックを入れて、「確定」ボタンを押します。

POINT

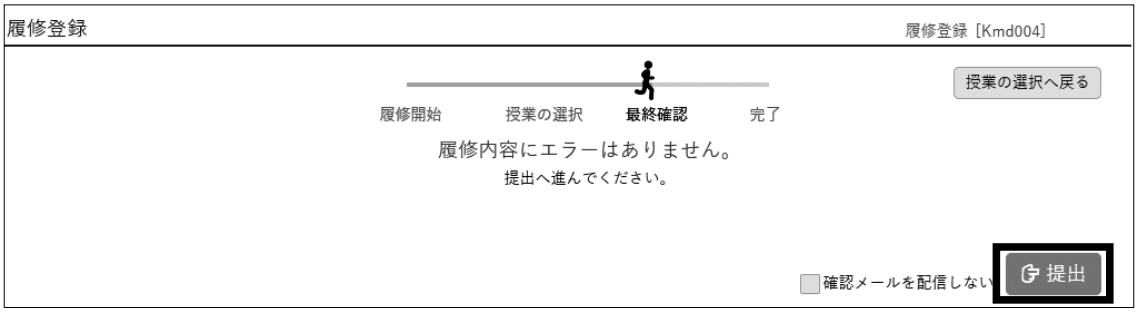
ボタンを選択すると、シラバスを閲覧することができます。

全ての科目を登録したら、「最終確認へ」ボタンを押します。

履修登録内容にエラーがあるとエラーメッセージが表示されます。
「履修制限エラー」の内容を確認し、「授業の選択へ戻る」を押して修正してください。



エラーがなくなったら、「提出」ボタンを押します。



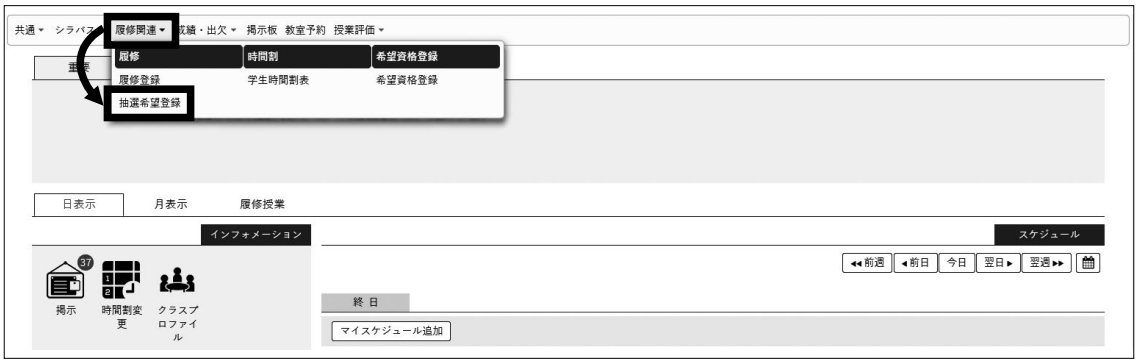
これで抽選科目以外の履修登録は完了です。

POINT

履修登録を完了した後も、履修登録期間中は科目の追加や削除ができます。
履修登録を変更した場合は、再度「提出」ボタンを押してください。

抽選科目の履修登録

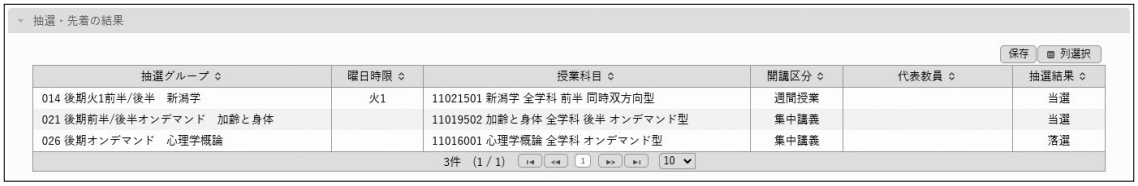
「履修関連」≫「抽選希望登録」を選びます。



申し込み可能な科目一覧が表示されますので、登録したい科目名を選びます。

抽選を希望する科目を「希望する」とし、「確定」ボタンを押すと登録されます。

抽選日以降は、当選結果が表示されます。

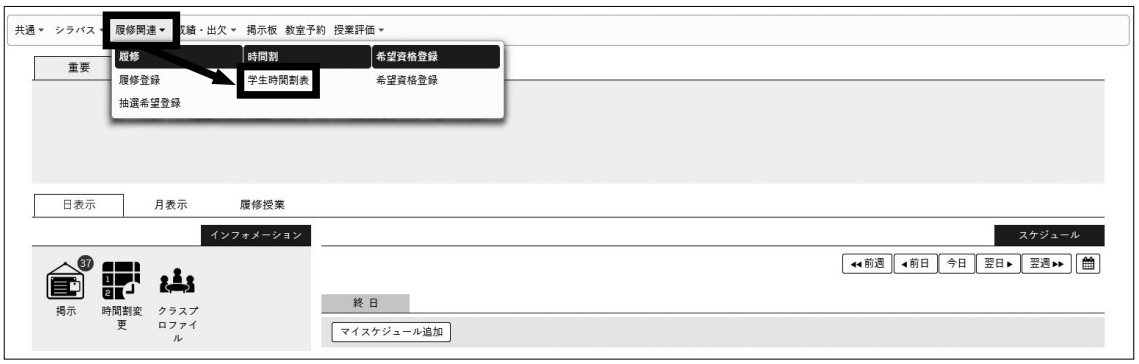


POINT

当選した科目は、自動的に時間割表に反映されます。

履修登録内容の確認

履修登録完了後は、「学生時間割表」から自分の時間割表を確認したり、PDFやExcel形式で出力したりすることができます。



POINT

自分の時間割表は必ず印刷して保管しましょう。
この時、スマートフォン等のスクリーンショットではなく、必ずPCで印刷してください。

Ⅲ．試験について

1．試験の種類

試験には、定期試験、追試験および再試験がある。

定期試験	定期試験は、原則として各学期末に一定期間にわたって実施される。ただし、通年科目に関してはこの限りではない。
追 試 験	病気その他やむを得ない事情（※）により定期試験を受験できなかった学生を対象に実施される試験。受験する際には、試験科目の担当教員に「追試験願」を提出し、許可を受ける必要がある。 ※対象となる事由は「３．定期試験に関する注意事項」を参照のこと
再 試 験	定期試験の結果、成績が合格点に達しておらず、かつ試験科目の担当教員が必要と認めた場合にのみ改めて実施される試験。

注）追試験および再試験は、追試験・再試験期間以外にも実施することがある。

2．受験資格

以下に該当する学生は、試験の受験を認めないことがある。

①授業料を滞納している学生

②授業の出席時間数が、授業の総時間数の３分の２未満の学生

3．定期試験に関する注意事項

＜試験日時、内容の発表＞

1）定期試験に関しては、原則として授業時間内に担当教員が直接指示するが、掲示板で指示する場合もあるので注意すること。

試験日・時限および教室は、あらかじめ掲示される試験時間割で確認すること。

最終授業後に提出するレポートを定期試験に代えることがある。また、科目によっては授業時間内の試験等を定期試験に代えることもあるので、十分注意すること。

＜学生証の携帯＞

2）学生証を所持しない学生はいかなる理由があっても受験できない。試験当日、学生証を忘れた学生は、講義棟１階の証明書発行機で、「仮学生証」を入手し受験すること（200円／１日）。なお、この手続による試験時間の損失は配慮されないので注意すること。試験中は学生証または仮学生証を必ず机上に置くこと。

＜遅　刻＞

3）試験開始後30分以上の遅刻者は受験できない。

＜退　室＞

4）退室は答案ができても試験開始40分を経過し、かつ監督者が指示するまではこれを認めない。再入室も認められない。また、答案用紙を提出せずに退出することは認められない。白紙答案であってもこれを持ち帰ることはできない。

＜答　案＞

5）答案用紙の再交付を認めた場合は、前の答案用紙はすみやかに返却すること。

＜受験の無効＞

6）次の場合、答案は無効となる。

（1）氏名、学籍番号を記入していない場合。

（2）試験監督から配付された答案用紙以外の用紙を用いた場合。

（3）指定された教室以外で受験した場合。ただし体調不良の場合は除く。

7）次の場合、試験監督者が答案用紙を回収し退場となる。また、答案は無効となる。

（1）私語や態度不正を注意しても改めない場合。

（2）試験監督の指示に直ちに従わない場合。

＜不正行為＞

8）試験において不正行為を行った学生に対しては、当該授業科目または当該学期に履修した全科目の評価区分をDとした上で、学則第46条の規定に基づいて懲戒する。

また、レポート試験については、インターネット上からそのまま引用した場合、人のレポートを写した場合、自分のレポートを人に写させた場合に関しては不正行為とみなされ、当該授業科目または当該学期に履修した全科目の評価区分をDとした上で、学則第46条の規定に基づいて懲戒する。

＜受験上の注意事項＞

9）答案の作成にあたっては、HB以上の鉛筆、シャープペンシル（筆記機能のみのもの）を使用する。

電子機器（携帯電話、スマートフォン等の通信機能を有するもの及び電子辞書等の通信機能を有さないものを含む全て）は、電源を切り、かばんにしまうこと。電源を切っていなかったり、かばんに入れずポケット等に入れていたりした場合は、不正行為とみなす。その他については、試験監督の指示に従うものとする。

10）試験会場では、試験監督者または座席表に指定された席に座ること。試験中、持込許可のあるもの以外、机上には置かないこと。また、試験中、学生間の物品（鉛筆、消しゴム等）の貸し借りは一切認めない。

＜定期試験結果の発表＞

11）定期試験の結果は、ポータルサイトの掲示板、メール等で発表される。再試験該当者は受験漏れのないよう注意すること。

掲示内容についての電話、メールによる問合せ等は、非常の場合を除き原則として認められない。

定期試験結果の発表は、原則として定期試験終了から追試験・再試験期間までに行う。

＜追試験＞

12）次の理由で定期試験を欠席した場合、追試験を受験することができる。ただし、正当な理由なく追試験を欠席した場合は、受験を放棄したものとみなす。

A　本人の病気または怪我（医師の診断書または支払い証明等、医療機関に受診したことを示す書類が必要）

B　試験当日、医務室にて急な病気または怪我により試験を受けることが不可能と認められた場合

C　事故または公共交通機関の遅延（交通事故証明書、遅延証明書が必要）

D　忌引（二親等以内の親族の死亡。法事は忌引に含めない）（忌引を証明できる書類等が必要）

E　災害（台風・水害・雪害・火災等）（被災証明書または証明できるものが必要）

F　就職試験（就職試験受験を証明できるものが必要）

G　強化指定クラブ活動（公式試合に限る。試合を証明できるものが必要）

H　やむを得ない通信状況のトラブルのため、試験の受験または継続が困難となった場合（オンライン試験のみ）

・一時的な回線トラブルで早期の復帰が可能な場合、試験継続を可能とする。
ただし回線復帰まで要した時間は試験時間に含むものとする。

・本人が故意にネット回線の切断等を行った場合は、試験を放棄したものとみなす。

・「試験開始前」に試験監督にネット回線トラブル等が生じ、試験開始が困難となった場合は全員を追試験の対象とする。

・「試験開始後」に試験監督にネット回線トラブル等が生じた場合、試験はそのまま継続して行えるものとする。

I　合理的配慮に準じた対応を要すると判断した場合（本学の合理的配慮の申請有無に関わらない一時的対応）

J　その他、本学がやむを得ないと認めたもの。ただし、強化指定クラブ以外のクラブ活動、ボランティア海外活動等個人的活動は原則として認めない。

≪補足≫

1．当該学期の定期試験において、同じ区分の理由による同一科目の追試は、原則１回までとする。

2．判断が困難なものについては、科目担当教員および当該学生の所属する学科教務委員（必要に応じて学科長）で検討し判断する。学科での判断が困難な場合は教務委員会に判断を求めることとする（受験できなかった理由の証明書等が必要）。

13）前項の規定による追試験を受験しようとする者は、原則として追試験期間までに欠席理由の証明書を添えて担当教員に追試験申請を行い、許可を受けなければならない。
　病気等で申請ができない場合は、直ちに代理人または本人が電話等で連絡すること。連絡のない場合は、追試験の受験資格がなくなるので注意すること。

14）次のような場合は、正当な試験の欠席理由とは認めない。
ａ．明らかに自己の不注意による場合（寝坊、試験時間割の見間違い等）
ｂ．稼業またはアルバイト等の都合による場合

15）追試験の成績評価は、100点を上限とする。

＜再試験＞

16）再試験は、担当教員が必要と認めた場合に限り実施される。
　再試験の対象とされた学生は、指定された日時に再試験を受験すること。

17）正当な理由なく再試験を欠席した場合は、受験を放棄したものとみなす。

18）再試験の受験の際は、学生証または仮学生証を必ず机上に置くこと。

19）再試験で合格した場合の成績評価は60点とする。

＜追試験・再試験の注意事項＞

20）追試験・再試験においても、本文の１）～11）の規定を適用する。

21）追試験・再試験を欠席した場合の取り扱いは本試験に準ずる。

＜非常時における試験等の取扱い＞

22）公共交通機関の運休等により試験を中止や順延等とする場合は、ポータルサイトの掲示板上で周知する。掲示連絡がない場合は通常通りとする。

Ⅳ．成績評価について

1．評価区分

各科目ではシラバスに記載されている方法で成績評価を行います。

本学では成績の評価をA＋、A、B、C、D、E、Fとし、A＋、A、B、Cを合格、Dを不合格、Eを認定、Fを放棄としています。

※合格した授業科目については、所定の単位が与えられます。

2．成績通知

成績は、ポータルサイト上で通知します。

3．再履修

単位の修得が認められなかった授業科目は、次年度以降に再履修することができます。

ただし、当該科目の授業時間に他の授業科目が開講されて、再履修が困難となる場合もあります。できるだけ再履修をしないで済むよう努めてください。

4．GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度

総合的な成績評価方法として「GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度」を導入しています。

グレードポイント（GP）とは、基礎ゼミを除いた履修科目の成績（点数）に応じて与えられるポイントです。

このポイントに各科目の単位数（１単位、２単位など）を掛け合わせて得られた数の合計を、履修科目の単位数の合計で割ったものがGPAです。

数式で表すと、次のようになります。

GPA＝（[GP×単位数]の合計）÷（履修科目の単位数の合計）

不合格及び履修放棄の科目もGPA算出対象になります。

GPA制度は

①学修状況を自己評価する目安とすること

②学修の成果をより明確に表すこと

③履修登録に責任をもつこと

を目的としています。

※高等教育無償化（授業料等減免、給付奨学金）の申請や継続などにも利用されることがあります。

Ⅴ．本学が求める学修成果

1．アセスメントプランの目的

アセスメントプランは、建学の精神「優れたQOLサポーターの育成」を達成するために策定された3ポリシーに基づき、機関レベル（全学）、教育課程レベル（学部・学科等）、科目レベル（授業）の3段階で学修成果を点検・評価するとともに、これらの結果を活かして教育活動の改善につなげることを目的としています。

そのため、各学部・学科等において展開している教育活動についても、その質の保証と向上を図ることを目的として、3つの方針（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）に基づいて学修成果を点検・評価し、その結果を教育内容や教育方法、学修指導などの改善につなげます。

2．アセスメント対象と指標（具体的な検証方法）

アセスメントは以下の基本構成で行い、必要に応じて各指標を相互に関連させて実施します。また、機関レベルの評価は、教育課程レベルと科目レベルの各指標を基にして多面的・総合的に評価します。

アセスメント対象		アドミッション・ポリシーの適切性（※は学科選択）	カリキュラム・ポリシーの適切性	ディプロマ・ポリシーの適切性（※は学科選択）	3ポリシーの整合性（※は学科選択）
指標	機関レベル（全学）	**大学の基本理念・目的との整合性** ・学生の受入れ、受入れ方法の適切性	**大学の基本理念・目的との整合性** ・教育課程の適切性 ・学修・教育成果の評価 ・教育課程の体系性・一貫性 ・教育方法の適切性 ・学修支援・施設・設備の適切性	**大学の基本理念・目的との整合性** ・教育課程の適切性 ・学修・教育成果の評価 ・教育課程の体系性・一貫性 ・教育方法の適切性 ・学修支援・施設・設備の適切性	**大学の基本理念・目的との整合性** ・教育課程の適切性 ・学修・教育成果の評価 ・教育課程の体系性・一貫性 ・教育方法の適切性 ・学修支援・施設・設備の適切性
	教育課程レベル（学部・学科等）	**選抜機能** ・入学試験 ・高校の学習成績の状況（全体の学習成績の状況）※ ・プレイスメントテスト ・GPA ・出席率（要確認） **入学前教育の有効性** ・新入生調査 ・入学前教育プログラム	**成績評価の適切性** ・GPA **設計・実行の適切性** ・カリキュラムマップとシラバスの検証（GPA、各科目の成績分布、学修ポートフォリオでの到達目標に対する自己評価結果等と合わせて実施） **学修成果の適切性** ・習熟度試験 ・学生生活調査 ・社会貢献活動参加率 ・連携総合ゼミ履修率 ・国際交流活動参加率	**学修成果の適切性** ・DP到達度評価 ・卒業時実態調査 ・GPA※ ・国家試験・資格試験合格率※ ・卒業研究・臨床実習の成績分布※ ・社会貢献活動参加率 ・連携総合ゼミ履修率 ・国際交流活動参加率 **DPおよび学修成果の評価の適切性** ・病院施設および一般企業意識・満足度調査	**成果からのアセスメント** ・標準修業年限卒業率 ・就職率・大学院進学率 ・国家試験・資格試験合格率※ ・卒業時実態調査 **プロセスからのアセスメント** ・休学率（要確認） ・退学率
	科目レベル（授業）		**成績評価の適切性** ・各科目成績分布 ・GPA **設計・実行の適切性** ・単位授与率（要確認） ・出席率（要確認） **学修成果の適切性** ・授業評価アンケート		

3．評価の基準

（1）各科目の成績評価

・各科目ではシラバスに記載されている方法で成績評価を行います。

・成績の評価は、A^+、A、B、C、D、E、Fとし、A^+、A、B、C、Eを合格、D、Fを不合格としています。

・合格した科目については、所定の単位を授与します。

評価区分	評価の基準	評点の範囲	合格・不合格
A^+	達成目標を極めて高い水準で達成している。	90点～100点	合格
A	達成目標を高い水準で達成している。	80点～ 89点	合格
B	達成目標を標準的な水準で達成している。	70点～ 79点	合格
C	達成目標を最低限の水準で達成している。	60点～ 69点	合格
D	達成目標を達成していない。	0点～ 59点	不合格
E	単位を認定した科目	—	合格
F	履修を放棄した科目	—	不合格

（2）総合的な成績評価

・総合的な成績評価は、GPA（Grade Point Average）を用いて評価します。

・GPAは、以下のように換算されます。

評価区分	評価の基準	評点の範囲	合格・不合格	GP
A^+	達成目標を極めて高い水準で達成している。	90点～100点	合格	4
A	達成目標を高い水準で達成している。	80点～ 89点	合格	3
B	達成目標を標準的な水準で達成している。	70点～ 79点	合格	2
C	達成目標を最低限の水準で達成している。	60点～ 69点	合格	1
D	達成目標を達成していない。	0点～ 59点	不合格	0
E	単位を認定した科目	—	合格	—
F	履修を放棄した科目	—	不合格	0

・GPAは次の式により計算するものとし、詳細については『履修の手引き』を参照のこと。

GPA＝（[GP×単位数]）の合計）÷（履修科目の単位数の合計）

（3）ディプロマ・ポリシーの到達度評価

・ディプロマ・ポリシー（DP）の到達度については、本学STEPSと紐づけされたDP項目と教育課程上の各科目の関連度を数値化し、単位修得科目分の数値を各教育課程のDP項目ごとに評価します。

・各学生の到達度は、図１の「学修ポートフォリオ」においてレーダーチャートを用いて可視化され、学生はDP到達度の自己評価を行うとともに、教員コメントによるフィードバックを受けます。

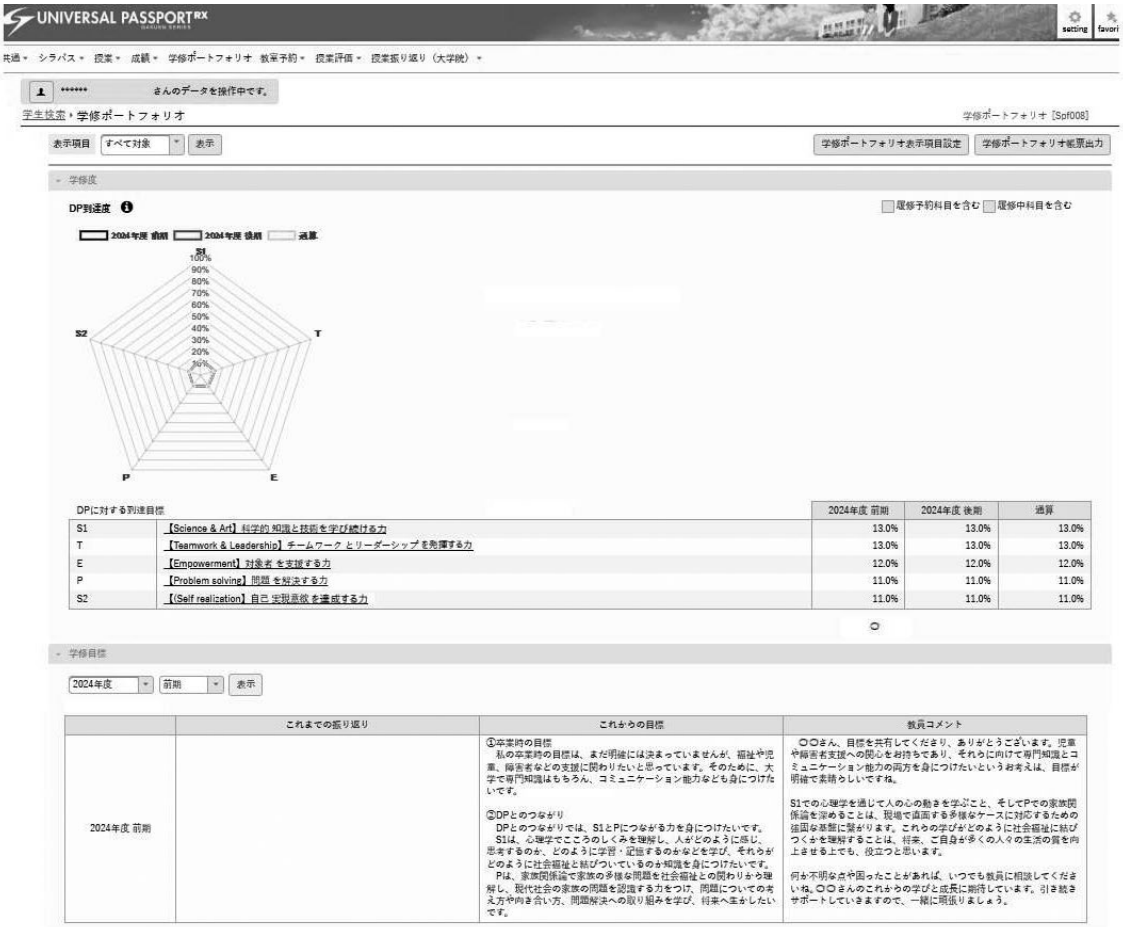
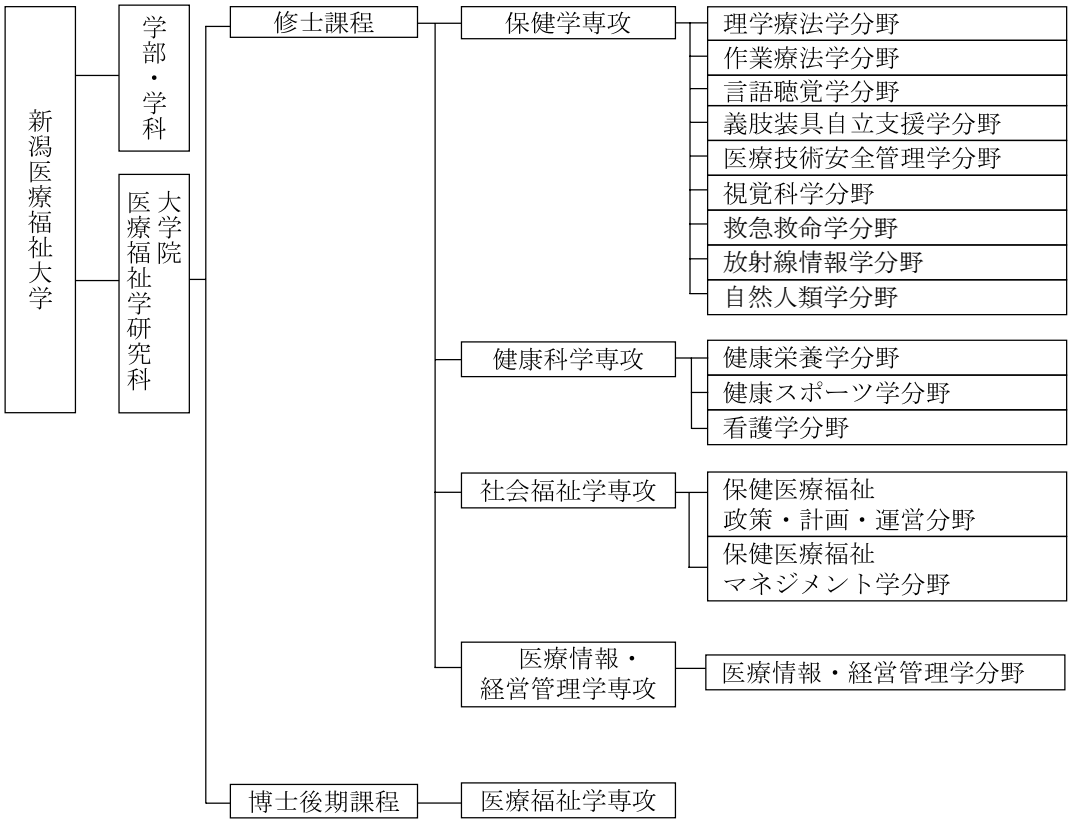


図１ 「学修ポートフォリオ」によるDP到達度のイメージ図

Ⅵ. 大学院への進学について

本学には併設大学院があり、多くの優れた指導者・教育者・研究者を輩出しています。



1．内部進学

本学の学部４年生が本学大学院修士課程に進学する場合、入学金20万円が全額免除となります。

また、本学の学部４年生のみを対象とした、学内推薦入学試験（修士課程）に出願が可能です（別に定める学業成績基準を満たし、かつ所属学科長から推薦された学生に限る)。この選抜区分では、試験科目が免除となり、入学検定料３万円も免除されます。

2．早期進学制度

以下の基準を満たす方は、学部３年次在籍中に大学院入試を受験することができます。この制度によって大学院に進学する場合、３年次終了後、４年生ではなく大学院１年生になることができます。ただし、大学は３年次で退学扱いとなりますので、学士の学位は取得できません。また、学士の学位が取得できないのと同様に国家試験の受験資格を取得できません。

資格審査基準（次の２つの条件を満たす必要があります）

・大学の３年次前期終了時点で、学外実習単位を除く卒業に必要とされる単位数の80％以上を修得し、かつ修得した単位数の80％以上が80点以上の評価であること。
・大学の３年次終了までに、学外実習単位を除く卒業に必要とされる単位数の90％以上を修得する見込みがあり（３年次終了までに修得すべき授業科目のすべてを含む)、かつ修得した単位数の80％以上が80点以上の評価となる見込みであること。

※大学院入試受験時点では見込みで判定し、３年次後期成績が確定した時点で最終的な合格・不合格を決定します。
※学科によっては、３年次終了までに卒業要件の科目の単位数の90％以上を修得することができません。
※こちらの制度を利用する場合は大学院入試事務室までご相談ください。

3．学部４年次在学中の大学院修士課程科目等履修制度

以下の基準を満たす方は、学部４年次在籍中に大学院修士課程の科目を履修することができます。

この制度によって修得した大学院の単位は、大学院に入学した際に既修得単位として認められるため、通常２年間を要する修士課程を最短１年間で修了できる可能性があります。

資格審査基準（次の２つの条件を満たす必要があります）
・本学卒業後に、本学大学院修士課程に入学を志願する者。
・大学の３年次終了時点で、学外実習単位を除く卒業に必要とされる単位数の90％以上を修得し、かつ修得した単位数の80％以上が80点以上の評価であること。
※こちらの制度を利用する場合は大学院入試事務室までご相談ください。

4．修士課程在学期間短縮制度

以下の基準を満たす方は、審査により通常２年間を要する修士課程を最短１年間で修了できる可能性があります。在学期間の短縮を申請する者は、所定の申請書に規定された業績に関する書類を添えて、本課程入学手続時又は入学の１ヶ月前までに申請する必要があります。

資格審査基準（次の条件を満たす必要があります）
・申請の時点で、入学後の研究テーマに関連する３編以上の筆頭原著論文を有し、かつそのうちの１編以上が英語論文であること。ただし、原著論文は査読のある学術専門誌に掲載されたもの又は掲載を許可されたものとし、単著専門書をもって原著論文に代えることができる。
※学費は在学年数分＋各種事務手数料を申し受けます。
※こちらの制度を利用する場合は大学院入試事務室までご相談ください。

Ⅶ．生成AI利用に関する本学の方針と留意事項について

1．本学の方針

1）本学では、教育・研究活動における生成AIのツールとしてのメリットとデメリットを考慮し、生成AIを正しく、賢く使うこととし、使用を禁止とすることはしません。学生の優れたQOLサポーターとしての矜持を信頼し、豊かな人間性と高潔な倫理観にもとづいて、生成AIをツールとして使いこなすことを期待します。生成された情報をそのまま自身の考えとしてレポートや学位論文等に反映させることは、皆さんが生成AIに隷属することにも等しく、不適切であると言わざるを得ません。

2）教育・研究活動において生成AIの使用が許容される程度（禁止の有無を含む）は、カリキュラム・ポリシーにおける当該科目の位置づけ、授業の目的・到達目標、授業の内容・方法、評価方法・基準、成績評価等に委ねられます。生成AIの使用については、各担当教員の指示に従ってください。

2．留意事項

1）出力内容の信憑性「生成AIにより生成された内容には虚偽が含まれている可能性がある」

生成AIは、既存のレポートや論文の要約、言語翻訳、プログラミングなど、大量のデータが蓄積されている分野においては、極めて正確な結果を生成することも多くあります。一方、その内容には、虚偽が含まれている又はバイアスがかかっている可能性があり、その評価は信頼できるものには至っていません。生成AIによって出力された内容を鵜呑みにすることは、人が考えることを放棄することにも繋がりかねません。したがって、生成AIの使用には、相当の専門的な知識が必要であり、生成された内容の真偽を見極め、修正することが求められます。

2）倫理的な配慮と情報漏洩の危険性

生成AIは、学生の高潔な倫理観のもとで利用されることが前提となります。生成AIへの入力内容は、他者が引き出すことも可能であると認識し、教育・研究活動および社会連携活動等で知り得た情報、各種試験問題、個人情報等を生成AIに入力することは絶対にあってはなりません。また、生成AIの学習データには潜在的なバイアス（性別、人種、宗教等に関する偏見や先入観）や毒性（有害・攻撃的なコンテンツを生成する能力）があることも認識する必要があります。

3）著作権侵害や剽窃の危険性

テキスト生成および画像生成系のAIでは、入力されたデータ・画像や生成されたデータ・画像の著作権侵害に関する問題が生じています。生成AIで出力した内容が、将来的に訴訟の対象になる可能性があると認識する必要があります。また、学位論文等の作成において、生成AIでの出力内容をそのまま記載することは剽窃とみなされる場合があり、重大な研究不正になる危険性を認識すべきです。

Ⅷ. 遠隔教育の実施に関する質保証について

－文部科学省大学・高専における遠隔教育の実施に関するガイドラインより－

本学では、遠隔教育（メディア授業）の質の維持・向上を目的とし、文部科学省の「大学・高専における遠隔教育の実施に関するガイドライン」に基づき、メディア授業の質保証に関する項目を以下で策定しました。学生にとって、より効果的な学修環境の提供へ繋げるため、本項目に基づいた遠隔教育の実施、運営を進めていきます。

No.	項目	条件
1	遠隔教育科目の設置基準	遠隔授業により実施する授業科目において修得する単位に係る上限等の取扱い：該当科目が卒業要件として修得すべき単位のうち60単位を超えていない。
2	対面授業と遠隔授業	対面授業と遠隔授業とを組み合わせて行う授業科目の取扱い：例えば対面授業と遠隔授業とを組み合わせて行う授業科目において遠隔授業を実施する授業時数が半数を超えない範囲で行われる授業科目については対面授業の授業科目として取り扱い60単位上限の算定に含めていない。
3	遠隔教育科目の運用	遠隔授業の実施に当たっては十分な通信環境を持たない学生がいることも考えられることから学生の情報通信機器の保有状況などを考慮する。 Wi-Fiなどの繋がる教室を開放している。 通信回線への負荷に配慮した授業方法の組合せとしている。 画質調整等によるオンライン教材の低容量化に努めている。 教材のダウンロードを回線の比較的空いている時間帯に指定している。
4	障がいのある学生への受講配慮	（合理的な配慮が必要な学生等の学修機会の確保） 障がいのある学生を支援する学内組織等とも連携の上個別に当該学生と相談するなどして配慮している。（遠隔授業を録画しLMS上にその映像等を掲載したりするなどして、合理的配慮が必要な学生や病気等で通学が困難な学生の学修機会の確保に努めている。）
5	シラバスへの記載	授業科目担当教員の授業ごとの指導計画の下にメディア授業であることが明示されていること：各授業科目の実施方法については授業計画（シラバス）等に明示し学生に対して丁寧に説明している。 実施方針等については受験生の進学先の参考となるようインターネット等により公表している。
6	出欠管理、課題管理	授業科目担当教員がオンライン上での出席管理や確認的な課題の提出等により当該授業の実施状況を十分把握している。
7	学生への情報伝達、回答	学生一人一人へ確実に情報を伝達する手段や学生からの相談に速やかに応じる体制が確保されている。
8	実施の把握	大学等としてどの授業科目が遠隔授業等で実施されているか等個々の授業の実施状況について把握している。

No.	項目	条件
9	著作権	ICTを活用した遠隔授業等を行う際の著作物利用に係る著作権等の取扱いについては平成30年著作権法改正による「授業目的公衆送信補償金制度」が令和２年４月28日に施行され補償金を支払うことにより、著作権者等の許諾を得ることなく円滑な著作物利用が可能となっていることに留意している。また、「著作物の利用に関する方針」を定め学生に周知を図っている。
10	遠隔授業における双方向性の確保	学生と教員との間のやり取り等の機会が少ないといった点への対応方策を整理するとともに遠隔授業を活用した新たな取組を紹介している。 対面授業と効果的に組み合わせるための留意点も整理している。
11	オフィスアワー等を活用した学修支援の実施	日頃から学生と教員との間でやり取りを行うことができるようにオフィスアワー等を活用した学修支援を実施している。 遠隔でオフィスアワー等を実施する場合にはLMSやオンライン会議システムに備えられたブレイクアウトルーム機能やホワイトボード機能等の活用に努めている。
12	適切な学修評価	こまめな学修評価の実施に努めている。 学生の学修状況に応じてフィードバックを行っている。 （期末試験の１回で学修評価を行うだけではなく小テスト等をこまめに実施し遠隔授業における学生の学修状況を把握する機会を増やすことで適切な学修評価の実施に努めている。）
13	適切な学修評価	遠隔で試験を実施する際に遠隔であることを配慮して不正行為の防止に努めている。（遠隔で試験を実施する際には論述形式の試験テキスト等の持ち込みを可能とした試験、学生ごとに異なる問題が出題される形式の試験、カメラオンでの試験等を実施することで不正行為を防止することができる。またプレゼンテーション等の際には学生同士で評価するなども有効である。）
14	遠隔教育の効果検証	遠隔授業の受講者数や学生の成績授業満足度等の授業アンケートLMSの使用頻度等の情報を集め遠隔教育の効果検証に努めている。
15	専門組織や相談窓口の整備	週１回外部業者による、基本操作を含め、各種設定等のサポートデスクを開設している。
16	マニュアルやポータルサイトによる知見等の周知	遠隔授業を受けるために必要な各種設定のマニュアルを作成している。 オリエンテーションやメール等において、事務局がサポートを行っている。

文部科学省大学・高専における遠隔教育の実施に関するガイドライン
令和５年３月28日　文部科学省　高等教育局　専門教育課　大学教育・入試課
を一部改訂して作成

Ⅸ．著作物の利用に関する指針

1．指針の目的

本指針は、新潟医療福祉大学（以下「本学」）の教育活動における、著作物の利用に関する基本的なルールについて明示することを目的とします。

2．授業での著作物の利用について

本指針は、新潟医療福祉大学（以下「本学」）の教育活動における、著作物の利用に関する基本的なルールについて明示することを目的とします。

著作権法第35条では学校教育における著作物の使用について、著作権者の利益を不当に害さない範囲で、「教育を担任する者および授業を受ける者」が、公表された著作物を「複製または公衆送信」することが認められています。

令和２年度より施行された公衆送信補償金制度は、教育機関が著作物をメディア授業やデジタル教材として配信する際、著作権者への適切な補償を行うための制度であり、本学は2020年５月１日に一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（以下、SARTRAS）への登録を行いました。そのため、対面授業、メディア授業においても著作権者の許諾を得ることなく、著作権者の利益を害さない範囲で著作物の利用が可能になり、著作権上、問題のない範囲であれば、幅広い著作物を授業で活用でき、これにより教育の質の向上に繋がります。

著作物の利用については、７に記載の参考資料の指針に準ずるものとします。

詳細は参考資料をご確認ください。

3．本学の本指針に関する基本的な考え

本学はSARTRASに登録していますが、学生が配布された授業資料や著作物を拡散させ、著作権法の問題のみならず大きな社会的問題へと発展する可能性は否定できません。したがって、授業資料や著作物については極力データでの配布を避ける等、厳格に取り扱うべきです。しかし、授業形態や特性、教育効果などを鑑み、やむを得ずデータでの配布が必要な場合については、資料の準備や配布に十分留意するとともに厳格な学生指導を行うことで、著作権法等に抵触しないよう徹底するものとします。

4．著作権法上、留意すべき点の一例について

本学では対面授業を原則とし、教育効果が認められる科目についてはメディア授業を活用する方針（2025年度現在）としているため、対面授業、メディア授業のそれぞれにおいて、著作権法上、留意すべき点の一例を次のように示します。

なお、対面授業の資料については、紙（ペーパー）資料の配布を原則としますが、教育効果を鑑み、データ資料を配布する場合があることを想定しています。

著作権法上、留意すべき点

	対面授業	メディア授業
著作権法上、問題のない範囲	・教育目的のために著作物を使用する。 ・すでに公表されている著作物を使用する。 ・慣行があるときは「出所の明示」をする。 ・著作物を利用した教材の印刷は原則教員自身が行う。 （場合に応じてTAなどによる複製も可能） ・著作物を用いた教材を公衆送信する場合（予習・復習用の資料を外部サーバー経由等で配布する場合も含む）には、履修学生のみがアクセスできるようにする。 ・履修期間が終了した場合、著作物を用いた教材を外部サーバーから削除する。	・教育目的のために著作物を使用する。 ・すでに公表されている著作物を使用する。 ・慣行があるときは「出所の明示」をする。 ・著作物を用いた電子教材（PDFやPowerPoint）などの送受信は、原則教員および履修登録学生が行う。 ・著作物を用いた電子教材やメディア授業は、履修学生のみがアクセスできるようにする。 ・履修期間が終了した場合、著作物を用いた電子教材やメディア授業の配信を停止する。
著作権法上、問題のある範囲	・授業を担当する教員等及び当該授業の履修者等の合計数を明らかに超える数量の資料の印刷 ・授業の履修者以外の者にも見せるような態様で伝達する様な行為 ・著作権者の利益を不当に害するような複製 例１）著作物丸ごとの複製、経済的価値が高いものの複製など 例２）授業の中で回ごとに同じ著作物の異なる部分を利用することで、結果としてその授業での利用量が小部分ではなくなること （「令和３年度版　改正著作権法第35条運用指針」より引用）	・著作権者の利益を不当に害するような複製 例１）著作物丸ごとの複製、経済的価値が高いものの複製など 例２）授業の中で回ごとに同じ著作物の異なる部分を利用することで、結果としてその授業での利用量が小部分ではなくなること （「令和３年度版　改正著作権法第35条運用指針」より引用） ・授業の履修者以外の者にも見せるような態様で伝達する様な行為 ・２次加工が可能なファイル形式（例：word、ppt等）による授業資料のアップロード

5．学生が著作物を利用する場合の注意点

・授業で利用された著作物については、学生本人が授業目的の範囲内において利用するものとし、授業目的外に利用しないものとする。

・配布された授業資料を他者にデータ送信したり、SNS等でアップロードしない。

・レポート・論文作成時に他者の著作物を引用する場合、必ず出典を明記する。

参考：教務委員会作成「レポート作成における不正行為」（一部抜粋）

レポート作成における不正行為について

レポート作成にも、定期試験と同じ厳正な態度で臨むことが必要です。
下記に示すレポートに関する不正行為には、定期試験の不正行為と同様の厳しい処分がなされますので、十分注意してください。

1．書物・インターネット等に掲載された他人の文章を、出典を明記せずに使用すること
2．他人のレポートを写すこと　＝「盗用・剽窃」
3．自分のレポートを他人に写させること
4．何人かで共同してレポートを作成し、同じレポートを提出すること　＝「共謀」
5．その他、不正にあたる行為

6．問い合わせ窓口

本指針に関する疑問や、著作物の利用に関する具体的な相談については、以下の窓口にお問い合わせください。

［連絡先］chosaku@nuhw.ac.jp

7．参考資料（令和６年12月時点）

「令和６年度著作権テキスト」文化庁
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/textbook/pdf/94141901_01.pdf
「令和２年度授業目的公衆送信補償金制度の概要」文化庁
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/92728101_03.pdf
「平成30年改正 著作権法（概要）」文化庁
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/h30_hokaisei/pdf/r1406693_01.pdf
「令和３年度版　改正著作権法第35条運用指針」著作物の利用に関する関係者フォーラム
https://forum.sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin_20201221.pdf

X．学外実習に関わる費用および学生負担金の基本方針

本学では、教育課程の一環として学外施設における実習（以下「学外実習」という）を実施しています。学外実習に伴う費用のうち、交通費および宿泊費等は学生の自己負担となります。学外実習で必要となる交通費・宿泊費等の学生負担（以下「学生負担金」という。）に関する基本的な方針は以下のとおりです。

1．学生負担となる費用

・交通費（往復交通費、実習期間中の移動費など）

・宿泊費（実習期間に必要な宿泊に係る費用）

＊学外実習に係る交通機関および宿泊施設等の手配は、学生自身が行います。

＊学科により、その他の費用が掛かる場合があります。

2．学生負担金に関する基本方針（抜粋）

（目的）

本方針は、新潟医療福祉大学（以下「本学」という。）の学外実習で必要となる交通費・宿泊費等の学生負担（以下「学生負担金」という。）に関する基本的な方針を明確にし、学生および保護者に対する説明責任を果たすとともに、費用の透明性、会計処理の適正性およびガバナンス体制の強化を図ることを目的とする。

（定義）

本方針における学外実習とは、本学が教育課程の一環として定める学外での実習を指す。

（費用負担）

学生負担金は、学生が自身で支出するものとし、学科内での均等負担等、費用を調整・分担する方法による負担は行わない。

（交通機関・宿泊施設等手配）

学外実習に係る交通機関および宿泊施設等の手配は、学生自身が行うものとする。

学生は、手配した交通機関および宿泊施設の手配状況等について、所属する学科へ報告しなければならない。

交通機関および宿泊施設等への支払いは学生自身が行い、原則として本学が立て替え支払いを行うことはない。

（補助金）

本学は、学生負担金の負担額を軽減するために、大学が定めた予算により補助を行うことがある。

補助金の交付は、原則として学費の振替口座への振込により実施する。

理学療法学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	科学的根拠に裏づけされた理学療法に関する知識および技術を有し、それらを活用できる。	理学療法にかかわる科学的根拠に裏づけられた専門知識・技術を身につけるために基礎教養科目群や専門基礎科目群、専門専攻科目群を配置し、科学的思考力を修得するために理学療法ゼミや卒業研究を配置する。成果は当該科目群の成績により評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	多職種と連携し、問題解決に向けた情報収集ができるとともに、議論に必要とされる理学療法と関連領域の幅広い知識とコミュニケーション能力を有しリーダーシップを発揮することができる。	他職種と連携して問題解決に向けた情報収集能力および関連する幅広い知識を身に着けるために保健医療福祉教養科目群や保健医療福祉連携科目群、専門専攻科目群のひとつである理学療法管理学を配置し、コミュニケーション力を向上させるとともに、リーダーシップを身につけるために基礎ゼミなどを配置する。成果は当該科目群の活動状況および成績により評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	高い倫理観と責任感を有し、理学療法を必要とする対象者の人権を尊重するとともに、地域社会の活性化や対象者のQOL向上に全力で取り組むことができる。	倫理観と責任感を学び、理学療法を必要とする対象者や地域社会における理学療法士の取り組みに関心をもち、対象者に対して適切な理学療法を提供し、対象者の社会参加を支援する力を修得するために臨床実習や地域リハビリテーション実習を含む専門専攻科目群を配置する。成果は専門専攻科目群の成績により評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	幅広い教養と習得した理学療法学を活かし、臨床的状況、対象者や地域社会の意思などを考慮し、妥当な仮説を立案し、吟味し、論理的に問題を解決することができる。	専門知識・技術および論理的思考力を涵養し、臨床的状況や対象者および地域社会の意思などを考慮した問題発見および問題解決力を身につけるために基礎教養科目群や専門基礎科目群、理学療法課題演習および卒業研究などを配置する。成果は当該科目群の成績により評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	国内外を問わず、科学の進歩や社会の変化を理解し、生涯を通して理学療法学に関する知識および技術を高め、それらを適切な場で発信することができる。	国際的な科学の進歩や社会の変化への好奇心をもち、生涯を通じて自律した理学療法士として自己実現意欲を涵養するために理学療法ゼミや海外フィールド実習、スポーツ障害理学療法学、高齢者健康増進学、骨関節病理学、神経筋機能解析学、運動制御理論、運動生理学、痛み学など数多くの専門専攻科目を配置する。成果は当該科目の成績により評価する。

カリキュラム表

理学療法学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	Ⅰを履修することでⅡを履修できる
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		サイエンスライティング	130000	1～4	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	27	0	885	卒業要件単位数：　7単位以上

理学療法学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期	1			15	
		保健医療福祉連携学	110250	2・3	前期		1		15	１単位以上選択し修得すること ※選択必修
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				2	7	0	225	
	保健医療福祉科目計 （②＋③）					2	40	0	735	卒業要件単位数： ７単位以上
全学科共通科目計Ⓐ （①＋②＋③）						8	67	0	1,620	卒業要件単位数：１４単位以上

理学療法学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	解剖学Ⅰ	200001	1	前期	4			60	
		解剖学実習Ⅰ	200005	1	前期	1			30	
		解剖学Ⅱ	200010	1	後期	2			30	
		解剖学実習Ⅱ	200015	1	後期	1			30	
		解剖学Ⅲ	200020	1	後期	2			30	
		生理学Ⅰ	200035	1	前期	2			30	
		生理学実習Ⅰ	200040	1	後期	1			30	
		生理学Ⅱ	200045	1	後期	1			15	
		生理学実習Ⅱ	200050	2	前期	1			30	
		人間発達学	200065	2	後期	1			15	
		精神医学	200070	2	前期	2			30	
		整形外科学Ⅰ	200075	2	前期	2			30	
		整形外科学Ⅱ	200080	2	後期	2			30	
		公衆衛生学	200085	2	前期	1			15	
		内科学Ⅰ	200090	2	前期	2			30	
		内科学Ⅱ	200095	2	後期	2			30	
		臨床心理学	200105	2	後期	2			30	
		神経科学	200110	2	前期	2			30	
		臨床神経学	200125	2	後期	2			30	
		スポーツ医学	200130	3	後期	2			30	
		リハビリテーション概論	200135	1	後期	2			30	
		リハビリテーション医学	200140	2	前期	2			30	
		保健統計学	200145	3	前期	2			30	
		小児科学	200150	3	前期	1			15	
		小計④				42	0	0	690	卒業要件単位数：　４２単位以上

理学療法学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	理学療法学概論	210000	1	前期	2			30	
		機能解剖学	210005	1	後期	2			30	
		理学療法基礎評価学Ⅰ	210010	1	後期	2			60	
		基礎運動学	200155	1	後期	2			30	
		運動学	200160	2	前期	2			30	
		運動学実習	200165	2	前期	2			60	
		理学療法基礎ゼミ	210015	2	前期	2			30	
		理学療法基礎評価学Ⅱ	210020	2	前期	2			60	
		日常生活活動学	200170	2	後期	2			30	
		筋骨格系理学療法学	210026	2	後期	3			90	
		整形外科理学療法学	210031	2	後期	3			90	
		中枢神経系理学療法学	210036	3	前期	4			120	
		内部障害理学療法学	210041	3	前期	3			90	
		物理療法学	210045	3	前期	1			30	
		神経・筋疾患治療学	210050	3	前期	1			15	
		地域理学療法学Ⅰ	210215	3	前期	1			15	
		地域理学療法学Ⅱ	210175	3	後期	2			30	
		義肢装具学	210060	3	後期	1			15	
		理学療法ゼミⅠ	210065	3	後期	1			30	
		理学療法ゼミⅡ	210070	4	前期	2			60	
		理学療法管理学	210205	4	後期	2			30	
		総合演習	210075	4	後期	2			60	
		臨床実習Ⅰ（検査・測定）	210080	2	後期	3			135	
		臨床実習Ⅱ（評価）	210085	3	後期	4			180	
		臨床実習Ⅲ（総合実習）	210090	4	前期	11			495	
		地域リハビリテーション実習	210210	4	前期	2			90	
		研究法	210095	3	前期	1			15	
		卒業研究	210101	4	後期	5			150	
		スポーツ障害理学療法学	210105	3･4	後期		1		15	２単位以上選択し修得すること
		徒手理学療法学	210110	3･4	後期		1		15	
		発達障害理学療法学	210115	3･4	後期		1		15	
		海外フィールド実習	210120	1～4	後期		1		45	
		医療英語Ⅰ	210180	1～4	前期		1		15	
		医療英語Ⅱ	210185	1～4	後期		1		15	
		骨・関節病理組織学	210130	3･4	後期		1		15	
		神経・筋機能解析学	210135	3･4	後期		1		15	
		運動制御理論	210140	3･4	後期		1		15	
		運動生理学	210145	3･4	後期		1		15	
		応用肉眼解剖学実習	210150	3･4	後期		1		45	
		高齢者健康増進学	210155	3	前期		1		15	
		統計演習	210160	4	前期		1		30	
		理学療法学課題演習	210165	2･3	前期		1		30	
		高次脳機能障害学	200175	3	後期		1		15	
		理学療法基礎科学Ⅰ	210190	1	前期		1		15	必ず選択し修得すること
		理学療法基礎科学Ⅱ	210195	1	後期		1		15	必ず選択し修得すること
		痛み学	210200	3･4	後期		1		15	
		教育学	200180	1～4	後期		1		15	
		教育心理学	200185	1～4	後期		1		15	
		教育方法論	200190	1～4	後期		1		15	
		教育評価	200195	1～4	後期		1		15	
		小計⑤				70	22	0	2,520	卒業要件単位数：　７２単位以上
		専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)				112	22	0	3,210	卒業要件単位数：１１４単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						120	89	0	4,830	卒業要件：４年以上在学し、かつ１２８単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：理学療法士

・学外実習

臨床において理学療法の対象となる方との適切な接し方を身につけ、その対象者のために自分自身の持つ知識や技術、人間性、責任感、連携能力といった資質・能力を最大限に役立てようと考え、理学療法士の指導者の監督下で評価と治療を実践し、自らの考察を通して向上心を高める糧とすることを目的とします。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
臨床実習Ⅰ （必修）	2年次後期 （3週間）	保健、医療、福祉機関等	検査・測定
臨床実習Ⅱ （必修）	3年次後期 （4週間）	主に医療提供施設	評　価
臨床実習Ⅲ （必修）	4年次前期 （11週間）	主に医療提供施設	総　合
地域リハビリテーション実習 （必修）	4年次前期 （2週間）	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション提供施設	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション

・履修基準

（1）第2年次の専門専攻科目

第2年次前期および後期に開講される「運動学」、「運動学実習」、「理学療法基礎ゼミ」、「理学療法基礎評価学Ⅱ」、「日常生活活動学」、「筋骨格系理学療法学」、「整形外科理学療法学」を履修するためには、履修登録の時点で第1年次後期までに開講される下記の必修科目および選択必修科目（理学療法基礎科学Ⅰ・Ⅱ）をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊解剖学Ⅰ　＊解剖学実習Ⅰ　＊解剖学Ⅱ　＊解剖学実習Ⅱ　＊解剖学Ⅲ
＊生理学Ⅰ　＊生理学実習Ⅰ　＊生理学Ⅱ　＊リハビリテーション概論

専門専攻科目群

＊理学療法学概論　＊機能解剖学　＊基礎運動学　＊理学療法基礎評価学Ⅰ
＊理学療法基礎科学Ⅰ・Ⅱ

（2）第3年次の専門専攻科目

第3年次前期および後期に開講される「中枢神経系理学療法学」、「内部障害理学療法学」、「物理療法学」、「神経・筋疾患治療学」、「地域理学療法学Ⅰ・Ⅱ」、「義肢装具学」、「理学療法ゼミⅠ」を履修するためには、履修登録の時点で第2年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊生理学実習Ⅱ　＊人間発達学　＊精神医学　＊公衆衛生学　＊内科学Ⅰ
＊神経科学　＊整形外科学Ⅰ　＊リハビリテーション医学　＊整形外科学Ⅱ
＊臨床神経学　＊内科学Ⅱ　＊臨床心理学

専門専攻科目群

＊運動学　＊運動学実習　＊理学療法基礎評価学Ⅱ　＊日常生活活動学
＊筋骨格系理学療法学　＊整形外科理学療法学　＊臨床実習Ⅰ（検査・測定）
＊理学療法基礎ゼミ

（3）理学療法ゼミⅡ、理学療法管理学

第4年次前期に開講される「理学療法ゼミⅡ」また第4年次後期に開講される「理学療法管理学」を履修するためには、履修登録の時点で第3年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊保健統計学　＊スポーツ医学　＊小児科学

専門専攻科目群

＊内部障害理学療法学　＊物理療法学　＊中枢神経系理学療法学
＊神経・筋疾患治療学　＊地域理学療法学Ⅰ・Ⅱ　＊義肢装具学　＊理学療法ゼミⅠ
＊臨床実習Ⅱ（評価）　＊研究法

（4）総合演習

第4年次後期に開講される「総合演習」を履修するためには、科目開講の時点で第4年次前期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊理学療法ゼミⅡ　＊臨床実習Ⅲ（総合実習）　＊地域リハビリテーション実習

（5）臨床実習Ⅰ（検査・測定）

第2年次後期に開講される「臨床実習Ⅰ（検査・測定）」を履修するためには、履修登録の時点で第1年次後期までに開講される下記の必修科目および選択必修科目（理学療法基礎科学Ⅰ・Ⅱ）をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊解剖学Ⅰ　＊解剖学実習Ⅰ　＊解剖学Ⅱ　＊解剖学実習Ⅱ　＊解剖学Ⅲ
＊生理学Ⅰ　＊生理学実習Ⅰ　＊生理学Ⅱ　＊リハビリテーション概論

専門専攻科目群

＊理学療法学概論　＊機能解剖学　＊基礎運動学　＊理学療法基礎評価学Ⅰ
＊理学療法基礎科学Ⅰ・Ⅱ

（6）臨床実習Ⅱ（評価）

第3年次に開講される「臨床実習Ⅱ（評価）」を履修するためには、履修登録の時点で第2年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊生理学実習Ⅱ　＊人間発達学　＊精神医学　＊公衆衛生学　＊内科学Ⅰ
＊神経科学　＊整形外科学Ⅰ　＊リハビリテーション医学　＊整形外科学Ⅱ
＊臨床神経学　＊内科学Ⅱ　＊臨床心理学

専門専攻科目群

＊運動学　＊運動学実習　＊理学療法基礎評価学Ⅱ　＊日常生活活動学
＊筋骨格系理学療法学　＊整形外科理学療法学　＊臨床実習Ⅰ（検査・測定）
＊理学療法基礎ゼミ

（7）臨床実習Ⅲ（総合実習）、地域リハビリテーション実習

第4年次に開講される「臨床実習Ⅲ（総合実習）」「地域リハビリテーション実習」を履修するためには、履修登録の時点で第3年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊保健統計学　＊スポーツ医学　＊小児科学

専門専攻科目群

＊地域理学療法学Ⅰ・Ⅱ　＊義肢装具学　＊理学療法ゼミⅠ　＊臨床実習Ⅱ（評価）
＊研究法　＊内部障害理学療法学　＊物理療法学　＊中枢神経系理学療法学
＊神経・筋疾患治療学

・専門専攻科目群の選択科目に関して

大学等の理学療法士養成校で専任教員になるには、要件の1つとして「教育に関する科目」を合計4単位以上履修しておく必要があります。将来の選択肢を広げるために専門専攻科目群で（卒業要件に含まれる2単位以外に）「教育学」「教育心理学」「教育方法論」「教育評価」の4科目（4単位、60時間）を履修しておくことが望ましいです（卒業後に教育に関する科目を履修する場合は、320時間の研修を受ける必要があります）。

取得できる資格と免許

■ 理学療法士国家試験受験資格　…卒業により取得可

理学療法士は、保健・医療・福祉の領域で様々な対象者に対して、その基本的な動作能力を回復させるために、運動療法や物理療法などの理学的手段を利用して治療・指導・援助を行います。

活躍の場　理学療法士の活躍の場は、医療機関や保健・福祉施設が大半を占めますが、行政・教育・研究機関や健康増進・スポーツ領域で活躍する理学療法士も増えています。また、国際的に活躍できる機会も大いに期待できます。

理学療法士国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣が指定した学校または厚生労働大臣が指定した理学療法士養成施設において、3年以上理学療法士として必要な知識および技能を修得しなければなりません。

理学療法学科は、文部科学大臣より理学療法士学校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、理学療法士国家試験の受験資格が得られます。

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容						別表第１（理学療法士課程）												
						基礎分野			専門基礎分野			専門分野						計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学	臨床実習	
			必修	選択														
						12	14	4	6	2	6	20	3	20				
						14			30			57						101
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30			①										
	情報処理Ⅰ	1前	1		30		①											
	情報処理Ⅱ	1後	1		30		①											
	情報処理Ⅲ	2前		1	30		①											
	英語Ⅰ	1前	1		30		①											
	英語Ⅱ	1後	1		30		①											
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前		1	30	①												
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後		1	30	①												
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4前後		1	30	①												
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30		①											
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30		①											
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30		①											
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30		①											
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30		①											
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30		①											
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30		①											
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30		①											7
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15		①											
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15		①											
	スポーツ・健康	1前後	1		30		①											
	スポーツ・実践	2・3・4前後		1	30		①											
	哲学	1前		1	15		①											
	倫理学	1後		1	15		①											
	ジェンダー論	1前		1	15			①										
	科学論	1後		1	15	①												
	情報科学	1後		1	15	①												
	サイエンスライティング	1・2・3・4後		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30	①												
小計						6			0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
						選択科目 1単位												

履修方法及び卒業要件：必修６単位を含む７単位以上を履修（7）

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表第1（理学療法士課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活	基礎分野 社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能及び心身の発達	専門基礎分野 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	専門分野 基礎理学療法学	専門分野 理学療法管理学	専門分野 理学療法評価学	専門分野 理学療法治療学	専門分野 地域理学療法学	専門分野 臨床実習	計
			必修	選択			14			12	14	4	6	2	6	20	3	20	101
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	1前		1	15	必修2単位を含む7単位以上を履修			①										7
	コミュニケーション学入門	1前		1	15				①										
	対人コミュニケーション論	1後		1	15				①										
	心理学の世界	1後		1	15			①											
	人間を知る	1前		1	15			①											
	命の倫理	1後		1	15			①											
	ＱＯＬの世界	1後		1	15			①											
	こどもの世界	1後		1	15			①											
	アスリートの世界	1後		1	15			①											
	臨床医の世界	1後		1	15			①											
	加齢と身体	1後		1	15			①											
	食を楽しむ	1前		1	15			①											
	眼の神秘	1前		1	15			①											
	義肢装具の世界	1前		1	15			①											
	新潟学	1後		1	15				①										
	国際保健の世界	1後		1	15				①										
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1	15				①										
	現代社会と経済	1前		1	15				①										
	法学Ⅰ	1前・後		1	15				①										
	法学Ⅱ	1前・後		1	15				①										
	臨床の哲学	1前		1	15			①											
	臨床技術の世界	1前		1	15				①										
	留学の魅力	1後		1	15		①												
	シティズンズシップ教育入門	1後		1	15			①											
	放射線の基礎と人体への影響	1前		1	15			①											
	新潟水俣病の理解	1前		1	15			①											
	一次救命処置法	1前		1	15			①											
	東洋医学的養生	1前		1	15		①												
	自然人類学概論	1後		1	15			①											
	データサイエンス概論	1後		1	30		①												
	アスリートサポートの世界	1後		1	15				①										
	比較認知科学の世界	1前		1	15		①												
	アカデミック・ライティング	1後		1	15		①												
保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	2後	1		30	ただし、保健医療福祉連携学、地域連携学、連携総合ゼミの中から1単位以上を履修						①							7
	チームアプローチ入門	1後	1		15							①							
	保健医療福祉連携学	2・3前		1	15							①							
	地域連携学	3前		1	15							①							
	連携総合ゼミ	3後・4前		1	30							①							
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30				①										
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30				①										
	国際交流演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30				①										
	国際交流演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30				①										
	小計					7		0		0	0	2 選1	0	0	0	0	0	0	7
							選択科目 4単位												

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（理学療法士課程）												
						基礎分野			専門基礎分野			専門分野						計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学	臨床実習	
			必修	選択						12	14	4	6	2	6	20	3	20	
							14			30			57						101
専門基礎科目群	解剖学Ⅰ	1前	4		15	必修42単位を履修				④									42
	解剖学実習Ⅰ	1前	1		30					①									
	解剖学Ⅱ	1後	2		15					②									
	解剖学実習Ⅱ	1後	1		30					①									
	解剖学Ⅲ	1後	2		15					②									
	生理学Ⅰ	1前	2		15					②									
	生理学実習Ⅰ	1後	1		30					①									
	生理学Ⅱ	1後	1		15					①									
	生理学実習Ⅱ	2前	1		30					①									
	人間発達学	2後	1		15					①									
	精神医学	2前	2		15						②								
	整形外科学Ⅰ	2前	2		15						②								
	整形外科学Ⅱ	2後	2		15						②								
	公衆衛生学	2前	1		15						①								
	内科学Ⅰ	2前	2		15						②								
	内科学Ⅱ	2後	2		15						②								
	臨床心理学	2後	2		15						②								
	神経科学	2前	2		15						②								
	臨床神経学	2後	2		15						②								
	スポーツ医学	3後	2		15						②								
	リハビリテーション概論	1後	2		15							②							
	リハビリテーション医学	2前	2		15						②								
	保健統計学	3前	2		15			②											
	小児科学	3前	1		15						①								
	小計					42		2		16	22	2	0	0	0	0	0	0	42

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容						別表第１（理学療法士課程）												
						基礎分野			専門基礎分野			専門分野						計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学	臨床実習	
			必修	選択			12	14	4	6	2	6	20	3	20				
			14				30			57								101	
専門専攻科目群	理学療法学概論	1前	2		15	必修70単位を含む72単位を履修							②						70
	機能解剖学	1後	2		15								②						
	理学療法基礎評価学Ⅰ	1後	2		30										②				
	基礎運動学	1後	2		15								②						
	運動学	2前	2		15								②						
	運動学実習	2前	2		30								②						
	理学療法基礎ゼミ	2前	2		15										②				
	理学療法基礎評価学Ⅱ	2前	2		30										②				
	日常生活活動学	2後	2		15											②			
	筋骨格系理学療法学	2後	3		30											③			
	整形外科理学療法学	2後	3		30											③			
	中枢神経系理学療法学	3前	4		30											④			
	内部障害理学療法学	3前	3		30											③			
	物理療法学	3前	1		30											①			
	神経・筋疾患治療学	3前	1		15											①			
	地域理学療法学Ⅰ	3前	1		15												①		
	地域理学療法学Ⅱ	3後	2		15												②		
	義肢装具学	3後	1		15											①			
	理学療法ゼミⅠ	3後	1		30										①				
	理学療法ゼミⅡ	4前	2		30											②			
	理学療法管理学	4後	2		15									②					
	総合演習	4後	2		30											②			
	臨床実習Ⅰ（検査・測定）	2後	3		45													③	
	臨床実習Ⅱ（評価）	3後	4		45													④	
	臨床実習Ⅲ（総合実習）	4前	11		45													⑪	
	地域リハビリテーション実習	4前	2		45													②	
	研究法	3前	1		15		①												
	卒業研究	4後	5		30		⑤												
	スポーツ障害理学療法学	3・4後		1	15											①			2
	徒手理学療法学	3・4後		1	15										①				
	発達障害理学療法学	3・4後		1	15											①			
	海外フィールド実習	1・2・3・4後		1	45								①						
	医療英語Ⅰ	1・2・3・4前		1	15		①												
	医療英語Ⅱ	1・2・3・4後		1	15		①												
	骨・関節病理組織学	3・4後		1	15								①						
	神経・筋機能解析学	3・4後		1	15										①				
	運動制御理論	3・4後		1	15								①						
	運動生理学	3・4後		1	15										①				
	応用肉眼解剖学実習	3・4後		1	45								①						
	高齢者健康増進学	3前		1	15											①			
	統計演習	4前		1	30		①												
	理学療法学課題演習	2・3前		1	30		①												
	高次脳機能障害学	3後		1	15										①				
	理学療法基礎科学Ⅰ	1前		1	15		①												
	理学療法基礎科学Ⅱ	1後		1	15		①												
	痛み学	3・4後		1	15								①						
	教育学	1・2・3・4後		1	15														–
	教育心理学	1・2・3・4後		1	15														
	教育方法論	1・2・3・4後		1	15														
	教育評価	1・2・3・4後		1	15														
	小計					72	6			0	0	0	10	2	7	22	3	20	72
							選択科目 2単位												
卒業要件単位数（最低単位数）						128	14			16	22	4	10	2	7	22	3	20	128
							選択科目 5単位					選択1							
指定規則に対する増単位数							5			4	8	1	4	0	1	2	0	0	27
							選択科目 2単位												

作業療法学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	持続可能な社会を支える保健・医療・福祉領域の専門職として、幅広い教養的知識とともに、作業療法に関する確かな専門的知識・技能を身につけている。	作業療法士になるために必要な基礎的知識と技術、さらにそれらを活用する力を修得するために基礎医学および臨床医学や作業療法に関連した専門科目を配置する。1・2年次に基礎医学、臨床医学系の専門基礎科目を、2・3年次に作業療法の専門専攻科目を配置する。成果は基礎教養科目群、専門専攻科目群の成績および国家試験の合否により評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	多様な背景を持つ人々と関わりながら、多職種連携の技能を活かし、チーム共通の目標に向けて、保健医療福祉スポーツ分野の複数の職種と良好なコミュニケーションを取り、主体的に行動することができる。	他の職種との連携協働を行うために必要な協調性やリーダーシップのあり方を修得するために保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群を配置する。とくに学部単独で実施する1年次のチームアプローチ入門によって、多職種連携の基礎を学び、2年次の連携基礎ゼミで強化する。成果は保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群の成績により評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	作業療法士として、高潔な倫理観、使命感、責任感を有するとともに、人の多様な生き方や価値観を寛容に理解および尊重して、対象者および家族のQOLの向上を支援できる。	対象者の意思を重んじる姿勢と対象者を元気にする力を修得するために作業療法に関連した専門専攻科目群と臨床実習を配置する。臨床実習は1年次の基礎実習に始まり、2年次の体験実習、3年次の評価実習、4年次の総合臨床実習と地域実習へと連続した配置としている。成果は専門専攻科目群および臨床実習の成績により評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	対話と教養的知識をもって、人間の生活における作業の意味や価値を心身の機能や文化・社会のあり方と結びつけて解釈し、作業が健康に及ぼす影響について適切に判断した上で、他の専門領域の知見も活かしながら問題解決に取り組むことができる。	作業療法の実践過程を学ぶことを通して論理的に思考し、判断できる力を修得するために卒業研究やゼミ活動科目を配置する。とくに3年次の研究方法論によって基礎力を身につけた上で、3年次の研究方法論演習や4年次の卒業研究で仲間と協力しながら問題解決の実際を体験する。成果は研究方法論演習、卒業研究の成績により評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	作業療法士として継続的に人間性を高める意欲を有し、また学びを生涯にわたり続けることで、国際化・情報化にも対応し、自らの可能性を拓げようとする姿勢がある。	作業療法士として生涯を通じて自己の夢の実現に向けて研鑽を継続するための心構えを身につけるために基礎教養科目群および専門専攻科目群を配置する。とくに専門職になるための自覚および関心を深めるために実際の患者による講義や演習を行い、臨床実習で強化し、自らの可能性を広げる。成果は基礎教養科目群および専門専攻科目群や臨床実習の成績により評価する。

カリキュラム表

作業療法学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数：　7単位以上

作業療法学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	３単位以上選択し修得すること ※選択必修
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	１単位以上選択し修得すること ※選択必修
		チームアプローチ入門	110325	1	後期	1			15	
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				2	7	0	225	
		保健医療福祉科目計 （②＋③）				2	40	0	735	卒業要件単位数： ７単位以上
		全学科共通科目計Ⓐ （①＋②＋③）				8	66	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

作業療法学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	解剖学Ⅰ	200000	1	前期	3			45	
		解剖学実習Ⅰ	200005	1	前期	1			30	
		解剖学Ⅱ	200010	1	後期	2			30	
		解剖学実習Ⅱ	200015	1	後期	1			30	
		解剖学Ⅲ	200020	1	後期	2			30	
		生理学Ⅰ	200035	1	前期	2			30	
		生理学実習Ⅰ	200040	1	後期	1			30	
		生理学Ⅱ	200045	1	後期	1			15	
		生理学実習Ⅱ	200050	2	前期	1			30	
		リハビリテーション概論	200135	1	後期	2			30	
		リハビリテーション医学	200140	2	前期	2			30	
		人間発達学	200065	2	後期	1			15	
		小児科学	200150	2	前期	1			15	
		内科学Ⅰ	200090	2	前期	2			30	
		内科学Ⅱ	200095	2	後期	2			30	
		整形外科学Ⅰ	200075	2	前期	2			30	
		整形外科学Ⅱ	200080	2	後期	2			30	
		公衆衛生学	200085	2	前期	1			15	
		精神医学	200070	2	前期	2			30	
		臨床精神医学	220000	2	後期	1			15	
		神経科学	200110	2	前期	2			30	
		臨床神経学	200125	2	後期	2			30	
		臨床心理学	200105	2	後期	2			30	
	小計④					38	0	0	630	卒業要件単位数：　３８単位以上

作業療法学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	作業療法学概論	220005	1	前期	1			15	
		基礎作業学	220180	1	前期	1			15	
		基礎作業学実習	220015	1	前期	1			30	
		基礎運動学	200155	1	後期	2			30	
		運動学	200160	2	前期	2			30	
		運動学実習	200165	2	前期	2			60	
		作業療法管理学	220215	3	前期	2			30	
		作業療法評価学概論	220020	1	後期	2			30	
		身体障害作業療法評価学	220025	2	前期	2			30	
		身体障害作業療法評価学実習	220190	2	前期	2			60	
		精神障害作業療法評価学	220040	2	後期	2			30	
		発達障害作業療法評価学	220045	2	後期	1			15	
		高次脳機能障害評価学	220050	3	前期	2			30	
		高齢期障害作業療法評価学	220220	2	後期	1			15	
		基礎作業治療学	220195	2	前期	2			30	
		身体障害作業療法学Ⅰ	220060	3	前期	2			30	
		身体障害作業療法学Ⅱ	220065	3	前期	2			30	
		身体障害作業療法学Ⅲ	220070	3	前期	2			30	
		身体障害作業療法学演習Ⅰ	220075	3	後期	1			30	
		身体障害作業療法学演習Ⅱ	220080	3	後期	1			30	
		高次脳機能障害作業療法学	220085	3	後期	1			15	
		高齢期障害作業療法学	220090	3	前期	2			30	
		高齢期障害作業療法学演習	220095	3	後期	1			30	
		精神障害作業療法学	220100	3	前期	2			30	
		精神障害作業療法学演習	220105	3	後期	1			30	
		発達障害作業療法学	220110	3	前期	2			30	
		日常生活活動学	200170	2	前期	2			30	
		日常生活活動学実習Ⅰ	220116	2	後期	2			60	
		日常生活活動学実習Ⅱ	220120	3	後期	1			30	
		手と脳	220205	3	前期		2		30	
		地域作業療法学Ⅰ	220125	3	前期	2			30	
		地域作業療法学Ⅱ	220200	3	後期	2			30	
		基礎実習	220140	1	後期	1			45	
		体験実習	220145	2	前期	1			45	
		評価実習	220151	3	後期	6			270	
		地域実習	220211	4	前期	1			45	
		総合臨床実習Ⅰ	220155	4	前期	8			360	
		総合臨床実習Ⅱ	220160	4	前期	8			360	
		研究方法論	220165	3	前期	1			30	
		研究方法論演習	220170	3	後期	1			30	
		卒業研究	220175	4	後期	2			60	
		教育学	200180	1～4	後期		1		15	
		教育心理学	200185	1～4	後期		1		15	
		教育方法論	200190	1～4	後期		1		15	
		教育評価	200195	1～4	後期		1		15	
		小計⑤				80	6	0	2,280	卒業要件単位数：　８０単位以上
		専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)				118	6	0	2,910	卒業要件単位数：１１８単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						126	72	0	4,500	卒業要件：４年以上在学し、かつ１３２単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：作業療法士

・学外実習

臨床において、身体や精神、発達に障害を持つ人々に対し、学内で段階的に習得した医学的および作業療法的知識、作業療法支援、技能を臨床実習指導者の下で実践に移し、作業療法の評価・治療過程を学ぶとともに専門的技能を習得することを目的とします。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
基礎実習 （必修）	1年次後期 （1週間）	身体、発達、高齢、精神障害に関連する各施設	見学、各領域の理解
体験実習 （必修）	2年次前期 （1週間）	身体、発達、高齢、精神障害に関連する、いずれかの施設	医療従事者にふさわしい知識・技術・対応態度の習得
評価実習 （必修）	3年次後期 （6週間）	身体、発達、高齢、精神障害に関連する、いずれかの施設	作業療法評価および治療プログラム立案
地域実習 （必修）	4年次前期 （1週間）	通所リハビリテーションもしくは訪問リハビリテーションの施設	作業療法の実践場面を見学、業務の理解
総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ （必修）	4年次前期 （各8週間）	身体、発達、高齢、精神障害に関連する、いずれか2施設	作業療法プログラムの実施

・履修基準

（1）体験実習

第2年次前期に開講される「体験実習」を履修するためには、第1年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊解剖学Ⅰ　＊解剖学実習Ⅰ　＊解剖学Ⅱ　＊解剖学実習Ⅱ　＊解剖学Ⅲ
＊生理学Ⅰ　＊生理学実習Ⅰ　＊生理学Ⅱ　＊リハビリテーション概論

専門専攻科目群

＊作業療法学概論　＊基礎作業学　＊基礎作業学実習　＊基礎運動学
＊作業療法評価学概論　＊基礎実習

（2）評価実習

第3年次後期に開講される「評価実習」を履修するためには、「体験実習」の履修に必要な上記科目に加え、第3年次前期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊生理学実習Ⅱ　＊リハビリテーション医学　＊内科学Ⅰ　＊内科学Ⅱ
＊整形外科学Ⅰ　＊公衆衛生学　＊神経科学　＊整形外科学Ⅱ　＊精神医学
＊臨床精神医学　＊臨床神経学　＊臨床心理学　＊人間発達学

専門専攻科目群

＊運動学実習　＊身体障害作業療法評価学実習　＊精神障害作業療法評価学　＊運動学
＊発達障害作業療法評価学　＊体験実習　＊基礎作業治療学　＊高次脳機能障害評価学
＊高齢期障害作業療法評価学　＊日常生活活動学　＊身体障害作業療法評価学
＊身体障害作業療法学Ⅰ　＊身体障害作業療法学Ⅱ　＊身体障害作業療法学Ⅲ
＊高齢期障害作業療法学　＊精神障害作業療法学　＊地域作業療法学Ⅰ
＊発達障害作業療法学　＊日常生活活動学実習Ⅰ　＊研究方法論　＊作業療法管理学

（3）総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ・地域実習

第4年次に開講される「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」、「地域実習」を履修するためには、「評価実習」の履修に必要な上記科目に加え、第3年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊身体障害作業療法学演習Ⅰ　＊身体障害作業療法学演習Ⅱ　＊高次脳機能障害作業療法学
＊高齢期障害作業療法学演習　＊精神障害作業療法学演習　＊日常生活活動学実習Ⅱ
＊地域作業療法学Ⅱ　＊評価実習　＊地域実習　＊研究方法論演習

・専門専攻科目群の選択科目に関して

大学等の作業療法士養成校で専任教員になるには、要件の1つとして「教育に関する科目」を合計4単位以上履修しておく必要があります。将来の選択肢を増やしたい場合は、「教育学」「教育心理学」「教育方法論」「教育評価」の履修が望ましいです。

取得できる資格と免許

■ 作業療法士国家試験受験資格　…卒業により取得可

作業療法士は、「身体または精神に障害のある者に対し、その主体的な生活の獲得を図るため、作業活動を用いて、治療・指導および援助（日本作業療法士協会、1985年）」を行います。作業活動には私たちが日頃行うさまざまな活動が含まれます。

活躍の場　作業療法士は、医療機関だけでなく、地域の保健・福祉の領域でも働いており、疾病や機能障害の急性期・回復期・維持期を通して対象者と関わります。また、身体障害だけでなく精神障害や発達障害、高齢者の障害なども対象としており、今後は特殊支援学級教育、健康な高齢者の障害予防における活躍も期待されています。

作業療法士国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣が指定した学校または厚生労働大臣が指定した作業療法士養成施設において、3年以上作業療法士として必要な知識および技能を修得しなければなりません。

作業療法学科は、文部科学大臣より作業療法士学校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、作業療法士国家試験の受験資格が得られます。

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第２（作業療法士課程）												
						基礎分野			専門基礎分野			専門分野						計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学	臨床実習	
										12	14	4	5	2	5	19	4	22	
			必修	選択			14			30			57						101
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30	必修6単位を含む7単位以上を履修			①										7
	情報処理Ⅰ	1前	1		30			①											
	情報処理Ⅱ	1後	1		30			①											
	情報処理Ⅲ	2前		1	30			①											
	英語Ⅰ	1前	1		30			①											
	英語Ⅱ	1後	1		30			①											
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前		1	30		①												
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後		1	30		①												
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4前・後		1	30		①												
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30			①											
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30			①											
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30			①											
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30			①											
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30			①											
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30			①											
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30			①											
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30			①											
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15			①											
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15			①											
	スポーツ・健康	1前・後	1		30			①											
	スポーツ・実践	2・3・4前・後		1	30			①											
	哲学	1前		1	15			①											
	倫理学	1後		1	15			①											
	ジェンダー論	1前		1	15				①										
	科学論	1後		1	15		①												
	情報科学	1後		1	15		①												
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30		①												
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30		①												
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30		①												
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30		①												
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30		①												
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30		①												
小計						7	6			0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
							選択科目　1単位												

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容						別表第２（作業療法士課程）												
						基礎分野			専門基礎分野			専門分野						計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学	臨床実習	
			必修	選択														
						14			30			57						101
									12	14	4	5	2	5	19	4	22	
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	1前		1	15			①										7
	コミュニケーション学入門	1前		1	15			①										
	対人コミュニケーション論	1後		1	15			①										
	心理学の世界	1後		1	15		①											
	人間を知る	1前		1	15		①											
	命の倫理	1後		1	15		①											
	ＱＯＬの世界	1後		1	15		①											
	こどもの世界	1後		1	15		①											
	アスリートの世界	1後		1	15		①											
	臨床医の世界	1後		1	15		①											
	加齢と身体	1後		1	15		①											
	食を楽しむ	1前		1	15		①											
	眼の神秘	1前		1	15		①											
	義肢装具の世界	1前		1	15		①											
	新潟学	1後		1	15			①										
	国際保健の世界	1後		1	15			①										
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1	15			①										
	現代社会と経済	1前		1	15			①										
	法学Ⅰ	1前・後		1	15			①										
	法学Ⅱ	1前・後		1	15	必修2単位を含む		①										
	臨床の哲学	1前		1	15		①											
	臨床技術の世界	1前		1	15	7単位以上を履修		①										
	留学の魅力	1後		1	15													
	シティズンシップ教育入門	1後		1	15	①	①											
	放射線の基礎と人体への影響	1前		1	15		①											
	新潟水俣病の理解	1前		1	15		①											
	一次救命処置法	1前		1	15		①											
	東洋医学的養生	1前		1	15	①												
	自然人類学概論	1後		1	15		①											
	データサイエンス概論	1後		1	30	①												
	アスリートサポートの世界	1後		1	15			①										
	比較認知科学の世界	1前		1	15	①												
	アカデミック・ライティング	1後		1	15	①												
保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	2後	1		30	ただし、保健医療福祉連携学、地域連携学、連携総合ゼミの中から1単位以上を履修					①							7
	チームアプローチ入門	1後	1		15						①							
	保健医療福祉連携学	2・3前		1	15						①							
	地域連携学	3前		1	15						①							
	連携総合ゼミ	3後・4前		1	30						①							
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30			①										
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30			①										
	国際交流演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30			①										
	国際交流演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30			①										
小計					7	0			0	0	2 選1	0	0	0	0	0	0	7
						選択科目 4単位												

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第２（作業療法士課程）												
						基礎分野			専門基礎分野			専門分野						
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学	臨床実習	計
			必修	選択					12	14	4	5	2	5	19	4	22	
						14			30			57						101
専門基礎科目群	解剖学Ⅰ	1前	3		15				③									
	解剖学実習Ⅰ	1前	1		30				①									
	解剖学Ⅱ	1後	2		15				②									
	解剖学実習Ⅱ	1後	1		30				①									
	解剖学Ⅲ	1後	2		15				②									
	生理学Ⅰ	1前	2		15				②									
	生理学実習Ⅰ	1後	1		30				①									
	生理学Ⅱ	1後	1		15				①									
	生理学実習Ⅱ	2前	1		30				①									
	リハビリテーション概論	1後	2		15						②							
	リハビリテーション医学	2前	2		15					②								
	人間発達学	2前	1		15				①									38
	小児科学	2前	1		15					①								
	内科学Ⅰ	2前	2		15					②								
	内科学Ⅱ	2後	2		15					②								
	整形外科学Ⅰ	2前	2		15					②								
	整形外科学Ⅱ	2後	2		15					②								
	公衆衛生学	2前	1		15					①								
	精神医学	2前	2		15					②								
	臨床精神医学	2後	1		15					①								
	神経科学	2前	2		15					②								
	臨床神経学	2後	2		15					②								
	臨床心理学	2後	2		15					②								
	小計					0			15	21	2	0	0	0	0	0	0	38

履修方法及び卒業要件：必修38単位を履修

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第２（作業療法士課程）												
						基礎分野			専門基礎分野			専門分野						計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学	臨床実習	
			必修	選択		12	14	4	5	2	5	19	4	22				
						14			30			57						101
専門専攻科目群	作業療法学概論	1前	1		15							①						
	基礎作業学	1前	1		15							①						
	基礎作業学実習	1前	1		30							①						
	基礎運動学	1後	2		15							②						
	運動学	2前	2		15							②						
	運動学実習	2後	2		30							②						
	作業療法管理学	3前	2		15								②					
	作業療法評価学概論	1後	2		15									②				
	身体障害作業療法評価学	2前	2		15									②				
	身体障害作業療法評価学実習	2前	2		30									②				
	精神障害作業療法評価学	2後	2		15									②				
	発達障害作業療法評価学	2後	1		15									①				
	高次脳機能障害評価学	3前	2		15									②				
	高齢期障害作業療法評価学	2後	1		15									①				
	基礎作業治療学	2前	2		15										②			
	身体障害作業療法学Ⅰ	3前	2		15										②			
	身体障害作業療法学Ⅱ	3前	2		15										②			
	身体障害作業療法学Ⅲ	3前	2		15										②			
	身体障害作業療法学演習Ⅰ	3後	1		30										①			
	身体障害作業療法学演習Ⅱ	3後	1		30										①			
	高次脳機能障害作業療法学	3後	1		15										①			77
	高齢期障害作業療法学	3前	2		15										②			
	高齢期障害作業療法学演習	3後	1		30	必修77単位を含む77単位以上を履修									①			
	精神障害作業療法学	3前	2		15										②			
	精神障害作業療法学演習	3後	1		30										①			
	発達障害作業療法学	3前	2		15										②			
	日常生活活動学	2前	2		15										②			
	日常生活活動学実習Ⅰ	2後	2		30										②			
	日常生活活動学実習Ⅱ	3後	1		30										①			
	地域作業療法学Ⅰ	3前	2		15											②		
	地域作業療法学Ⅱ	3後	2		15											②		
	手と脳	3前		2	15										②			
	基礎実習	1後	1		45												①	
	体験実習	2後	1		45												①	
	評価実習	3後	6		45												⑥	
	地域実習	4前	1		45												①	
	総合臨床実習Ⅰ	4前	8		45												⑧	
	総合臨床実習Ⅱ	4前	8		45												⑧	
	研究方法論	3前	1		30	①												
	研究方法論演習	3後	1		30	①												
	卒業研究	4後	2		30	②												
	教育学	1・2・3・4後		1	15													
	教育心理学	1・2・3・4後		1	15													
	教育方法論	1・2・3・4後		1	15													–
	教育評価	1・2・3・4後		1	15													
	小計					4			0	0	0	9	2	12	24	4	25	80
卒業要件単位数（最低単位数）					129	10			15	21	4	9	2	12	24	4	25	132
						選択 4単位												
						選択科目 2単位												
指定規則に対する増単位数						0～2（※）			3	7	0～2（※）	4	0	7	5	0	3	31

※　保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群における
選択科目の履修により、指定規則に対する増単位数は０～２単位の幅が生じる。

言語聴覚学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を５項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の３つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	言語聴覚障がいのある人を理解するために必要な高い専門性を持ち、言語聴覚士としての高度な技能を活用できる。	１年次は幅広い教養を身につけるとともに保健医療福祉に関連する科目を配置する。また、２年、３年に配置した専門専攻科目を学修する上で必要な基礎科目も配置する。また、２年次、３年次には臨床に必要な専門基礎科目と専門専攻科目を配置する。成果は各科目の成績で評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	保健医療福祉分野の多くの職種とコミュニケーションをとりながら、横断的・融合的にチームアプローチを実践できる。	１年次は大学生活をスムーズにスタートさせるとともにチームワークを学ぶ手段として少人数による基礎ゼミを配置する。２年次には他学科の学生と共に学ぶ連携基礎ゼミに加え、学科の専門性をより高めた少人数によるゼミ形式の科目を設置する。これらの中で対話する力、考えを伝える方法を習得する。成果は成果物の発表と成績で評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	対象者との対話を通して文化的背景を理解し、QOLの向上を図るために専門的知識と技能を活用していく。対象者が異なる意見を持っていたとしても寛容的な視点と高い倫理観を持って支援していくことができる。	言語聴覚障がい児・者との対話を通して、対象者がかかえる問題点に気づく力を養うために２年次から臨床実習を配置する。また、対象児・者の問題を社会的な視点から支援する方法を習得するために３年次には実践的な演習科目を配置する。成果は臨床実習で評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	専門的知識・技能を積極的に用いて情報収集を行い、対象者が抱える問題点を明確にして科学的な解決に努めることができる。	専門基礎科目や専門専攻科目で学んだ知識を活用し、言語聴覚障がい児・者がかかえる問題がどのような原因で生じたのかを解明する手法を学ぶため、さらには問題点を解決する手がかりを得る技能を習得するために卒業研究ゼミを配置する。成果は卒業研究で評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	生涯にわたって高い専門性を維持するための努力を怠らず、かつ一般教養的知識を培い、人間性を磨き上げていくことができる。	臨床場面で実際に経験することの大切さを学び、自分なりの言語聴覚士のイメージを確立するために、専門的な学びが本格化する２年生から毎年臨床実習を配置する。特に関心を持った専門分野に関する学びの集大成として、また、卒業後も高い専門性を維持するために必要となる自ら学んでいく姿勢を身につけるために卒業研究を配置する。成果は臨床実習と卒業研究で評価する。

カリキュラム表

言語聴覚学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数： 7単位以上

言語聴覚学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	選択	自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
	小計②					0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期	1			15	
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	1単位以上選択し修得すること ※選択必修
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
	小計③					2	7	0	225	
保健医療福祉科目計 (②＋③)						2	40	0	735	卒業要件単位数： 7単位以上
全学科共通科目計Ⓐ (①＋②＋③)						8	66	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

言語聴覚学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	選択	自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門基礎科目群	解剖学	200025	1	前期	2			30	
		解剖学実習	200030	1	後期	1			30	
		生理学	200055	1	前期	2			30	
		生理学実習	200060	1	後期	1			30	
		内科学Ⅰ	200090	2	前期	2			30	
		内科学Ⅱ	200095	2	後期	2			30	
		小児科学	200150	2	前期	1			15	
		精神医学	200070	2	前期	2			30	
		耳鼻咽喉科学	230000	2	後期	2			30	
		臨床神経学	200125	2	後期	2			30	
		リハビリテーション医学	200140	2	前期	2			30	
		公衆衛生学	200085	2	前期	1			15	
		臨床歯科医学	230005	2	前期a	1			15	
		口腔外科学・形成外科学	230010	2	前期b	1			15	
		呼吸系構造・機能・病態	230015	2	前期a	1			15	
		聴覚系構造・機能・病態	200120	2	前期b	1			15	
		神経科学	200110	2	前期	2			30	
		発達心理学	230020	1	前期	2			30	
		臨床心理学	200105	1	後期	2			30	
		学習・認知心理学	200115	2	後期	2			30	
		心理測定法	230025	1	後期	1			15	
		保健統計学	200145	3	前期	2			30	
		言語学	230030	1	後期	2			30	
		音声学	230035	1	後期	2			30	
		音響学	230040	1	前期a	1			15	
		聴覚心理学	230045	1	前期b	1			15	
		言語発達学	230050	1	後期	1			15	
		社会保障論	230055	1	後期	2			30	
		リハビリテーション概論	200135	1	後期	2			30	
		小計④				46	0	0	720	卒業要件単位数： ４６単位以上

言語聴覚学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	言語聴覚障害概論	230060	1	前期	2			30	
		言語聴覚障害診断学	230065	2	後期	2			30	
		言語聴覚障害診断学演習Ⅰ	230070	3	後期	1			30	
		言語聴覚障害診断学演習Ⅱ	230075	4	前期	1			30	
		成人言語障害学Ⅰ	230080	2	前期	2			30	
		成人言語障害学Ⅱ	230085	3	前期	2			30	
		成人言語障害学演習Ⅰ	230090	2	後期	1			30	
		成人言語障害学演習Ⅱ	230095	3	前期	1			30	
		高次脳機能障害学	200175	3	前期	1			15	
		高次脳機能障害学演習	230100	3	前期	1			30	
		小児言語障害学Ⅰ	230105	2	前期	2			30	
		小児言語障害学Ⅱ	230110	2	後期	2			30	
		小児言語障害学Ⅲ	230115	3	前期	2			30	
		小児言語障害学演習	230120	3	前期	1			30	
		小児発声発語障害学Ⅰ	230125	2	前期	2			30	
		小児発声発語障害学Ⅱ	230130	2	前期	2			30	
		小児発声発語障害学演習	230135	2	後期	1			30	
		成人発声発語障害学Ⅰ	230140	2	後期	2			30	
		成人発声発語障害学Ⅱ	230145	3	前期	2			30	
		成人発声発語障害学Ⅲ	230150	3	前期	2			30	
		成人発声発語障害学演習	230155	3	前期	1			30	
		摂食・嚥下障害学	230160	2	後期	2			30	
		摂食・嚥下障害学演習	230165	3	前期	1			30	
		聴覚障害Ⅰ	230170	2	前期	2			30	
		聴覚障害Ⅰ演習	230175	2	後期	1			30	
		聴覚障害Ⅱ	230180	2	後期	2			30	
		聴覚障害Ⅱ演習	230185	3	前期	1			30	
		聴覚障害Ⅲ	230190	2	後期	1			15	
		聴覚障害Ⅲ演習	230195	3	前期	1			30	
		臨床実習Ⅰ	230200	2	前期	1			45	
		臨床実習Ⅱ	230205	3	後期	3			135	
		臨床実習Ⅲ	230210	4	前期	8			360	
		言語聴覚障害学基礎特講Ⅰ	230260	3	後期		2		60	４単位以上選択し修得すること ※選択必修
		言語聴覚障害学基礎特講Ⅱ	230265	3	後期		2		60	
		言語聴覚障害学基礎特講Ⅲ	230270	3	後期		2		60	
		言語聴覚障害学応用特講Ⅰ	230275	4	前期		2		60	
		言語聴覚障害学応用特講Ⅱ	230280	4	前期		2		60	
		言語聴覚障害学応用特講Ⅲ	230285	4	前期		2		60	
		研究方法論	230245	3	後期	2			60	
		研究方法論演習	230250	4	前期	1			30	
		卒業研究	230255	4	後期	1			30	
	小計⑤					60	12	0	1,860	卒業要件単位数：　６４単位以上
専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)						106	12	0	2,580	卒業要件単位数：１１０単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						114	78	0	4,170	卒業要件：４年以上在学し、 かつ１２４単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：言語聴覚士

・学外実習

言語聴覚士の養成教育は、学内での講義による知識と技術ならびに人間理解の方法の修得、実習室における技術と態度の修練、および臨床実習によって構成されます。臨床実習では、コミュニケーションや摂食嚥下に障害をもつ人に接する場合の具体的態度を学び、かつ実践し、言語聴覚士となるための資質を磨くことを目的とします。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
臨床実習Ⅰ （必修）	2年次前期 （1週間）	保健、医療、福祉機関等	見　学
臨床実習Ⅱ （必修）	3年次後期 （3週間）	保健、医療、福祉機関等	評　価 （配属実習）
臨床実習Ⅲ （必修）	4年次前期 （8週間）	主に医療機関	総　合 （配属実習）

・履修基準

（1）臨床実習Ⅱ

第3年次に開講される「臨床実習Ⅱ」を履修するためには、第3年次前期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊解剖学　＊解剖学実習　＊生理学　＊生理学実習　＊内科学Ⅰ　＊内科学Ⅱ
＊小児科学　＊精神医学　＊耳鼻咽喉科学　＊臨床神経学　＊公衆衛生学
＊リハビリテーション概論　＊リハビリテーション医学　＊臨床歯科医学
＊口腔外科学・形成外科学　＊呼吸系構造・機能・病態　＊聴覚系構造・機能・病態
＊神経科学　＊発達心理学　＊臨床心理学　＊学習・認知心理学　＊心理測定法
＊保健統計学　＊言語学　＊音声学　＊音響学　＊聴覚心理学　＊言語発達学
＊社会保障論

専門専攻科目群

＊言語聴覚障害概論　＊言語聴覚障害診断学　＊成人言語障害学Ⅰ　＊成人言語障害学Ⅱ
＊成人言語障害学演習Ⅰ　＊成人言語障害学演習Ⅱ　＊高次脳機能障害学
＊高次脳機能障害学演習　＊小児言語障害学Ⅰ　＊小児言語障害学Ⅱ
＊小児言語障害学Ⅲ　＊小児言語障害学演習　＊小児発声発語障害学Ⅰ
＊小児発声発語障害学Ⅱ　＊小児発声発語障害学演習　＊成人発声発語障害学Ⅰ
＊成人発声発語障害学Ⅱ　＊成人発声発語障害学Ⅲ　＊成人発声発語障害学演習
＊摂食・嚥下障害学　＊摂食・嚥下障害学演習　＊聴覚障害Ⅰ　＊聴覚障害Ⅰ演習
＊聴覚障害Ⅱ　＊聴覚障害Ⅱ演習　＊聴覚障害Ⅲ　＊聴覚障害Ⅲ演習　＊臨床実習Ⅰ

（2）臨床実習Ⅲ

第4年次に開講される「臨床実習Ⅲ」を履修するためには、第3年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊臨床実習Ⅱ

取得できる資格と免許

■ 言語聴覚士国家試験受験資格　　…卒業により取得可

言語聴覚士は、聞こえや言語の障害によりことばに問題が生じた人や、食べ物を飲み込むとむせてしまう摂食嚥下障害を有する人に対し評価を行い、その機能の獲得や回復、維持の訓練を行います。

活躍の場　言語聴覚士の活躍が期待される場として、リハビリテーション科を中心とした病院、老人保健施設、福祉行政機関、障害児療育施設などがあります。言語聴覚士の援助を必要とする人は多く、今後、ますます活躍の場が広がると期待されています。

言語聴覚士国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣が指定した学校または厚生労働大臣が指定した言語聴覚士養成所において、３年以上言語聴覚士として必要な知識および技能を修得しなければなりません。

言語聴覚学科は、文部科学大臣より言語聴覚士学校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、言語聴覚士国家試験の受験資格が得られます。

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表第一（言語聴覚士課程） 基礎分野 人文科学	社会科学	自然科学	外国語	保健体育	専門基礎分野 基礎医学	臨床医学	臨床歯科医学	音声・言語・聴覚医学	心理学	言語学	音声学	音響学	言語発達学	社会福祉・教育	専門分野 言語聴覚障害学総論	失語・高次脳機能障害学	言語発達障害学	発声発語・嚥下障害学	聴覚障害学	臨床実習	選択必修分野	計
												3	6	1	3	7	2	2	2	1	2	4	6	6	9	7	12		
							12					29										44						8	93
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30	必修6単位を含む7単位以上を履修	①																						7
	情報処理Ⅰ	1前	1		30				①																				
	情報処理Ⅱ	1後	1		30				①																				
	情報処理Ⅲ	2前		1	30				①																				
	英語Ⅰ	1前	1		30					①																			
	英語Ⅱ	1後	1		30					①																			
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前		1	30					①																			
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後		1	30					①																			
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4前・後		1	30					①																			
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30					①																			
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30					①																			
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30					①																			
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30					①																			
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30					①																			
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30					①																			
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30					①																			
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30					①																			
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15		①																						
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15		①																						
	スポーツ・健康	1前・後	1		30						①																		
	スポーツ・実践	2・3・4前・後		1	30						①																		
	哲学	1前		1	15		①																						
	倫理学	1後		1	15		①																						
	ジェンダー論	1前		1	15		①																						
	科学論	1後		1	15				①																				
	情報科学	1後		1	15				①																				
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30				①																				
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30				①																				
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30				①																				
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30				①																				
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30				①																				
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30				①																				
	小計					7	6 選択科目 1単位					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表第一（言語聴覚士課程） 基礎分野 人文科学	社会科学	自然科学	外国語	保健体育	専門基礎分野 基礎医学	臨床医学	臨床歯科医学	音声・言語・聴覚医学	心理学	言語学	音声学	音響学	言語発達学	社会福祉・教育	専門分野 言語聴覚障害学総論	失語・高次脳機能障害学	言語発達障害学	発声発語・嚥下障害学	聴覚障害学	臨床実習	選択必修分野	計
												3	6	1	3	7	2	2	2	1	2	4	6	6	9	7	12		
							12					29										44						8	93
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	1前		1	15	必修2単位を含む7単位以上を履修		①																				
	コミュニケーション学入門	1前		1	15		①																					
	対人コミュニケーション論	1後		1	15		①																					
	心理学の世界	1後		1	15		①																					
	人間を知る	1前		1	15		①																					
	命の倫理	1後		1	15				①																			
	ＱＯＬの世界	1後		1	15			①																				
	こどもの世界	1後		1	15		①																					
	アスリートの世界	1後		1	15				①																			
	臨床医の世界	1後		1	15				①																			
	加齢と身体	1後		1	15				①																			
	食を楽しむ	1前		1	15				①																			
	眼の神秘	1前		1	15				①																			
	義肢装具の世界	1前		1	15				①																			
	新潟学	1後		1	15			①																				
	国際保健の世界	1後		1	15			①																				
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1	15			①																				
	現代社会と経済	1前		1	15			①																				
	法学Ⅰ	1前・後		1	15			①																				
	法学Ⅱ	1前・後		1	15			①																				
	臨床の哲学	1前		1	15		①																					7
	臨床技術の世界	1前		1	15				①																			
	留学の魅力	1後		1	15			①																				
	シティズンズシップ教育入門	1後		1	15			①																				
	放射線の基礎と人体への影響	1前		1	15				①																			
	新潟水俣病の理解	1前		1	15			①																				
	一次救命処置法	1前		1	15				①																			
	東洋医学的養生	1前		1	15				①																			
	自然人類学概論	1後		1	15				①																			
	データサイエンス概論	1後		1	30				①																			
	アスリートサポートの世界	1後		1	15				①																			
	比較認知科学の世界	1前		1	15		①																					
	アカデミック・ライティング	1後		1	15				①																			
保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	2後	1		30	ただし、保健医療福祉連携学、地域連携学、連携総合ゼミの中から1単位以上を履修	①																					
	チームアプローチ入門	1後	1		15		①																					
	保健医療福祉連携学	2・3前		1	15			①																				
	地域連携学	3前		1	15			①																				
	連携総合ゼミ	3後・4前		1	30			①																				
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30			①																				
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30			①																				
	国際交流演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30			①																				
	国際交流演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30			①																				
	小計					7	2 選択科目 5単位					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7

| 教育課程＼指定規則の教育内容 | | | | | | | 別表第一（言語聴覚士課程） | | | | | | |

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表第一（言語聴覚士課程） 基礎分野 人文科学	社会科学	自然科学	外国語	保健体育	専門基礎分野 基礎医学	臨床医学	臨床歯科医学	音声・言語・聴覚医学	心理学	言語学	音声学	音響学	言語発達学	社会福祉・教育	専門分野 言語聴覚障害学総論	失語・高次脳機能障害学	言語発達障害学	発声発語・嚥下障害学	聴覚障害学	臨床実習	選択必修分野	計
												3	6	1	3	7	2	2	2	1	2	4	6	6	9	7	12		
							12					29										44						8	93
専門専攻科目群	言語聴覚障害概論	1前	2		15	必修60単位を含む64単位を履修																②							64
	言語聴覚障害診断学	2後	2		15																	②							
	言語聴覚障害診断学演習Ⅰ	3後	1		30																	①							
	言語聴覚障害診断学演習Ⅱ	4前	1		30																	①							
	成人言語障害学Ⅰ	2前	2		15																		②						
	成人言語障害学Ⅱ	3前	2		15																		②						
	成人言語障害学演習Ⅰ	2後	1		30																		①						
	成人言語障害学演習Ⅱ	3前	1		30																		①						
	高次脳機能障害学	3前	1		15																		①						
	高次脳機能障害学演習	3前	1		30																		①						
	小児言語障害学Ⅰ	2前	2		15																			②					
	小児言語障害学Ⅱ	2後	2		15																			②					
	小児言語障害学Ⅲ	3前	2		15																			②					
	小児言語障害学演習	3前	1		30																			①					
	小児発声発語障害学Ⅰ	2前	2		15																				②				
	小児発声発語障害学Ⅱ	2前	2		15																				②				
	小児発声発語障害学演習	2後	1		30																				①				
	成人発声発語障害学Ⅰ	2後	2		15																				②				
	成人発声発語障害学Ⅱ	3前	2		15																				②				
	成人発声発語障害学Ⅲ	3前	2		15																				②				
	成人発声発語障害学演習	3前	1		30																				①				
	摂食・嚥下障害学	2後	2		15																				②				
	摂食・嚥下障害学演習	3前	1		30																				①				
	聴覚障害Ⅰ	2前	2		15																					②			
	聴覚障害Ⅰ演習	2後	1		30																					①			
	聴覚障害Ⅱ	2後	2		15																					②			
	聴覚障害Ⅱ演習	3前	1		30																					①			
	聴覚障害Ⅲ	2後	1		15																					①			
	聴覚障害Ⅲ演習	3前	1		30																					①			
	臨床実習Ⅰ	2前	1		45																						①		
	臨床実習Ⅱ	3後	3		45																						③		
	臨床実習Ⅲ	4前	8		45																						⑧		
	言語聴覚障害学基礎特講Ⅰ	3後		2	30																							②	
	言語聴覚障害学基礎特講Ⅱ	3後		2	30																							②	
	言語聴覚障害学基礎特講Ⅲ	3後		2	30																							②	
	言語聴覚障害学応用特講Ⅰ	4前		2	30																							②	
	言語聴覚障害学応用特講Ⅱ	4前		2	30																							②	
	言語聴覚障害学応用特講Ⅲ	4前		2	30																							②	
	研究方法論	3後	2		30																							②	
	研究方法論演習	4前	1		30																							①	
	卒業研究	4後	1		30																							①	
	小計					64	0					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	8	7	15	8	12	4 選択4単位	64
卒業要件単位数（最低単位数）						124	8 選択科目 6単位					6	14	2	4	9	2	2	2	1	4	6	8	7	15	8	12	4 選択4単位	124
指定規則に対する増単位数							2					3	8	1	1	2	0	0	0	0	2	2	2	1	6	1	0	0	31

義肢装具自立支援学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	科学的根拠に基づいた義肢装具および福祉用具・機器等の知識と技術を有し活用できる。	1年次は義肢装具ならびに福祉用具・機器を客観的に分析する基礎科目を配置する。2年次から3年次にかけて、応用的基盤を構築するために、対象者を客観的に分析する方法について学ぶ科目を配置する。また、3年次から4年次にかけて、専門分野を客観的に分析探求するスキルを習得するために、卒業研究を配置する。成果は当該科目の成績および国家試験合格率により評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	多職種とのコミュニケーションを通して対象者の情報を収集し、かつICTを活用して情報を共有してチームワークを図ることができる。また多職種から得られた情報をもとに専門とする分野のアプローチを推進することができる。	1年次はチームワークとリーダシップの基礎的なスキルを構築するために、基礎ゼミを配置する。2年次は多職種を理解し連携を図る基礎を構築するために、全学的な連携基礎ゼミを配置する。2年次から4年次にかけて、義肢装具士としての役割やチーム医療を実践する一員としての位置付けを学ぶために臨床実習を配置する。成果は当該科目ならびに臨床実習の成績により評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	高い倫理観と責任感および寛容な人間性を持って対象者の人権の尊重と価値観に対応し、そのQOLを高めることができる。	1年次は対象者を支援する力を身に着けるための基本的な製作技術を習得する実習科目を配置する。2年次から3年次にかけて、実際の義肢装具ならびに福祉用具・機器使用者をモデルにした実習科目を配置する。4年次は特殊な対象者を想定した科目を配置する。成果は当該科目の成績により評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	対象者の抱えている問題に対し、多職種と連携・協働して情報を収集し、分析、対策を検討することによって問題を解決することができる。	2年次から3年次にかけて、対象者を客観的に分析するために実際の義肢装具ならびに福祉用具・機器使用者をモデルとした実習科目を配置する。また、2年次から4年次にかけて、実践的に問題解決の力を構築するために臨床実習を配置し、3年次から4年次にかけて卒業研究を配置する。成果は当該科目および臨床実習の成績により評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	グローバルな社会の変化に対応した教養を持ち、技術的進歩に関心を持ち、生涯を通じて自らの専門的知識と技術を高めることができる。	1年次は幅広い分野に関心を持つために、基礎・教養科目を配置する。また2年次から4年次にかけて、将来を見据えた自己実現に向け臨床現場での義肢装具ならびに福祉用具・機器の仕事、および関連職種について学ぶ臨床実習を配置する。また国際交流などの活動を通して海外の義肢装具および対象者の状況などについても学ぶ。成果は当該科目の成績ならびに国家試験合格率、国際レベルの資格取得状況により評価する。

カリキュラム表

義肢装具自立支援学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数：　7単位以上

義肢装具自立支援学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期	1			15	
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	１単位以上選択し修得すること ※選択必修
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				2	7	0	225	
	保健医療福祉科目計 （②＋③）					2	40	0	735	卒業要件単位数： ７単位以上
全学科共通科目計Ⓐ （①＋②＋③）						8	66	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

義肢装具自立支援学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	解剖学	200025	1	前期	2			30	
		解剖学演習	240000	1	後期	1			30	
		運動機能解剖学	240005	1	後期	2			30	
		生理学	200055	1	前期	2			30	
		運動学	200160	2	前期	2			30	
		基礎評価学演習	240271	2	後期	1			30	
		動作解析演習	240276	3	後期	1			30	
		リハビリテーション概論	200135	1	後期	2			30	
		リハビリテーション医学	200141	2	前期	1			15	
		整形外科学Ⅰ	200075	2	前期	2			30	
		整形外科学Ⅱ	200080	2	後期	2			30	
		公衆衛生学	200085	2	後期		1		15	
		人間発達学	200065	2	後期	1			15	
		内科学	200100	2	前期	2			30	
		臨床心理学	200105	2	後期	2			30	
		神経科学	200110	2	前期	2			30	
		臨床神経学	200125	2	後期	2			30	
		スポーツ医学	200130	4	後期		2		30	
		医療福祉専門職概論	240020	1	前期	1			15	
		基礎老年学	240025	2	後期	1			15	
		保健医療福祉関連法規	240030	2	後期	1			15	
		福祉ビジネス論	240035	4	後期		1		15	
		義肢装具力学	240280	1	前期	1			15	
		義肢装具力学演習	240285	1	前期	1			30	
		図学・製図学	240040	1	後期	1			15	
		材料学	240045	1	後期	2			30	
		材料力学	240050	2	前期	2			30	
		機械工学	240290	2	前期	1			15	
		人間工学概論	240295	2	後期	1			15	
		保健統計学	240300	3	前期	1			30	
		福祉工学概論	240065	4	後期	1			15	
		皮膚科学・形成外科学	240480	2	前期	1			15	
小計④						42	4	0	765	卒業要件単位数：　４２単位以上

義肢装具自立支援学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	義肢装具自立支援概論	240070	1	前期	2			30	
		基本工作論	240075	1	前期	1			15	
		基本工作実習Ⅰ	240080	1	前期	4			120	
		基本工作実習Ⅱ	240085	1	後期	4			120	
		義手学	240305	2	前期	1			15	
		義手学実習	240310	2	前期	2			60	
		下腿義足学	240315	2	後期	1			15	
		下腿義足学実習	240320	2	後期	4			120	
		大腿義足学	240325	3	前期	1			15	
		大腿義足学実習	240330	3	前期	4			120	
		特殊義肢学	240335	4	後期	1			15	
		体幹装具学	240340	2	前期	1			15	
		体幹装具学実習	240345	2	前期	4			120	
		下肢装具学	240350	3	前期	1			15	
		下肢装具学実習	240355	3	前期	4			120	
		上肢装具学	240360	3	後期	1			15	
		上肢装具学実習	240365	3	後期	2			60	
		特殊装具学	240370	4	後期	1			15	
		靴型装具学	240160	2	後期	1			15	
		靴型装具学実習	240165	2	後期	2			60	
		シーティング学	240375	3	後期	1			15	
		シーティング学実習	240380	3	後期	2			60	
		義肢装具評価学演習	240385	3	後期	1			30	
		義肢装具CAD製作適合学	240390	3	後期		1		30	
		義肢装具特別演習	240395	4	前期	1			30	
		義肢装具総合演習	240400	4	後期	1			30	
		福祉用具概論	240185	1	前期	2			30	
		福祉用具移動機器学	240405	1	後期	1			15	
		福祉用具移動機器学演習	240410	1	後期	1			30	
		福祉用具コミュニケーション機器学	240415	2	後期	1			15	
		福祉用具コミュニケーション機器学演習	240420	2	後期	1			30	
		福祉住環境学	240425	3	前期	1			15	
		福祉住環境学演習	240430	3	前期	1			30	
		福祉用具起居移乗関連学	240435	3	後期	1			15	
		福祉用具起居移乗関連学演習	240440	3	後期	1			30	
		福祉用具プランニング演習	240230	4	前期	1			30	
		福祉用具評価学演習	240445	3	後期	1			30	
		福祉ロボット支援学	240450	3	後期		1		30	
		臨床実習Ⅰ（施設見学）	240455	2	前期	1			45	
		臨床実習Ⅱ（関連施設）	240460	2	後期		4		180	
		臨床実習Ⅲ（福祉用具）	240465	3	後期	4			180	
		臨床実習Ⅳ（義肢装具）	240470	4	前期	6			270	
		卒業研究計画	240255	3	後期	1			30	
		卒業研究	240475	4	前期	1			30	
	小計⑤					73	6	0	2,310	卒業要件単位数：　７３単位以上
専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)						115	10	0	3,075	卒業要件単位数：１１５単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						123	76	0	4,665	卒業要件：４年以上在学し、かつ１２９単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：義肢装具士・福祉用具プランナー・福祉住環境コーディネーター２級／３級

・学外実習

臨床実習Ⅰでは、医療機関において医療従事者として義肢装具士に求められる基本事項を学びます。また、福祉用具・機器、義肢・装具に対するニーズや専門職としての役割について学びます。

臨床実習Ⅱでは、これまでに学んだ専門科目の基礎知識を基に興味を持つことのできた分野の義肢装具製作施設、福祉機器・用具関連施設で職業人としての意識を高めることを目的とします。

臨床実習Ⅲでは、現場における福祉用具・機器のニーズの把握と対応を実践的に行うことが目的です。また、対象者やその家族とのコミュニケーションの取り方など、実際的な能力を高めます。

臨床実習Ⅳでは、学内で習得した義肢および装具の適合・製作技能を臨床の場において確認し、さらにそれらを高めることを目的とします。加えて、医療専門職間に求められるコミュニケーションについて学ぶことも主たる目的の一つです。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
臨床実習Ⅰ （必修）	２年次前期 （１週間）	医療機関、義肢装具製作企業、福祉用具開発・製造企業、ほか	見　学
臨床実習Ⅱ （選択）	２年次後期 （４週間）	福祉用具レンタル事業者、車いす・シーティング等製作企業、義肢装具製作施設、医療機関、ほか	業務見学および事業内容の把握
臨床実習Ⅲ （必修）	３年次後期 （４週間）	福祉用具レンタル事業者、車いす・シーティング等製作企業、ほか	対象者評価、福祉用具・機器の製作、および適合見学
臨床実習Ⅳ （必修）	４年次前期 （６週間）	義肢装具製作企業、医療機関	義肢／装具の製作と適合見学

・履修基準

（１）臨床実習Ⅱ（関連施設）　※選択科目

第２年次に開講される「臨床実習Ⅱ（関連施設）」を履修するためには、第１年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊解剖学　＊解剖学演習　＊運動機能解剖学　＊生理学　＊リハビリテーション概論
＊医療医福祉専門職概論　＊義肢装具力学　＊義肢装具力学演習　＊図学・製図学
＊材料学

専門専攻科目群

＊義肢装具自立支援概論　＊基本工作論　＊基本工作実習Ⅰ　＊基本工作実習Ⅱ
＊福祉用具概論　＊福祉用具移動機器学　＊福祉用具移動機器学演習

（２）臨床実習Ⅲ（福祉用具）

第３年次に開講される「臨床実習Ⅲ（福祉用具）」を履修するためには、第２年次後期までに開

講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊解剖学　＊解剖学演習　＊運動機能解剖学　＊生理学　＊運動学
＊基礎評価学演習　＊リハビリテーション概論　＊リハビリテーション医学
＊整形外科学Ⅰ　＊整形外科学Ⅱ　＊人間発達学　＊内科学　＊臨床心理学
＊神経科学　＊臨床神経学　＊医療福祉専門職概論　＊基礎老年学
＊保健医療福祉関連法規　＊義肢装具力学　＊義肢装具力学演習　＊図学・製図学
＊材料学　＊材料力学　＊機械工学　＊人間工学概論　＊皮膚科学・形成外科学

専門専攻科目群

＊義肢装具自立支援概論　＊基本工作論　＊基本工作実習Ⅰ　＊基本工作実習Ⅱ
＊義手学　＊義手学実習　＊下腿義足学　＊下腿義足学実習　＊体幹装具学
＊体幹装具学実習　＊靴型装具学　＊靴型装具学実習　＊福祉用具概論
＊福祉用具移動機器学　＊福祉用具移動機器学演習　＊福祉用具コミュニケーション機器学
＊福祉用具コミュニケーション機器学演習　＊臨床実習Ⅰ（施設見学）

（3）臨床実習Ⅳ（義肢装具）

第4年次に開講される「臨床実習Ⅳ（義肢装具）」を履修するためには、第3年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊動作解析演習　＊保健統計学

専門専攻科目群

＊大腿義足学　＊大腿義足学実習　＊下肢装具学　＊下肢装具学実習　＊上肢装具学
＊上肢装具学実習　＊シーティング学　＊シーティング学実習　＊義肢装具評価学演習
＊福祉住環境学　＊福祉住環境学演習　＊福祉用具起居移乗関連学
＊福祉用具起居移乗関連学演習　＊福祉用具評価学演習　＊臨床実習Ⅲ（福祉用具）
＊卒業研究計画

取得できる資格と免許

■ 義肢装具士国家試験受験資格　…卒業により取得可

義肢装具士は、厚生労働大臣の免許を受け、医師の処方に基づいて義肢および装具の装着部位の採寸・採型、製作および身体への適合を行います。

活躍の場　義肢装具製作企業、義肢装具パーツメーカー、リハビリテーションセンターなどの医療機関があります。さらに開発途上国で国際協力に携わるなど、活躍の場が広がっています。

義肢装具士国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣が指定した学校または厚生労働大臣が指定した義肢装具士養成所において、3年以上義肢装具士として必要な知識および技能を修得しなければなりません。

義肢装具自立支援学科は、文部科学大臣より義肢装具士学校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、義肢装具士国家試験の受験資格が得られます。

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（義肢装具士課程）										
						基礎分野		専門基礎分野				専門分野					計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	義肢装具領域における工学	基礎義肢装具学	義肢学	装具学	福祉用具学	臨床実習	
									13	9	4	10	17	8	12	3	10	
			必修	選択			14		36				50					100
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30	必修6単位を含む7単位を履修	①	①										7
	情報処理Ⅰ	1前	1		30		①	①										
	情報処理Ⅱ	1後	1		30		①	①										
	情報処理Ⅲ	2前		1	30		①	①										
	英語Ⅰ	1前	1		30		①	①										
	英語Ⅱ	1後	1		30		①	①										
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前		1	30		①	①										
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後		1	30		①	①										
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4前・後		1	30		①	①										
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30		①	①										
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30		①	①										
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30		①	①										
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30		①	①										
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30		①	①										
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30		①	①										
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30		①	①										
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30		①	①										
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15		①	①										
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15		①	①										
	スポーツ・健康	1前・後	1		30		①	①										
	スポーツ・実践	2・3・4前・後		1	30		①	①										
	哲学	1前		1	15			①										
	倫理学	1後		1	15			①										
	ジェンダー論	1前		1	15			①										
	科学論	1後		1	15		①											
	情報科学	1後		1	15		①											
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30		①											
	小計					7	6 選択 1単位		0	0	0	0	0	0	0	0	0	7

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（義肢装具士課程）											
						基礎分野		専門基礎分野				専門分野					計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	義肢装具領域における工学	基礎義肢装具学	義肢学	装具学	福祉用具学	臨床実習	
			必修	選択			14		13	9	4	10	17	8	12	3	10	100
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	1前		1	15	必修2単位を含む7単位以上を履修	①	①										7
	コミュニケーション学入門	1前		1	15		①	①										
	対人コミュニケーション論	1後		1	15		①	①										
	心理学の世界	1後		1	15		①	①										
	人間を知る	1前		1	15		①	①										
	命の倫理	1後		1	15		①	①										
	ＱＯＬの世界	1後		1	15		①	①										
	こどもの世界	1後		1	15		①	①										
	アスリートの世界	1後		1	15		①	①										
	臨床医の世界	1後		1	15		①	①										
	加齢と身体	1後		1	15		①	①										
	食を楽しむ	1前		1	15		①	①										
	眼の神秘	1前		1	15		①	①										
	義肢装具の世界	1前		1	15		①	①										
	新潟学	1後		1	15		①	①										
	国際保健の世界	1後		1	15		①	①										
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1	15		①	①										
	現代社会と経済	1前		1	15		①	①										
	法学Ⅰ	1前・後		1	15		①	①										
	法学Ⅱ	1前・後		1	15		①	①										
	臨床の哲学	1前		1	15		①	①										
	臨床技術の世界	1前		1	15		①	①										
	留学の魅力	1後		1	15		①	①										
	シティズンシップ教育入門	1後		1	15		①	①										
	放射線の基礎と人体への影響	1前		1	15		①	①										
	新潟水俣病の理解	1前		1	15		①	①										
	一次救命処置法	1前		1	15		①	①										
	東洋医学的養生	1前		1	15		①	①										
	自然人類学概論	1後		1	15		①	①										
	データサイエンス概論	1後		1	30		①	①										
	アスリートサポートの世界	1後		1	15		①	①										
	比較認知科学の世界	1前		1	15		①	①										
	アカデミック・ライティング	1後		1	15		①											
保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	2後	1		30	ただし、保健医療福祉連携学、地域連携学、連携総合ゼミの中から1単位以上を履修	①	①										
	チームアプローチ入門	1後	1		15		①	①										
	保健医療福祉連携学	2・3前		1	15		①	①										
	地域連携学	3前		1	15		①	①										
	連携総合ゼミ	3後・4前		1	30		①	①										
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30		①	①										
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30		①	①										
	国際交流演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30		①	①										
	国際交流演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30		①	①										
小計						7	2 選択 5単位		0	0	0	0	0	0	0	0	0	7

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（義肢装具士課程）											
						基礎分野		専門基礎分野				専門分野					計
						科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	義肢装具領域における工学	基礎義肢装具学	義肢学	装具学	福祉用具学	臨床実習	
								13	9	4	10	17	8	12	3	10	
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件											
			必修	選択			14			36				50			100
専門基礎科目群	解剖学	1前	2		15	必修42単位を履修		②									42
	解剖学演習	1後	1		30			①									
	運動機能解剖学	1後	2		15			②									
	生理学	1前	2		15			②									
	運動学	2前	2		15			②									
	基礎評価学演習	2後	1		30			①									
	動作解析演習	3後	1		30			①									
	リハビリテーション概論	1後	2		15					②							
	リハビリテーション医学	2前	1		15					①							
	整形外科学Ⅰ	2前	2		15				②								
	整形外科学Ⅱ	2後	2		15				②								
	公衆衛生学	2後		1	15				①								
	人間発達学	2後	1		15			①									
	内科学	2前	2		15			②									
	臨床心理学	2後	2		15			②									
	神経科学	2前	2		15				②								
	臨床神経学	2後	2		15				②								
	スポーツ医学	4後		2	15				②								
	医療福祉専門職概論	1前	1		15					①							
	基礎老年学	2後	1		15			①									
	保健医療福祉関連法規	2後	1		15					①							
	福祉ビジネス論	4後		1	15					①							
	義肢装具力学	1前	1		15						①						
	義肢装具力学演習	1前	1		30						①						
	図学・製図学	1後	1		15						①						
	材料学	1後	2		15						②						
	材料力学	2前	2		15						②						
	機械工学	2前	1		15						①						
	人間工学概論	2後	1		15						①						
	保健統計学	3前	1		30					①							
	福祉工学概論	4後	1		15						①						
	皮膚科学･形成外科学	2前	1		15				①								
小計						42	0	17	9	6	10	0	0	0	0	0	42

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容						別表第１（義肢装具士課程）											
						基礎分野		専門基礎分野				専門分野					計
						科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	義肢装具領域における工学	基礎義肢装具学	義肢学	装具学	福祉用具学	臨床実習	
								13	9	4	10	17	8	12	3	10	
区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件											
							14			36				50			100
専門専攻科目群	義肢装具自立支援概論	1前	2		15	必修73単位を履修						②					73
	基本工作論	1前	1		15							①					
	基本工作実習Ⅰ	1前	4		30							④					
	基本工作実習Ⅱ	1後	4		30							④					
	義手学	2前	1		15								①				
	義手学実習	2前	2		30								②				
	下腿義足学	2後	1		15								①				
	下腿義足学実習	2後	4		30								④				
	大腿義足学	3前	1		15								①				
	大腿義足学実習	3前	4		30								④				
	特殊義肢学	4後	1		15								①				
	体幹装具学	2前	1		15									①			
	体幹装具学実習	2前	4		30									④			
	下肢装具学	3前	1		15									①			
	下肢装具学実習	3前	4		30									④			
	上肢装具学	3後	1		15									①			
	上肢装具学実習	3後	2		30									②			
	特殊装具学	4後	1		15									①			
	靴型装具学	2後	1		15									①			
	靴型装具学実習	2後	2		30									②			
	シーティング学	3後	1		15										①		
	シーティング学実習	3後	2		30										②		
	義肢装具評価学演習	3後	1		30							①					
	義肢装具CAD製作適合学	3後		1	30							①					
	義肢装具特別演習	4後	1		30							①					
	義肢装具総合演習	4後	1		30							①					
	福祉用具概論	1前	2		15										②		
	福祉用具移動機器学	1後	1		15										①		
	福祉用具移動機器学演習	1後	1		30										①		
	福祉用具コミュニケーション機器学	2後	1		15										①		
	福祉用具コミュニケーション機器学演習	2後	1		30										①		
	福祉住環境学	3前	1		15										①		
	福祉住環境学演習	3前	1		30										①		
	福祉用具起居移乗関連学	3後	1		15										①		
	福祉用具起居移乗関連学演習	3後	1		30										①		
	福祉用具プランニング演習	4前	1		30										①		
	福祉用具評価学演習	3後	1		30										①		
	福祉ロボット支援学	3後		1	30										①		
	臨床実習Ⅰ（施設見学）	2前	1		45							①					
	臨床実習Ⅱ（関連施設）	2後		4	45											④	
	臨床実習Ⅲ（福祉用具）	3後	4		45											④	
	臨床実習Ⅳ（義肢装具）	4前	6		45											⑥	
	卒業研究計画	3後	1		30							①					
	卒業研究	4前	1		30							①					
	小計					73	0	0	0	0	0	17	14	17	15	10	73
卒業要件単位数（最低単位数）						129	8 選択 6単位	17	9	6	10	17	14	17	15	10	129
指定規則に対する増単位数							0	4	0	2	0	0	6	5	12	0	29

■ 福祉用具専門相談員　　…義肢装具士国家資格の取得により付与

福祉用具専門相談員は、介護を受ける側と、介護する側の双方の心理を理解し、病状や障害の度合いを適切に見極めて、福祉用具の選定や使い方をアドバイスします。

活躍の場　介護保険制度においては、福祉用具貸与が保険給付の対象となっており、指定居宅サービスとして車いす、特殊ベッド、入浴用リフト、食器などの福祉用具の貸与事業を行う際に、各事業所に福祉用具専門相談員を必ず2名以上配置させなければならないとされています。したがって、このような福祉用具・福祉機器のレンタルサービス企業が主な活躍の場となります。

■ 福祉用具プランナー …指定科目の単位の修得および修了試験の合格により取得可

福祉用具プランナーは、福祉用具を必要とする高齢者や障害者に対し、必要な福祉用具の選択を援助、適切な使用計画を策定、利用の支援、及び適用状況をモニター・評価をおこないます。この資格は、福祉用具専門相談員などとして既に福祉用具の選定相談や利用指導などの業務に従事している人たちを対象に、福祉用具に関する知識・技術をより確かなものするために設けられたものです。

活躍の場　福祉用具専門相談員と同様に、福祉用具・福祉機器のレンタルサービス企業が主な活躍の場となりますが、与えられる業務はより専門的で高度になります。

鍼灸健康学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	鍼灸師に必要とされる専門的知識・技能を習得し、教養的知識を有するとともに、鍼灸師として適切なコミュニケーション能力とチームアプローチを習得し、それらを臨床現場で活用しQOL向上に寄与できる。	新しい知識と技術を活用する力を修得し、豊かな人間性を備え、次代の求める鍼灸師として活躍できる人材を育成する。鍼灸師として安全性に関する知識と技術、鍼灸治療に必要な東洋医学の基本的な生理観、病理観、治療技術やその評価法、および鍼灸治療の適応範囲に関する知識を習得させるために、鍼灸リスクマネジメント学、東洋医学概論、社会鍼灸学を配置する。成果は国家試験合格率により評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	鍼灸師としての高い専門性と多職種連携の技能を有し、アジア地域の一員として異文化の理解をし、対象者および保健医療福祉スポーツ分野の複数の職種の人たちと横断的・融合的なコミュニケーションを図りながら、リーダーシップを発揮できる。	関連する専門職が連携・協働し、チーム医療・チームアプローチを通して、鍼灸師としてのコミュニケーションやリーダーシップのあり方を習得するために、プレゼンテーション方法論、基礎ゼミ、連携基礎ゼミを配置する。成果は保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群の成績により評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	社会人として、また医療人として、幅広い視野を持ってさまざまな問題に柔軟に対応できる能力を備え、高い倫理観や寛容な人間性を身につけている。	幅広い教養を身につけ、対象者に共感し、人間味のある高度医療人として対象者を支援する力を習得するために、解剖学やメンタルヘルス学、起業の精神と実践、臨床研究デザイン学、臨床倫理学を配置する。成果は臨床実習の成績により評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	鍼灸師として必要な専門知識と技術などの論理的思考力と対話が出来る能力を有し、それらを総合的に活用しながら正確な判断のもと問題解決ができる。	論理的に思考し議論する能力と、問題を解釈し解決する能力を習得するために、基礎医学研究セミナー、プレゼンテーション方法論を配置し、PBL（問題解決型授業）を取り入れた講義を行う。また、論理的思考による解決への道筋を見い出す力を習得するために卒業研究を配置する。成果は卒業研究の成績により評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	最新の医療情報・鍼灸技術の進歩に広く関心をもち、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。	スポーツ・美容領域や地域医療における鍼灸師の役割を理解し、優れたQOLサポーターとして、自主的・継続的に自己研鑽に努める心構えを身につけるため、専門専攻科目群としてスポーツ鍼灸学、レディース鍼灸学、高齢者鍼灸学、メンタルヘルス鍼灸学、社会鍼灸学、疼痛管理鍼灸学を配置する。成果は臨床実習と卒業研究の成績により評価する。

カリキュラム表

鍼灸健康学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	25	0	840	卒業要件単位数： 6単位以上

鍼灸健康学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期	1			15	
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	１単位以上選択し修得すること ※選択必修
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				2	7	0	225	
	保健医療福祉科目計 （②＋③）					2	40	0	735	卒業要件単位数： ８単位以上
全学科共通科目計Ⓐ （①＋②＋③）						8	65	0	1,575	卒業要件単位数：１４単位以上

鍼灸健康学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	解剖学Ⅰ	200002	1	前期	2			30	
		解剖学Ⅱ	200010	1	後期	2			30	
		解剖学実習	200031	2	後期	2			60	
		生理学	200055	1	前期	2			30	
		生理学実習	200061	2	前期	2			60	
		病理学	290000	1	前期	1			15	
		病理学実習	290005	1	後期	1			30	
		免疫学	290010	2	後期	1			15	
		臨床薬理学	290015	2	後期	1			15	
		公衆衛生学	200085	1	前期	1			15	
		公衆衛生学演習	290020	2	後期	1			30	
		臨床医学総論	290025	2	前期	1			15	
		臨床医学各論Ⅰ内科・神経内科	290030	2	前期	1			15	
		臨床医学各論Ⅱ運動器	290035	2	前期	1			15	
		臨床医学各論Ⅲ外科	290040	2	前期	1			15	
		臨床医学各論Ⅳ感覚器	290045	2	前期	1			15	
		疼痛学	290050	2	後期	1			15	
		救急学	290055	2	前期	1			15	
		運動生理学	290060	2	後期	1			15	
		スポーツ心理学	290065	3	前期	1			15	
		トレーニング論	290070	3	前期	1			15	
		予防とコンディショニング演習	290075	2	前期	1			30	
		スポーツ外傷	290080	3	後期	1			15	
		ジェンダー論	290085	3	後期	1			15	
		高齢社会学	290090	3	前期	1			15	
		メンタルヘルス学	290095	2	後期	1			15	
		養生学	290100	2	後期	1			15	
		栄養学	290105	2	後期	1			15	
		心の発達と維持	290110	3	後期	1			15	
		メンタルヘルスマネジメント	290115	3	前期	1			15	
		漢方薬概論	290120	2	後期	1			15	
		生薬学	290125	2	後期	1			15	
		方剤学	290130	3	前期	1			15	
		基礎医学研究セミナー	290135	3	前期	1			15	
		高齢者ケア実習	290140	4	前期	1			30	
		経済と経営	290145	3	前期	1			15	
		起業の精神と実践	290150	3	前期	1			15	
		プレゼンテーション方法論	290155	3	前期	1			15	
		臨床研究デザイン学	290160	3	後期	1			15	
小計④						44	0	0	780	卒業要件単位数：　４４単位以上

鍼灸健康学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	鍼灸健康学ゼミ	290165	2	前期	1			30	
		鍼灸健康学概論	290170	1	後期	1			15	
		経絡経穴学	290175	1	後期	2			30	
		経絡経穴学実習	290180	2	前期	2			60	
		東洋医学概論	290185	1	前期	2			30	
		伝統鍼灸学概論	290190	2	前期	1			15	
		鍼灸治効理論	290195	2	後期	1			15	
		中医診断学基礎	290200	2	前期	1			15	
		伝統鍼灸診断学演習	290205	3	前期	1			30	
		臨床鍼灸学Ⅰ（内科・神経内科）	290210	3	後期	2			30	
		臨床鍼灸学Ⅱ（運動器）	290215	3	後期	2			30	
		臨床鍼灸学Ⅲ（感覚器）	290220	3	前期	2			30	
		疼痛管理鍼灸学	290225	3	後期	1			15	
		リハビリテーション学総論	290230	2	後期	1			15	
		リハビリテーション学各論	290235	3	後期	1			15	
		中医診断学演習	290240	3	後期	1			30	
		メンタルヘルス鍼灸学	290245	3	前期	1			15	
		鍼灸リスクマネジメント学	290250	2	前期	1			15	
		リハビリテーション鍼灸学	290255	3	後期	1			15	
		高齢者鍼灸学	290260	4	前期		1		15	選択科目の中から１０単位以上選択し修得すること
		スポーツ鍼灸学	290265	3	後期		1		15	
		レディース鍼灸学	290270	3	後期		1		15	
		社会鍼灸学	290275	2	前期	1			15	
		関係法規	290280	4	前期	1			15	
		鍼技術学実習	290285	1	後期	2			60	
		灸技術学実習	290290	2	前期	2			60	
		鍼灸治効理論実習	290295	3	前期	2			60	
		臨床鍼灸学実習Ⅰ（内科・神経内科）	290300	3	後期	2			60	
		臨床鍼灸学実習Ⅱ（運動器）	290305	3	後期	2			60	
		臨床鍼灸学実習Ⅲ（感覚器）	290310	3	前期	2			60	
		メンタルヘルス鍼灸学実習	290315	3	後期	2			60	
		リハビリテーション鍼灸学実習	290320	4	前期	1			30	
		高齢者鍼灸学実習	290325	4	前期		1		30	
		スポーツ鍼灸学実習	290330	3	後期		1		30	
		レディース鍼灸学実習	290335	3	後期		1		30	
		健康美容鍼灸学実習	290340	4	前期		1		30	
		臨床実習Ⅰ	290345	2	後期	1			45	
		臨床実習Ⅱ	290350	3	前期	2			90	
		臨床実習Ⅲ	290355	4	前期	1			45	
		医療面接演習	290360	2	後期	1			30	
		臨床倫理学	290365	3	前期	1			15	
		鍼灸経営学	290370	3	後期	1			15	
		運動機能解剖学	290375	2	後期	1			15	
		鍼灸健康学特講演習Ⅰ（基礎）	290380	4	後期	1			30	
		鍼灸健康学特講演習Ⅱ（臨床）	290385	4	後期	1			30	
		シニアスポーツ鍼灸学	290390	3	前期		1		15	
		健康美容鍼灸学	290395	3	前期		1		15	
		手技療法演習	290400	3	後期		1		30	
		鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習	290405	3	後期		1		30	
		新領域の鍼灸	290410	3	後期		1		15	
		鍼灸の歴史と偉人	290415	3	前期		1		15	
		災害と鍼灸	290420	3	前期		1		15	
		医療連携と鍼灸	290425	4	前期		1		15	
		鍼灸と統合医療	290430	2	前期		1		15	
		卒業研究	290435	4	後期	4			120	
		小計⑤				56	16	0	1,695	卒業要件単位数：　６６単位以上
		専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)				100	16	0	2,475	卒業要件単位数：１１０単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						108	81	0	4,050	卒業要件：４年以上在学し、かつ１２４単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：はり師、きゅう師

・学外実習

本学科卒業生の多くは医療機関、スポーツ施設、鍼灸院等においてはり師・きゅう師として働くため、本実習でははり師・きゅう師としての責務、役割、使命についても醸成し、他の医療専門職と協働して地域医療や介護・福祉医療に貢献できる人材を目指す。そのため、これまでの講義や演習により修得した知識と技術をもとに、以下の項目について身に付けることを目標とする。

1）医療機関や鍼灸院におけるはり師・きゅう師の業務について理解する。
2）はり師・きゅう師として患者への対応を実践する。
3）患者の病態や疾患に応じた対応を実践し、それに応じた患者説明や治療方法を選択できる。
4）チーム医療の一翼を担う医療専門職として自覚を持ち、他の医療専門職とチーム医療を実践する。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
臨床実習Ⅰ （必修1単位）	2年次・後期	附属鍼灸センター	診療・業務の理解と患者対応の見学・実践
臨床実習Ⅱ （必修2単位）	3年次・前期	附属鍼灸センター 関連医療・福祉施設	診療（患者説明や治療方法の選択）の実践 チーム医療実践の研修
臨床実習Ⅲ （必修1単位）	4年次・前期	附属鍼灸センター 関連医療・福祉施設	診療の実践、修練、応用 チーム医療実践の研修

・履修基準

（1）「臨床実習Ⅰ」第2年次後期の学外実習

患者対応や治療の理解のために下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊東洋医学概論（1前）　＊鍼灸健康学概論（1後）　＊経絡経穴学（1後）
＊鍼技術学実習（1後）　＊灸技術学実習（2前）

（2）「臨床実習Ⅱ」第3年次前期の学外実習

診療の実践やチーム医療の研修のために下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊臨床実習Ⅰ（2後）　＊解剖学Ⅰ（1前）　＊解剖学Ⅱ（1後）　＊生理学（1前）
＊病理学（1前）　＊臨床医学総論（2前）　＊臨床医学各論Ⅰ内科・神経内科（2前）
＊臨床医学各論Ⅱ運動器（2前）　＊臨床医学各論Ⅲ外科（2前）
＊臨床医学各論Ⅳ感覚器（2前）　＊メンタルヘルス学（2後）　＊経絡経穴学実習（2前）
＊リハビリテーション学総論（2後）　＊鍼灸リスクマネジメント学（2前）
＊医療面接演習（2後）

（3）「臨床実習Ⅲ」第4年次前期の学外実習

診療の実践、修練、応用のために下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊臨床実習Ⅱ（3前）　＊臨床鍼灸学Ⅰ（内科・神経内科）（3後）
＊臨床鍼灸学Ⅱ（運動器）（3後）　＊臨床鍼灸学Ⅲ（感覚器）（3前）
＊リハビリテーション学各論（3後）　＊リハビリテーション鍼灸学（3後）
＊メンタルヘルス鍼灸学（3前）　＊鍼灸治効理論実習（3前）
＊臨床鍼灸学実習Ⅰ（内科・神経内科）（3後）　＊臨床鍼灸学実習Ⅱ（運動器）（3後）
＊臨床鍼灸学実習Ⅲ（感覚器）（3前）　＊メンタルヘルス鍼灸学実習（3後）

取得できる資格と免許

■ はり師、きゅう師国家試験受験資格　…卒業により取得可

鍼灸（しんきゅう・はりきゅう）治療とは「疾患や症状に適した経穴（ツボ）に金属の細い針を刺入したり艾（もぐさ）を置いて燃焼させたりなど、生体に刺激を加えることで元々身体に備わっている病気を治す力を高めて元気にする治療法（日本鍼灸師会）」です。鍼灸師は鍼灸を用いた治療を業務とします。

活躍の場　鍼灸師は、病院、鍼灸院などの医療機関だけでなく、高齢者福祉施設、アスレチックジムなどのスポーツ施設や企業、エステティックサロンなど美容の領域で活躍することができます。また、鍼灸師には独立開業権が認められており、治療院を開設して地域医療を担ったり、訪問による治療を行ったりして幅広く活躍することができます。

はり師、きゅう師国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣が指定した学校または厚生労働大臣が指定した鍼灸師養成施設において、3年以上鍼灸師に必要な知識および技能を修得しなければなりません。

鍼灸健康学科は、文部科学大臣より鍼灸師養成校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、はり師、きゅう師国家試験の受験資格が得られます。

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（鍼灸師課程）										
						基礎分野		専門基礎分野			専門分野					計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、きゅう学	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学	社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学	実習	臨床実習	総合領域	
			必修	選択			14		12	12	3	9	13	2	15	4	10	94
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30	必修6単位を含む6単位以上を履修	①											6
	情報処理Ⅰ	1前	1		30		①											
	情報処理Ⅱ	1後	1		30		①											
	情報処理Ⅲ	2前		1	30		①											
	英語Ⅰ	1前	1		30		①											
	英語Ⅱ	1後	1		30		①											
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前		1	30		①											
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後		1	30		①											
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4後		1	30		①											
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30		①											
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30		①											
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30		①											
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30		①											
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30		①											
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30		①											
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30		①											
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30		①											
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15		①											
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15		①											
	スポーツ・健康	1前	1		30		①											
	スポーツ・実践	2・3・4前・後		1	30		①											
	哲学	1前		1	15		①											
	倫理学	1後		1	15		①											
	科学論	1後		1	15		①											
	情報科学	1後		1	15		①											
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30		①											
小計						6	6		0	0	0	0	0	0	0	0	0	6

区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表第1（鍼灸師課程）										計
							基礎分野		専門基礎分野			専門分野					
							科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、きゅう学	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学	社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学	実習	臨床実習	総合領域	
			必修	選択			14		12	12	3	9	13	2	15	4	10	94
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	1前		1	15	必修2単位を含む8単位以上を履修	①											8
	コミュニケーション学入門	1前		1	15		①											
	対人コミュニケーション論	1後		1	15		①											
	心理学の世界	1後		1	15		①											
	人間を知る	1前		1	15		①											
	命の倫理	1後		1	15		①											
	ＱＯＬの世界	1後		1	15		①											
	こどもの世界	1後		1	15		①											
	アスリートの世界	1前		1	15		①											
	臨床医の世界	1後		1	15		①											
	加齢と身体	1後		1	15		①											
	食を楽しむ	1前		1	15		①											
	眼の神秘	1前		1	15		①											
	義肢装具の世界	1後		1	15		①											
	新潟学	1後		1	15		①											
	国際保健の世界	1後		1	15		①											
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1	15		①											
	現代社会と経済	1前		1	15		①											
	法学Ⅰ	1後		1	15		①											
	法学Ⅱ	1後		1	15		①											
	臨床の哲学	1前		1	15		①											
	臨床技術の世界	1前		1	15		①											
	留学の魅力	1前		1	15		①											
	シティズンシップ教育入門	1後		1	15		①											
	放射線の基礎と人体への影響	1前		1	15		①											
	新潟水俣病の理解	1前		1	15		①											
	一次救命処置法	1前		1	15		①											
	東洋医学的養生	1前		1	15		①											
	自然人類学概論	1後		1	15		①											
	データサイエンス概論	1後		1	30		①											
	アスリートサポートの世界	1後		1	15		①											
	比較認知科学の世界	1前		1	15		①											
	アカデミック・ライティング	1後		1	15		①											
保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	2後	1		30		①											
	チームアプローチ入門	1後	1		15		①											
	保健医療福祉連携学	2・3前		1	15		①											
	地域連携学	3前		1	15		①											
	連携総合ゼミ	3後・4前		1	30		①											
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30		①											
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30		①											
	国際交流演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30		①											
	国際交流演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30		①											
	小計					8	8		0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表第1（鍼灸師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活	専門基礎分野 人体の構造と機能	専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	専門基礎分野 保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	専門分野 基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、きゅう学	専門分野 臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学	専門分野 社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学	専門分野 実習	専門分野 臨床実習	専門分野 総合領域	計
							14		12	12	3	9	13	2	15	4	10	94
専門基礎科目群	解剖学Ⅰ	1前	2		15	必修44単位を履修			②									44
	解剖学Ⅱ	1後	2		15				②									
	解剖学実習	2後	2		30				②									
	生理学	1前	2		15				②									
	生理学実習	2前	2		30				②									
	病理学	1前	1		15				①									
	病理学実習	1後	1		30				①									
	免疫学	2後	1		15					①								
	臨床薬理学	2後	1		15					①								
	公衆衛生学	1前	1		15					①								
	公衆衛生学演習	2後	1		30					①								
	臨床医学総論	2前	1		15					①								
	臨床医学各論Ⅰ内科・神経内科	2前	1		15					①								
	臨床医学各論Ⅱ運動器	2前	1		15					①								
	臨床医学各論Ⅲ外科	2前	1		15					①								
	臨床医学各論Ⅳ感覚器	2前	1		15					①								
	疼痛学	2後	1		15					①								
	救急学	2前	1		15					①								
	運動生理学	2後	1		15					①								
	スポーツ心理学	3前	1		15					①								
	トレーニング論	3前	1		15					①								
	予防とコンディショニング演習	2前	1		30					①								
	スポーツ外傷	3後	1		15					①								
	ジェンダー論	3後	1		15					①								
	高齢社会学	3前	1		15					①								
	メンタルヘルス学	2後	1		15						①							
	養生学	2後	1		15						①							
	栄養学	2後	1		15						①							
	心の発達と維持	3後	1		15						①							
	メンタルヘルスマネジメント	3前	1		15						①							
	漢方薬概論	2後	1		15						①							
	生薬学	2後	1		15						①							
	方剤学	3前	1		15						①							
	基礎医学研究セミナー	3前	1		15						①							
	高齢者ケア実習	4前	1		30						①							
	経済と経営	3前	1		15						①							
	起業の精神と実践	3前	1		15						①							
	プレゼンテーション方法論	3前	1		15						①							
	臨床研究デザイン学	3後	1		15						①							
小計						44	0		12	18	14	0	0	0	0	0	0	44

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（鍼灸師課程）										
						基礎分野		専門基礎分野			専門分野					
						科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、きゅう学	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学	社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学	実習	臨床実習	総合領域	計
区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件										
							14	12	12	3	9	13	2	15	4	10	94
専門専攻科目群	鍼灸健康学ゼミ	2前	1		30	必修56単位を含む66単位以上を履修					①						66
	鍼灸健康学概論	1後	1		15						①						
	経絡経穴学	1後	2		15						②						
	経絡経穴学実習	2前	2		30						②						
	東洋医学概論	1前	2		15						②						
	伝統鍼灸学概論	2前	1		15						①						
	鍼灸治効理論	2前	1		15						①						
	中医診断学基礎	2前	1		15						①						
	伝統鍼灸診断学演習	3前	1		30							①					
	臨床鍼灸学Ⅰ（内科・神経内科）	3後	2		15							②					
	臨床鍼灸学Ⅱ（運動器）	3後	2		15							②					
	臨床鍼灸学Ⅲ（感覚器）	3前	2		15							②					
	疼痛管理鍼灸学	3前	1		15							①					
	リハビリテーション学総論	2後	1		15							①					
	リハビリテーション学各論	3前	1		15							①					
	中医診断学演習	3後	1		30							①					
	メンタルヘルス鍼灸学	3前	1		15							①					
	鍼灸リスクマネジメント学	2前	1		15							①					
	リハビリテーション鍼灸学	3後	1		15							①					
	高齢者鍼灸学	4前		1	15							①					
	スポーツ鍼灸学	3後		1	15							①					
	レディース鍼灸学	3後		1	15							①					
	社会鍼灸学	2前	1		15								①				
	関係法規	4前	1		15								①				
	鍼技術学実習	1後	2		30									②			
	灸技術学実習	2前	2		30									②			
	鍼灸治効理論実習	3前	2		30									②			
	臨床鍼灸学実習Ⅰ（内科・神経内科）	3後	2		30									②			
	臨床鍼灸学実習Ⅱ（運動器）	3後	2		30									②			
	臨床鍼灸学実習Ⅲ（感覚器）	3前	2		30									②			
	メンタルヘルス鍼灸学実習	3後	2		30									②			
	リハビリテーション鍼灸学実習	4前	1		30									①			
	高齢者鍼灸学実習	4前		1	30									①			
	スポーツ鍼灸学実習	3後		1	30									①			
	レディース鍼灸学実習	3後		1	30									①			
	健康美容鍼灸学実習	4前		1	30									①			
	臨床実習Ⅰ	2前	1		45										①		
	臨床実習Ⅱ	3前	2		45										②		
	臨床実習Ⅲ	4前	1		45										①		
	医療面接演習	2後	1		30											①	
	臨床倫理学	3前	1		15											①	
	鍼灸経営学	3後	1		15											①	
	運動機能解剖学	2後	1		15											①	
	鍼灸健康学特講演習Ⅰ（基礎）	4後	1		30											①	
	鍼灸健康学特講演習Ⅱ（臨床）	4後	1		30											①	
	シニアスポーツ鍼灸学	3前		1	15											①	
	健康美容鍼灸学	3前		1	15											①	
	手技療法演習	3後		1	30											①	
	鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習	3後		1	30											①	
	新領域の鍼灸	3後		1	15											①	
	鍼灸の歴史と偉人	3前		1	15											①	
	災害と鍼灸	3前		1	15											①	
	医療連携と鍼灸	4前		1	15											①	
	鍼灸と統合医療	2前		1	15											①	
	卒業研究	4後	4		30											④	
小計						66	0	0	0	0	11	14	2	15	4	14	66
卒業要件単位数（最低単位数）						124	14	12	18	14	11	14	2	15	4	10	124
							選択科目 10単位										
指定規則に対する増単位数							0	0	6	11	2	1	0	0	0	0	20

■ 健康運動指導士　認定試験のための受講資格
…はり師・きゅう師資格を得ることで取得可

保健医療関係者と協力し、個人の身体に応じた安全で効果的な運動プログラムの作成と指導計画の調整をおこないます。具体的には、目的や課題に合った個々の運動プログラムを作成し、実践する指導計画の調整をおこないます。また、プログラムの進捗状況をチェックして、必要に応じて運動指導を行います。

活躍の場　アスレチッククラブ、フィットネスクラブ、病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業、地域の教育の場など。

■ 健康運動実践指導者　認定試験のための受講資格
…はり師・きゅう師資格を得ることで取得可

健康づくりのためにおこなう運動を、安全かつ効果的に実践指導します。医学や運動生理学の知識を備え、自らが運動プログラムを実演し、集団に対しても指導します。具体的には、対象者の健康状態や体力レベルに合わせて正しい運動方法を身につけさせます。また、子どもに対しても、自らの健康を管理する能力を育成します。したがって健康運動実践指導者は、運動指導のみならず教育の場でもニーズがあります。

活躍の場　アスレチッククラブ、フィットネスクラブ、病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業、地域の教育の場など。

■ スポーツプログラマー

スポーツ医学や運動生理学などの理論に基づいてトレーニングのメニューを作成し、指導を行います。仕事の内容は、対象者に最適な運動メニュー（プログラム）を作成するとともにトレーニング方法を指導したりマシンや器具の使い方、時には食事の指導、運動データの管理も行います。マシンや器具のメンテナンスを行う能力も求められます。（健康運動指導士を取得している人は、共通科目全てと専門科目の一部が免除されます）

活躍の場　アスレチックジムや地域のスポーツクラブ

臨床技術学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	幅広い教養とともに、臨床工学技士と臨床検査技師に必要とされる高度な専門知識と技術を身につけている。	臨床技術学に必要な科学知識および技術を修得するために臨床工学技士および臨床検査技師の二つの法律が指定する科目群を融合したカリキュラムを編成する。成果は国家試験合格率で評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	臨床工学技士と臨床検査技師のダブルライセンスを持つ臨床技術者として、対象者との対話および他の職種と良好なコミュニケーションを図りながらチーム医療の一員として職務を遂行できる。	多職種と連携する中で的確な情報を共有し、自らも中心的役割を担える人材となるために学内実習および学外臨床実習を配置する。成果は実習試験、臨床実習先からのルーブリックに準じた実習評価報告で評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と高潔な倫理観に立脚し、多様な価値観や考え方を尊重する国際社会の一員として、臨床技術の専門知識と技術を適切に用いて対象者を支援できる。	対象者の背景を理解し、健康問題に多面的にかかわることができるよう、臨床工学および臨床検査学を同時に学ぶカリキュラム編成する。成果は科目試験で評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	臨床技術者の専門性を生かし、得られた結果を総合的に分析・考察し、対象者のQOLに関わる問題を論理的に的確に解決できる。	検査結果を解析・評価できる基礎的技術を修得するために各種疾患の病態を体系的に学ぶ。医療機器の原理、構造および治療法を理解し、各疾患に対する機器の選択や治療条件を検討する科目を配置する。成果は科目試験により評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	国際化・情報化などの社会の変化に対応し、生涯を通じて医療技術の進歩に関心をもち続け、常に高い専門性を追求する。	時代の求める優れた医療人材となるために、臨床工学技士と臨床検査技師の二つの資格（ダブルライセンス）を取得できるカリキュラムを編成する。成果は科目試験および臨床実習先からのルーブリックに準じた実習評価報告で評価する。

カリキュラム表

臨床技術学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数：　6単位以上

臨床技術学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	8	0	225	
		保健医療福祉科目計　(②＋③)				1	41	0	735	卒業要件単位数：　８単位以上
		全学科共通科目計Ⓐ　(①＋②＋③)				7	67	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

臨床技術学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	医学概論Ⅰ	250380	1	前期	1			15	
		医学概論Ⅱ	250385	1	前期	1			15	
		解剖学	250390	1	前期	2			30	
		解剖学実習	200030	1	後期	1			30	
		生理学	250395	1	前期	1			15	
		病理検査学Ⅰ	250400	2	前期	2			30	
		病理検査学Ⅱ	250405	2	後期	2			30	
		病理検査学実習	250410	2	前期	1			30	
		公衆衛生学	250415	4	後期	3			45	
		生化学Ⅰ	250035	1	前期	2			30	
		生化学Ⅱ	250040	1	後期	2			30	
		医用工学概論	250420	1	前期	1			15	
		医用工学Ⅰ	250425	1	後期	6			90	
		医用工学Ⅱ	250430	2	前期	1			15	
		応用数学	250435	1	前期	2			30	
		電気工学Ⅰ	250440	1	前期	2			30	
		電気工学Ⅱ	250445	1	後期	2			30	
		電気・電子工学実習	250450	1	後期	1			30	
		電子工学Ⅰ	250455	1	前期	1			15	
		電子工学Ⅱ	250460	1	後期	2			30	
		機械工学Ⅰ	250465	2	前期	1			15	
		機械工学Ⅱ	250470	2	後期	2			30	
		生体物性工学	250475	2	前期	3			45	
		医用材料工学	250480	1	後期	3			45	
		計測工学Ⅰ	250485	2	前期	1			15	
		計測工学Ⅱ	250490	2	前期	2			30	
		情報科学概論	250095	2	前期	1			15	
		医用機器学概論	250495	2	前期	3			45	
		小計④				52	0	0	825	卒業要件単位数：　５２単位以上

臨床技術学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	臨床医学総論Ⅰ	250360	1	後期	2			30	
		臨床医学総論Ⅱ	250365	2	前期	2			30	
		臨床医学総論Ⅲ	250500	3	後期	3			45	
		薬理学	250505	2	後期	3			45	
		栄養学・臨床栄養学	250510	3	後期	2			30	
		臨床検査総合管理学Ⅰ	250515	2	前期	3			45	
		臨床検査総合管理学Ⅱ	250520	2	後期	3			45	
		生化学検査学Ⅰ（含む放射性同位元素検査技術学）	250525	2	前期	2			60	
		生化学検査学Ⅱ（含む放射性同位元素検査技術学）	250530	2	後期	1			30	
		血液検査学	250535	3	後期	3			45	
		血液検査学実習	250540	3	後期	1			30	
		尿・糞便・一般検査（含む寄生虫学）	250545	2	前期	2			30	
		尿・糞便・一般検査実習	250550	2	後期	1			30	
		微生物検査学Ⅰ	250555	2	後期	1			15	
		微生物検査学Ⅱ	250560	3	前期	6			90	
		免疫検査学	250565	2	後期	2			30	
		免疫検査学実習	250570	3	前期	1			30	
		遺伝子関連・染色体検査学	250575	3	前期	1			15	
		遺伝子関連・染色体検査学実習	250580	3	後期	1			30	
		輸血・移植検査学	250585	3	前期	3			45	
		輸血・移植検査学実習	250590	3	後期	1			30	
		生理検査学Ⅰ	250595	2	後期	3			45	
		生理検査学Ⅱ	250690	3	前期	2			30	
		生理検査学Ⅲ	250600	3	後期	2			30	
		生理検査学実習Ⅰ	250605	1	後期	1			30	
		生理検査学実習Ⅱ	250695	3	前期	1			30	
		生理検査学実習Ⅲ	250610	3	後期	1			30	
		医療安全管理学Ⅰ（臨床工学系）	250615	3	前期	3			45	
		医療安全管理学Ⅱ（臨床検査学系）	250620	4	後期	1			15	
		医療安全管理学Ⅱ実習（臨床検査学系）	250625	4	後期	1			30	
		検査機器総論	250630	2	前期	1			15	
		生体計測装置学	250155	3	前期	2			30	
		チーム医療概論	250700	3	前期	1			15	
		臨床支援技術学	250640	3	後期	2			30	
		医用治療機器学Ⅰ	250645	2	後期	2			30	
		医用治療機器学Ⅱ	250650	3	前期	2			30	
		生体機能代行技術学Ⅰ	250655	2	後期	2			60	
		生体機能代行技術学Ⅱ	250660	3	前期	2			60	
		生体機能代行技術学Ⅲ	250665	3	後期	8			120	
		認知症学	250670	2	前期	1			15	
		関係法規	250160	4	後期	1			15	
		臨床実習Ⅰ（臨床工学系）	250675	4	前期	7			210	
		臨床実習Ⅱ（臨床検査学系）	250680	4	前期	12			360	
		卒業研究	250685	4	前期	1			45	
		小計⑤				103	0	0	2,100	卒業要件単位数：１０３単位以上
	専門科目計Ⓑ （④＋⑤）					155	0	0	2,925	卒業要件単位数：１５５単位以上
合計 （Ⓐ＋Ⓑ）						162	67	0	4,515	卒業要件：４年以上在学し，かつ１６９単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：臨床工学技士・臨床検査技師

・学外実習

学内での学習で学んだ知識や技術の統合を図り、臨床技術への理解を深め、臨床技術者となるための知識を修得することを目的とします。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
臨床実習Ⅰ（必修）	4年次前期	医療機関等	臨床工学技士に必要な専門的な技術・知識の統合
臨床実習Ⅱ（必修）	4年次前期	医療機関等	臨床検査技師に必要な専門的な技術・知識の統合

・履修基準

（1）第2年次の専門専攻科目

第2年次前期および後期に開講される「病理検査学Ⅰ」、「病理検査学Ⅱ」、「病理検査学実習」、「医用工学Ⅱ」、「機械工学Ⅰ」、「機械工学Ⅱ」、「生体物性工学」、「計測工学Ⅰ」、「計測工学Ⅱ」、「情報科学概論」、「医用機器学概論」、「臨床医学総論Ⅱ」、「薬理学」、「臨床検査総合管理学Ⅰ」、「臨床検査総合管理学Ⅱ」、「生化学検査学Ⅰ（含む放射性同位元素検査技術学）」、「生化学検査学Ⅱ（含む放射性同位元素検査技術学）」、「尿・糞便・一般検査（含む寄生虫学）」、「尿・糞便・一般検査実習」、「微生物検査学Ⅰ」、「免疫検査学」、「生理検査学Ⅰ」、「検査機器総論」、「医用治療機器学Ⅰ」、「生体機能代行技術学Ⅰ」、「認知症学」を履修するためには、履修登録の時点で第1年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊医学概論Ⅰ　＊医学概論Ⅱ　＊解剖学　＊解剖学実習　＊生理学　＊生化学Ⅰ
＊生化学Ⅱ　＊医用工学概論　＊医用工学Ⅰ　＊応用数学　＊電気工学Ⅰ
＊電気工学Ⅱ　＊電気・電子工学実習　＊電子工学Ⅰ　＊電子工学Ⅱ　＊医用材料工学

専門専攻科目群

＊臨床医学総論Ⅰ　＊生理検査学実習Ⅰ

（2）第3年次の専門専攻科目

第3年次前期および後期に開講される「臨床医学総論Ⅲ」、「栄養学・臨床栄養学」、「血液検査学」、「血液検査学実習」、「微生物検査学Ⅱ」、「免疫検査学実習」、「遺伝子関連・染色体検査学」、「遺伝子関連・染色体検査学実習」、「輸血・移植検査学」、「輸血・移植検査学実習」、「生理検査学Ⅱ」、「生理検査学Ⅲ」、「生理検査学実習Ⅱ」、「生理検査学実習Ⅲ」、「医療安全管理学Ⅰ（臨床工学系）」、「生体計測装置学」、「チーム医療概論」、「臨床支援技術学」、「医用治療機器学Ⅱ」、「生体機能代行技術学Ⅱ」、「生体機能代行技術学Ⅲ」を履修するためには、履修登録の時点で第2年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊病理検査学Ⅰ　＊病理検査学Ⅱ　＊病理検査学実習　＊医用工学Ⅱ　＊機械工学Ⅰ
＊機械工学Ⅱ　＊生体物性工学　＊計測工学Ⅰ　＊計測工学Ⅱ　＊情報科学概論
＊医用機器学概論

専門専攻科目群

＊臨床医学総論Ⅱ　＊薬理学　＊臨床検査総合管理学Ⅰ　＊臨床検査総合管理学Ⅱ
＊生化学検査学Ⅰ（含む放射性同位元素検査技術学）
＊生化学検査学Ⅱ（含む放射性同位元素検査技術学）　＊尿・糞便・一般検査（含む寄生虫学）
＊尿・糞便・一般検査実習　＊微生物検査学Ⅰ　＊免疫検査学　＊生理検査学Ⅰ
＊検査機器総論　＊医用治療機器学Ⅰ　＊生体機能代行技術学Ⅰ　＊認知症学

（3）第4年次の専門基礎・専門専攻科目

第4年次前期および後期に開講される「公衆衛生学」、「医療安全管理学Ⅱ（臨床検査学系）」、「医療安全管理学Ⅱ実習（臨床検査学系）」、「関係法規」、「臨床実習Ⅰ（臨床工学系）」、「臨床実習Ⅱ（臨床検査学系）」、「卒業研究」を履修するためには、履修登録の時点で第3年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊臨床医学総論Ⅲ　＊栄養学・臨床栄養学　＊血液検査学　＊血液検査学実習
＊微生物検査学Ⅱ　＊免疫検査学実習　＊遺伝子関連・染色体検査学
＊遺伝子関連・染色体検査学実習　＊輸血・移植検査学　＊輸血・移植検査学実習
＊生理検査学Ⅱ　＊生理検査学Ⅲ　＊生理検査学実習Ⅱ　＊生理検査学実習Ⅲ
＊医療安全管理学Ⅰ（臨床工学系）　＊生体計測装置学　＊チーム医療概論
＊臨床支援技術学　＊医用治療機器学Ⅱ　＊生体機能代行技術学Ⅱ
＊生体機能代行技術学Ⅲ

各年次において専門科目の履修にあたり選択科目の履修が制限されることがあります。

取得できる資格と免許

■ 臨床工学技士国家試験受験資格　…卒業により取得可

臨床工学技士は、ハイテク化が進む医療機器・装置の操作・管理を行うスペシャリストです。心臓手術などで使用する“人工心肺装置”、腎不全治療などで使用する“血液浄化装置”などの「生命維持管理装置」を操作し、「チーム医療」の中で治療や患者管理に直接かかわります。ほかにも、さまざまな医療機器・装置を安全に効果的に活用するための保守・管理業務を行います。

活躍の場　臨床工学技士は、病院や血液透析、心臓カテーテル治療を実施する専門クリニック等の医療機関で活躍しています。生命維持管理装置を使った治療は、日々進化・発展しているため、活躍の場はさらに広がっています。

臨床工学技士国家試験の受験資格を得るためには、学校教育法に基づく大学において厚生労働大臣が指定する科目（指定科目）を修めて卒業しなければなりません。

臨床技術学科では、以下の科目を履修して卒業することで、臨床工学技士国家試験の受験資格が得られます。

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容					臨床工学技士課程																										
区分	授業科目	配当年次	単位数	1単位当たりの時間数	解剖学	生理学	生化学	医学概論	公衆衛生学	病理学	薬理学	免疫学	チーム医療概論	関係法規	応用数学	電気工学	電子工学	機械工学	計測工学	医用工学	生体物性工学	医用材料工学	医用機器学概論	医用治療機器学	生体計測装置学	臨床支援技術学	生体機能代行技術学	医療安全管理学	臨床医学総論	臨床実習
専門基礎科目群	医学概論Ⅰ	1	1	15				○																						
	医学概論Ⅱ	1	1	15				○																						
	解剖学	1	2	15	○																									
	解剖学実習	1	1	30	○																									
	生理学	1	1	15		○																								
	病理検査学Ⅰ	2	2	15						○																				
	病理検査学Ⅱ	2	2	15						○																				
	公衆衛生学	4	3	15					○																					
	生化学Ⅰ	1	2	15			○																							
	生化学Ⅱ	1	2	15			○																							
	医用工学概論	1	1	15																○										
	医用工学Ⅰ	1	6	15																○										
	医用工学Ⅱ	2	1	15																○										
	応用数学	1	2	15											○															
	電気工学Ⅰ	1	2	15												○														
	電気工学Ⅱ	1	2	15												○														
	電気・電子工学実習	1	1	30												○														
	電子工学Ⅰ	1	1	15													○													
	電子工学Ⅱ	1	2	15													○													
	機械工学Ⅰ	2	1	15														○												
	機械工学Ⅱ	2	2	15														○												
	生体物性工学	2	3	15																	○									
	医用材料工学	1	3	15																		○								
	計測工学Ⅰ	2	1	15															○											
	計測工学Ⅱ	2	2	15															○											
	医用機器学概論	2	3	15																			○							
専門専攻科目群	臨床医学総論Ⅰ	1	2	15																									○	
	臨床医学総論Ⅱ	2	2	15																									○	
	臨床医学総論Ⅲ	3	3	15																									○	
	薬理学	2	3	15							○																			
	免疫検査学	2	2	15								○																		
	免疫検査学実習	3	1	30								○																		
	生理検査学Ⅰ	2	3	15																					○					
	生理検査学Ⅱ	3	2	15																					○					
	生理検査学Ⅲ	3	2	15																					○					
	生理検査学実習Ⅰ	1	1	30																					○					
	生理検査学実習Ⅱ	3	1	30																					○					
	生理検査学実習Ⅲ	3	1	30																					○					
	医療安全管理学Ⅰ（臨床工学系）	3	3	15																								○		
	医療安全管理学Ⅱ（臨床検査学系）	4	1	15										○																
	医療安全管理学Ⅱ実習（臨床検査学系）	4	1	30										○																
	生体計測装置学	3	2	15																					○					
	チーム医療概論	3	1	15									○																	
	臨床支援技術学	3	2	15																						○				
	医用治療機器学Ⅰ	2	2	15																				○						
	医用治療機器学Ⅱ	3	2	15																				○						
	生体機能代行技術学Ⅰ	2	2	30																							○			
	生体機能代行技術学Ⅱ	3	2	30																							○			
	生体機能代行技術学Ⅲ	3	8	15																							○			
	関係法規	4	1	15										○																
	臨床実習Ⅰ（臨床工学系）	4	7	30																										○
	合計		107	915																										

■ 臨床検査技師国家試験受験資格　　…卒業により取得可

臨床検査技師は、主に医療機関において、被検者から採取した血液や尿を検査する「検体検査」、身体に検査装置を装着して心電図や脳波などを検査する「生理学的検査」や採血など、さまざまな業務を行います。これらの検査結果は、病気の予防や発見、治療方針の決定、治療効果の判定などに活かされ、治療に直接かかわる重要なデータとなります。他の医療スタッフとともに「チーム医療」の一員としてその活躍がますます求められています。

活躍の場　臨床検査技師は、病院、検査機関、検査会社での活躍の場は確立しています。近年では、最新の検査機器を用いた遺伝子検査や再生医療分野でも活躍の場が広がっています。

臨床工学技士・臨床検査技師二つの資格取得者の活躍の場

二つの資格取得者は、より幅の広い業務への対応が可能となり、医師のサポート役として、さらに「チーム医療」の一員として病気の発見、治療・手術、生命維持まで、効率的な医療を提案・実践できる人材として、重要な役割を果たすことが期待されます。

臨床検査技師国家試験の受験資格を得るためには、学校教育法に基づく大学において厚生労働大臣が指定する科目（指定科目）を修めて卒業しなければなりません。

臨床技術学科では、以下の科目を履修して卒業することで、臨床検査技師国家試験の受験資格が得られます。

教育課程＼指定規則の教育内容					臨床検査技師課程														
区分	授業科目	配当年次	単位数	1単位当たりの時間数	病態学	公衆衛生学	医用工学概論	血液検査学	病理検査学	尿・糞便等一般検査学	生化学検査学	免疫検査学	遺伝子関連・染色体検査学	輸血・移植検査学	微生物検査学	生理検査学	臨床検査総合管理学	医療安全管理学	臨地実習
専門基礎科目群	医学概論Ⅰ	1	1	15		○													
	医学概論Ⅱ	1	1	15	○														
	解剖学	1	2	15	○														
	解剖学実習	1	1	30	○														
	生理学	1	1	15	○														
	病理検査学Ⅰ	2	2	15					○										
	病理検査学Ⅱ	2	2	15					○										
	病理検査学実習	2	1	30					○										
	公衆衛生学	4	3	15		○													
	生化学Ⅰ	1	2	15	○														
	生化学Ⅱ	1	2	15	○														
	医用工学概論	1	1	15			○												
	電気工学Ⅰ	1	2	15			○												
	電気工学Ⅱ	1	2	15			○												
	電気・電子工学実習	1	1	30			○												
	情報科学概論	2	1	15			○												

教育課程＼指定規則の教育内容					臨床検査技師課程															
区分	授業科目	配当年次	単位数	1単位当たりの時間数	病態学	公衆衛生学	医用工学概論	血液検査学	病理検査学	尿・糞便等一般検査学	生化学検査学	免疫検査学	遺伝子関連・染色体検査学	輸血・移植検査学	微生物検査学	生理検査学	臨床検査総合管理学	医療安全管理学	臨地実習
専門専攻科目群	臨床医学総論Ⅰ	1	2	15	○														
	臨床医学総論Ⅱ	2	2	15	○														
	薬理学	2	3	15	○														
	栄養学・臨床栄養学	3	2	15	○														
	臨床検査総合管理学Ⅰ	2	3	15													○		
	臨床検査総合管理学Ⅱ	2	3	15													○		
	生化学検査学Ⅰ（含む放射性同位元素検査技術学）	2	2	30							○								
	生化学検査学Ⅱ（含む放射性同位元素検査技術学）	2	1	30							○								
	血液検査学	3	3	15				○											
	血液検査学実習	3	1	30				○											
	尿・糞便・一般検査（含む寄生虫学）	2	2	15						○									
	尿・糞便・一般検査実習	2	1	30						○									
	微生物検査学Ⅰ	2	1	15	○														
	微生物検査学Ⅱ	3	6	15											○				
	免疫検査学	2	2	15								○							
	免疫検査学実習	3	1	30								○							
	遺伝子関連・染色体検査学	3	1	15									○						
	遺伝子関連・染色体検査学実習	3	1	30									○						
	輸血・移植検査学	3	3	15										○					
	輸血・移植検査学実習	3	1	30										○					
	生理検査学Ⅰ	2	3	15												○			
	生理検査学Ⅱ	3	2	15												○			
	生理検査学Ⅲ	3	2	15												○			
	生理検査学実習Ⅰ	1	1	30												○			
	生理検査学実習Ⅱ	3	1	30												○			
	生理検査学実習Ⅲ	3	1	30												○			
	医療安全管理学Ⅱ（臨床検査学系）	4	1	15														○	
	医療安全管理学Ⅱ実習（臨床検査学系）	4	1	30														○	
	検査機器総論	2	1	15			○												
	認知症学	2	1	15	○														
	臨床実習Ⅱ（臨床検査学系）	4	12	30															○
	合　計		92	930															

視機能科学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	視覚機能学に関する高度な専門的知識・技能に加え幅広い教養的知識を有し、高度情報化時代の臨床現場で活用できる。	眼科検査の技術と知識を身につけ、課題探究力、論理的思考力を活用できる力を修得させる。そのためにルーブリックを活用した上、1年次後期から2年次、3年次前期までに5つの少人数制学内実習を配置する。さらに3年次前期、4年次前期には総合演習を配置し、アクティブラーニングを介して応用力を育む。学習支援センターと連携し、個々の学生の特性に合わせた支援を行う。成果は国家試験合格率で評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	豊かな自己表現力とチームアプローチに基づく対話能力で、保健医療福祉スポーツ分野の複数の職種との連携を横断的・融合的に構築できる。	多職種間のチームアプローチを直接的に体験するために、学外医療施設における臨床実習を行う。ルーブリックを活用した上、2年次は「観察」、3年次は「検査・訓練」、4年次は「総合」と段階的な実習内容を展開する。また3年次には保育園、高齢者福祉施設での実習を配置し、幼児から高齢者まで幅広い年齢に合わせたコミュニケーションスキルを修得させる。成果は学外実習で評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	高い人間性と倫理性を備え、異文化理解と寛容な態度をもって対象者とコミュニケーションをとりながら、対象者のQOL向上を支援できる。	視覚障害を理解して対象者の心に寄り添い、質の高いサポートができる力を育成するために、1年次に同行援護従業者の資格が取得できる科目を配置する。3年次には、特別支援学校（盲学校）などでの学外実習を配置し、視覚障害者への理解を深めるとともに、職業倫理を身につけさせる。成果は資格取得率と学外実習で評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	横断的・融合的な知見に基づいて、視覚機能に関し論理的に思考し、科学的根拠に基づく的確な判断ができる。	視能訓練士としての専門性を向上させ、視覚機能学の知識、技術を統合し科学的・論理的に問題解決する力を育む。そのために4年間を通じてアクティブラーニングを習慣化させる。また1年次から段階的に専門科目を配置した上で、3年次には総合演習、卒業研究計画、4年次には卒業研究を配置する。成果は卒業研究で評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	自らの専門性を高める意欲を有し、加えて広く国内外の社会の動向に関心をもって専門的知識・技能を学び続けることができる。	確かな臨床実践能力を身につけ、視能訓練士の将来像を具現化するために、2年次から4年次まで段階的に4つの学外実習を配置する。社会についても広く学べるように、様々な職業や背景をもった学外講師による講演会を開催する。国内のみならず、国際社会の動向に関心をもたせるために海外研修への参加を奨励する。卒業後も生涯に渡って研鑽を続けられるように、専門職組織への入会や学会・研究会への出席を奨励する。成果は学外実習、卒業研究で評価する。

カリキュラム表

視機能科学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数：　6単位以上

視機能科学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	8	0	225	
		保健医療福祉科目計　(②＋③)				1	41	0	735	卒業要件単位数：　８単位以上
		全学科共通科目計Ⓐ　(①＋②＋③)				7	67	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

視機能科学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	解剖学	200025	1	前期	2			30	
		解剖学実習	200030	1	後期	1			30	
		生理学	200055	1	前期	2			30	
		眼科学Ⅰ	260000	1	後期	2			30	
		眼科学Ⅱ	260005	2	前期	2			30	
		全身疾患と眼	260320	2	前期	1			15	
		小児科学	200150	2	前期	1			15	
		神経科学概論	260010	2	前期	1			15	
		臨床心理学	200105	1	後期	2			30	
		学習・認知心理学	200115	2	前期	2			30	
		感染防御と管理	260015	1	後期	1			15	
		救急蘇生法	260020	2	後期	1			15	
		聴覚系構造・機能・病態	200120	1	前期	1			15	
		視覚系構造・機能・病態	260025	1	前期	2			30	
		基礎生理光学	260031	1	前期	2			30	
		基礎生理光学実習	260250	1	前期	1			30	
		眼鏡学	260325	2	後期	2			30	
		医用機器学概論	260035	1	後期	1			15	
		公衆衛生学	200085	1	前期	1			15	
		同行援護概論	260255	1	後期	2			30	
		同行援護演習	260260	1	後期	1			30	
		視覚機能連携医療	260040	2	前期	1			15	
		保健医療福祉関連法規	260045	2	後期	1			15	
		カウンセリング論	260050	2	後期	2			30	
		保健統計学	200146	2	後期	2			30	
		小計④				37	0	0	600	卒業要件単位数：　３７単位以上

視機能科学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	視覚機能学概論	260055	1	前期	1			15	
		視覚機能学Ⅰ	260060	1	前期	2			30	
		視覚機能学Ⅱ	260065	1	後期	2			30	
		視覚機能学Ⅲ	260070	2	前期	2			30	
		視覚機能学演習Ⅰ	260075	2	前期	1			30	
		視覚機能学演習Ⅱ	260080	2	後期	1			30	
		視覚機能学演習Ⅲ	260330	3	前期	1			30	
		生理光学	260265	2	前期	3			45	
		生理光学実習	260090	2	後期	1			30	
		視覚生理学	260270	1	後期	2			30	
		視覚生理学実習	260100	2	前期	2			60	
		視覚機能検査学Ⅰ	260315	1	後期	2			30	
		視覚機能検査学Ⅱ	260110	2	前期	2			30	
		視覚機能検査学Ⅲ	260275	2	後期	2			30	
		眼科薬理学	260280	2	前期	1			15	
		神経眼科学	260135	2	後期	2			30	
		視覚機能評価学	260140	3	前期	2			30	
		視覚機能学研究法	260286	2	後期		1		15	
		眼鏡作製技能演習Ⅰ	260335	3	前期		1		30	
		眼鏡作製技能演習Ⅱ	260340	3	後期		1		30	
		視覚機能訓練学Ⅰ	260145	2	後期	2			30	
		視覚機能訓練学Ⅱ	260150	3	前期	2			30	
		視覚機能学実習Ⅰ	260165	1	後期	3			90	
		視覚機能学実習Ⅱ	260170	2	前期	3			90	
		視覚機能学実習Ⅲ	260175	2	後期	3			90	
		視覚機能学実習Ⅳ	260180	3	前期	3			90	
		視覚機能学実習Ⅴ	260185	3	前期	3			90	
		視覚総合演習Ⅰ	260190	3	前期	1			30	
		視覚総合演習Ⅱ	260195	4	前期	1			30	
		視覚機能学応用論Ⅰ	260295	4	前期	1			15	
		視覚機能学応用論Ⅱ	260300	4	後期	3			45	
		多職種連携実習	260345	3	後期	3			135	
		臨床実習Ⅰ(観察)	260220	2	後期	1			45	
		臨床実習Ⅱ(検査・訓練)	260226	3	後期	8			360	
		臨床実習Ⅲ(総合)	260311	4	前期	4			180	
		卒業研究計画	260235	3	後期	1			15	
		卒業研究Ⅰ	260240	4	前期	1			30	
		卒業研究Ⅱ	260245	4	後期	1			30	
		小計⑤				73	3	0	2,025	卒業要件単位数：　７３単位以上
	専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)					110	3	0	2,625	卒業要件単位数：１１０単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						117	70	0	4,215	卒業要件：４年以上在学し， かつ１２４単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：視能訓練士

・学外実習

学内で学んだ知識・技術を発展させ、関連職種との連携を学びます。視能訓練士に必要とされる視覚機能の論理的思考および科学的根拠に基づく的確な判断・評価を修得することを目的とします。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
臨床実習Ⅰ （必修）	2年次後期 （1週間）	医療機関	見　学 業務の理解
多職種連携実習 （必修）	3年次後期 （3週間）	高齢者福祉施設、 保育園・幼稚園、 視覚障害関連施設、眼鏡店	見　学 多職種連携の理解
臨床実習Ⅱ （必修）	3年次後期 （8週間）	医療機関	検査・訓練 評　価
臨床実習Ⅲ （必修）	4年次前期 （4週間）	医療機関	総　合 知識および技術の統合

・履修基準

（1）臨床実習Ⅱ

第3年次に開講される「臨床実習Ⅱ」を履修するためには、第3年次前期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊解剖学　＊解剖学実習　＊生理学　＊眼科学Ⅰ　＊眼科学Ⅱ　＊全身疾患と眼
＊小児科学　＊神経科学概論　＊臨床心理学　＊学習・認知心理学　＊感染防御と管理
＊救急蘇生法　＊聴覚系構造・機能・病態　＊視覚系構造・機能・病態　＊基礎生理光学
＊医用機器学概論　＊公衆衛生学　＊同行援護概論　＊視覚機能連携医療
＊保健医療福祉関連法規　＊カウンセリング論　＊保健統計学　＊基礎生理光学実習
＊同行援護演習　＊眼鏡学

専門専攻科目群

＊視覚機能学概論　＊視覚機能学Ⅰ　＊視覚機能学Ⅱ　＊視覚機能学Ⅲ
＊視覚機能学演習Ⅰ　＊視覚機能学演習Ⅱ　＊視覚機能学演習Ⅲ　＊生理光学
＊生理光学実習　＊視覚生理学　＊視覚生理学実習　＊視覚機能検査学Ⅰ
＊視覚機能検査学Ⅱ　＊眼科薬理学　＊視覚機能評価学　＊視覚機能訓練学Ⅱ
＊視覚機能学実習Ⅰ　＊視覚機能学実習Ⅱ　＊視覚機能学実習Ⅲ　＊視覚機能学実習Ⅳ
＊視覚機能学実習Ⅴ　＊視覚総合演習Ⅰ　＊臨床実習Ⅰ（観察）

（2）臨床実習Ⅲ

第4年次に開講される「臨床実習Ⅲ」を履修するためには、第3年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊多職種連携実習　＊臨床実習Ⅱ（検査・訓練）　＊卒業研究計画

取得できる資格と免許

■ 視能訓練士国家試験受験資格　…卒業により取得可

視能訓練士は、眼や脳に関する病気の診断・治療のための「眼科一般検査」、視機能の維持・回復を図る「視能矯正・訓練」、視覚障害のある方への補助具の選定や生活指導を行う「視覚リハビリテーション」、乳幼児健診や生活習慣病健診などで「視機能の健康管理」を行うスペシャリストです。

活躍の場　視能訓練士は、主に大学病院、総合病院、眼科専門病院、眼科クリニックなどの医療機関に勤務し活躍しています。高齢社会での視覚障害者の増加により、今後、視覚障害日常生活訓練施設や特別支援学校（視覚障害）からの需要も見込まれます。さらに、乳幼児から高齢者までの「眼の健康」を守る業務として、健診センターでの業務など幅広いフィールドでの活躍が期待できます。

視能訓練士国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣が指定した学校または厚生労働大臣が指定した視能訓練士養成施設において、３年以上視能訓練士として必要な知識および技能を修得しなければなりません。

視機能科学科は、文部科学大臣より視能訓練士学校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、視能訓練士国家試験の受験資格が得られます。

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（視能訓練士課程）												
						基礎分野			専門基礎分野				専門分野					計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	視覚機能の基礎と検査機器	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	基礎視能矯正学	視能検査学	視能障害学	視能訓練学	臨地実習	
			必修	選択		14			8	9	8	7	12	11	6	10	16	101
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30	①	①											6
	情報処理Ⅰ	1前	1		30	①	①											
	情報処理Ⅱ	1後	1		30	①	①											
	情報処理Ⅲ	2前		1	30	①	①											
	英語Ⅰ	1前	1		30	①	①											
	英語Ⅱ	1後	1		30	①	①											
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前		1	30	①	①											
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後		1	30	①	①											
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4後		1	30	①	①											
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30	①	①											
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30	①	①											
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30	①	①											
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30	①	①											
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30	①	①											
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30	①	①											
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30	①	①											
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30	①	①											
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15	①	①											
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15	①	①											
	スポーツ・健康	1後	1		30	①	①											
	スポーツ・実践	2・3・4前後		1	30	①	①											
	哲学	1前		1	15	①	①											
	倫理学	1後		1	15	①	①											
	ジェンダー論	1前		1	15	①	①											
	科学論	1後		1	15	①	①											
	情報科学	1後		1	15	①	①											
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30	①												
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30	①												
小計						6			0	0	0	0	0	0	0	0	0	6

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（視能訓練士課程）											
						基礎分野			専門基礎分野				専門分野					
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	視覚機能の基礎と検査機器	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	基礎視能矯正学	視能検査学	視能障害学	視能訓練学	臨地実習	計
			必修	選択		14			8	9	8	7	12	11	6	10	16	101
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	1前		1	15	①	①											
	コミュニケーション学入門	1前		1	15	①	①											
	対人コミュニケーション論	1後		1	15	①	①											
	心理学の世界	1後		1	15	①	①											
	人間を知る	1前		1	15	①	①											
	命の倫理	1後		1	15	①	①											
	ＱＯＬの世界	1後		1	15	①	①											
	こどもの世界	1後		1	15	①	①											
	アスリートの世界	1前		1	15	①	①											
	臨床医の世界	1後		1	15	①	①											
	加齢と身体	1後		1	15	①	①											
	食を楽しむ	1前		1	15	①	①											
	眼の神秘	1前		1	15	①	①											
	義肢装具の世界	1後		1	15	①	①											
	新潟学	1後		1	15	①	①	①										
	国際保健の世界	1後		1	15	①	①	①										
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1	15	①	①	①										
	現代社会と経済	1前		1	15	①	①	①										
	法学Ⅰ	1後		1	15	①	①	①										
	法学Ⅱ	1後		1	15	①	①	①										
	臨床の哲学	1前		1	15	①	①											
	臨床技術の世界	1前		1	15	①	①											
	留学の魅力	1前		1	15	①	①											
	シティズンシップ教育入門	1後		1	15	①	①											
	放射線の基礎と人体への影響	1前		1	15	①	①											
	新潟水俣病の理解	1前		1	15	①	①											
	一次救命処置法	1前		1	15	①	①											
	東洋医学的養生	1前		1	15	①	①											
	自然人類学概論	1後		1	15	①	①											
	データサイエンス概論	1後		1	30	①	①											
	アスリートサポートの世界	1後		1	15	①	①											
	比較認知科学の世界	1前		1	15	①	①											
	アカデミック・ライティング	1後		1	15	①	①											
保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	2後	1		30	①	①	①										
	チームアプローチ入門	1後		1	15	①	①	①										
	保健医療福祉連携学	2・3前		1	15	①	①	①										
	地域連携学	3前		1	15	①	①	①										
	連携総合ゼミ	3後・4前		1	30	①	①	①										
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30	①	①	①										
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30	①	①	①										
	国際交流演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30	①	①	①										
	国際交流演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30	①	①	①										
小計						1			0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
						選択 7												

履修方法及び卒業要件：必修１単位を含む８単位以上を履修。ただし、チームアプローチ入門、保健医療福祉連携学、地域連携学、連携総合ゼミの中から２単位以上を履修

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（視能訓練士課程）												
						基礎分野			専門基礎分野				専門分野					計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	視覚機能の基礎と検査機器	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	基礎視能矯正学	視能検査学	視能障害学	視能訓練学	臨地実習	
			必修	選択			14			8	9	8	7	12	11	6	10	16	101
専門基礎科目群	解剖学	1前	2		15	必修37単位を履修				②									37
	解剖学実習	1後	1		30					①									
	生理学	1前	2		15					②									
	眼科学Ⅰ	1後	2		15						②								
	眼科学Ⅱ	2前	2		15						②								
	全身疾患と眼	2前	1		15						①								
	小児科学	2前	1		15						①								
	神経科学概論	2前	1		15						①								
	臨床心理学	1後	2		15					②									
	学習・認知心理学	2前	2		15					②									
	感染防御と管理	1後	1		15						①								
	救急蘇生法	2後	1		15						①								
	聴覚系構造・機能・病態	1前	1		15						①								
	視覚系構造・機能・病態	1前	2		15							②							
	基礎生理光学	1前	2		15							②							
	基礎生理光学実習	1前	1		30							①							
	眼鏡学	2後	2		15							②							
	医用機器学概論	1後	1		15							①							
	公衆衛生学	1前	1		15								①						
	同行援護概論	1後	2		15								②						
	同行援護演習	1後	1		30								①						
	視覚機能連携医療	2前	1		15								①						
	保健医療福祉関連法規	2後	1		15								①						
	カウンセリング論	2後	2		15								②						
	保健統計学	2後	2		15								②						
	小計					37		0		9	10	8	10	0	0	0	0	0	37

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容						別表第１（視能訓練士課程）											
						基礎分野			専門基礎分野				専門分野					
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	視覚機能の基礎と検査機器	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	基礎視能矯正学	視能検査学	視能障害学	視能訓練学	臨地実習	計
			必修	選択			14			8	9	8	7	12	11	6	10	16	101
専門専攻科目群	視覚機能学概論	1前	1		15	必修73単位を含む73単位以上を履修								①					73
	視覚機能学Ⅰ	1前	2		15									②					
	視覚機能学Ⅱ	1後	2		15									②					
	視覚機能学Ⅲ	2前	2		15									②					
	視覚機能学演習Ⅰ	2前	1		30									①					
	視覚機能学演習Ⅱ	2後	1		30											①			
	視覚機能学演習Ⅲ	3前	1		30											①			
	生理光学	2前	3		15									③					
	生理光学実習	2後	1		30									①					
	視覚生理学	1後	2		15									②					
	視覚生理学実習	2前	2		30									②					
	視覚機能検査学Ⅰ	1後	2		15										②				
	視覚機能検査学Ⅱ	2前	2		15										②				
	視覚機能検査学Ⅲ	2後	2		15										②				
	眼科薬理学	2前	1		15										①				
	神経眼科学	2後	2		15											②			
	視覚機能評価学	3前	2		15											②			
	視覚機能学研究法	2後		1	15		①												
	眼鏡作製技能演習Ⅰ	3前		1	30									①					
	眼鏡作製技能演習Ⅱ	3後		1	30									①					
	視覚機能訓練学Ⅰ	2後	2		15												②		
	視覚機能訓練学Ⅱ	3前	2		15												②		
	視覚機能学実習Ⅰ	1後	3		30										③				
	視覚機能学実習Ⅱ	2前	3		30										③				
	視覚機能学実習Ⅲ	2後	3		30										③				
	視覚機能学実習Ⅳ	3前	3		30												③		
	視覚機能学実習Ⅴ	3前	3		30												③		
	視覚総合演習Ⅰ	3前	1		30											①			
	視覚総合演習Ⅱ	4前	1		30											①			
	視覚機能学応用論Ⅰ	4前	1		15												①		
	視覚機能学応用論Ⅱ	4後	3		15												③		
	多職種連携実習	3後	3		45													③	
	臨床実習Ⅰ（観察）	2後	1		45													①	
	臨床実習Ⅱ（検査・訓練）	3後	8		45													⑧	
	臨床実習Ⅲ（総合）	4前	4		45													④	
	卒業研究計画	3後	1		15		①												
	卒業研究Ⅰ	4前	1		30		①												
	卒業研究Ⅱ	4後	1		30		①												
	小計					73	0			0	0	0	0	16	16	8	14	16	73
卒業要件単位数（最低単位数）						124	17			9	10	8	10	16	16	8	14	16	124
指定規則に対する増単位数							3			1	1	0	3	4	5	2	4	0	23

■ 眼鏡作製技能士国家検定試験受験資格　…指定科目の単位の修得により取得可

「眼鏡作製技能士（国家検定資格）」とは、眼鏡を購入する際に必要となる、視力の測定、レンズ加工、フレームのフィッティング等を行う職種です。近年、子供の近視の割合の増加や高齢化に伴う目の衰え等、眼鏡作製に関わるニーズが多様化している現状で、適切な眼鏡作製の技能や知識がより一層求められるようになりました。

視能訓練士・眼鏡作製技能士二つの資格取得者の活躍の場

二つの資格取得により、臨床現場で眼鏡処方の検査を担う「視能訓練士（国家資格）」が、「眼鏡作製技能士（国家検定資格）」の知識や心得を修得し、より高いレベルでの業務遂行が可能になります。また、眼鏡店分野への就職につながる等、将来の活躍の場の選択肢が拡大することが期待されます。

■ 同行援護従業者　…指定科目の単位の修得により取得可

同行援護従業者は、視覚障害により、移動に著しい困難を有する方々の外出時において、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護（代筆・代読を含む）など厚生労働省令で定められた障害福祉サービスに従事します。視覚障害者の外出時の安全と社会参加を促し、自立を支援するための資格です。

活躍の場　同行援護従業者は、社会福祉協議会や同行援護事業を運営する事業所に登録し業務にあたります。近年、視覚障害者の増加により、同行援護の利用者が増加しています。

救急救命学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	救急救命士に必要な専門的知識・技能を身につけるとともに、その専門性を十分理解し、必要な知識・技能を活用できる。	基礎医学、臨床医学、災害や防災についての基礎的知識を学習するために専門基礎科目を配置する。救急救命専門領域のより専門的・発展的事項を学習し、救急救命技術を修得するために専門専攻科目を年次に従って段階的に配置する。学習にあたっては、学生個々の特性に対応した支援を行う。成果は、国家試験合格率・資格取得率で評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	救急救命士の立場からリーダーシップを発揮したチームアプローチによって、対象者を支援しQOL向上に貢献することができる。	国際化した社会において、チーム医療の一員として対象者のサポートにあたる救急救命士の役割を認識し、協調性、コミュニケーション力、リーダーシップを身につけるために他学科と合同で実施する保健医療福祉連携科目や専門科目・実習を配置する。成果は、連携総合ゼミ、臨地実習で評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	情報化・異文化融合社会で求められる情報収集・分析能力を養い、保健医療福祉スポーツ分野の職種を横断的・融合的に理解することで、教養的知識を修得し、豊かな人間性・倫理性・専門性を育み、対象者の支援に貢献することができる。	幅広い教養や対象者に共感し、支援できる素養を涵養するために、全学共通科目を配置する。救急救命士として地域・社会で活躍できる素養を身につけるために専門科目を配置する。成果は、実習試験（OSCE：客観的臨床能力試験）、臨地実習で評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	救急救命士の専門的知識と技術、教養的知識を対話・コミュニケーションを通じて総合的に活用し、計画（P）・実行（D）・評価（C）・改善（A）のPDCAサイクルを繰り返すことで、問題を解決することができる。	問題を発見する能力、解答への道筋をみつけだす能力、解答を創造する能力を高めるためにゼミ形式の授業を配置する。PBL（課題解決型学習）に基づく個人および小グループでのアクティブラーニングにより、問題提起から論理的思考による解決、その過程のまとめと発表までの工程を経験し、論理的思考に基づく問題解決力を修得する。成果は、卒業研究Ⅱにより評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	異文化・多職種理解を通じて、救急救命士の専門性を理解した上で、自身のキャリアプランを形成し主体的に自己研鑽することができる。	地域社会の中での救急救命士の役割を理解し、優れたQOLサポーターとして自主的・継続的に自己研鑽に努める心構えを身につけるため、ゼミ形式による科目も含め、専門科目を1年次から4年間にわたって配置する。成果は、科目試験およびゼミ授業により評価する。

カリキュラム表

救急救命学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数：　6単位以上

救急救命学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	8	0	225	
		保健医療福祉科目計　(②＋③)				1	41	0	735	卒業要件単位数：　８単位以上
		全学科共通科目計Ⓐ　(①＋②＋③)				7	67	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

救急救命学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	公衆衛生学	270000	1	前期	2			30	
		人体の構造と機能Ⅰ	270005	1	前期	4			60	
		人体の構造と機能Ⅱ	270010	1	前期	4			60	
		疾患の成り立ちと回復の過程Ⅰ	270015	1	後期	2			30	
		疾患の成り立ちと回復の過程Ⅱ	270020	1	後期	2			30	
		疾病・病態学総論	270025	1	前期	2			30	
		救急症候学Ⅰ	270030	1	後期	2			30	
		救急症候学Ⅱ	270035	2	前期	2			30	
		救急病態生理学	270040	2	前期	2			30	
		疾病救急医学Ⅰ	270045	2	後期	2			30	
		疾病救急医学Ⅱ	270050	2	前期	2			30	
		疾病救急医学Ⅲ	270055	2	前期	2			30	
		小児科学	270060	2	前期	2			30	
		産婦人科学	270065	2	後期	1			15	
		整形外科学	270070	2	前期	2			30	
		脳外科学	270075	2	後期	2			30	
		精神医学	270080	2	後期	1			15	
		病院前医学概論	270085	1	前期	2			30	
		専門体育基礎	270090	1	前期	1			30	
		専門体育実践Ⅰ	270095	2	前期	1			30	
		専門体育実践Ⅱ	270101	3	前期	1			30	
		地域災害・防災論	270111	2	前期	2			30	
小計④						43	0	0	690	卒業要件単位数：　４３単位以上

救急救命学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	救急救命処置概論	270115	2	後期	2			30	
		救急救命処置学Ⅰ	270120	2	前期	2			30	
		救急救命処置学Ⅱ	270125	2	後期	2			30	
		救急蘇生学	270130	2	後期	2			30	
		臨床病態学Ⅰ	270135	3	前期	2			30	
		臨床病態学Ⅱ	270140	3	前期	2			30	
		臨床病態学Ⅲ	270145	3	前期	2			30	
		臨床病態学Ⅳ	270150	3	前期	2			30	
		外傷救急医学Ⅰ	270155	2	後期	2			30	
		外傷救急医学Ⅱ	270160	3	前期	2			30	
		環境障害学・急性中毒学	270165	2	後期	2			30	
		救急統計学	270170	3	前期	2			30	
		救急救命活動基本実習Ⅰ	270175	1	前期	3			135	
		救急救命活動基本実習Ⅱ	270180	1	後期	3			135	
		救急救命活動高度実習Ⅰ	270185	2	前期	4			180	
		救急救命活動高度実習Ⅱ	270190	2	後期	4			180	
		救急救命活動総合実習	270195	3	前期	3			135	
		救急車同乗実習	270200	3	後期	4			180	
		医療機関実習	270205	3	後期	4			180	
		コミュニケーション演習（高齢者）	270210	1	前期	1			30	
		コミュニケーション演習（小児）	270215	1	後期	1			30	
		救急救命高度演習Ⅰ	270220	4	前期	2			60	
		救急救命高度演習Ⅱ	270225	4	後期	2			60	
		救急救命臨床思考演習	270230	3	前期	1			30	
		救急救命基礎ゼミ	270235	2	前期	1			30	
		救急救命ゼミ	270240	3	後期	2			60	
		卒業研究Ⅰ	270245	4	前期	2			60	
		卒業研究Ⅱ	270250	4	後期	2			60	
		救急救命特講Ⅰ	270255	3	前期		2		30	選択科目の中から６単位以上選択し修得すること
		救急救命特講Ⅱ	270260	3	前期		1		15	
		救急救命特講Ⅲ	270265	4	前期		2		30	
		救急救命特講Ⅳ	270270	4	前期		1		15	
		産業保健学	270275	3･4	前期		2		30	
		環境衛生工学	270280	3･4	前期		2		30	
		職業適性論	270285	3･4	前期		1		15	
		労働衛生法規Ⅰ	270290	3･4	前期		2		30	
		労働衛生法規Ⅱ	270295	3･4	前期		2		30	
	小計⑤					63	15	0	2,130	卒業要件単位数：　６９単位以上
専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)						106	15	0	2,820	卒業要件単位数：１１２単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						113	82	0	4,410	卒業要件：４年以上在学し、かつ１２６単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：救急救命士

・学外実習

学内における講義および実習から学んだ知識と技術が、実際の救急現場においてどのように活用されているかを学びます。また、実際の活動現場を見学したり体験したりすることにより、救急救命士の使命感と職務の重要性を理解することを目的とします。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
救急車同乗実習	3年次後期 （4週間）	消防機関	病院前救急活動および 関連事項の学修
医療機関実習	3年次後期 （4週間）	医療機関	見学および 救急処置体験

・履修基準

第3年次に開講される「救急車同乗実習」「医療機関実習」を履修するためには、第3年次前期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊公衆衛生学　＊人体の構造と機能Ⅰ　＊人体の構造と機能Ⅱ
＊疾患の成り立ちと回復の過程Ⅰ　＊疾患の成り立ちと回復の過程Ⅱ　＊疾病・病態学総論
＊救急症候学Ⅰ　＊救急症候学Ⅱ　＊救急病態生理学　＊疾病救急医学Ⅰ
＊疾病救急医学Ⅱ　＊疾病救急医学Ⅲ　＊小児科学　＊産婦人科学　＊整形外科学
＊脳外科学　＊精神医学　＊病院前医学概論　＊専門体育基礎　＊専門体育実践Ⅰ
＊専門体育実践Ⅱ

専門専攻科目群

＊救急救命処置概論　＊救急救命処置学Ⅰ　＊救急救命処置学Ⅱ　＊救急蘇生学
＊臨床病態学Ⅰ　＊臨床病態学Ⅱ　＊臨床病態学Ⅲ　＊臨床病態学Ⅳ
＊外傷救急医学Ⅰ　＊外傷救急医学Ⅱ　＊環境障害学・急性中毒学
＊救急救命活動基本実習Ⅰ　＊救急救命活動基本実習Ⅱ　＊救急救命活動高度実習Ⅰ
＊救急救命活動高度実習Ⅱ　＊救急救命活動総合実習　＊コミュニケーション演習（高齢者）
＊コミュニケーション演習（小児）　＊救急救命臨床思考演習　＊救急救命基礎ゼミ

取得できる資格と免許

■ 救急救命士国家試験受験資格　…卒業により取得可

救急救命士は、傷病者を現場から医療機関に搬送するまでの間、また搬送後の救急処置室から病棟に入院するまでの間に、医学的知識に基づく問診・視診・触診・聴診などの観察によって傷病者の状態を評価し、救急救命処置を施すスペシャリストです。

救急救命士には、医師の具体的な指示のもと、静脈路確保による乳酸リンゲル液の輸液、心停止傷病者に対するアドレナリンの投与、低血糖傷病者に対するブドウ糖溶液の投与、さらには気道確保が困難な傷病者に対する気管挿管など、高度な救急救命処置を行うことが認められています。特に現場

から医療機関へ搬送するまでの医師がいない状況下では、傷病者の生命を救うリーダーとして重要な役割を担っています。

活躍の場 救急救命士は、病院前救護を担っている消防機関や自衛隊、海上保安庁などに勤務することで、その資格を最大限に発揮することができます。近年では、法改正に伴って、救命救急センターなど一部の医療機関でも採用が見込まれています。また、民間救急事業所や警備保険会社においても、救急救命士の知識や技能が求められています。

救急救命士国家試験の受験資格を得るためには、学校教育法に基づく大学において厚生労働大臣が指定する科目（指定科目）を修めて卒業しなければなりません。

救急救命学科では、以下の科目を履修して卒業することで、救急救命士国家試験の受験資格が得られます。

指定科目	本学開設科目	配当年次	単位数	時間数	合計
公衆衛生学	公衆衛生学	1	2	30	30
解剖学	人体の構造と機能Ⅰ	1	4	60	120
	人体の構造と機能Ⅱ	1	4	60	
生理学	人体の構造と機能Ⅰ	1	(4)	(60)	(120)
	人体の構造と機能Ⅱ	1	(4)	(60)	
薬理学	疾患の成り立ちと回復の過程Ⅱ	1	2	30	30
病理学	疾患の成り立ちと回復の過程Ⅰ	1	2	30	30
	疾患の成り立ちと回復の過程Ⅱ	1	(2)	(30)	
生化学	人体の構造と機能Ⅰ	1	(4)	(60)	(120)
	人体の構造と機能Ⅱ	1	(4)	(60)	
微生物学	疾患の成り立ちと回復の過程Ⅱ	1	(2)	(30)	(60)
	疾病救急医学Ⅱ	2	(2)	(30)	
内科学	疾病・病態学総論	1	2	30	180
	救急症候学Ⅰ	1	2	30	
	救急症候学Ⅱ	2	2	30	
	救急病態生理学	2	2	30	
	疾病救急医学Ⅰ	2	2	30	
	疾病救急医学Ⅱ	2	2	30	
外科学	疾病救急医学Ⅲ	2	2	30	90
	外傷救急医学Ⅰ	2	2	30	
	外傷救急医学Ⅱ	3	2	30	
小児科学	小児科学	2	2	30	30
産婦人科学	産婦人科学	2	1	15	15
整形外科学	整形外科学	2	2	30	30
脳外科学	脳外科学	2	2	30	30
精神医学	精神医学	2	1	15	15
放射線医学	環境障害学・急性中毒学	2	2	30	30
臨床実習	救急救命活動基本実習Ⅰ	1	3	135	1125
	救急救命活動基本実習Ⅱ	1	3	135	
	救急救命活動高度実習Ⅰ	2	4	180	
	救急救命活動高度実習Ⅱ	2	4	180	
	救急救命活動総合実習	3	3	135	
	救急車同乗実習	3	4	180	
	医療機関実習	3	4	180	
		合計	67	1755	1755

※単位数および時間数の（ ）は、重複を示す。したがって、両欄の合計は、（ ）を除いた数の合計となる。

■ 第一種衛生管理者免許　　…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

50人以上が働く事業場では、必ず衛生管理者を置くことが法令で定められており、第一種衛生管理者は、あらゆる事業場における安全衛生業務のうち、衛生に関わる技術的な事項を管理する役割を担うための国家資格です。具体的な役割としては、労働者の健康障害を防止するための作業環境管理、作業管理および健康管理、労働衛生教育の実施、健康の保持増進措置などがあります。

活躍の場　第一種衛生管理者免許を取得すると、危険有害性の伴う業務を行う事業所も含め、あらゆる事業場において衛生管理者となることができます。

第一種衛生管理者の免許を取得するには、労働安全衛生規則別表第四の第一種衛生管理者免許の項下欄第三号の「学校教育法による大学において、保健衛生に関する学科を専攻して卒業した者で労働衛生に関する講座または学科目を修めたもの」に該当する科目を履修しなければなりません。

救急救命学科では、以下の科目を履修して卒業することで、第一種衛生管理者免許が得られます。

法令に定める科目		本学開設科目					
必要教科	単位数	授業科目名	配当年次	単位数			備考
				必修	選択	計	
労働衛生（※1）	5	産業保健学	3・4		2	6以上	1科目以上履修
		環境衛生工学	3・4		2		
		公衆衛生学	1	2			
		救急救命処置概論	2	2			
労働生理（※2）	3	人体の構造と機能Ⅰ	1	4		13	
		人体の構造と機能Ⅱ	1	4			
		産業保健学	3・4		（2）		（※4）
		疾患の成り立ちと回復の過程Ⅰ	1	2			
		疾患の成り立ちと回復の過程Ⅱ	1	2			
		職業適性論	3・4		1		
関係法令（※3）	4	労働衛生法規Ⅰ	3・4		2	4	2科目とも履修
		労働衛生法規Ⅱ	3・4		2		

※1　「労働衛生」の細目：衛生管理体制、作業環境要素、職業性疾病、作業環境管理、作業管理、健康管理、メンタルヘルス対策、健康の保持増進対策、労働衛生教育、労働衛生管理統計、救急処置、事業場における安全衛生の水準の向上を図ることを目的として事業者が一連の課程を定めて行う自主的活動（危険性または有害性等の調査およびその結果に基づき講ずる措置を含む。）

※2　「労働生理」の細目：人体の組織および機能、環境条件による人体の機能の変化、労働による人体の機能の変化、疲労およびその予防、職業適性

※3　「関係法令」の細目：労働基準法、労働安全衛生法、作業環境測定法およびじん肺法並びにこれらに基づく命令中の関係条項

※4　「産業保健学」の一部の内容は、「労働生理」にも該当するため、単位数に（　）を付記し、再掲している。

■ 防災士　　…所定要件の充足により取得可

防災士は、特定非営利活動法人（NPO法人）日本防災士機構が認証する資格です。「自助、共助、協働」の理念に基づき、平時には、自分の身を守るための防災・減災に関する知識を習得するとともに、地域の人々にその知識の普及を図る役割を担います。災害が発生した場合には、地域の避難所の運営、公的支援が到着するまでの被害の軽減、被災者支援活動などにおいてリーダーシップを発揮することが求められています。

活躍の場　防災士は、自身が住んでいる地域で主体的に発揮できる資格です。また、災害発生時の被災地域でさまざまな支援をすることにも役立ちます。

防災士資格を取得するには、下記に示す①～③までの課程を全て履修し、修了及び合格することを基本３要件とします。

① 防災士資格取得希望者は、機構の認証した研修機関（本学）が実施する「防災士養成研修（地域災害・防災論）」を受講すること。

本学における開設科目	配当年次	単位数	時間数
地域災害・防災論	2	2	30

② 防災士養成研修を修了した者は、日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」を受験して合格すること（全30問、80％正答で合格）。

③ 防災士資格取得希望者は、救急救命講習を受講して、修了証、受講証等を取得すること。なお、本学においては、「救急救命活動基本実習Ⅰ」を履修することにより、上記の要件は満たされる。

診療放射線学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	診療放射線技師に必要とされる科学的知識と技術を習得し、幅広い教養と見識から臨床現場や研究分野で活用できる。	新しい知識と技術を活用する力を修得し、豊かな人間性を備え、時代の求める診療放射線技師として活躍できる人材を育成する。診療放射線技師として必要な臨床医学、放射線科学を学ぶ専門基礎科目群、画像解剖学、画像診断学、診療画像検査技術学などの専門専攻科目群を配置し、得られた画像から各症例の診断に適した画像構築について学ぶ。成果は国家試験合格率などで評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	診療放射線技師として必要な技術と多職種連携の技能を有し、グローバル社会の一員として、様々な状況でも良好なコミュニケーションを図りながら職務を遂行できる。	関連する医療専門職が連携・協働し、チーム医療・チームアプローチを通して、医療人としての基礎知識や技術を高める臨床実習や診療放射線学概論、診療放射線学特論の中で、コミュニケーション力やリーダーシップのあり方を習得し、さらにグローバル社会の一員として、様々な状況でも良好なコミュニケーションを図りながら職務を遂行できる能力を養う。成果は臨床実習などで評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	診療放射線技師として高い倫理観と責任感を有し、対象者の人権を尊重するとともに、コミュニケーションによって地域社会の活性化や対象者のQOL向上に取り組むことができる。	幅広い教養と高い倫理観を身につけ、対象者に共感し、人間味のある高度医療人として支援する力を修得するため、救急医療学、公衆衛生学、情報科学などの専門基礎科目群、診療画像検査技術、画像診断学、核医学検査技術学、放射線治療技術学などの専門専攻科目群を配置する。成果は実践臨床画像学、臨床実習などで評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	診療放射線技師として必要な専門知識と技能などの論理的思考力を有し、他の専門領域の知見も活かしながら、様々な状況でも総合的な判断のもと問題解決ができる。	論理的に思考し議論する能力と、問題を解釈し解決する能力を修得するため、放射線安全管理学、医療安全管理学などの専門専攻科目群を配置し、PBL（問題解決型授業）を取り入れた講義を行う。また、論理的思考による解決への道筋を見い出す力を修得するために卒業研究を配置する。成果は卒業研究などで評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	国内外を問わず、最新の医療・診療放射線技術の進歩や社会変化に広く関心をもち、生涯を通じて主体的・意欲的に知識および技術を習得し、それらを適切な場で発信することができる。	地域医療や救急医療における診療放射線技師の役割を理解し、優れたQOLサポーターとして、自主的・継続的に自己研鑽に努める心構えを身につけるため、専門専攻科目群として実践臨床画像学、画像診断学、バイオデザイン論、医療経営論を配置する。成果は臨床実習、卒業研究などで評価する。

カリキュラム表

診療放射線学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数： 6単位以上

診療放射線学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	選択	自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	8	0	225	
		保健医療福祉科目計 (②＋③)				1	41	0	735	卒業要件単位数： ８単位以上
		全学科共通科目計Ⓐ (①＋②＋③)				7	67	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

診療放射線学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門基礎科目群	医学概論	280000	1	前期	2			30	
		人体の構造と機能Ⅰ	280005	1	前期	2			30	
		人体の構造と機能Ⅱ	280010	1	後期	2			30	
		臨床解剖学	280015	1	前期	2			30	
		生理学	200055	1	前期	2			30	
		生化学	280020	1	後期	1			15	
		臨床薬理学	280025	1	後期	1			15	
		公衆衛生学	200085	1	後期	1			15	
		救急医療学	280030	1	後期	2			30	
		感染症・免疫学	280035	2	前期		1		15	
		電気電子工学	280040	1	前期	2			30	
		電気電子工学演習	280400	1	後期	1			30	
		放射線生物学	280050	2	前期	2			30	
		放射線生物学演習	280055	2	後期		1		30	
		放射化学	280060	2	前期	2			30	
		放射化学演習	280065	2	後期		1		30	
		放射線物理学	280070	2	前期	2			30	
		放射線物理学演習	280075	2	後期	1			30	
		放射線計測学	280080	2	後期	2			30	
		放射線計測学演習	280085	3	前期	1			30	
		医療統計学	280095	3	前期	2			30	
		情報科学概論	280105	1	前期	2			30	
		情報科学演習	280110	1	後期	1			30	
小計④						33	3	0	630	卒業要件単位数： ３５単位以上

診療放射線学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	診療画像検査技術学Ⅰ	280115	2	前期	2			30	
		診療画像検査技術学Ⅱ	280120	2	後期	2			30	
		診療画像検査技術学Ⅲ	280125	3	前期	2			30	
		診療画像検査技術学実習Ⅰ	280130	3	前期	1			30	
		診療画像検査技術学実習Ⅱ	280135	3	後期	1			30	
		診療画像検査機器学Ⅰ	280140	2	前期	2			30	
		診療画像検査機器学Ⅱ	280145	2	後期	2			30	
		診療画像検査機器学実習	280150	2	後期	1			30	
		画像解剖学	280155	2	前期	2			30	
		画像解剖学演習	280160	2	後期	1			30	
		画像診断学Ⅰ	280165	3	前期	2			30	
		画像診断学Ⅱ	280170	3	後期	2			30	
		画像診断学演習	280175	3	後期	1			30	
		核医学検査技術学Ⅰ	280180	2	後期	2			30	
		核医学検査技術学Ⅱ	280185	3	前期	2			30	
		核医学検査機器学	280190	3	前期	2			30	
		放射性医薬品学	280195	3	後期		1		15	選択科目の中から４単位以上選択し修得すること
		放射線治療技術学Ⅰ	280200	2	後期	2			30	
		放射線治療技術学Ⅱ	280205	3	前期	2			30	
		放射線治療機器学	280210	3	前期	2			30	
		放射線腫瘍学	280215	3	後期	1			15	
		放射線治療品質管理論	280220	3	後期		1		15	
		医療画像情報学Ⅰ	280225	2	前期	2			30	
		医療画像情報学Ⅱ	280230	2	後期	2			30	
		医療画像情報学実習	280235	3	前期	1			30	
		画像工学	280240	2	前期	1			15	
		医療情報学	280245	2	後期		2		30	
		医療情報システム学	280250	3	前期		2		30	
		放射線安全管理学	280255	3	前期	2			30	
		放射線安全管理学実習（放射線計測学実習含）	280405	3	後期	1			30	
		放射線関係法規	280265	3	前期	1			15	
		医療安全管理学	280270	3	前期	2			30	
		医療安全管理学演習	280275	3	後期		1		30	
		実践臨床画像学Ⅰ	280410	3	前期	1			30	
		実践臨床画像学Ⅱ	280415	3	後期	1			30	
		臨床実習Ⅰ（診療画像検査技術学）	280420	4	前期	8			360	
		臨床実習Ⅱ（核医学検査技術学）	280285	4	前期	2			90	
		臨床実習Ⅲ（放射線治療技術学）	280290	4	前期	2			90	
		診療放射線学概論	280295	1	後期	2			30	
		救急撮影技術学	280300	3	後期		1		15	選択科目の中から３単位以上選択し修得すること
		救急チーム医療論	280305	3	後期		1		15	
		死亡時画像診断学	280310	3	後期		1		15	
		放射線被曝管理論	280425	3	後期		1		15	
		バイオデザイン概論	280430	3	後期		1		15	
		医療経営論	280435	3	後期		1		15	
		総合演習Ⅰ	280320	4	前期	2			60	
		総合演習Ⅱ	280325	4	後期	2			60	
		診療放射線学特論	280330	3	後期	2			30	
		卒業研究Ⅰ	280335	4	前期	2			60	
		卒業研究Ⅱ	280340	4	後期	2			60	
		小計⑤				72	13	0	1,905	卒業要件単位数：　７９単位以上
		専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)				105	16	0	2,535	卒業要件単位数：１１４単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						112	83	0	4,125	卒業要件：４年以上在学し、かつ１２８単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：診療放射線技師

・学外実習

診療放射線技師としての責務、役割、使命について修得し、他の医療専門職と協働して地域医療や救急医療に貢献できる人材を目指します。そのため、講義や演習により修得した知識と技術をもとに、以下の項目について身に付けることを目標とします。

①医療機関における診療放射線技師業務について理解できる。
②診療放射線技師として患者への対応を実践できる。
③患者の病態や疾患に応じたポジショニングを実践し、それに対応した撮影条件、画像処理条件を選択できる。
④チーム医療の一翼を担う医療専門職として自覚を持ち、他の医療専門職とチーム医療を実践できる。
⑤検査に応じた画像読影を実践できる。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
臨床実習Ⅰ （診療画像検査技術学）	4年次前期	主に医療機関	画像検査
臨床実習Ⅱ （核医学検査技術学）	4年次前期	主に医療機関	核医学検査
臨床実習Ⅲ （放射線治療技術学）	4年次前期	主に医療機関	放射線治療

・履修基準

第4年次に開講される「臨床実習Ⅰ（診療画像検査技術学）」「臨床実習Ⅱ（核医学検査技術学）」「臨床実習Ⅲ（放射線治療技術学）」を履修するためには、第3年次後期までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊医学概論　＊人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ　＊臨床解剖学　＊生理学　＊生化学
＊臨床薬理学　＊公衆衛生学　＊救急医療学　＊電気電子工学　＊電気電子工学演習
＊放射線生物学　＊放射化学　＊放射線物理学　＊放射線物理学演習　＊放射線計測学
＊放射線計測学演習　＊医療統計学　＊情報科学概論　＊情報科学演習

専門専攻科目群

＊診療画像検査技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　＊診療画像検査技術学実習Ⅰ・Ⅱ
＊診療画像検査機器学Ⅰ・Ⅱ　＊診療画像検査機器学実習　＊画像解剖学
＊画像解剖学演習　＊画像診断学Ⅰ・Ⅱ　＊画像診断学演習
＊核医学検査技術学Ⅰ・Ⅱ　＊核医学検査機器学　＊放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ
＊放射線治療機器学　＊放射線腫瘍学　＊医療画像情報学Ⅰ・Ⅱ　＊医療画像情報学実習
＊画像工学　＊放射線安全管理学　＊放射線安全管理学実習（放射線計測学実習含）
＊放射線関係法規　＊医療安全管理学　＊実践臨床画像学Ⅰ・Ⅱ　＊診療放射線学概論
＊診療放射線学特論

取得できる資格と免許

■ 診療放射線技師国家試験受験資格　…卒業により取得可

診療放射線技師は、検査や治療のために放射線を人体に照射する医療専門職です。X線やCTによる画像検査のほか、MRIや超音波など放射線を使わない検査、放射線治療、画像診断における読影の補助などを行います。診療放射線技師が提供する検査画像は、病気の診断や治療方針を決定するための重要な情報となるため、チーム医療の一員として有用な役割を担っています。

活躍の場　診療放射線技師の活躍の場の多くは医療機関であり、病院、診療所、検診施設が多くを占めています。その他、大学や企業などの研究機関、放射線機器や医療機器などを開発・販売する企業、原子力関係機関などにも活躍の場があります。

診療放射線技師国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣が指定した学校または厚生労働大臣が指定した診療放射線技師養成施設において、３年以上診療放射線技師として必要な知識および技能を修得しなければなりません。

診療放射線学科は、文部科学大臣より診療放射線技師学校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、診療放射線技師国家試験の受験資格が得られます。

教育課程＼指定規則の教育内容						別表第１（診療放射線技師課程）											
						基礎分野		専門基礎分野		専門分野							計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術	診療画像技術学・臨床画像学	核医学検査技術学	放射線治療技術学	医療画像情報学	放射線安全管理学	医療安全管理学	実践臨床画像学	臨床実習	
			必修	選択		履修方法及び卒業要件											
			14					13	18	18	6	7	6	4	2	2	12	102
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30		①	①										
	情報処理Ⅰ	1前	1		30		①	①										
	情報処理Ⅱ	1後	1		30		①	①										
	情報処理Ⅲ	2前		1	30		①	①										
	英語Ⅰ	1前	1		30		①	①										
	英語Ⅱ	1後	1		30		①	①										
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前		1	30		①	①										
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後		1	30		①	①										
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4前後		1	30		①	①										
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30		①	①										
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30		①	①										
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30		①	①										
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30		①	①										
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30		①	①										
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30		①	①										
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30		①	①										
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30		①	①										
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15		①	①										
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15		①	①										
	スポーツ・健康	1前後	1		30		①	①										
	スポーツ・実践	2・3・4前後		1	30		①	①										
	哲学	1前		1	15		①	①										
	倫理学	1後		1	15		①	①										
	ジェンダー論	1前		1	15		①	①										
	科学論	1後		1	15		①	①										
	情報科学	1後		1	15		①	①										
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30		①											
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30		①											
小計						6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容							別表第１（診療放射線技師課程）												
							基礎分野		専門基礎分野		専門分野								計
区分	授業科目	配当年次	単位数		１単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術	診療画像技術学・臨床画像学	核医学検査技術学	放射線治療技術学	医療画像情報学	放射線安全管理学	医療安全管理学	実践臨床画像学	臨床実習	
			必修	選択			14		13	18	18	6	7	6	4	2	2	12	102
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	１前		1	15	必修１単位を含む８単位以上を修得	①	①											8
	コミュニケーション学入門	１前		1	15		①	①											
	対人コミュニケーション論	１後		1	15		①	①											
	心理学の世界	１後		1	15		①	①											
	人間を知る	１前		1	15		①	①											
	命の倫理	１後		1	15		①	①											
	ＱＯＬの世界	１後		1	15		①	①											
	こどもの世界	１後		1	15		①	①											
	アスリートの世界	１後		1	15		①	①											
	臨床医の世界	１後		1	15		①	①											
	加齢と身体	１後		1	15		①	①											
	食を楽しむ	１前		1	15		①	①											
	眼の神秘	１前		1	15		①	①											
	義肢装具の世界	１前		1	15		①	①											
	新潟学	１後		1	15		①	①											
	国際保健の世界	１後		1	15		①	①											
	国民の生活と健康を支える仕組み	１前		1	15		①	①											
	現代社会と経済	１前		1	15		①	①											
	法学Ⅰ	１前後		1	15		①	①											
	法学Ⅱ	１前後		1	15		①	①											
	臨床の哲学	１前		1	15		①	①											
	臨床技術の世界	１前		1	15		①	①											
	留学の魅力	１後		1	15		①	①											
	シティズンシップ教育入門	１後		1	15		①	①											
	放射線の基礎と人体への影響	１前		1	15		①	①											
	新潟水俣病の理解	１前		1	15		①	①											
	一次救命処置法	１前		1	15		①	①											
	東洋医学的養生	１前		1	15		①	①											
	自然人類学概論	１後		1	15		①	①											
	データサイエンス概論	１後		1	30		①	①											
	アスリートサポートの世界	１後		1	15		①	①											
	比較認知科学の世界	１前		1	15		①	①											
	アカデミック・ライティング	１後		1	15		①	①											
保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	２後	1		30	ただし、チームアプローチ入門、保健医療福祉連携学、地域連携学、連携総合ゼミの中から２単位以上を修得	①	①											
	チームアプローチ入門	１後		1	15		①	①											
	保健医療福祉連携学	２・３前		1	15		①	①											
	地域連携学	３後		1	15		①	①											
	連携総合ゼミ	３後・４前		1	30		①	①											
	社会連携実践演習Ⅰ	１・２・３・４前		1	30		①	①											
	社会連携実践演習Ⅱ	１・２・３・４後		1	30		①	①											
	国際交流演習Ⅰ	１・２・３・４前		1	30		①	①											
	国際交流演習Ⅱ	１・２・３・４後		1	30		①	①											
小計						8	8		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

指定規則の教育内容 ＼ 教育課程						別表第１（診療放射線技師課程）													
						基礎分野		専門基礎分野		専門分野									計
						科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術	診療画像技術学・臨床画像学	核医学検査技術学	放射線治療技術学	医療画像情報学	放射線安全管理学	医療安全管理学	実践臨床画像学	臨床実習		
区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	14		13	18	18	6	7	6	4	2	2	12		102
専門基礎科目群	医学概論	1前	2		15			②											
	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2		15			②											
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	2		15			②											
	臨床解剖学	1前	2		15			②											
	生理学	1前	2		15			②											
	生化学	1後	1		15			①											
	臨床薬理学	1後	1		15			①											
	公衆衛生学	1後	1		15			①											
	救急医療学	1後	2		15			②											
	感染症・免疫学	2前		1	15			①											
	電気電子工学	1前	2		15				②										
	電気電子工学演習	1後	1		30				①										
	放射線生物学	2前	2		15				②										
	放射線生物学演習	2後		1	30				①										
	放射化学	2前	2		15				②										
	放射化学演習	2後		1	30				①										
	放射線物理学	2前	2		15				②										
	放射線物理学演習	2後	1		30				①										
	放射線計測学	2後	2		15				②										
	放射線計測学演習	3前	1		30				①										
	医療統計学	3前	2		15				②										
	情報科学概論	1前	2		15				②										
	情報科学演習	1後	1		30				①										
小計						履修方法及び卒業要件 必修33単位を含む35単位以上を修得 35	0	15 選択科目	18 2単位	0	0	0	0	0	0	0	0	35	35

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表第1（診療放射線技師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活	専門基礎分野 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	専門基礎分野 保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術	専門分野 診療画像技術学・臨床画像学	専門分野 核医学検査技術学	専門分野 放射線治療技術学	専門分野 医療画像情報学	専門分野 放射線安全管理学	専門分野 医療安全管理学	専門分野 実践臨床画像学	専門分野 臨床実習	計
							14		13	18	18	6	7	6	4	2	2	12	102
専門専攻科目群	診療画像検査技術学Ⅰ	2前	2		15	必修48単位を含む52単位以上を修得					②								52
	診療画像検査技術学Ⅱ	2後	2		15						②								
	診療画像検査技術学Ⅲ	3前	2		15						②								
	診療画像検査技術学実習Ⅰ	3前	1		30						①								
	診療画像検査技術学実習Ⅱ	3後	1		30						①								
	診療画像検査機器学Ⅰ	2前	2		15						②								
	診療画像検査機器学Ⅱ	2後	2		15						②								
	診療画像検査機器学実習	2後	1		30						①								
	画像解剖学	2前	2		15						②								
	画像解剖学演習	2後	1		30						①								
	画像診断学Ⅰ	3前	2		15						②								
	画像診断学Ⅱ	3後	2		15						②								
	画像診断学演習	3後	1		30						①								
	核医学検査技術学Ⅰ	2後	2		15							②							
	核医学検査技術学Ⅱ	3前	2		15							②							
	核医学検査機器学	3前	2		15							②							
	放射性医薬品学	3後		1	15							①							
	放射線治療技術学Ⅰ	2後	2		15								②						
	放射線治療技術学Ⅱ	3前	2		15								②						
	放射線治療機器学	3前	2		15								②						
	放射線腫瘍学	3後	1		15								①						
	放射線治療品質管理論	3後		1	15								①						
	医療画像情報学Ⅰ	2前	2		15									②					
	医療画像情報学Ⅱ	2後	2		15									②					
	医療画像情報学実習	3前	1		30									①					
	画像工学	2前	1		15									①					
	医療情報学	2後		2	15									②					
	医療情報システム学	3前		2	15									②					
	放射線安全管理学	3前	2		15										②				
	放射線安全管理学実習（放射線計測実習含）	3後	1		30										①				
	放射線関係法規	3前	1		15										①				
	医療安全管理学	3前	2		15											②			
	医療安全管理学演習	3後		1	30											①			
	実践臨床画像学Ⅰ	3前	1		30												①		
	実践臨床画像学Ⅱ	3後	1		30												①		
	臨床実習Ⅰ（診療画像検査技術学）	4前	8		45	必修12単位を修得												⑧	12
	臨床実習Ⅱ（核医学検査技術学）	4前	2		45													②	
	臨床実習Ⅲ（放射線治療技術学）	4前	2		45													②	
	診療放射線学概論	1後	2		15	必修12単位を含む15単位以上を修得													0
	救急撮影技術学	3後		1	15														
	救急チーム医療論	3後		1	15														
	死亡時画像診断学	3後		1	15														
	放射線被曝管理論	3後		1	15														
	バイオデザイン概論	3後		1	15														
	医療経営論	3後		1	15														
	総合演習Ⅰ	4前	2		30														
	総合演習Ⅱ	4後	2		30														
	診療放射線学特論	3後	2		15														
	卒業研究Ⅰ	4前	2		30														
	卒業研究Ⅱ	4後	2		30														
小計						79	0		0	0	21	6	7	6	4	2	2	12	64
											選択科目 4単位								
卒業要件単位数						128	14		15	18	21	6	7	6	4	2	2	12	113
									選択科目 2単位		選択科目 4単位								
指定規則に対する増単位数							0		2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	11
									選択科目 2単位		選択科目 4単位								

健康栄養学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	持続可能な社会を食と栄養から支える専門家として、専門領域に関する確かな知識と共に、保健・医療・福祉・スポーツ分野への教養を活かしながら、技術を発揮する力を身につけている。	1年次から2年次にかけては、知識基盤の構築に重点を置き、基礎教養科目、専門基礎科目を配置する。さらに2年次からは栄養に関わる応用的な知識を修得するために、知識理解を深める専門基幹科目を重点的に配置する。3年次以降は知識を活用する技能の修得及び、個々の学生の特性に応じた課題解決力の修得に向け、臨地実習、卒業研究、総合演習を配置する。成果は各科目の成績により評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	多職種間連携の技能を活かし、多様な背景を持つ他者と良好なコミュニケーションを図りながら、チーム共通の目標に向けて主体的に行動することができる。	1年時には学科メンバーとチームワークをねらいとした基礎ゼミ、2年次には職種間連携をねらいとした全学共通の連携基礎ゼミ、3、4年次には個人の要望による連携総合ゼミを配置し、卒業まで継続的にコミュニケーションを通じたチームワークを学修できる科目を配置する。成果は各ゼミ科目の成績により評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と高潔な倫理観を有し、多様な背景を持つ対象者のQOLを理解し共感することで、食や栄養に関する専門的な支援を行うことができる。	1年次には病院および福祉施設での基礎臨地実習、3年次には模擬患者を活用したSP実習および病院、行政、事業所、学校、福祉・介護施設での臨地実習、4年次には個人の要望による応用臨地実習、教育実習（栄養教諭）を配置する。成果は学外実習科目の成績により評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	食と栄養における課題を正確に特定した上で、他の専門領域の知見も活かしながら、科学的な手法を用いてこれを分析・考察し、論理的に課題解決を取り組むことができる。	1年次から管理栄養士としての専門知識や問題発見力を早期に学修できるよう、専門基礎科目を配置する。3年次以降には問題に対して実践過程を経て論理的に思考し判断できるよう、卒業研究を配置する。成果は卒業研究により評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	自らの目標を達成するために、健康の維持・増進、病気の予防・治療、介護における栄養に関する課題を理解し、生涯にわたり学び続ける探究心を持つとともに、国際化・情報化に対応し自らの可能性を拓げることができる。	自己の課題を明確にし、自ら主体的に学ぶ力を修得するために、1年次から4年次にわたり、教養科目および専門科目において選択科目を配置する。さらに、ポートフォリオを活用しながら、系統的かつ講義科目と実習科目を往還できるカリキュラムを編成する。成果は各科目の成績と学生アンケートにより評価する。

カリキュラム表

健康栄養学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数：　6単位以上

健康栄養学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	8	0	225	
		保健医療福祉科目計　(②＋③)				1	41	0	735	卒業要件単位数：　８単位以上
		全学科共通科目計Ⓐ　(①＋②＋③)				7	67	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

健康栄養学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	人間と生活の科学	310000	1	前期	1			30	
		健康管理概論	310005	1	前期	1			15	
		社会福祉総論	310010	1	前期	1			15	
		公衆衛生学	310015	1	後期	2			30	
		疫学	310020	2	後期	2			30	
		保健統計学	301000	3	後期	2			30	
		生化学Ⅰ	310025	1	前期	2			30	
		生化学Ⅱ	310030	1	後期	2			30	
		生化学実験	310035	2	前期	2			90	
		解剖生理学Ⅰ	310040	1	前期	2			30	
		解剖生理学Ⅱ	310045	1	後期	2			30	
		解剖生理学実習Ⅰ	310050	1	前期	1			45	
		解剖生理学実習Ⅱ	310055	1	後期	1			45	
		運動生理学Ⅰ	310060	2	前期	2			30	
		運動生理学Ⅱ	310065	2	後期	1			15	
		医学基礎	310070	1	後期	2			30	
		臨床医学Ⅰ	310075	2	前期	2			30	
		調理学	310080	1	前期	2			30	
		調理学実習Ⅰ	310085	1	前期	1			45	
		調理学実習Ⅱ	310090	1	後期	1			45	
		調理学実験	310095	1	後期	1			45	
		食品学Ⅰ	310100	1	前期	2			30	
		食品学Ⅱ	310105	1	後期	2			30	
		食品学実験	310110	2	後期	2			90	
		食品衛生学	310115	1	後期	2			30	
		食品衛生学実験	310120	2	前期	1			45	
		食品加工学	310125	2	前期	2			30	
		食品加工学実習	310130	2	前期	1			45	
		実験の基礎	310135	1	前期	1			30	
		基礎実践演習	310140	1	前期	1			30	
		小計④				47	0	0	1,080	卒業要件単位数：　４７単位以上

健康栄養学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	共通科目	栄養学Ⅰ	310145	1	後期	2			30	
			栄養学Ⅱ	310150	2	前期	2			30	
			栄養学Ⅲ	310155	2	後期	2			30	
			栄養学Ⅳ	310160	3	前期	2			30	
			栄養学実習Ⅰ	310165	2	前期	1			45	
			栄養学実習Ⅱ	310170	2	後期	1			45	
			栄養教育論Ⅰ	310175	2	後期	2			30	
			栄養教育論Ⅱ	310180	3	前期	2			30	
			栄養教育実習Ⅰ	310185	2	後期	1			45	
			栄養教育実習Ⅱ	310190	3	前期	1			45	
			カウンセリング技法	310195	3	前期	2			30	
			臨床栄養学Ⅰ	310200	2	前期	2			30	
			臨床栄養学Ⅱ	310205	2	後期	2			30	
			臨床栄養学Ⅲ	310210	3	前期	2			30	
			臨床栄養学実習Ⅰ	310215	2	後期	1			45	
			臨床栄養学実習Ⅱ	310220	3	前期	1			45	
			臨床医学Ⅱ	310225	3	前期	1			15	
			臨床栄養管理演習	310230	4	前期	1			30	
			公衆栄養学Ⅰ	310235	2	後期	2			30	
			公衆栄養学Ⅱ	310240	3	前期	2			30	
			公衆栄養学実習Ⅰ	310245	3	前期	1			45	
			献立作成演習	310250	2	前期	1			30	
			給食経営管理論Ⅰ	310255	2	後期	2			30	
			給食経営管理論Ⅱ	310260	3	前期	2			30	
			給食経営管理実習Ⅰ	310265	2	後期	1			45	
			給食経営管理実習Ⅱ	310270	3	前期	1			45	
			総合演習	310275	4	前期	2			60	
			基礎臨地実習（臨地）	310280	1	後期	1			45	
			臨床栄養学実習Ⅲ（臨地）	310285	3	後期	3			135	
			介護栄養学実習（臨地）	310290	3	後期	2			90	
			公衆栄養学実習Ⅱ（臨地）	310295	3	後期	1			45	
			給食経営管理実習Ⅲ（臨地）	310300	3	後期	1			45	
			運動指導論演習	310305	2	前期		1		30	８単位以上選択し修得すること ※選択必修
			臨床心理学	310310	2	前期		2		30	
			フードコーディネート論	310315	3	後期		2		30	
			フードスペシャリスト論	310320	4	前期		2		30	
			食品マーケティング論	310325	4	前期		2		30	
			応用臨地実習（臨地）	310330	4	前期		2		90	
			研究方法論	310335	3	後期	1			15	
			卒業研究Ⅰ	310340	4	前期	2			60	
			卒業研究Ⅱ	310345	4	後期	2			60	
小計⑤							55	11	0	1,695	卒業要件単位数：　６３単位以上

健康栄養学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	栄養教諭	学校栄養指導論Ⅰ	310350	3	後期		2		30	栄養教諭コースのみ必修
			学校栄養指導論Ⅱ	310355	3	後期		2		30	
			教職概論	300000	1	前期		2		30	
			教育原理	300055	1	後期		2		30	
			教育心理学Ⅰ	300080	2	前期		1		15	
			教育心理学Ⅱ	325490	2	前期		1		15	
			教育社会制度論Ⅰ	300085	2	前期		1		15	
			教育社会制度論Ⅱ	325495	2	前期		1		15	
			教育課程論	300090	2	後期		2		30	
			教育方法・技術	300095	2	後期		2		30	
			道徳教育指導論Ⅰ	300115	3	前期		1		15	
			生徒指導論	300105	3	前期		2		30	
			教育相談	300110	3	前期		2		30	
			特別活動指導論Ⅰ	300120	3	前期		1		15	
			特別支援教育論	300070	3	前期		1		15	
			総合的な学習の時間の指導論	300075	3	前期		1		15	
			教職実践演習（栄養教諭）	310360	4	後期		2		30	
			教育実習（栄養教諭）	310365	4	前期		3		90	
			教職教養演習Ⅰ	325120	2	後期		1		30	栄養教諭コースのみ選択
			教職教養演習Ⅱ	325335	3	前期		1		30	栄養教諭コースのみ選択
		小計⑥					0	31	0	540	
	専門専攻科目計 （⑤＋⑥）						55	42	0	2,235	卒業要件単位数： ６３単位以上
専門科目計Ⓑ （④＋⑤＋⑥）							102	42	0	3,315	卒業要件単位数：１１０単位以上
合計 （Ⓐ＋Ⓑ）							109	109	0	4,905	卒業要件：４年以上在学し、かつ１２４単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：管理栄養士

・学外実習

病院、福祉機関、行政（保健所）、小学校などにおける臨地実習を通して、学内の講義・実習で修得した内容を応用し発展させます。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
基礎臨地実習 （必修）	1年次後期 （1週間）	病院、福祉機関等	現場観察（4日） 対象、業務の理解
臨床栄養学実習Ⅲ （必修）	3年次後期 （3週間）	医療機関等	専門的な知識 および技術の統合 （配属実習）
介護栄養学実習 （必修）	3年次後期 （2週間）	老人保健施設または特別養護老人ホーム・グループホーム	専門的な知識 および技術の統合 （配属実習）
公衆栄養学実習Ⅱ （必修）	3年次後期 （1週間）	行政（保健所、保健センターまたはこれに準ずる施設）	専門的な知識 および技術の統合 （配属実習）
給食経営管理実習Ⅲ （必修）	3年次後期 （1週間）	小・中学校、給食センター、事業所等の特定給食施設	専門的な知識 および技術の統合 （配属実習）
応用臨地実習 （選択）	4年次前期 （2週間）	医療機関・福祉機関・行政等	応用的な理論と 技能の修得

・履修基準

（1）3年次の専門専攻科目群

第3年次に開講される臨地実習（臨床栄養学実習Ⅲ、介護栄養学実習、公衆栄養学実習Ⅱ、給食経営管理実習Ⅲ）を履修するためには、実習年次8月末日の時点で、下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊人間と生活の科学　＊健康管理概論　＊社会福祉総論　＊公衆衛生学　＊疫学
＊生化学Ⅰ　＊生化学Ⅱ　＊生化学実験　＊解剖生理学Ⅰ　＊解剖生理学Ⅱ
＊解剖生理学実習Ⅰ　＊解剖生理学実習Ⅱ　＊運動生理学Ⅰ　＊運動生理学Ⅱ
＊医学基礎　＊臨床医学Ⅰ　＊調理学　＊調理学実習Ⅰ　＊調理学実習Ⅱ
＊調理学実験　＊食品学Ⅰ　＊食品学Ⅱ　＊食品学実験　＊食品衛生学
＊食品衛生学実験　＊食品加工学　＊食品加工学実習　＊実験の基礎　＊基礎実践演習

専門専攻科目群

＊栄養学Ⅰ　＊栄養学実習Ⅰ（実験）　＊栄養学Ⅱ　＊栄養学Ⅲ　＊栄養学Ⅳ ＊栄養学実習Ⅱ（実習）　＊栄養教育論Ⅰ　＊栄養教育論Ⅱ　＊栄養教育実習Ⅰ ＊栄養教育実習Ⅱ　＊カウンセリング技法　＊臨床栄養学Ⅰ　＊臨床栄養学Ⅱ ＊臨床栄養学Ⅲ　＊臨床栄養学実習Ⅰ　＊臨床栄養学実習Ⅱ　＊臨床医学Ⅱ ＊公衆栄養学Ⅰ　＊公衆栄養学Ⅱ　＊公衆栄養学実習Ⅰ　＊献立作成演習 ＊給食経営管理論Ⅰ　＊給食経営管理論Ⅱ　＊給食経営管理実習Ⅰ ＊給食経営管理実習Ⅱ　＊基礎臨地実習

（2）4年次の専門専攻科目群

第4年次に開講される「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を履修するためには、履修登録の時点で、下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊研究方法論

■ 対象資格：栄養教諭一種免許

・学外実習

学校教育活動について総合的に認識し、管理栄養士・栄養士としての専門教科や教職に関する知識や技能を教育の場で理論と実践の統合を図るとともに、栄養教諭として必要な諸能力と基本的姿勢を体得します。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
教育実習 （栄養教諭）	4年次前期 （2週間）	新潟市内小学校	学校教育の総合的な認識、食育指導および児童理解の実際について把握し、基本的な理論と実践の統合を図る（配属実習）

※栄養教諭一種免許取得に関する詳細は、「教職課程履修規則」（P.217～）を参照のこと。

取得できる資格と免許

■ 管理栄養士国家試験受験資格　…卒業により取得可

管理栄養士は、人々の日常に寄り添う食事療法（栄養食事管理・指導、給食管理等）専門職です。

活躍の場　管理栄養士の活躍の場は、健康保持増進（学校、行政、薬局等）、病気の重症化予防（病院、診療所等）、介護（福祉施設、在宅者）等の分野に加え、食品の商品開発企業など多岐にわたります。

管理栄養士国家試験の受験資格は、栄養士であって、文部科学大臣および厚生労働大臣が指定した管理栄養士養成施設を卒業した者に与えられます。

健康栄養学科は、管理栄養士養成施設として指定されており、以下の科目を履修して卒業することで、管理栄養士国家試験の受験資格が得られます。

管理栄養士学校指定規則					本学開設科目					
分野	教育内容	単位数			科目群	授業科目名	配当年次	単位数		
		講義演習	実験実習	計				講義演習	実験実習	計
専門基礎	社会・環境と健康	6	10	38	専門基礎	人間と生活の科学	1	1		7
						公衆衛生学	1	2		
						健康管理概論	1	1		
						社会福祉総論	1	1		
						保健統計学	3	2		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14				生化学Ⅰ	1	2		18
						生化学Ⅱ	1	2		
						生化学実験	2		2	
						解剖生理学Ⅰ	1	2		
						解剖生理学Ⅱ	1	2		
						解剖生理学実習Ⅰ	1		1	
						解剖生理学実習Ⅱ	1		1	
						運動生理学Ⅰ	2	2		
						医学基礎	1	2		
						臨床医学Ⅰ	2	2		
	食べ物と健康	8				調理学	1	2		17
						調理学実習Ⅰ	1		1	
						調理学実習Ⅱ	1		1	
						調理学実験	1		1	
						食品学Ⅰ	1	2		
						食品学Ⅱ	1	2		
						食品学実験	2		2	
						食品衛生学	1	2		
						食品衛生学実験	2		1	
						食品加工学	2	2		
						食品加工学実習	2		1	
専門	基礎栄養学	2	8	40	専門専攻	栄養学Ⅰ	1	2		3
						栄養学実習Ⅰ	2		1	
	応用栄養学	6				栄養学Ⅱ	2	2		7
						栄養学Ⅲ	2	2		
						栄養学Ⅳ	3	2		
						栄養学実習Ⅱ	2		1	
	栄養教育論	6				栄養教育論Ⅰ	2	2		8
						栄養教育論Ⅱ	3	2		
						栄養教育実習Ⅰ	2		1	
						栄養教育実習Ⅱ	3		1	
						カウンセリング技法	3	2		
	臨床栄養学	8				臨床栄養学Ⅰ	2	2		10
						臨床栄養学Ⅱ	2	2		
						臨床栄養学Ⅲ	3	2		
						臨床栄養学実習Ⅰ	2		1	
						臨床栄養学実習Ⅱ	3		1	
						臨床医学Ⅱ	3	1		
						臨床栄養管理演習	4	1		
	公衆栄養学	4				公衆栄養学Ⅰ	2	2		5
						公衆栄養学Ⅱ	3	2		
						公衆栄養学実習Ⅰ	3		1	
	給食経営管理論	4				給食経営管理論Ⅰ	2	2		5
						給食経営管理論Ⅱ	3	2		
						給食経営管理実習Ⅰ	2		1	
	総合演習	2	−			総合演習	4	2		2

管理栄養士学校指定規則					本学開設科目					
分野	教育内容	単位数			科目群	授業科目名	配当年次	単位数		
		講義演習	実験実習	計				講義演習	実験実習	計
専門	臨地実習	−	4	4	専門専攻	臨床栄養学実習Ⅲ（臨地）	3		3	5
						公衆栄養学実習Ⅱ（臨地）	3		1	
						給食経営管理実習Ⅲ（臨地）	3		1	
合計		60	22	82	合計			63	24	87

※本学開設科目は、すべて必修科目である。

■ 栄養士　　…卒業により取得可

栄養士の免許は、厚生労働大臣の指定した栄養士の養成施設において、２年以上栄養士として必要な知識および技能を修得した者に対して、都道府県知事が与えます。

健康栄養学科は、厚生労働大臣より栄養士養成施設の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、栄養士の免許が得られます。

栄養士法施行規則				本学開設科目					
教育内容	単位数			科目群	授業科目名	配当年次	単位数		
	講義演習	実験実習	計				講義演習	実験実習	計
社会生活と健康	4	4	22	専門基礎	公衆衛生学	1	2		4
					健康管理概論	1	1		
					社会福祉総論	1	1		
人体の構造と機能	8				生化学Ⅰ	1	2		12
					生化学Ⅱ	1	2		
					生化学実験	2		2	
					解剖生理学Ⅰ	1	2		
					解剖生理学Ⅱ	1	2		
					解剖生理学実習Ⅰ	1		1	
					解剖生理学実習Ⅱ	1		1	
食品と衛生	6				食品学Ⅰ	1	2		12
					食品学Ⅱ	1	2		
					食品学実験	2		2	
					食品衛生学	1	2		
					食品衛生学実験	2		1	
					食品加工学	2	2		
					食品加工学実習	2		1	

栄養士法施行規則				本学開設科目					
教育内容	単位数			科目群	授業科目名	配当年次	単位数		
	講義演習	実験実習	計				講義演習	実験実習	計
栄養と健康	8	10	28	専門専攻	栄養学Ⅰ	1	2		11
					栄養学Ⅱ	2	2		
					栄養学実習Ⅰ	2		1	
					臨床栄養学Ⅰ	2	2		
					臨床栄養学Ⅱ	2	2		
					臨床栄養学実習Ⅰ	2		1	
					臨床栄養学実習Ⅱ	3		1	
栄養の指導	6				栄養教育論Ⅰ	2	2		8
					栄養教育論Ⅱ	3	2		
					栄養教育実習Ⅰ	2		1	
					栄養教育実習Ⅱ	3		1	
					公衆栄養学Ⅰ	2	2		
給食の運営	4				給食経営管理論Ⅰ	2	2		11
					給食経営管理論Ⅱ	3	2		
					給食経営管理実習Ⅰ	2		1	
					給食経営管理実習Ⅲ	3		1	
				専門基礎	調理学	1	2		
					調理学実習Ⅰ	1		1	
					調理学実習Ⅱ	1		1	
					調理学実験	1		1	
合計	36	14	50	合計			40	18	58

※栄養士取得に必要な科目は、管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目にすべて含まれているため、別途履修する必要はない。

■ 栄養教諭一種免許　…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

栄養に関する専門性と教育に関する資質を併せ持つ栄養士が、児童生徒への食に関する指導および学校給食の管理を行います。

a．食に関する指導
- ・児童生徒への個別的な相談指導
- ・児童生徒への教科・特別活動等における教育指導
- ・食に関する教育指導の連携・調整

b．学校給食の管理
- ・学校給食に係る栄養管理や衛生管理等

活躍の場　小学校、中学校（栄養教諭の配置は義務的なものではなく、公立学校については地方公共団体の、国立および私立学校についてはその設置者の判断に委ねられています。また、公立学校の場合は、各自治体の採用試験に合格しなければなりません。）

栄養教諭一種免許の取得については、「教職課程履修規則」（P.217～）を参照してください。

■ フードスペシャリスト認定試験受験資格　…指定科目の単位の修得により取得可

フードスペシャリストは、食の本質が「おいしさ」「たのしさ」「もてなし」にあることを理解し、それを支える「食」に関する総合的・体系的な知識・技術をもとに、豊かで安全かつバランスのとれた食を消費者に提供できる力を持つ食の専門職です。製造から流通、小売、外食にいたるあらゆる分野において、食品の評価・鑑別を行い、流通・販売者と消費者に的確な情報を提供し、またレストランや食堂などで快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートし、さらに食育活動をするなど活躍の場は広がっています。この資格は日本フードスペシャリスト協会が実施する試験により認定されます。

活躍の場

a．食品開発の分野（食品企業など）
　加工食品の開発、新製品開発のための調査など
b．流通の分野（販売店、卸売市場など）
　需給調査、品質調査、衛生管理など
c．販売の分野（デパート、スーパー、コンビニエンス・ストアーなど）
　販売者や消費者へのアドバイス、売り場のコーディネート、クレーム処理など
d．飲食の分野（ホテル、レストラン、食堂など）
　食空間のコーディネート、料理の選定助言、メニュー開発など
e．食育活動

健康栄養学科では、以下の科目を修得することで、フードスペシャリスト認定試験の受験資格が得られます。

フードスペシャリスト協会指定科目	本学開設科目	単位数
フードスペシャリスト論 （講義２単位以上）	フードスペシャリスト論	2
食品の官能評価・識別論 （講義１単位以上・実験１単位以上）	食品学Ⅱ	2
	調理学実験	1
食物学に関する科目 （講義４単位以上・実験１単位以上）	食品学Ⅰ	2
	食品加工学	2
	食品加工学実習	1
食品の安全性に関する科目 （講義２単位以上）	食品衛生学	2
	食品衛生学実験	1
調理学に関する科目 （講義２単位以上・実習２単位以上）	調理学	2
	調理学実習Ⅰ	1
	調理学実習Ⅱ	1
栄養と健康に関する科目 （講義２単位以上）	栄養学Ⅰ	2
	栄養学Ⅱ	2
	栄養学Ⅲ	2
	健康管理概論	1
食品流通・消費に関する科目 （講義または演習２単位以上）	食品マーケティング論	2
フードコーディネート論 （講義または演習２単位以上）	フードコーディネート論	2

※認定資格取得には、指定科目の修得のほか、認定試験の合格と卒業、資格申請が必要となる。

■ NR・サプリメントアドバイザー

NR・サプリメントアドバイザーは、日常の食事を重視し、補助的なものと位置付ける健康食品やサプリメントの摂取についてアドバイス（助言）する専門家を認定した名称です。

消費者が健康の維持増進等を目的とし、その目的にあった食品や、食生活状況・健康状態に応じた食品を安全にかつ適切に選択し摂取することを可能とするため、これら食品の持つ成分の機能やその活用方法等について理解し、正しく情報を提供できるアドバイザリースタッフのことをいいます。

この資格は日本臨床栄養協会日本サプリメントアドバイザー認定機構が実施する試験により認定されます。

活躍の場

a．栄養教育を実施しているすべての場（病院、市町村保健センター、学校や企業の健康管理室、スポーツ選手養成施設など）
b．健康食品（保健機能食品を含む）を販売しているコンビニエンス・ストア、スーパーマーケット、ドラッグストアーなど

健康スポーツ学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	多様な社会の発展を支えるために、幅広い教養的知識、健康スポーツ分野の確かな専門的知識・技能を身につける。	幅広い教養的知識を身に付けるため、基礎教養科目群と保健医療福祉教養科目群の各科目を1年次に配置する。健康スポーツに関わる知識・技能を段階的に習得するために、1年次から専門基礎科目群を中心に必修科目として複数の基礎科目を配置する。3年次以降は、個々の学生の特性に応じ、健康スポーツに関わる専門的知識・技能を習得する専門専攻科目を配置する。成果は各科目の成績および資格試験合格率で評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	活動を先導するための実行力、多様性や変化に対する適応力および豊かな表現力を有し、共通の目的へ向けて主体的に役割を担い、保健医療福祉スポーツ分野の複数の職種の人たちとチームアプローチを図ることができる。	健康スポーツ活動に必要な実行力、適応力、表現力を身に付け、複数の職種の人たちとチームアプローチを図るために、全学共通の連携基礎ゼミ、連携総合ゼミを配置する。チームワーク及びコミュニケーション力を習得するために、2年次以降の専門基礎科目群において、実技および各専門分野に関する実習科目を配置する。成果はこれら実技・実習科目の成績で評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と高潔な倫理性のもと、健康スポーツに携わる人間としての使命感や責任感に基づき、高度な専門性に加えて他の専門領域をも横断的・融合的に理解した研究・実践・教育を担う者として、豊かなコミュニケーションを図り対象者のQOL支援を提案できる。	健康スポーツに携わる人間としての使命感や責任感、他者を理解する力を習得するために、1年次・2年次に習得した健康スポーツに関わる基礎的・応用的な知識・技能を基盤として、3年次以降はスポーツ科学演習（専門ゼミ活動）および各専門分野を横断的・融合的に理解する実践教育科目を配置する。成果はこれら演習・実習科目の成績で評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	目標と実態の間にある問題点、それを解決する課題を設定し、多様な価値観に寛容であり、対話ができ、持続可能な発展を見据え、的確に思考・判断し問題解決に向けて取り組むことができる。	健康スポーツ科学の概念や理論を踏まえ、目標と実態の間にある問題を把握できるようになるために、1年次・2年次の専門基礎科目群に基礎科目を配置する。3年次以降は、理論・実践の両面から的確に思考・判断し、自らが特定した問題解決に取り組めるようになるために、少人数学習を導入しながら、個々の学生の特性に応じた実技・実習・演習科目を、専門専攻科目群に配置する。成果は卒業研究の成績で評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	自己の目標に対する到達度や課題を理解し、生涯にわたって成長できる探究心を持つとともに、現代社会の情報化に対応でき、グローバルな視野・異文化理解を図り自己の可能性を広げることができる。	健康スポーツ科学に対する興味・関心を刺激し、自らの可能性を広げる意欲を育むために、1年次から専門基礎科目群に基礎科目を配置する。2年次以降は、個々の学生の特性に応じた専門科目を専門専攻科目群に体系的に配置する。1年次・2年次は専門基礎科目群に実技科目を、3年次以降は専門専攻科目群に実習・演習科目を重点的に配置し、理論と実践を往還できるカリキュラムを編成する。成果は各科目の成績および就職率で評価する。

カリキュラム表

健康スポーツ学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数： 7単位以上

健康スポーツ学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	8	0	225	
		保健医療福祉科目計 （②＋③）				1	41	0	735	卒業要件単位数： ７単位以上
		全学科共通科目計Ⓐ （①＋②＋③）				7	67	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

健康スポーツ学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	選択	自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門基礎科目群	体育原理・スポーツ哲学	320020	1	前期	2			30	
		スポーツ社会学	320030	1	後期	2			30	
		スポーツ経営学	320035	1	前期	2			30	
		生理学	320045	1	後期	2			30	
		スポーツ栄養学	320060	1	後期	2			30	
		衛生学・公衆衛生学	320130	1	後期	2			30	
		基礎解剖学	326000	1	後期	2			30	
		コーチング論	320206	1	後期	2			30	
		アスレティックトレーニング論	325061	1	前期		2		30	
		救急法実習Ⅰ	320191	1	前期		1		30	
		救急法実習Ⅱ	320196	1	後期		1		30	
		野球ソフトボール	325146	1	前期		1		30	
		陸上競技	320070	1	前期		1		30	
		水泳	320075	1	前/後		1		30	
		器械運動	320080	1	前/後		1		30	
		ダンス	320085	1	前/後		1		30	
		サッカー	320090	2	前期		1		30	
		バレーボール	320105	2	前期		1		30	
		バスケットボール	320110	2	後期		1		30	
		体操（エアロビクスエクササイズ含む）	325361	3	前期		1		30	
		体つくり運動	324006	3	前期		1		30	
		テニス	325450	3	前期		1		30	
		柔道	320096	3	前期		1		30	
		剣道	320121	3	後期		1		30	
		バドミントン	325455	3	後期		1		30	
		野外活動Ⅰ（冬期）	325356	1	後期		1		30	
		野外活動Ⅱ（夏期）	320126	2	前期		1		30	
		水辺実習	325476	2	前期		1		30	
小計④						16	21	0	840	卒業要件単位数：　２５単位以上
専門科目	専門専攻科目群 共通科目	健康スポーツ基礎ゼミ	326005	2	前期	1			30	
		研究の基礎	326010	2	後期	2			30	
		健康スポーツ科学演習Ⅰ	320245	3	前期	1			30	
		健康スポーツ科学演習Ⅱ	320250	3	後期	1			30	
		卒業研究Ⅰ	320255	4	前期	2			60	
		卒業研究Ⅱ	320260	4	後期	2			60	
		体育・スポーツ史	320026	2	前期	2			30	
		運動生理学	320051	2	前期	2			30	
		ストレングス＆コンディショニング論	326015	2	前期	2			30	
		スポーツ心理学	320066	2	前期	2			30	
		健康管理学	325376	2	前期	2			30	
		スポーツ運動学	320056	2	後期	2			30	
		スポーツ医学総論	325066	2	後期	2			30	
		アダプテッドスポーツ論	326020	2	後期	2			30	
		体力測定評価Ⅰ	325160	2	後期	2			30	
		運動処方論Ⅰ	325165	2	前期	2			30	
	健康医科学科目群	アスレティックトレーナー基礎実習	326025	2	前期		1		30	
		スポーツ救急法実習	326030	2	前期		1		30	
		応用解剖学	326035	2	前期		2		30	
		アスレティックトレーナー評価実習	326040	2	後期		1		30	
		スポーツ医学（整形外科）	325396	3	前期		2		30	
		スポーツ外傷・障害対応論	326045	3	前期		2		30	
		体力測定評価Ⅱ	325300	3	前期		2		30	
		運動処方論Ⅱ	325305	3	前期		2		30	
		生活習慣病と予防	321065	3	前期		2		30	
		健康づくり現場実習Ⅰ	321105	3	前期		1		30	
		スポーツセーフティ論	326050	3	前期		2		30	
		スポーツ外傷・障害予防論	326055	3	後期		2		30	
		コンディショニング実習Ⅰ	325420	3	前期		1		30	
		コンディショニング実習Ⅱ	325425	3	後期		1		30	
		リコンディショニング実習Ⅰ	326060	3	前期		1		30	
		リコンディショニング実習Ⅱ	326065	3	後期		1		30	
		アスレティックトレーナー演習Ⅰ	326070	3	前期		1		30	
		アスレティックトレーナー演習Ⅱ	326075	3	後期		1		30	
		健康運動指導論	325080	4	前期		2		30	

健康スポーツ学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群 コーチング科学科目群	発育発達と老化	325365	3	前期		2		30	
		バイオメカニクス	320201	3	前期		2		30	
		競技スポーツの心理学	322010	3	前期		2		30	
		競技スポーツの生理学	322000	3	前期		2		30	
		競技スポーツの栄養学	322025	3	後期		2		30	
		競技スポーツのトレーニング	322035	3	前期		2		30	
		競技スポーツのバイオメカニクス	325440	3	後期		2		30	
		基礎運動学実験Ⅰ	325151	3	前期		1		30	
		基礎運動学実験Ⅱ	325156	3	後期		1		30	
		陸上競技指導論	325170	3	前期		2		30	
		水泳指導論	325175	3	前期		2		30	
		水泳コーチ論	325090	3	前期		2		30	
		ダンス指導論	325185	3	前期		2		30	
		サッカー指導論	325190	3	前期		2		30	
		バスケットボール指導論	325195	3	前期		2		30	
		バレーボール指導論	325200	3	前期		2		30	
		ベースボール指導論	325205	3	前期		2		30	
		陸上競技指導実習	325215	3	後期		1		30	
		水泳指導実習	325220	3	後期		1		30	
		ダンス指導実習	325225	3	後期		1		30	
		サッカー指導実習	325230	3	後期		1		30	
		バスケットボール指導実習	325235	3	後期		1		30	
		バレーボール指導実習	325240	3	後期		1		30	
		ベースボール指導実習	325245	3	後期		1		30	
		スポーツカウンセリング	322015	3	後期		2		30	
		スポーツ心理学実習	322020	3	後期		1		30	
		体力トレーニング実習	325435	3	後期		1		30	
		健康運動心理学	570290	3	前期		2		30	
		コーチングの心理	570090	3	後期		2		30	
		運動学習論	570285	3	後期		2		30	
		メンタルトレーニング	570080	4	前期		2		30	
		スポーツ心理臨床	570085	4	後期		2		30	
	スポーツ社会科学科目群	スポーツマネジメント論	325391	3	前期		2		30	
		レクリエーション指導論	325210	3	前期		2		30	
		地域スポーツマネジメント論	323010	3	前期		2		30	
		スポーツ産業論	325285	3	前期		2		30	
		スポーツ文化論	326080	3	前期		2		30	
		インターンシップ実習	325295	3	前期		1		30	
		スポーツビジネス論	325290	3	後期		2		30	
		スポーツ政策論	323015	3	後期		2		30	
		スポーツと法	325466	3	後期		2		30	
		レクリエーション実技・指導実習	326085	3	後期		1		30	
		アダプテッドスポーツ指導実習	326090	3	後期		1		30	
		イベントマネジメント実習Ⅰ	325100	3	後期		1		30	

健康スポーツ学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	選択	自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	教職科目群	教職概論	300000	1	前期		2		30	
			教育原理	300055	1	後期		2		30	
			教育心理学Ⅰ	300080	2	前期		1		15	
			教育心理学Ⅱ	325490	2	前期		1		15	
			教育社会制度論Ⅰ	300085	2	前期		1		15	
			教育社会制度論Ⅱ	325495	2	前期		1		15	
			学校保健	320210	2	後期		2		30	
			教育課程論	300090	2	後期		2		30	
			教育方法・技術（情報通信技術の活用含む）	300096	2	後期		2		30	
			体育科教育法Ⅰ	325500	2	後期		2		30	
			介護等体験実習講義	325036	2	後期		1		15	
			介護等体験実習	326095	3	前期		1		30	
			特別支援教育論	300070	3	前期		1		15	
			総合的な学習の時間の指導論	300075	3	前期		1		15	
			保健科教育法	325505	3	前期		2		30	
			体育科教育法Ⅱ	325510	3	前期		2		30	
			体育科教育法Ⅲ	325525	3	後期		2		30	
			道徳教育指導論Ⅰ	300115	3	前期		1		15	
			道徳教育指導論Ⅱ	325515	3	前期		1		15	
			生徒指導・進路指導論	300100	3	前期		2		30	
			特別活動指導論Ⅰ	300120	3	後期		1		15	
			特別活動指導論Ⅱ	325520	3	後期		1		15	
			教育相談	300110	3	後期		2		30	
			教職実践対応論	325345	3	後期		1		15	
			教育実習指導論	325040	4	前期		1		30	
			教職実践演習（中・高）	325050	4	後期		2		30	
			教職一般教養演習Ⅰ	325115	1	前期		1		30	
			教職一般教養演習Ⅱ	325330	1	後期		1		30	
			教職教養演習Ⅰ	325120	2	後期		1		30	
			教科教職演習Ⅰ	325125	2	後期		1		30	
			教職教養演習Ⅱ	325335	3	前期		1		30	
			教科教職演習Ⅱ	325340	3	前期		1		30	
			体育授業実習	324010	3	前期		1		30	
			教職実技（音楽）	325480	3	後期		1		30	
			教職実技（体育Ⅰ）	325140	3	後期		1		30	
			教職実技（体育Ⅱ）	325350	4	前期		1		30	
			教職インターンシップ	326100	2	後期		1		30	
		必修実習科目群	教育実習	325045	4	前期		4		120	
			教育実習（2週間）	325046	4	前期		3		90	
			健康づくり現場実習Ⅱ	321110	3	後期		1		30	
			アスレティックトレーナー総合実習	321091	4	前期		1		30	
			スポーツ栄養学実習	322031	4	前期		1		30	
			スポーツ実践指導法実習（水泳）	322236	4	前期		2		60	
			スポーツ実践指導法実習（野球）	322237	4	前期		1		30	
			スポーツ実践指導法実習（陸上競技）	322238	3	後期		1		30	
			スポーツ実践指導法実習（舞踊）	322239	3	後期		1		30	
			スポーツ実践指導法実習（サッカー）	322241	3	後期		1		30	
			スポーツ実践指導法実習（バスケットボール）	322242	3	後期		1		30	
			スポーツ実践指導法実習（バレーボール）	322243	3	後期		2		60	1単位以上選択し修得すること ※専門実技科目は重複履修不可
			専門陸上競技	325251	3	後期		1		30	
			専門水泳	325256	3	後期		1		30	
			専門舞踊	325261	3	後期		1		30	
			専門サッカー	325266	3	後期		1		30	
			専門バスケットボール	325271	3	後期		1		30	専門実技科目
			専門バレーボール	325276	3	後期		1		30	
			専門野球	325281	3	後期		1		30	
			レクリエーションマネジメント実習	323060	3	後期		1		30	
			アダプテッドスポーツ現場実習	326105	4	前期		1		30	
			イベントマネジメント実習Ⅱ	325110	4	前期		1		30	
			野外活動指導実践	325460	4	前期		1		30	
		専門専攻科目計⑤					29	180	0	4,260	卒業要件単位数：　７６単位以上
	専門科目計Ⓑ （④＋⑤）						45	201	0	5,100	卒業要件単位数：１０１単位以上 ※卒業要件１２５単位に不足する１０単位は、専門基礎科目群または専門専攻科目群から取得
合計 （Ⓐ＋Ⓑ）							52	268	0	6,690	卒業要件：４年以上在学し、 かつ１２５単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：中学校教諭一種免許（保健体育）、高等学校教諭一種免許（保健体育）

教育実習、介護等体験実習、観察参加実習、教職インターンシップの履修基準は教職課程履修基準（P.224～）に準じます。

■ 対象資格:日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（検定試験受験に必要）

・学外実習

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
アスレティックトレーナー総合実習	4年前期 （30時間）	所定の学内強化指定クラブ	リコンディショニングおよびコンディショニング、救急対応など

アスレティックトレーナーとして必要とされる知識や技術を実践的に応用・展開し、選手の体力測定やアスレティックリハビリテーションに関わり、トレーナーとしての基本的な素養を身に付けていきます。

・履修基準

（1）アスレティックトレーナー演習Ⅰ

第3年次前期に開講される「アスレティックトレーナー演習Ⅰ」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊応用解剖学　＊スポーツ医学総論　＊スポーツ救急法実習
＊アスレティックトレーナー基礎実習　＊アスレティックトレーナー評価実習

（2）アスレティックトレーナー演習Ⅱ

第3年次後期に開講される「アスレティックトレーナー演習Ⅱ」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊アスレティックトレーナー演習Ⅰ

（3）コンディショニング実習Ⅱ

第3年次後期に開講される「コンディショニング実習Ⅱ」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊コンディショニング実習Ⅰ

（4）リコンディショニング実習Ⅱ

第3年次後期に開講される「リコンディショニング実習Ⅱ」を履修するためには、履修登録の時

点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊リコンディショニング実習Ⅰ

（5）アスレティックトレーナー総合実習【選択必修実習】

第4年次前期に開講される「アスレティックトレーナー総合実習」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊アスレティックトレーナー演習Ⅰ　＊アスレティックトレーナー演習Ⅱ

■ 対象資格：ストレングスコーチ（CSCS）、NSCA認定パーソナルトレーナー、ジュニアスポーツ指導員

・履修基準

（1）体力トレーニング実習

第3年次後期に開講される「体力トレーニング実習」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊基礎解剖学　＊運動生理学　＊バイオメカニクス ＊ストレングス＆コンディショニング論　＊競技スポーツのトレーニング　＊救急法実習Ⅰ

■ その他の学外実習と履修基準

・学外実習

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
インターンシップ実習	3年前期（30時間）	一般企業、スポーツ関連団体等	運動指導、企画、接客、販売等

専門分野や将来のキャリアに関連した企業や団体などで、就業体験を行います。社会人としてのマナーや態度を学び、労働への意識を高めます。

・履修基準

（1）水辺実習

第2年次前期に開講される「水辺実習」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊水泳

（2）体力測定評価Ⅱ

第3年次前期に開講される「体力測定評価Ⅱ」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科

目を修得しておかなければなりません。

基礎教養科目群

＊情報処理Ⅰ　　＊情報処理Ⅱ

専門専攻科目群

＊体力測定評価Ⅰ

（3）健康づくり現場実習Ⅰ
健康づくり現場実習Ⅱ【選択必修実習】
第3年次前期に開講される「健康づくり現場実習Ⅰ」、第3年次後期に開講される「健康づくり現場実習Ⅱ」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊体力測定評価Ⅰ　　＊運動処方論Ⅰ

加えて、「健康づくり現場実習Ⅱ」を履修するためには、「健康づくり現場実習Ⅰ」の単位を修得している必要があります。後期授業開始時点で、この基準を満たしていない場合は「健康づくり現場実習Ⅱ」を履修することができません。

（4）水泳指導実習
第3年次後期に開講される「水泳指導実習」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊水泳

（5）スポーツ栄養学実習【選択必修実習】
第4年次前期に開講される「スポーツ栄養学実習」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊スポーツ栄養学　　＊競技スポーツの栄養学

（6）スポーツ実践指導法実習（野球）【選択必修実習】
第4年次前期に開講される「スポーツ実践指導法実習（野球）」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊ベースボール指導論　　＊ベースボール指導実習

（7）スポーツ実践指導法実習（陸上競技）【選択必修実習】
第3年次後期に開講される「スポーツ実践指導法実習（陸上競技）」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊陸上競技　　＊陸上競技指導論

（8）レクリエーションマネジメント実習【選択必修実習】

第3年次後期に開講される「レクリエーションマネジメント実習」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊スポーツ経営学　　＊スポーツ心理学　　＊スポーツ社会学

（9）イベントマネジメント実習Ⅱ【選択必修実習】

第4年次前期に開講される「イベントマネジメント実習Ⅱ」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊イベントマネジメント実習Ⅰ

（10）野外活動指導実践【選択必修実習】

第4年次前期に開講される「野外活動指導実践」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

専門専攻科目群

＊野外活動Ⅰ（冬期）、もしくは＊野外活動Ⅱ（夏期）、もしくは＊水辺実習

取得できる資格と免許

■ 中学校教諭一種免許（保健体育）・高等学校教諭一種免許（保健体育）…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

本学の定めた教職課程の各科目を履修することにより、中学校・高等学校の保健体育の免許が取得できます。これらを取得することにより、中学校・高等学校の保健体育科教員になることができます。（ただし、公立学校の保健体育科教員になる場合は、各自治体の採用試験に合格しなければなりません。）保健体育科教員は、勤務校で保健体育の授業を担当するほか、生徒指導や部活動指導などでも中心的な働きが期待されます。

なお、中学校教諭一種免許（保健体育）・高等学校教諭一種免許（保健体育）取得者は、大学院で所定の科目を履修することにより、当該免許の専修免許を取得することが可能です。

活躍の場

a．公立中学校・高等学校保健体育科教諭（各自治体採用試験合格後）
b．私立中学校・高等学校保健体育科教諭（各学校採用試験合格後）
c．中学校・高等学校保健体育科講師（常勤・非常勤）
d．自治体等のスポーツ指導者

中学校教諭一種免許（保健体育）・高等学校教諭一種免許（保健体育）および小学校教諭二種免許の取得については、「教職課程履修規則」（P.217～）を参照してください。

■ アスレティックトレーナー認定試験受験資格
…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

アスレティックトレーナーは、スポーツドクターやコーチと緊密に協力し、スポーツ選手の健康管理や障害の予防、スポーツ外傷・障害の応急処置を担当します。また、リハビリテーションやスポーツ医学、フィジカルトレーニング、コンディショニングについての豊富な知識を生かし、スポーツ現場におけるトレーニングスタッフの一員として、活躍の場を広げています。

活躍の場 サッカー、野球、バスケットボールなどのスポーツチーム。アスレチッククラブ、フィットネスクラブ、病院など。

■ 健康運動実践指導者認定試験受験資格　…指定科目の単位の修得により取得可

健康運動実践指導者は、健康づくりのための運動実践者に与えられる称号の一つで、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づいて、実践指導を行うことができると認められた者に与えられます。

活躍の場 アスレチッククラブ、フィットネスクラブ、病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業等。

■ 健康運動指導士認定試験受験資格…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

健康運動指導士は、保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成および実践指導計画の調整等を行う役割を担う者を言います。今後本格化するであろう生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増しており、特に2008年度から実施の特定健診・特定保健指導において運動・身体活動支援を担うことについて、健康運動指導士への期待がますます高まっているところです。

活躍の場 アスレチッククラブ、フィットネスクラブ、病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業等。

■ アシスタントマネージャー認定試験受験資格
…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

アシスタントマネージャーは、総合型地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ会員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネジャーを補佐し、クラブ運営のための諸活動をサポートする資格です。

活躍の場 総合型地域スポーツクラブ、公共スポーツ施設など。

■ レクリエーションコーディネーター認定試験受験資格
…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

レクリエーションコーディネーターは、学校や地域、スポーツクラブ・施設等で行う行事・イベン

ト、スポーツ教室やレクリエーションプログラムを企画・運営し、「こどもたちの成長」や「地域のつながり」「介護予防」等のテーマに向けて、「楽しさ」を活かした活動を実施します。

また、こどもから高齢者、障がいをもつ人等、すべての人を対象とし、スポーツや野外活動、生涯学習活動など様々な活動をコーディネートして、「楽しさ」「いきがい」づくりを支援します。

活躍の場 スポーツ指導者、スポーツクラブ等の指導者、高齢者や障害者施設等の運動指導者、小・中学校教諭、野外活動や自然体験活動の指導者、職場等のレクリエーション担当者、地域活動を行う指導者（自治会やこども会活動、子育て支援、こどもの居場所づくり等）。

■ レクリエーションインストラクター資格　…指定科目の単位の修得により取得可

レクリエーションインストラクターは、人が集まったとき、緊張をほぐして、お互いにコミュニケーションをとりやすい雰囲気をつくるなどの「アイスブレーキング」「レクリエーションゲーム」や「協力ゲーム」の方法を身につけ、こどもたちや高齢者にあわせて、「遊び」や「スポーツ」活動をアレンジしリードします。

活躍の場 スポーツ指導者、保育士・幼稚園教諭、小・中学校教諭、社会福祉施設等の職員、地域活動に関わる方（介護予防、子育て支援、こども会活動、こどもの居場所づくり等）。

■ スポーツ・レクリエーション指導者資格　…指定科目の単位の修得により取得可

スポーツ・レクリエーション指導者は、幼児期、学童期、高齢期など、ステージごとの体の仕組みなどの生理学を理解し、「その人に合ったスポーツ・レクリエーション活動」を提供することで、体を動かす楽しさを実感させ、継続して活動できるよう支援することができる指導者です。運動能力を維持・向上させるために「コーディネーション能力（調整力）」を刺激し、運動への動機づけを高めることで健康づくりに貢献します。

活躍の場 スポーツ指導者、スポーツクラブ等の指導者、保育士・幼稚園教諭、小・中学校教諭、社会福祉施設などの職員、地域活動を行う指導者（自治会やこども会活動、子育て支援、こどもの居場所づくり等）。

■ JATI認定トレーニング指導者認定試験受験資格
…指定科目の単位の修得により取得可

トレーニング指導者は、一般人からアスリートまで幅広い目的や対象に応じて、科学的根拠に基づくトレーニング指導を行う専門家の資格です。国内外で約3,000名の認定者・会員が活動しています。

活躍の場 トレーニングコーチ、パーソナルトレーナー、民間および公共運動施設（フィットネスクラブや市町村体育館など）の運動指導者、中学校・高等学校の教員など。

■ 水泳コーチ 3 資格
…指定科目の単位の修得および修了試験の合格および卒業により取得可

「水泳コーチ 3」資格は、より高いレベルの水泳指導者を目指すための資格で、国民体育大会など

の大きな大会に監督やコーチとして帯同するためにも役に立つ資格です。通常、資格取得の際は、全国主要都市で開催される日本スポーツ協会および日本水泳連盟主催の講習を数日間受講する必要があり、今までは取得するために多くの時間が必要でした。本学では、2010年に日本スポーツ協会の認定校に指定されており、本学で指定の授業を受講し、検定試験に合格することで、資格取得が可能です。また、それらの授業では、水泳に関わる科学的根拠に基づいたトレーニング理論をはじめ、栄養学、心理学、スポーツ医学、ストロークメカニクスなど、高いレベルの指導者に求められる、最先端のスポーツ科学を学ぶことができます。現在、水泳コーチ３の認定校として指定されている大学は少なく、非常に価値の高い資格です。

活躍の場　学校部活動の顧問、スイミングスクール、アスレチッククラブ、フィットネスクラブなど。

■ 水泳コーチ１認定試験受験資格…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

水泳コーチ１は、日本水泳連盟が認定した水泳指導者の基礎資格です。水泳愛好者を対象に、水泳や水中運動を通して健康の維持・増進や体力向上を図るとともに、常に新しい水泳の知識や泳法の技術指導を施し、生涯スポーツとしての普及を目的とした資格です。

活躍の場　公共または民間スポーツ施設、学校体育、スイミングスクール、地域スポーツ活動など。

■ （公財）日本サッカー協会・日本スポーツ協会公認サッカーC級コーチ資格

サッカーC級コーチ資格は、公益財団法人 日本サッカー協会が認定したサッカー指導者の資格です。これまでC級コーチ養成講習会では、サッカーのテクニックを学ぶのに最も適切な年代とされているU-12年代を対象とした指導方法を学んでいました。しかし、2020年のカリキュラム改定により、現在のC級コーチ養成講習会では、対象とする選手の年齢に関係なく、子どもから大人までのサッカーに関する指導方法を学びます。

C級コーチ養成講習会を通して、ぜひ指導の「楽しさ」「難しさ」「奥の深さ」、そして「喜び」を体感し、資格取得を目指してください。

活躍の場　プロフェッショナルスポーツクラブ（Jリーグ・WEリーグ）、アマチュアスポーツクラブ（社会人リーグ・なでしこリーグ）大学、高校、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、サッカースクール事業会社（フィットネスクラブ・人材派遣）、独立行政法人国際協力機構。

■ ストレングスコーチ（Certified Strength & Conditioning Specialist: CSCS）認定試験受験可能

ストレングスコーチは、主にアスリートを対象にパフォーマンスの向上と傷害予防を目的として、ストレングストレーニングを中心として安全で効果的なエクササイズプログラムを作成し、指導を行います。また、施設を運営、管理することも重要な職務となります。

活躍の場　野球、サッカーなどのプロスポーツチーム。大学、高校、フィットネスクラブ、病院などのトレーニング施設。

■ NSCA認定パーソナルトレーナー（NSCA Certified Personal Trainer: NSCA-CPT）認定試験受験可能

パーソナルトレーナーは、契約したクライアント（対象者；１名もしくは複数の場合もある）に対してエクササイズ指導を行います。対象となるクライアントは、スポーツ選手だけでなく、健康、体力づくりを目的とした一般の人、医療的な問題を抱えリハビリテーションを目的とした人など多岐に渡ります。

活躍の場　フィットネスクラブ、公共のトレーニング施設。

■ ジュニアスポーツ指導員認定試験受験資格
…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

ジュニアスポーツ指導員は、発育発達期の身体的・心理的特徴についての専門的な知識と指導ノウハウを持ち、子どもたちを対象に指導にあたります。総合的な身体づくりと基礎的動作の習得を、遊びやゲームを取り入れたプログラムから学ぶことができる資格です。

活躍の場　地域総合型スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動。

健康スポーツ学科の各種資格（認定試験受験資格）取得に必要な科目一覧

各種資格（認定試験受験資格）取得に必要な科目一覧					日本スポーツ協会関連					トレーニング関連			健康関連		レク関連		
科目名	開講学年	セメスター	単位数		AT	水泳コーチ3	水泳コーチ1	アシマネ	ジュニア	CSCS	CPT	JATI	指導士	指導者	RC	SR	RI
			必修	選択													
体育原理・スポーツ哲学	1	前期	2		●	●	●	●	●								
スポーツ経営学	1	前期	2		●	●									○		
スポーツ社会学	1	後期	2		●	●	●	●	●						○		
スポーツ栄養学	1	後期	2		●	●				○	○	○	○	○			
衛生学・公衆衛生学	1	後期	2									○	○				
基礎解剖学	1	後期	2		○					○	○	○	○	○			
コーチング論	1	後期	2		●	●	●	●	●			○					
アスレティックトレーニング論	1	前期		2	○												
救急法実習Ⅰ	1	前期		1	○					○	○	○	○	○			
陸上競技	1	前期		1								○	○	○			
救急法実習Ⅱ	1	後期		1	○								○				
水泳	1	前・後期		1		○	○						○	○			
ダンス	1	前・後期		1										○			
運動生理学	2	前期	2		○					○	○	○	○	○			
ストレングス&コンディショニング論	2	前期	2		●	●				○	○	○					
スポーツ心理学	2	前期	2		●	●					○	○	○	○	○		
健康管理学	2	前期	2									○	○	○			
運動処方論Ⅰ	2	前期	2		○								○	○			
応用解剖学	2	前期		2	○							○					
スポーツ運動学	2	後期	2									○					
スポーツ医学総論	2	後期	2		●	●											
アダプテッドスポーツ論	2	後期	2		●	●									○	○	○
体力測定評価Ⅰ	2	後期	2								○	○	○	○			
アスレティックトレーナー基礎実習	2	前期		1	○												
スポーツ救急法実習	2	前期		1	○												
アスレティックトレーナー評価実習	2	後期		1	○												
体操(エアロビクスエクササイズ含む)	3	前期		1									○	○			
体つくり運動	3	前期		1					○								
スポーツ医学（整形外科）	3	前期		2	○								○	○			
スポーツ外傷・障害対応論	3	前期		2	○							○					
体力測定評価Ⅱ	3	前期		2							○	○	○				
運動処方論Ⅱ	3	前期		2									○				
生活習慣病と予防	3	前期		2	○								○				
健康づくり現場実習Ⅰ	3	前期		1									○				
スポーツセーフティ論	3	前期		2	○												
コンディショニング実習Ⅰ	3	前期		1	○							○					
リコンディショニング実習Ⅰ	3	前期		1	○												
アスレティックトレーナー演習Ⅰ	3	前期		1	○												
バイオメカニクス	3	前期		2	○					○	○	○					
競技スポーツのトレーニング	3	前期		2						○		○					
水泳指導論	3	前期		2		○	○										
水泳コーチ論	3	前期		2		○											
スポーツマネジメント論	3	前期		2				○									
レクリエーション指導論	3	前期		2											○	○	○
地域スポーツマネジメント論	3	前期		2				○									
インターンシップ実習	3	前期		1						○	○						
スポーツ外傷・障害予防論	3	後期		2	○												
コンディショニング実習Ⅱ	3	後期		1	○												
リコンディショニング実習Ⅱ	3	後期		1	○												
アスレティックトレーナー演習Ⅱ	3	後期		1	○												
競技スポーツのバイオメカニクス	3	後期		2								○					
水泳指導実習	3	後期		1		○	○										
体力トレーニング実習	3	後期		1						○	○	○					
スポーツと法	3	後期		2							○						
レクリエーション実技・指導実習	3	後期		1											○	○	○
アダプテッドスポーツ指導実習	3	後期		1											○	○	○
レクリエーションマネジメント実習	3	後期		1					○						○	○	○
健康運動指導論	4	前期		2									○				
アスレティックトレーナー総合実習	4	前期		1	○												
スポーツ実践指導法実習(各種)	3、4	前・後期		カリキュラム表参照					○								

注：AT＝アスレティックトレーナー、AM＝アシスタントマネージャ、CSCS＝ストレングス&コンディショニングスペシャリスト、
CPT＝認定パーソナルトレーナー、JATI＝トレーニング指導者
RC＝レクリエーションコーディネーター、SR＝スポーツ・レクリエーション指導者、RI＝レクリエーションインストラクター

アスレティックトレーナーの試験受験資格は日本スポーツ協会共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよびアスレティックトレーナー専門科目を修得すること
水泳コーチ３の試験受験資格は日本スポーツ協会共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび水泳コーチ３専門科目を修得すること
水泳コーチ１の試験受験資格は日本スポーツ協会共通科目Ⅰおよび水泳コーチ１専門科目を修得すること
※なお、水泳コーチ１および水泳コーチ３の２つを同時に修得することは不可能であり、どちらかのみの修得が可能となる
アシスタントマネジャーの試験受験資格は日本スポーツ協会共通科目Ⅰおよびアシスタントマネジャー専門科目を修得すること
ジュニアスポーツ指導員の試験受験資格は日本スポーツ協会共通科目Ⅰおよびジュニアスポーツ指導員専門科目を修得すること

日本スポーツ協会資格関連欄の●：日本スポーツ協会の共通科目を取得するための該当科目
日本スポーツ協会資格関連欄の○：日本スポーツ協会の専門科目を取得するための該当科目

看護学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための３つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を５項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の３つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	看護の対象となる人を全人的に理解するための教養とともに看護に関する専門的知識と技術を身につけている。	看護の対象となる人を全人的に理解するために基礎教養科目、保健医療福祉教養科目を配置する。さらに、看護に関わる専門的知識と技術を身につけるため１年次から専門基礎科目、専門専攻科目を配置する。これらにより段階的にアセスメント力を修得できるようにする。成果は当該科目の成績により評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	多職種と良好なコミュニケーションを図り、連携しながら調整役として主体的に行動することができる。	多職種との連携・協働に必要なコミュニケーション力と調整力を修得するために保健医療福祉教養科目、保健医療福祉連携科目を配置する。また、専門専攻科目においてもグループ学習を活用し、メンバーシップ・リーダーシップを養う。成果は当該科目の成績により評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と高潔な倫理観を有し、多様な背景を持つ対象者のQOL向上に向けて看護を提供することができる。	豊かな人間性と高潔な倫理観を持って対象と関わることができるよう、保健医療福祉教養科目・専門基礎科目・専門専攻科目に倫理や哲学に関する選択科目を配置する。また、専門専攻科目に看護倫理、１年次から臨地実習を配置し、２年・３年次は様々な発達段階・健康段階にある対象に対する看護を実践できるよう実習を配置する。成果は当該科目と臨地実習の成績により評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	対象の健康課題を判断し、科学的根拠に基づいてその解決に向けて取り組むことができる。	対象の健康課題を解決に向けて取り組むことができるよう専門基礎科目、臨地実習を含む専門専攻科目を配置する。そのための判断力、実践力を身につけられるよう４年間を通して課題解決型学習、シミュレーション教育を取り入れる。成果は当該科目と臨地実習の成績により評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	知的好奇心を持ち、社会の変化や看護の動向に対応し、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。	社会の変化や看護の動向に好奇心を持ち、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる看護師となるために専門専攻科目に看護実践論、統合実習、卒業研究などの統合・発展の科目を配置する。多様な看護職のキャリア選択を可能とする看護師、保健師、助産師、養護教諭の専門専攻選択科目を配置する。成果は当該科目と卒業生の進路により評価する。

カリキュラム表

看護学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数： 6単位以上

看護学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	8	0	225	
	保健医療福祉科目計 (②＋③)					1	41	0	735	卒業要件単位数： ８単位以上
全学科共通科目計Ⓐ (①＋②＋③)						7	67	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

看護学科

授業科目の名称				科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門基礎科目群		遺伝学と保健医療	330000	1	後期		1		15	助産師必修
			人体の構造と機能Ⅰ	330005	1	前期	4			60	
			人体の構造と機能Ⅱ	330010	1	後期	3			45	
			こころの構造と機能	330015	1	前期	1			15	
			臨床栄養学	330025	2	前期	1			15	
			感染防御と管理（微生物学を含む）	330530	1	後期	1			15	
			病態生理・治療学Ⅰ	330040	2	前期	2			30	
			病態生理・治療学Ⅱ	330045	2	前期	2			30	
			病態生理・治療学Ⅲ	330050	2	前期	2			30	
			病態生理・治療学Ⅳ	330055	2	後期	2			30	
			病態生理・治療学Ⅴ	330060	2	後期	2			30	
			臨床薬理学	330065	2	前期	2			30	
			保健統計学	301000	3	前期	2			30	
			公衆衛生学（疫学を含む）	330535	2	後期		2		30	保健師・養護教諭必修
			ジェンダーと人権	330075	1	前期		1		15	助産師必修
			保健医療福祉制度論	330700	1	前期	2			30	
			臨床心理学(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む)	330650	1	前期		1		15	
			健康社会学	330705	1	前期	1			15	
			小計④				27	5	0	480	卒業要件単位数：　２７単位以上
専門科目	専門専攻科目群	基礎	看護学概論	330095	1	前期	2			30	
			援助的人間関係論	330100	1	前期	1			15	
			基礎看護学Ⅰ	330105	1	後期	1			15	
			基礎看護学演習Ⅰ	330110	1	後期	2			60	
			基礎看護学Ⅱ	330115	2	前期	1			15	
			基礎看護学演習Ⅱ	330120	2	前期	1			30	
			フィジカルアセスメント	330125	1	後期	1			30	
			看護過程演習	330130	2	前期	1			30	
			基礎看護学実習Ⅰ	330400	1	後期	1			45	
			基礎看護学実習Ⅱ	330405	2	前期	2			90	
		地域・在宅	地域看護学概論	330710	1	前期	2			30	
			在宅看護学概論	330715	2	後期	1			15	
			在宅看護方法論	330720	2	後期	1			15	
			在宅看護学演習	330235	3	前期	1			30	
			地域包括ケア論	330560	4	前期	1			15	
			在宅看護学実習	330725	3	後期	2			90	
		小児	小児発達保健論	330135	1	後期	1			15	
			小児看護学概論	330140	2	前期	2			30	
			小児看護学演習	330145	3	前期	1			30	
			小児看護学実習	330410	3	後期	2			90	
		成人	成人看護学概論	330155	2	前期	1			15	
			成人急性期看護学	330160	2	後期	1			15	
			成人急性期看護学演習	330165	3	前期	1			30	
			成人慢性期看護学	330170	2	前期	1			15	
			成人慢性期看護学演習	330175	2	後期	1			30	
			成人がん看護学	330550	3	前期	1			15	
			成人急性期看護学実習Ⅰ	330415	3	後期	2			90	
			成人急性期看護学実習Ⅱ	330680	3	後期	1			45	
			成人慢性期看護学実習	330420	3	後期	2			90	
			終末期看護学実習	330610	3	後期	1			45	
		高齢者	高齢者発達保健論	330180	1	後期	1			15	
			高齢者看護方法論	330555	2	前期	2			30	
			高齢者看護学演習	330190	3	前期	1			30	
			高齢者看護学実習Ⅰ	330435	3	後期	1			45	
			高齢者看護学実習Ⅱ	330730	3	後期	2			90	

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	選択	自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	精神 精神発達保健論	330195	1	後期	1			15	
		精神看護学概論	330200	2	前期	2			30	
		精神看護学演習	330205	2	後期	1			30	
		精神看護学実習	330445	3	後期	2			90	
		母性 ｾｸｼｭｱﾘﾃｨ看護学概論	330210	1	前期	1			15	
		ﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸﾃｨﾌﾞﾍﾙｽｹｱ	330220	2	後期	2			30	
		ﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸﾃｨﾌﾞﾍﾙｽｹｱ演習	330225	3	前期	1			30	
		母性看護学実習	330450	3	後期	2			90	
		統合・発展 シミュレーショントレーニング	330570	1	後期	1			15	
		症候看護論演習	330600	2	後期	1			30	
		看護理論	330280	1	後期	1			15	
		看護倫理	330285	1	後期	1			15	
		看護診断学	330290	4	前期		1		15	
		家族看護学	330295	2	後期	1			15	
		看護管理学	330300	3	前期	2			30	
		看護政策論	330305	2	後期	1			15	
		診療看護論演習	330605	2	後期	1			30	
		看護教育学	330315	4	前期		1		15	
		災害看護論	330670	3	前期	1			15	
		国際看護論	330675	1	前期	1			15	
		国際看護論演習	330330	②･3･4	前期		1		30	
		看護研究方法論	330575	2	後期	1			15	
		文献クリティーク	330735	3	前期	1			15	
		ヒューマンケアリング	330345	4	前期		1		15	
		スピリチュアルケア	330350	4	前期		1		15	
		ディメンチア・ケア	330355	4	前期		1		15	
		エンドオブライフケア	330595	4	前期		1		15	
		卒業研究Ⅰ	330740	4	前期	1			30	
		卒業研究Ⅱ	330590	4	後期		1		30	
		看護実践論	330365	4	前期	1			15	
		地域生活実習	330745	1	前期	1			45	
		統合実習	330460	4	前期	2			90	
		公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	330750	2	前期		1		15	保健師・養護教諭必修
		保健医療福祉行政論	330755	2	後期		1		15	保健師必修
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	330565	2	後期		2		30	保健師・助産師必修
		公衆衛生看護活動演習Ⅰ	330665	3	前期		1		30	保健師必修
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	330250	3	前期		1		15	保健師・助産師・養護教諭必修
		公衆衛生看護活動演習Ⅱ	330270	3	前期		1		30	保健師・養護教諭必修
		公衆衛生看護活動演習Ⅲ	330760	4	前期		1		30	保健師必修
		学校保健活動論	330255	2	後期		1		15	保健師・養護教諭必修
		産業保健活動論	330660	4	前期		1		15	保健師必修
		公衆衛生看護管理学	330275	4	後期		1		15	保健師必修
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	330615	4	前期		1		45	保健師必修
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	330765	4	前期		4		180	保健師必修
		助産学 助産学概論	330370	2	後期		1		15	助産師必修
		性と生殖	330215	2	後期		1		15	助産師必修
		助産診断・技術学Ⅰ	330375	3	前期		1		15	助産師必修
		助産診断・技術学Ⅱ	330380	4	前期		2		30	助産師必修
		助産診断・技術学Ⅲ	330385	4	前期		2		30	助産師必修
		助産診断・技術学Ⅳ	330390	4	前期		2		30	助産師必修
		助産診断・技術学Ⅴ	330770	4	後期		2		30	助産師必修
		助産管理学	330395	4	後期		2		30	助産師必修
		助産学実習Ⅰ	330480	4	前期		1		45	助産師必修
		助産学実習Ⅱ	330630	4	前期		8		360	助産師必修
		助産学実習Ⅲ	330490	4	後期		1		45	助産師必修
		助産学実習Ⅳ	330640	4	後期		1		45	助産師必修
		小計⑤				76	48	0	3,330	

看護学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	養護教諭一種科目	食品学	330500	1	後期		1		15	養護教諭必修
		学校保健	330505	2	後期		1		15	養護教諭必修
		養護概論	330510	2	後期		2		30	養護教諭必修
		教職概論	300000	1	前期		2		30	養護教諭必修
		教育原理	300055	1	後期		2		30	養護教諭必修
		教育心理学Ⅰ	300080	2	前期		1		15	養護教諭必修
		教育心理学Ⅱ	325490	2	前期		1		15	養護教諭必修
		教育社会制度論Ⅰ	300085	2	前期		1		15	養護教諭必修
		教育社会制度論Ⅱ	325495	2	前期		1		15	養護教諭必修
		教育課程論	300090	2	後期		2		30	養護教諭必修
		道徳教育指導論Ⅰ	300115	3	前期		1		15	養護教諭必修
		特別活動指導論Ⅰ	300120	3	前期		1		15	養護教諭必修
		教育方法・技術	300095	2	後期		2		30	養護教諭必修
		生徒指導論	300105	3	前期		2		30	養護教諭必修
		教育相談	300110	3	前期		2		30	養護教諭必修
		特別支援教育論	300070	3	前期		1		15	養護教諭必修
		総合的な学習の時間の指導論	300075	3	前期		1		15	養護教諭必修
		養護実習指導論	330515	4	前期		1		30	養護教諭必修
		養護実習	330520	4	前期		4		120	養護教諭必修
		教職実践演習(養護教諭)	330525	4	後期		2		30	養護教諭必修
		教職教養演習Ⅰ	325120	2	後期		1		30	
		教職教養演習Ⅱ	325335	3	前期		1		30	
		小計⑥				0	33	0	600	
	専門専攻科目＋養護教諭一種科目計 (⑤＋⑥)					76	81	0	3,930	卒業要件単位数： １０６単位以上
専門科目計Ⓑ (④＋⑤＋⑥)						103	86	0	4,410	卒業要件単位数：１０３単位以上 ※卒業要件１２４単位に不足する７単位は、全科目群の選択科目から取得
合計 (Ⓐ＋Ⓑ)						110	153	0	6,000	卒業要件：４年以上在学し、 かつ１２４単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：看護師（必修）

・学外実習

学内での学習により小児から高齢者までの特性を理解したうえで、臨床実習の場において、対象者が抱えている健康上の問題やニーズを評価し、必要なケアを行います。この実習を通じて看護の機能と役割に対する理解を深めるとともに、実際の臨床の場で活用できる実践能力を養います。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
地域生活実習	1年次前期 （1週間）	子育て支援センター、 障害者施設等	看護の対象が生活者であることを理解する。
基礎看護学実習Ⅰ	1年次後期 （1週間）	病院	看護の実際を理解する。患者とのコミュニケーションを通して、自己の課題を明らかにする。
基礎看護学実習Ⅱ	2年次前期 （2週間）	病院	対象者に応じた看護過程について学び、実施する。
母性看護学実習	3年次後期 （2週間）	病院、クリニック	妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にある対象への看護を実践する。
小児看護学実習	3年次後期 （2週間）	保育施設 病院	健康児を理解する。 病児における看護を実践する。
成人急性期看護学実習Ⅰ	3年次後期 （2週間）	病院	急性期にある対象への看護を実践する。
成人慢性期看護学実習	3年次後期 （2週間）	病院	慢性病をもつ対象への看護を実践する。
成人急性期看護学実習Ⅱ	3年次後期 （1週間）	病院	クリティカルケアや高度医療に関わる看護師の役割について学ぶ。
終末期看護学実習	3年次後期 （1週間）	病院	終末期の対象と家族への関わりを学ぶ。
高齢者看護学実習Ⅰ	3年次後期 （1週間）	グループホーム 介護老人保健施設	高齢者の健康状態・生活状況に応じた日常生活支援を学ぶ。
高齢者看護学実習Ⅱ	3年次後期 （2週間）	病院	高齢者の健康障害に応じた看護を実践する。
精神看護学実習	3年次後期 （2週間）	病院 クリニック等	精神症状のある対象への看護を実践する。
在宅看護学実習	3年次後期 （2週間）	訪問看護ステーション等	訪問看護ステーション等の機能を学ぶ。 在宅療養者への看護を実践する。
統合実習	4年次前期 （2週間）	病院	既に学んだ看護の知識や技術を統合して、看護体制や看護管理の実際を学ぶ。

・履修基準

（1）地域生活実習

第1年次に開講される「地域生活実習」を履修するためには、第1年次前期に開講されている「看護学概論」「援助的人間関係論」「地域看護学概論」を履修する必要があります。

（2）基礎看護学実習Ⅰ

第1年次に開講される「基礎看護学実習Ⅰ」を履修するためには、下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊人体の構造と機能Ⅰ　＊こころの構造と機能　＊看護学概論　＊援助的人間関係論

（3）基礎看護学実習Ⅱ

第2年次に開講される「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するためには、下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊人体の構造と機能Ⅱ　＊基礎看護学Ⅰ　＊基礎看護学演習Ⅰ
＊フィジカルアセスメント　＊基礎看護学実習Ⅰ

（4）第3年次の専門看護学実習

第3年次に開講される「専門看護学実習」の履修要件は下記のとおりです。

①各領域共通科目：下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊病態生理・治療学Ⅰ～Ⅴ　＊臨床薬理学　＊基礎看護学実習Ⅱ　＊基礎看護学Ⅱ
＊基礎看護学演習Ⅱ　＊看護過程演習　＊感染防御と管理　＊看護倫理
＊症候看護論演習

②母性看護学実習：①に加えて下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊セクシュアリティ看護学概論　＊リプロダクティブヘルスケア
＊リプロダクティブヘルスケア演習

③小児看護学実習：①に加えて下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊小児発達保健論　＊小児看護学概論　＊小児看護学演習

④成人急性期看護学実習Ⅰ・Ⅱ:①に加えて下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊成人看護学概論　＊成人急性期看護学　＊成人急性期看護学演習　＊成人がん看護学

⑤成人慢性期看護学実習・終末期看護学実習：①に加えて下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊成人看護学概論　＊成人慢性期看護学　＊成人慢性期看護学演習　＊成人がん看護学

⑥精神看護学実習：①に加えて下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊精神発達保健論　＊精神看護学概論　＊精神看護学演習

⑦高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ：①に加えて下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊高齢者発達保健論　＊高齢者看護方法論　＊高齢者看護学演習

⑧在宅看護学実習：①に加えて下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊在宅看護学概論　　＊在宅看護方法論　　＊在宅看護学演習

（5）統合実習

第4年次に開講される「統合実習」における履修要件は下記のとおりです。

各専門領域実習の単位を修得していることが前提である。

■ 対象資格：保健師（選択）

・学外実習

公衆衛生看護学に関する講義、演習で学んだ理論を実践的に検証し、知識・技術の統合を図るとともに、行政機関（保健所・市町村）や職域（企業・健診機関）における公衆衛生看護活動の実際を学びます。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4年次前期（1週間）	企業・健診機関等	職域における公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4年次前期（4週間）	保健所・市町村	行政機関における公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。

・履修基準

（1）公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ

第4年次前期に開講される「公衆衛生看護学実習Ⅰ」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ」を履修するためには、下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。さらに、第4年次前期に「産業保健活動論」「公衆衛生看護活動演習Ⅲ」を履修する必要があります。ただし、編入生においてはこの限りではありません。

＊公衆衛生看護学概論　　＊公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ　　＊公衆衛生看護活動演習Ⅰ・Ⅱ

なお、履修定員40名のため、3年次後期までの成績および選考試験によって履修資格の認定を行います。成績の対象となる科目は、3年次後期までに開講されている「看護学科必修科目」の全てと3年次後期までに開講されている「保健師国家試験受験資格取得に必要な授業科目」の全科目です。

■ 対象資格：助産師（選択）

・学外実習

妊婦、産婦、褥婦、新生児ならびにその家族に対して、助産の基礎的知識・技術・態度を統合して助産過程を展開し、助産師に必要な基礎的能力を養います。また、助産所における助産業務管理の実際を学びます。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
助産学実習Ⅰ	4年次前期 （1週間）	病院 クリニック	妊娠期（胎児期）から産褥期（新生児期）にある対象者を継続して受け持ち、助産過程を展開する。
助産学実習Ⅱ	4年次前期 （8週間）	病院 クリニック 助産所	分娩期から産褥期・新生児期にある対象者とその家族への助産活動を実践する。
助産学実習Ⅲ	4年次後期 （1週間）	病院（NICU）	ハイリスク新生児とその家族に対する助産活動について学ぶ。
助産学実習Ⅳ	4年次後期 （1週間）	病院 クリニック	妊娠期から産褥期にある対象者に集団および個別の健康教育を企画・運営する。

・履修基準

（1）助産学実習Ⅰ～Ⅳ

第4年次に開講される「助産学実習Ⅰ」、「助産学実習Ⅱ」、「助産学実習Ⅲ」、「助産学実習Ⅳ」を履修するためには、下記の科目をすべて修得しておかなければなりません。

＊遺伝学と保健医療　＊ジェンダーと人権　＊性と生殖　＊リプロダクティブヘルスケア
＊助産学概論　＊公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ　＊リプロダクティブヘルスケア演習
＊助産診断・技術学Ⅰ

なお、履修定員は5名のため、3年次後期までの成績および選考試験によって履修資格の認定を行います。成績の対象となる科目は、3年次後期までに開講されている「看護学科必修科目」の全科目と3年次後期までに開講されている「助産師国家試験受験資格取得に必要な授業科目」の全科目です。

■ 対象資格：養護教諭一種免許

・学外実習

これまで学んだ養護教諭に関する科目を踏まえ、「子どもが自ら健康に生きていく力」を育てるための健康支援の方法を知り、実践力を養うことを通して養護教諭の役割を習得します。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
養護実習	4年次前期 （3週間）	新潟市内小中学校	教育現場における養護教諭の役割を学ぶ。

※養護教諭一種免許取得に関する詳細は、「教職課程履修規則」（P.217～）を参照のこと。

取得できる資格と免許

■ 看護師国家試験受験資格　…卒業により取得可

看護師の資格とその業務は、保健師助産師看護師法に「看護師とは厚生労働大臣の免許を受けて、

傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話または診療の補助を行なうことを業とする者をいう」と規定されています。

活躍の場 看護師は、病院に勤務する者が多くを占めます。近年、社会の医療・福祉ニーズの変化に対応して、在宅ケアや福祉関係への進出も注目されてきており、医療機関から高齢者施設などの病院以外の施設や地域社会へと看護活動の場が広がっています。

看護師国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣の指定した学校において3年以上看護師になるのに必要な学科を修めなければなりません。

看護学科は、文部科学大臣より看護師学校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、看護師国家試験の受験資格が得られます。

教育課程＼指定規則の教育内容						別表3（看護師課程）																										
						基礎分野		専門基礎分野			専門分野									臨地実習												計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	
			必修	選択				16		6	11	6	6	4	4	4	4	4	3	2	4		2	2	2	2		
						14		22			43								23（教育内容を問わない実習6単位を含む）									102
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30	①	①																									
	情報処理Ⅰ	1前	1		30	①	①																									
	情報処理Ⅱ	1後	1		30	①	①																									
	情報処理Ⅲ	2前		1	30																											
	英語Ⅰ	1前	1		30	①	①																									
	英語Ⅱ	1後	1		30	①	①																									
	アカデミック英語Ⅰ	2～4前		1	30																											
	アカデミック英語Ⅱ	2～4後		1	30																											
	アカデミック英語Ⅲ	2～4後		1	30																											
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30																											
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30																											
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30																											
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30																											
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30																											
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30																											
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30																											
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30																											
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15																											
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15																											
	スポーツ・健康	1前後	1		30	①	①																									
	スポーツ・実践	2～4前後		1	30																											
	哲学	1前		1	15	①	①																									
	倫理学	1後		1	15	①	①																									
	ジェンダー論	1前		1	15	①	①																									
	科学論	1後		1	15	①	①																									
	情報科学	1後		1	15	①	①																									
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30	①																										
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30	①																										
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30	①																										
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30	①																										
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30	①																										
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30	①																										
小計						6		6			0								0												6	
																															6	

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容						別表３（看護師課程）																										
						基礎分野		専門基礎分野			専門分野										臨地実習												
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	計
			必修	選択				16		6	11	6	6	4	4	4	4	4	3	2	4		2	2	2	2	
						14		22			43								23（教育内容を開わない実習６単位を含む）								102
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	１前		1	15	①	①																									
	コミュニケーション学入門	１前		1	15	①	①																									
	対人コミュニケーション論	１後		1	15	①	①																									
	心理学の世界	１後		1	15	①	①																									
	人間を知る	１前		1	15	①	①																									
	命の倫理	１後		1	15	①	①																									
	ＱＯＬの世界	１後		1	15	①	①																									
	こどもの世界	１後		1	15	①	①																									
	アスリートの世界	１前		1	15	①	①																									
	臨床医の世界	１後		1	15	①	①																									
	加齢と身体	１後		1	15	①	①																									
	食を楽しむ	１前		1	15	①	①																									
	眼の神秘	１前		1	15	①	①																									
	義肢装具の世界	１後		1	15	①	①																									
	新潟学	１後		1	15	①	①																									
	国際保健の世界	１後		1	15	①	①																									
	国民の生活と健康を支える仕組み	１前		1	15	①	①																									
	現代社会と経済	１前		1	15	①	①																									
	法学Ⅰ	１前後		1	15	①	①																									
	法学Ⅱ	１前後		1	15	①	①																									
	臨床の哲学	１前		1	15	①	①																									
	臨床技術の世界	１前		1	15	①	①																									
	留学の魅力	１前		1	15	①	①																									
	シティズンシップ教育入門	１後		1	15	①	①																									
	放射線の基礎と人体への影響	１前		1	15	①	①																									
	新潟水俣病の理解	１前		1	15	①	①																									
	一次救命処置法	１前		1	15	①	①																									
	東洋医学的養生	１前		1	15	①	①																									
	自然人類学概論	１後		1	15	①	①																									
	データサイエンス概論	１後		1	30	①	①																									
	アスリートサポートの世界	１後		1	15	①	①																									
	比較認知科学の世界	１前		1	15	①	①																									
	アカデミック・ライティング	１後		1	15	①																										
保健医療福祉連携科目群	チームアプローチ入門	１後		1	15	①	①																									
	連携基礎ゼミ	２後	1		30	①	①																									
	保健医療福祉連携学	２・３前		1	15	①	①																									
	地域連携学	３前		1	15	①	①																									
	連携総合ゼミ	３後・４前		1	30	①	①																									
	社会連携実践演習Ⅰ	１・２・３・４前		1	30	①	①																									
	社会連携実践演習Ⅱ	１・２・３・４後		1	30	①	①																									
	国際交流演習Ⅰ	１・２・３・４前		1	30		①																									
	国際交流演習Ⅱ	１・２・３・４後		1	30		①																									
	小計				8	1 選択 7		0			0								0														
専門基礎科目群	遺伝学と保健医療	１後		1	15																											
	人体の構造と機能Ⅰ	１前	4		15			④																									
	人体の構造と機能Ⅱ	１後	3		15			③																									
	こころの構造と機能	１前	1		15			①	①																								
	臨床栄養学	２前	1		15					①																							
	感染防御と管理（微生物学を含む）	１後	1		15					①																							
	病態生理・治療学Ⅰ	２前	2		15			②	②																								
	病態生理・治療学Ⅱ	２前	2		15			②	②																								
	病態生理・治療学Ⅲ	２前	2		15			②	②																								
	病態生理・治療学Ⅳ	２後	2		15			②	②																								
	病態生理・治療学Ⅴ	２後	2		15			②	②																								
	臨床薬理学	２前	2		15			②	②																								
	保健統計学	３前	2		15	②																										
	公衆衛生学（疫学を含む）	２後		2	15																											
	ジェンダーと人権	１前		1	15																											
	保健医療福祉制度論	１前	2		15					②																							
	臨床心理学（カウンセリングを含む）	１前		1	15																											
	健康社会学	１前	1		15					①																							
	小計				27	2		25			0								0														

必修１単位を含む８単位以上を履修

ただし、チームアプローチ入門、保健医療福祉連携学、地域連携学、連携総合ゼミの中から２単位以上を履修

必修27単位を含む27単位以上を履修

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表3（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	専門分野 基礎看護学	専門分野 地域・在宅看護論	専門分野 成人看護学	専門分野 老年看護学	専門分野 小児看護学	専門分野 母性看護学	専門分野 精神看護学	専門分野 看護の統合と実践	臨地実習 基礎看護学	臨地実習 地域・在宅看護論	臨地実習 成人看護学	臨地実習 老年看護学	臨地実習 小児看護学	臨地実習 母性看護学	臨地実習 精神看護学	臨地実習 看護の統合と実践	計
									16	6		11	6	6	4	4	4	4	4	3	2	4		2	2	2	2	
							14		22			43								23（教育内容を問わない実習6単位を含む）								102
専門専攻科目群	基礎 看護学概論	1前	2		15							②															
	基礎 援助的人間関係論	1前	1		15							①															
	基礎 基礎看護学Ⅰ	1後	1		15							①															
	基礎 基礎看護学演習Ⅰ	1後	2		30							②															
	基礎 基礎看護学Ⅱ	2前	1		15							①															
	基礎 基礎看護学演習Ⅱ	2前	1		30							①															
	基礎 フィジカルアセスメント	1後	1		30							①															
	基礎 看護過程演習	2前	1		30							①															
	基礎 基礎看護学実習Ⅰ	1後	1		45															①							
	基礎 基礎看護学実習Ⅱ	2前	2		45															②							
	地域・在宅 地域看護学概論	1前	2		15								②														
	地域・在宅 在宅看護学概論	2後	1		15								①														
	地域・在宅 在宅看護方法論	2後	1		15								①														
	地域・在宅 在宅看護学演習	3前	1		30								①														
	地域・在宅 地域包括ケア論	4前	1		15								①														
	地域・在宅 在宅看護学実習	3後	2		45																②						
	小児 小児発達保健論	1後	1		15											①											
	小児 小児看護学概論	2前	2		15											②											
	小児 小児看護学演習	3前	1		30											①											
	小児 小児看護学実習	3後	2		45																			②			
	成人 成人看護学概論	2前	1		15									①													
	成人 成人急性期看護学	2後	1		15									①													
	成人 成人急性期看護学演習	3前	1		30									①													
	成人 成人慢性期看護学	2前	1		15									①													
	成人 成人慢性期看護学演習	2後	1		30									①													
	成人 成人がん看護学	3前	1		15									①													
	成人 成人急性期看護学実習Ⅰ	3後	2		45																	②					
	成人 成人急性期看護学実習Ⅱ	3後	1		45																	①					
	成人 成人慢性期看護学実習	3後	2		45																	②					
	成人 終末期看護学実習	3後	1		45																	①					
	高齢者 高齢者発達保健論	1後	1		15										①												
	高齢者 高齢者看護方法論	2前	2		15										②												
	高齢者 高齢者看護学演習	3前	1		30										①												
	高齢者 高齢者看護学実習Ⅰ	3後	1		45																		①				
	高齢者 高齢者看護学実習Ⅱ	3後	2		45																		②				
	精神 精神発達保健論	1後	1		15													①									
	精神 精神看護学概論	2前	2		15													②									
	精神 精神看護学演習	2後	1		30													①									
	精神 精神看護学実習	3後	2		45																				②		
	母性 セクシュアリティ看護学概論	1前	1		15												①										
	母性 リプロダクティブヘルスケア	2後	2		15												②										
	母性 リプロダクティブヘルスケア演習	3前	1		30												①										
	母性 母性看護学実習	3後	2		45																				②		

教育課程＼指定規則の教育内容	区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表3（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	専門分野 基礎看護学	専門分野 地域・在宅看護論	専門分野 成人看護学	専門分野 老年看護学	専門分野 小児看護学	専門分野 母性看護学	専門分野 精神看護学	専門分野 看護の統合と実践	臨地実習 基礎看護学	臨地実習 地域・在宅看護論	臨地実習 成人看護学	臨地実習 老年看護学	臨地実習 小児看護学	臨地実習 母性看護学	臨地実習 精神看護学	臨地実習 看護の統合と実践	計
										16		6	11	6	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	
								14		22			43								23（教育内容を問わない実習6単位を含む）								102
専門専攻科目群	統合・発展	シミュレーショントレーニング	1後	1		15	必修76単位を含む76単位以上を履修						①															
		症候看護論演習	2後	1		30														①								
		看護理論	1後	1		15							①															
		看護倫理	1後	1		15							①															
		看護診断学	4前		1	15																						
		家族看護学	2後	1		15														①								
		看護管理学	3前	2		15							②							②								
		看護政策論	2後	1		15						①																
		診療看護論演習	2後	1		30									①													
		看護教育学	4前		1	15																						
		災害看護論	3前	1		15														①								
		国際看護論	1前	1		15														①								
		国際看護論演習	2～4前		1	30																						
		看護研究方法論	2後	1		15							①							①								
		文献クリティーク	3前	1		15														①								
		ヒューマンケアリング	4前		1	15																						
		スピリチュアルケア	4前		1	15																						
		ディメンチア・ケア	4前		1	15																						
		エンドオブライフケア	4前		1	15																						
		卒業研究Ⅰ	4前	1		30		①																				
		卒業研究Ⅱ	4後		1	30																						
		看護実践論	4前	1		15														①								
		地域生活実習	1前	1		45																						①
		統合実習	4前	2		45																						②
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前		1	15																						76
		保健医療福祉行政論	2後		1	15																						
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後		2	15																						
		公衆衛生看護活動演習Ⅰ	3前		1	30																						
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	3前		1	15																						
		公衆衛生看護活動演習Ⅱ	3前		1	30																						
		公衆衛生看護活動演習Ⅲ	4前		1	30																						
		学校保健活動論	2後		1	15																						
		産業保健活動論	4前		1	15																						
		公衆衛生看護管理学	4後		1	15																						
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前		1	45																						
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		4	45																						
	助産学	助産学概論	2後		1	15																						
		性と生殖	2後		1	15																						
		助産診断・技術学Ⅰ	3前		1	15																						
		助産診断・技術学Ⅱ	4前		2	15																						
		助産診断・技術学Ⅲ	4前		2	15																						
		助産診断・技術学Ⅳ	4前		2	15																						
		助産診断・技術学Ⅴ	4後		2	15																						
		助産管理学	4後		2	15																						
		助産学実習Ⅰ	4前		1	45																						
		助産学実習Ⅱ	4前		8	45																						
		助産学実習Ⅲ	4後		1	45																						
		助産学実習Ⅳ	4後		1	45																						

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表3（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	専門分野 基礎看護学	専門分野 地域・在宅看護論	専門分野 成人看護学	専門分野 老年看護学	専門分野 小児看護学	専門分野 母性看護学	専門分野 精神看護学	専門分野 看護の統合と実践	臨地実習 基礎看護学	臨地実習 地域・在宅看護論	臨地実習 成人看護学	臨地実習 老年看護学	臨地実習 小児看護学	臨地実習 母性看護学	臨地実習 精神看護学	臨地実習 看護の統合と実践	計
	教育課程 ＼ 指定規則の教育内容																										
									16	6		11	6	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	
							14		22			43								23（教育内容を問わない実習6単位を含む）							102
養護教諭一種科目	食品学	1後		1	15																						
	学校保健	2後		1	15																						
	養護概論	2後		2	15																						
	教職概論	1前		2	15																						
	教育原理	1後		2	15																						
	教育心理学Ⅰ	2前		1	15																						
	教育心理学Ⅱ	2前		1	15																						
	教育社会制度論Ⅰ	2前		1	15																						
	教育社会制度論Ⅱ	2前		1	15																						
	教育課程論	2後		2	15																						
	道徳教育指導論Ⅰ	3前		1	15																						
	特別活動指導論Ⅰ	3前		1	15																						
	教育方法・技術	2後		2	15																						
	生徒指導論	3前		2	15																						
	教育相談	3前		2	15																						
	特別支援教育論	3前		1	15																						
	総合的な学習の時間の指導論	3前		1	15																						
	養護実習指導論	4前		1	30																						
	養護実習	4前		4	30																						
	教職実践演習（養護教諭）	4後		2	15																						
	教職教養演習Ⅰ	2後		1	30																						
	教職教養演習Ⅱ	3前		1	30																						
	小計					76	1		1			51								23								76
	卒業要件単位数					124（基礎教養科目群から6単位、保健医療福祉教養科目群及び保健医療福祉連携科目群から8単位、専門基礎科目群から27単位、専門専攻科目群及び養護教諭一種科目から76単位、上記の条件に加え、全ての科目群の選択科目から7単位以上（上記保健医療福祉教養科目群及び保健医療福祉連携科目群で履修した選択科目を除く。）、あわせて124単位以上修得すること。）	11		25			51								23								117
							選択 7																					
	指定規則に対する増単位数						4		3			8								0								15

■ 保健師国家試験受験資格　　…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

保健師は、「保健師助産師看護師法」に規定された国家資格で、保健師国家試験および看護師国家試験に合格して、厚生労働大臣の免許を受けて、「保健師の名称を用いて、保健指導に従事することを業とする者をいう」と規定されています。具体的には、地域で暮らす人々の健康づくりを支援するために、家庭訪問・健康相談・健康教育やコミュニティ組織活動などの方法により、乳幼児から高齢者に至る対象者のライフステージや健康レベルに応じた公衆衛生看護の活動を行っています。

活躍の場　行政機関（保健所・市区町村）に所属し、公衆衛生看護の実践活動に従事している保健師が大多数を占めますが、このほかに、職域（企業・検診センター）や在宅看護（訪問看護ステーション）、高齢者の相談部門（地域包括支援センター）など活動の場が広がっています。

保健師国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣の指定した学校において１年以上保健師になるのに必要な学科を修めなければなりません。

看護学科は、文部科学大臣より保健師学校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、保健師国家試験の受験資格が得られます。

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容							別表１（保健師課程）										
							公衆衛生看護学				疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習			計
							公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論				個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習	
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件											
			必修	選択			2	16			2	2	4	2	3		31
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30	必修６単位を含む６単位以上を履修											1
	情報処理Ⅰ	1前	1		30												
	情報処理Ⅱ	1後	1		30							①					
	情報処理Ⅲ	2前		1	30												
	英語Ⅰ	1前	1		30												
	英語Ⅱ	1後	1		30												
	アカデミック英語Ⅰ	2～4前		1	30												
	アカデミック英語Ⅱ	2～4後		1	30												
	アカデミック英語Ⅲ	2～4後		1	30												
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30												
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30												
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30												
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30												
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30												
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30												
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30												
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30												
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15												
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15												
	スポーツ・健康	1前後	1		30												
	スポーツ・実践	2～4前後		1	30												
	哲学	1前		1	15												
	倫理学	1後		1	15												
	ジェンダー論	1前		1	15												
	科学論	1後		1	15												
	情報科学	1後		1	15												
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30												
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30												
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30												
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30												
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30												
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30												
	小計					6		1							0		1

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表1（保健師課程） 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護学 公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護学 公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護管理論実習	計
							2	16			2	2	4	2	3		31
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	1前		1	15	必修1単位を含む8単位以上を履修											0
	コミュニケーション学入門	1前		1	15												
	対人コミュニケーション論	1後		1	15												
	心理学の世界	1後		1	15												
	人間を知る	1前		1	15												
	命の倫理	1後		1	15												
	ＱＯＬの世界	1後		1	15												
	こどもの世界	1後		1	15												
	アスリートの世界	1前		1	15												
	臨床医の世界	1後		1	15												
	加齢と身体	1後		1	15												
	食を楽しむ	1前		1	15												
	眼の神秘	1前		1	15												
	義肢装具の世界	1後		1	15												
	新潟学	1後		1	15												
	国際保健の世界	1後		1	15												
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1	15												
	現代社会と経済	1前		1	15												
	法学Ⅰ	1前後		1	15												
	法学Ⅱ	1前後		1	15												
	臨床の哲学	1前		1	15												
	臨床技術の世界	1前		1	15												
	留学の魅力	1前		1	15												
	シティズンシップ教育入門	1後		1	15												
	放射線の基礎と人体への影響	1前		1	15												
	新潟水俣病の理解	1前		1	15												
	一次救命処置法	1前		1	15												
	東洋医学的養生	1前		1	15												
	自然人類学概論	1後		1	15												
	データサイエンス概論	1後		1	30												
	アスリートサポートの世界	1後		1	15												
	比較認知科学の世界	1前		1	15												
	アカデミック・ライティング	1後		1	15												
保健医療福祉連携科目群	チームアプローチ入門	1後		1	15	ただし、チームアプローチ入門、保健医療福祉連携学、地域連携学、連携総合ゼミの中から2単位以上を履修											
	連携基礎ゼミ	2後	1		30												
	保健医療福祉連携学	2・3前		1	15												
	地域連携学	3前		1	15												
	連携総合ゼミ	3後・4前		1	30												
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30												
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30												
	国際交流演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30												
	国際交流演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30												
	小計					8				0					0		0
専門基礎科目群	遺伝学と保健医療	1後		1	15	必修27単位を含む27単位以上を履修し、公衆衛生学（疫学を含む）は必修で選択すること											7
	人体の構造と機能Ⅰ	1前	4		15												
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	3		15												
	こころの構造と機能	1前	1		15												
	臨床栄養学	2前	1		15												
	感染防御と管理（微生物学を含む）	1後	1		15												
	病態生理・治療学Ⅰ	2前	2		15												
	病態生理・治療学Ⅱ	2前	2		15												
	病態生理・治療学Ⅲ	2前	2		15												
	病態生理・治療学Ⅳ	2後	2		15												
	病態生理・治療学Ⅴ	2後	2		15												
	臨床薬理学	2前	2		15												
	保健統計学	3前	2		15							②					
	公衆衛生学（疫学を含む）	2後		2	15						②						
	ジェンダーと人権	1前		1	15												
	保健医療福祉制度論	1前	2		15								②				
	臨床心理学（カウンセリングを含む）	1前		1	15												
	健康社会学	1前	1		15		①										
	小計					27				7					0		7

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容							別表1（保健師課程）										
							公衆衛生看護学				疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習			計
区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論				個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習	
							2	16			2	2	4	2	3		31
専門専攻科目群 基礎	看護学概論	1前	2		15												
	援助的人間関係論	1前	1		15												
	基礎看護学Ⅰ	1後	1		15												
	基礎看護学演習Ⅰ	1後	2		30												
	基礎看護学Ⅱ	2前	1		15												
	基礎看護学演習Ⅱ	2前	1		30												
	フィジカルアセスメント	1後	1		30												
	看護過程演習	2前	1		30												
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1		45												
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2		45												
地域・在宅	地域看護学概論	1前	2		15		②										
	在宅看護学概論	2後	1		15			①									
	在宅看護方法論	2後	1		15			①									
	在宅看護学演習	3前	1		30			①									
	地域包括ケア論	4前	1		15			①		①							
	在宅看護学実習	3後	2		45												
小児	小児発達保健論	1後	1		15												
	小児看護学概論	2前	2		15												
	小児看護学演習	3前	1		30												
	小児看護学実習	3後	2		45												
成人	成人看護学概論	2前	1		15												
	成人急性期看護学	2後	1		15												
	成人急性期看護学演習	3前	1		30												
	成人慢性期看護学	2前	1		15												
	成人慢性期看護学演習	2後	1		30												
	成人がん看護学	3前	1		15												
	成人急性期看護学実習Ⅰ	3後	2		45												
	成人急性期看護学実習Ⅱ	3後	1		45												
	成人慢性期看護学実習	3後	2		45												
	終末期看護学実習	3後	1		45												
高齢者	高齢者発達保健論	1後	1		15												
	高齢者看護方法論	2前	2		15												
	高齢者看護学演習	3前	1		30												
	高齢者看護学実習Ⅰ	3後	1		45												
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	2		45												
精神	精神発達保健論	1後	1		15												
	精神看護学概論	2前	2		15												
	精神看護学演習	2後	1		30												
	精神看護学実習	3後	2		45												
母性	セクシュアリティ看護学概論	1前	1		15												
	リプロダクティブヘルスケア	2後	2		15												
	リプロダクティブヘルスケア演習	3前	1		30												
	母性看護学実習	3後	2		45												

教育課程＼指定規則の教育内容							別表１（保健師課程）										
							公衆衛生看護学				疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習			計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論				個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習	
			必修	選択			2	16			2	2	4	2	3		31
専門専攻科目群	統合・発展	シミュレーショントレーニング	1後	1		15	必修76単位を含む76単位以上を履修し、公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動演習Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護活動演習Ⅱ、公衆衛生看護活動演習Ⅲ、学校保健活動論、産業保健活動論、公衆衛生看護管理学、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱは必修で選択すること										26
		症候看護論演習	2後	1		30											
		看護理論	1後	1		15											
		看護倫理	1後	1		15											
		看護診断学	4前		1	15											
		家族看護学	2後	1		15		①									
		看護管理学	3前	2		15											
		看護政策論	2後	1		15							①				
		診療看護論演習	2後	1		30											
		看護教育学	4前		1	15											
		災害看護論	3前	1		15			①								
		国際看護論	1前	1		15		①									
		国際看護論演習	2～4前		1	30											
		看護研究方法論	2後	1		15											
		文献クリティーク	3前	1		15											
		ヒューマンケアリング	4前		1	15											
		スピリチュアルケア	4前		1	15											
		ディメンチア・ケア	4前		1	15											
		エンドオブライフケア	4前		1	15											
		卒業研究Ⅰ	4前	1		30											
		卒業研究Ⅱ	4後		1	30											
		看護実践論	4前	1		15											
		地域生活実習	1前	1		45											
		統合実習	4前	2		45											
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前		1	15	①										
		保健医療福祉行政論	2後		1	15							①				
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後		2	15			②								
		公衆衛生看護活動演習Ⅰ	3前		1	30		①	①								
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	3前		1	15			①								
		公衆衛生看護活動演習Ⅱ	3前		1	30		①	①								
		公衆衛生看護活動演習Ⅲ	4前		1	30		①	①	①							
		学校保健活動論	2後		1	15		①	①								
		産業保健活動論	4前		1	15		①	①								
		公衆衛生看護管理学	4後		1	15				①							
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前		1	45								①	①		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		4	45								④	④	④	
	助産学	助産学概論	2後		1	15											
		性と生殖	2後		1	15											
		助産診断・技術学Ⅰ	3前		1	15											
		助産診断・技術学Ⅱ	4前		2	15											
		助産診断・技術学Ⅲ	4前		2	15											
		助産診断・技術学Ⅳ	4前		2	15											
		助産診断・技術学Ⅴ	4後		2	15											
		助産管理学	4後		2	15											
		助産学実習Ⅰ	4前		1	45											
		助産学実習Ⅱ	4前		8	45											
		助産学実習Ⅲ	4後		1	45											
		助産学実習Ⅳ	4後		1	45											

教育課程＼指定規則の教育内容							別表1（保健師課程）										
							公衆衛生看護学				疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習			
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論				個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習	計
			必修	選択			2	16			2	2	4	2	3		31
養護教諭一種科目	食品学	1後		1	15												
	学校保健	2後		1	15												
	養護概論	2後		2	15												
	教職概論	1前		2	15												
	教育原理	1後		2	15												
	教育心理学Ⅰ	2前		1	15												
	教育心理学Ⅱ	2前		1	15												
	教育社会制度論Ⅰ	2前		1	15												
	教育社会制度論Ⅱ	2前		1	15												
	教育課程論	2後		2	15												
	道徳教育指導論Ⅰ	3前		1	15												
	特別活動指導論Ⅰ	3前		1	15												
	教育方法・技術	2後		2	15												
	生徒指導論	3前		2	15												
	教育相談	3前		2	15												
	特別支援教育論	3前		1	15												
	総合的な学習の時間の指導論	3前		1	15												
	養護実習指導論	4前		1	30												
	養護実習	4前		4	30												
	教職実践演習（養護教諭）	4後		2	15												
	教職教養演習Ⅰ	2後		1	30												
	教職教養演習Ⅱ	3前		1	30												
	小計					76		21							5		26
卒業要件単位数						135（基礎教養科目群から6単位、保健医療福祉教養科目群及び保健医療福祉連携科目群から8単位、専門基礎科目群から29単位、専門専攻科目群から92単位、あわせて135単位以上修得すること。）	3	7			0	3	3	0			16
保健師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数						135	4	16			2	3	4	5			34
指定規則に対する増単位数							2	0			0	1	0	0			3

■ 助産師国家試験受験資格　　…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

助産師は、看護職の中で最も早く職業として独立しました。保健師助産師看護師法に「厚生労働大臣の許可を受けて、助産または妊婦、じょく婦若しくは新生児の保健指導を行うことを業とする女子をいう」と規定されています。助産師は女性の妊娠・出産・産褥の各時期において、必要なケアおよび助言を行い、自己責任において分娩介助し、新生児および乳児のケアを行います。

活躍の場　全体の8割の助産師が病院等施設内で活動しています。約1割の助産師が地域を基盤として活動しています。地域の中で、思春期から更年期までの性や生殖に関するケア、子

育て支援に関する相談などのユニークな活動を行っている例も見られます。また、開業して活動している助産師もいます。

助産師国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣の指定した学校において１年以上助産に関する学科を修めなければなりません。

看護学科は、文部科学大臣より助産師学校の指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、助産師国家試験の受験資格が得られます。

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容							別表２（助産師課程）					
							基礎助産学	助産診断・技術学	地域母子保健	助産管理	助産学実習	計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件						
			必修	選択			6	10	2	2	11	31
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1		30	必修６単位を含む６単位以上を履修						0
	情報処理Ⅰ	1前	1		30							
	情報処理Ⅱ	1後	1		30							
	情報処理Ⅲ	2前		1	30							
	英語Ⅰ	1前	1		30							
	英語Ⅱ	1後	1		30							
	アカデミック英語Ⅰ	2～4前		1	30							
	アカデミック英語Ⅱ	2～4後		1	30							
	アカデミック英語Ⅲ	2～4後		1	30							
	韓国語Ⅰ	1・2後		1	30							
	中国語Ⅰ	1・2後		1	30							
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1	30							
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1	30							
	韓国語Ⅱ	2・3前		1	30							
	中国語Ⅱ	2・3前		1	30							
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1	30							
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1	30							
	日本語表現法Ⅰ	1後		1	15							
	日本語表現法Ⅱ	1後		1	15							
	スポーツ・健康	1前後	1		30							
	スポーツ・実践	2～4前後		1	30							
	哲学	1前		1	15							
	倫理学	1後		1	15							
	ジェンダー論	1前		1	15							
	科学論	1後		1	15							
	情報科学	1後		1	15							
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1	30							
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1	30							
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1	30							
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1	30							
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1	30							
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1	30							
	小計					6	0				0	0

教育課程＼指定規則の教育内容							別表２（助産師課程）					
							基礎助産学	助産診断・技術学	地域母子保健	助産管理	助産学実習	計
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件						
			必修	選択			6	10	2	2	11	31
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	1前		1	15	必修1単位を含む8単位以上を履修						0
	コミュニケーション学入門	1前		1	15							
	対人コミュニケーション論	1後		1	15							
	心理学の世界	1後		1	15							
	人間を知る	1前		1	15							
	命の倫理	1後		1	15							
	ＱＯＬの世界	1後		1	15							
	こどもの世界	1後		1	15							
	アスリートの世界	1前		1	15							
	臨床医の世界	1後		1	15							
	加齢と身体	1後		1	15							
	食を楽しむ	1前		1	15							
	眼の神秘	1前		1	15							
	義肢装具の世界	1後		1	15							
	新潟学	1後		1	15							
	国際保健の世界	1後		1	15							
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1	15							
	現代社会と経済	1前		1	15							
	法学Ⅰ	1前後		1	15							
	法学Ⅱ	1前後		1	15							
	臨床の哲学	1前		1	15							
	臨床技術の世界	1前		1	15							
	留学の魅力	1前		1	15							
	シティズンシップ教育入門	1後		1	15							
	放射線の基礎と人体への影響	1前		1	15							
	新潟水俣病の理解	1前		1	15							
	一次救命処置法	1前		1	15							
	東洋医学的養生	1前		1	15							
	自然人類学概論	1後		1	15							
	データサイエンス概論	1後		1	30							
	アスリートサポートの世界	1後		1	15							
	比較認知科学の世界	1前		1	15							
	アカデミック・ライティング	1後		1	15							
保健医療福祉連携科目群	チームアプローチ入門	1後		1	15	ただし、チームアプローチ入門、保健医療福祉連携学、地域連携学、連携総合ゼミの中から2単位以上を履修						
	連携基礎ゼミ	2後	1		30							
	保健医療福祉連携学	2・3前		1	15							
	地域連携学	3前		1	15							
	連携総合ゼミ	3後・4前		1	30							
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30							
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30							
	国際交流演習Ⅰ	1・2・3・4前		1	30							
	国際交流演習Ⅱ	1・2・3・4後		1	30							
小計						8	0				0	0
専門基礎科目群	遺伝学と保健医療	1後		1	15	必修27単位を含む27単位以上を履修し、遺伝学と保健医療、ジェンダーと人権は必修で選択すること	①					2
	人体の構造と機能Ⅰ	1前	4		15							
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	3		15							
	こころの構造と機能	1前	1		15							
	臨床栄養学	2前	1		15							
	感染防御と管理（微生物学を含む）	1後	1		15							
	病態生理・治療学Ⅰ	2前	2		15							
	病態生理・治療学Ⅱ	2前	2		15							
	病態生理・治療学Ⅲ	2前	2		15							
	病態生理・治療学Ⅳ	2後	2		15							
	病態生理・治療学Ⅴ	2後	2		15							
	臨床薬理学	2前	2		15							
	保健統計学	3前	2		15							
	公衆衛生学（疫学を含む）	2後		2	15							
	ジェンダーと人権	1前		1	15		①					
	保健医療福祉制度論	1前	2		15							
	臨床心理学（カウンセリングを含む）	1前		1	15							
	健康社会学	1前	1		15							
小計						27	2				0	2

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容							別表２（助産師課程）					
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	基礎助産学	助産診断・技術学	地域母子保健	助産管理	助産学実習	計
			必修	選択			6	10	2	2	11	31
専門専攻科目群 基礎	看護学概論	1前	2		15							
	援助的人間関係論	1前	1		15							
	基礎看護学Ⅰ	1後	1		15							
	基礎看護学演習Ⅰ	1後	2		30							
	基礎看護学Ⅱ	2前	1		15							
	基礎看護学演習Ⅱ	2前	1		30							
	フィジカルアセスメント	1後	1		30							
	看護過程演習	2前	1		30							
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1		45							
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2		45							
地域・在宅	地域看護学概論	1前	2		15							
	在宅看護学概論	2後	1		15							
	在宅看護方法論	2後	1		15							
	在宅看護学演習	3前	1		30							
	地域包括ケア論	4前	1		15							
	在宅看護学実習	3後	2		45							
小児	小児発達保健論	1後	1		15							
	小児看護学概論	2前	2		15							
	小児看護学演習	3前	1		30							
	小児看護学実習	3後	2		45							
成人	成人看護学概論	2前	1		15							
	成人急性期看護学	2後	1		15							
	成人急性期看護学演習	3前	1		30							
	成人慢性期看護学	2前	1		15							
	成人慢性期看護学演習	2後	1		30							
	成人がん看護学	3前	1		15							
	成人急性期看護学実習Ⅰ	3後	2		45							
	成人急性期看護学実習Ⅱ	3後	1		45							
	成人慢性期看護学実習	3後	2		45							
	終末期看護学実習	3後	1		45							
高齢者	高齢者発達保健論	1後	1		15							
	高齢者看護方法論	2前	2		15							
	高齢者看護学演習	3前	1		30							
	高齢者看護学実習Ⅰ	3後	1		45							
	高齢者看護学実習Ⅱ	3後	2		45							
精神	精神発達保健論	1後	1		15							
	精神看護学概論	2前	2		15							
	精神看護学演習	2後	1		30							
	精神看護学実習	3後	2		45							
母性	セクシュアリティ看護学概論	1前	1		15							
	リプロダクティブヘルスケア	2後	2		15		②					
	リプロダクティブヘルスケア演習	3前	1		30			①				
	母性看護学実習	3後	2		45							

教育課程＼指定規則の教育内容							別表２（助産師課程）					
区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	基礎助産学	助産診断・技術学	地域母子保健	助産管理	助産学実習	計
							6	10	2	2	11	31
専門専攻科目群 統合・発展	シミュレーショントレーニング	1後	1		15	必修76単位を含む76単位以上を履修し、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、助産学概論、性と生殖、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅳ、助産診断・技術学Ⅴ、助産管理学、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ、助産学実習Ⅳは必修で選択すること						
	症候看護論演習	2後	1		30							
	看護理論	1後	1		15							
	看護倫理	1後	1		15							
	看護診断学	4前		1	15							
	家族看護学	2後	1		15							
	看護管理学	3前	2		15							
	看護政策論	2後	1		15							
	診療看護論演習	2後	1		30							
	看護教育学	4前		1	15							
	災害看護論	3前	1		15							
	国際看護論	1前	1		15							
	国際看護論演習	2～4前		1	30							
	看護研究方法論	2後	1		15							
	文献クリティーク	3前	1		15							
	ヒューマンケアリング	4前		1	15							
	スピリチュアルケア	4前		1	15							
	ディメンチア・ケア	4前		1	15							
	エンドオブライフケア	4前		1	15							
	卒業研究Ⅰ	4前	1		30							
	卒業研究Ⅱ	4後		1	30							
	看護実践論	4前	1		15							
	地域生活実習	1前	1		45							
	統合実習	4前	2		45							
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前		1	15							30
	保健医療福祉行政論	2後		1	15							
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後		2	15				②			
	公衆衛生看護活動演習Ⅰ	3前		1	30							
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	3前		1	15				①			
	公衆衛生看護活動演習Ⅱ	3前		1	30							
	公衆衛生看護活動演習Ⅲ	4前		1	30							
	学校保健活動論	2後		1	15							
	産業保健活動論	4前		1	15							
	公衆衛生看護管理学	4後		1	15							
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前		1	45							
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		4	45							
助産学	助産学概論	2後		1	15		①					
	性と生殖	2後		1	15		①					
	助産診断・技術学Ⅰ	3前		1	15			①				
	助産診断・技術学Ⅱ	4前		2	15			②				
	助産診断・技術学Ⅲ	4前		2	15			②				
	助産診断・技術学Ⅳ	4前		2	15			②				
	助産診断・技術学Ⅴ	4後		2	15			②				
	助産管理学	4後		2	15					②		
	助産学実習Ⅰ	4前		1	45						①	
	助産学実習Ⅱ	4前		8	45						⑧	
	助産学実習Ⅲ	4後		1	45						①	
	助産学実習Ⅳ	4後		1	45						①	
養護教諭一種科目	食品学	1後		1	15							
	学校保健	2後		1	15							
	養護概論	2後		2	15							
	教職概論	1前		2	15							
	教育原理	1後		2	15							
	教育心理学Ⅰ	2前		1	15							
	教育心理学Ⅱ	2前		1	15							
	教育社会制度論Ⅰ	2前		1	15							
	教育社会制度論Ⅱ	2前		1	15							
	教育課程論	2後		2	15							
	道徳教育指導論Ⅰ	3前		1	15							
	特別活動指導論Ⅰ	3前		1	15							
	教育方法・技術	2後		2	15							
	生徒指導論	3前		2	15							
	教育相談	3前		2	15							
	特別支援教育論	3前		1	15							
	総合的な学習の時間の指導論	3前		1	15							
	養護実習指導論	4前		1	30							
	養護実習	4前		4	30							
	教職実践演習（養護教諭）	4後		2	15							
	教職教養演習Ⅰ	2後		1	30							
	教職教養演習Ⅱ	3前		1	30							
小計						76	19				11	30

教育課程＼指定規則の教育内容							別表２（助産師課程）					
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	基礎助産学	助産診断・技術学	地域母子保健	助産管理	助産学実習	計
			必修	選択			6	10	2	2	11	31
卒業要件単位数						146（基礎教養科目群から６単位、保健医療福祉教養科目群及び保健医療福祉連携科目群から８単位、専門基礎科目群から２９単位、専門専攻科目群から103単位、あわせて146単位以上修得すること。）	2	1	0	0	0	3
助産師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数						146	6	10	3	2	11	32
指定規則に対する増単位数							0	0	1	0	0	1

■ 養護教諭一種免許　　…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

養護教諭は、学校において児童・生徒の心と体の両面へのヘルスカウンセリングや健康増進のための保健教育、健康診断、けがや病気の救急処置などの役割を担い、教育職員の一員として、ほかの教職員や保護者、地域と連携をとりながら活動しています。

活躍の場　小学校・中学校・高等学校・特別支援学校など学校での保健室運営を通して活躍しています。いじめや不登校などの問題が深刻になり、保健室とそれを運営する養護教諭の役割はとても重要です。

養護教諭一種免許の取得については、「教職課程履修規則」（P.217～）を参照してください。

社会福祉学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	社会福祉に関する専門知識や技術を、利用者の理解や支援に活かすことができる。社会福祉に関する情報を収集・整理できる。	社会福祉学の学問体系を基盤として体系的に科目を編成しており、年次進行に沿って基礎的な科目から応用・発展的な科目を学修できるようにしている。また、2年次から社会福祉学の専門的科目を配置し、専門性を高められるように編成している。その成果は、国家試験合格率により評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	多様な人々と良好なコミュニケーションをとり、連携を図ることができる。組織や地域社会、または国際社会の一員としての役割を果たすことができる。	学生が主体的・能動的に学び、チームワークやコミュニケーション力を養えるように、1年次から保健医療福祉連携科目群を配置する。また、2年次からは演習科目や実習関連科目を配置し、円滑なコミュニケーション能力と積極的なリーダーシップおよび行動力を向上できるように編成している。その成果は、ソーシャルワーク実習の成績により評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と倫理観に基づいて、人々の多様性や個性を尊重できる。また、人々の多様性や個性を尊重する姿勢を利用者の支援に活かすことができる。	社会福祉専門職に相応しい倫理観を修得し、人々の多様性や個性を尊重する姿勢を養えるように、1年次から保健医療福祉教養科目群を配置する。また、2年次からは演習科目や実習関連科目を配置し、多様性や個性を尊重して利用者を支援する力を修得できるように編成している。その成果は、ソーシャルワーク実習の成績により評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	社会福祉に関する課題に関心を持ち、理論と実践を結び付けながら利用者の問題解決に向けて取り組むことができる。	多様な社会的課題に触れる機会を提供するため、1年次に保健医療福祉教養科目群や社会福祉学の基礎に関する科目を配置する。2年次からは理論と実践を結び付けながら問題解決に向けて取り組む力を修得するために実習関連科目を配置し、3年次からは卒業研究（ゼミ研究）を実施する。その成果は、卒業論文（ゼミ論文）の成績により評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	社会の変化に対応し、自ら学び続ける意欲を持つことができる。社会福祉に関する専門性を活かして、社会に貢献する意欲を持つことができる。	幅広い視野と自律的な学修姿勢を身に付けるため、1年次からゼミ活動やキャリア形成教育を実施する。2年次からは社会福祉学の専門的科目や実習関連科目を配置し、自らの専門性を活かして社会に貢献する能力を涵養する。その成果は、就職率により評価する。

カリキュラム表

社会福祉学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数：　6単位以上

社会福祉学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	介護福祉コース必修
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	介護福祉コース必修
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	介護福祉コース必修
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	介護福祉コース必修
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	31	0	480	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	8	0	225	
	保健医療福祉科目計 （②＋③）					1	39	0	705	卒業要件単位数： ８単位以上
全学科共通科目計Ⓐ （①＋②＋③）						7	65	0	1,560	卒業要件単位数：１４単位以上

社会福祉学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	権利擁護を支える法制度	550490	1	前期	2			30	
		司法福祉論	550495	4	前期	2			30	
		社会学Ⅰ	550010	1	前期	2			30	
		社会学Ⅱ	550015	1	後期	2			30	
		心理学Ⅰ	550020	1	前期	2			30	
		心理学Ⅱ	550025	1	後期	2			30	
		社会福祉入門	550410	1	前期		2		30	
		社会福祉原論Ⅰ	550445	1	後期	2			30	
		社会福祉原論Ⅱ	550450	4	前期	2			30	
		高齢者福祉論Ⅰ	550500	2	前期	2			30	
		高齢者福祉論Ⅱ	550505	2	後期	2			30	
		児童家庭福祉論Ⅰ	550050	2	前期	2			30	
		児童家庭福祉論Ⅱ	550055	2	後期	2			30	
		障害者福祉論Ⅰ	550060	2	前期	2			30	
		障害者福祉論Ⅱ	550065	2	後期	2			30	
		地域福祉論Ⅰ	550070	2	前期	2			30	
		地域福祉論Ⅱ	550075	2	後期	2			30	
		社会保障論Ⅰ	550080	3	前期	2			30	
		社会保障論Ⅱ	550085	3	後期	2			30	
		公的扶助論Ⅰ	550090	3	前期	2			30	
		公的扶助論Ⅱ	550095	3	後期	2			30	
		医学概論	550510	3	前期	2			30	
		保健医療福祉論	550515	3	後期	2			30	
		介護概論	550110	2	前期		2		30	
		介護実習	550115	2	後期		1		30	
		介護福祉論Ⅰ	560000	1	前期		2		30	介護福祉コースのみ履修(必修)
		介護福祉論Ⅱ	560005	1	後期		2		30	
		介護におけるコミュニケーションⅠ	560010	1	前期		1		30	
		介護におけるコミュニケーションⅡ	560015	1	後期		1		30	
		基本介護Ⅰ	560020	1	前期		1		30	
		基本介護Ⅱ	560025	1	後期		1		30	
		基本介護Ⅲ	560030	2	前期		1		30	
		基本介護Ⅳ	560035	2	後期		1		30	
		介護実践とチームマネジメント	560155	3	後期		2		30	
		カウンセリング論	550120	2	前期		2		30	
		カウンセリング技法	550125	3	前期		2		30	
		福祉サービス組織経営論	550520	4	前期	2			30	
		臨床心理学	550140	1	後期		2		30	
		発達心理学	550145	2	前期		2		30	
		心理測定法	550150	2	後期		1		15	
		家族関係論	550155	1	前期		2		30	
		社会病理学	550160	3	後期		2		30	
		社会調査	550165	3	後期	2			30	
小計④						48	30	0	1,275	卒業要件単位数：　６０単位以上

社会福祉学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	ソーシャルワークの基盤と専門職	550525	2	前期	2			30	
		ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	550530	2	後期	2			30	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	550535	2	前期	2			30	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	550540	2	後期	2			30	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	550545	3	前期	2			30	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	550550	3	後期	2			30	
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	550555	2	前期	1			30	
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	550560	2	後期	1			30	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	550565	3	前期	1			30	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	550570	3	後期	1			30	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	550575	4	前期	1			30	
		社会福祉基礎ゼミ	550225	2	後期	1			30	
		社会福祉専門ゼミⅠ	550230	3	前期	1			30	
		社会福祉専門ゼミⅡ	550235	3	後期	1			30	
		社会福祉専門ゼミⅢ	550240	4	前期	1			30	
		社会福祉専門ゼミⅣ	550245	4	後期	1			30	
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	550580	3	前期	6			180	
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	550585	3	後期	2			60	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	550590	2	後期	1			30	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	550595	3	前期	1			30	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	550600	3	後期	1			30	
		生活援助技術Ⅰ	560040	1	前期		2		60	介護福祉コースのみ履修(必修)
		生活援助技術Ⅱ	560045	1	後期		2		60	
		生活援助技術Ⅲ	560050	2	前期		2		60	
		生活援助技術Ⅳ	560055	2	後期		2		60	
		生活援助技術Ⅴ	560060	3	前期		1		30	
		生活援助技術Ⅵ	560065	3	後期		1		30	
		医療的ケア	560070	3	前期		4		60	
		医療的ケア演習	560075	3	後期		1		30	
		介護過程Ⅰ	560080	1	後期		1		30	
		介護過程Ⅱ	560085	2	前期		1		30	
		介護過程Ⅲ	560090	2	後期		1		30	
		介護過程Ⅳ	560095	3	前期		1		30	
		介護過程Ⅴ	560100	3	前期		1		30	
		認知症の理解Ⅰ	560105	3	前期		1		30	
		認知症の理解Ⅱ	560110	3	後期		1		30	
		介護総合演習Ⅰ	560115	1	前期		1		30	
		介護総合演習Ⅱ	560120	1	後期		1		30	
		介護総合演習Ⅲ	560125	2	前期		1		30	
		介護総合演習Ⅳ	560130	2	後期		1		30	
		介護実習ⅠA	560135	1	前期		2		90	
		介護実習ⅠB	560140	1	後期		2		90	
		介護実習ⅠC	560145	2	前期		2		90	
		介護実習Ⅱ	560150	2	後期		4		180	
		精神医学Ⅰ	550280	2	前期		2		30	精神保健福祉コースは必修
		精神医学Ⅱ	550285	2	後期		2		30	
		精神保健学	550290	2	後期		4		60	
		精神障害リハビリテーション論	550605	3	前期		2		30	
		精神保健福祉の原理	550610	3	前期		4		60	
		精神保健福祉制度論	550615	3	後期		2		30	
		ソーシャルワークの理論と方法（専門）	550620	3	後期		4		60	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	550315	3	後期		1		30	精神保健福祉コースのみ履修(必修)
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	550320	4	前期		1		30	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	550325	4	後期		1		30	
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	550625	4	前期		2		60	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	550630	4	後期		1		30	
		精神保健福祉援助実習	550635	4	前期		5		150	
		児童館の機能と運営	550385	2	前期		2		30	児童厚生１級指導員養成課程のみ履修(必修)
		児童館の活動内容と指導法Ⅰ	550640	2	後期		2		30	
		児童館の活動内容と指導法Ⅱ	550395	3	前期		2		30	
		児童館実習Ⅰ	550645	2	前期		2		90	
		児童館実習Ⅱ	550650	2	後期		2		90	

社会福祉学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門専攻科目群	現代社会福祉総論Ⅰ	550415	2	後期		2		30	
		現代社会福祉総論Ⅱ	550420	3	前期		2		30	
		保健医療ソーシャルワーク論	550340	3	前期		2		30	
		保健医療ソーシャルワーク演習	550425	3	後期		2		30	
		スクールソーシャルワーク論	550360	3	前期		2		30	
		スクールソーシャルワーク演習	550430	3	後期		2		30	
		21世紀福祉社会論	550435	4	前期		2		30	
		卒業論文	550380	4	後期		2		60	
		小計⑤				33	93	0	3,150	卒業要件単位数：　５１単位以上
		専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)				81	123	0	4,425	卒業要件単位数：１１１単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						88	188	0	5,985	卒業要件：４年以上在学し、 かつ１２５単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：社会福祉士

・学外実習

学内での学習と現場での実践を結び付けるソーシャルワーク実習によりソーシャルワーカーとしての社会福祉専門職の基礎を養います。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
ソーシャルワーク実習Ⅰ	3年次前期（180時間）	社会福祉施設・機関等	配属実習
ソーシャルワーク実習Ⅱ	3年次後期（60時間）	社会福祉施設・機関等	配属実習

※ソーシャルワーク実習Ⅰとソーシャルワーク実習Ⅱの実習施設は、機能が異なる施設・機関となります。

・履修基準

ソーシャルワーク実習Ⅰ

第3年次に開講される「ソーシャルワーク実習Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を履修するためには、第2年次までに開講される下記の必修科目をすべて修得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊心理学Ⅰ　＊心理学Ⅱ　＊社会学Ⅰ　＊社会学Ⅱ　＊権利擁護を支える法制度
＊社会福祉原論Ⅰ　＊高齢者福祉論Ⅰ　＊高齢者福祉論Ⅱ　＊児童家庭福祉論Ⅰ
＊児童家庭福祉論Ⅱ　＊障害者福祉論Ⅰ　＊障害者福祉論Ⅱ　＊地域福祉論Ⅰ
＊地域福祉論Ⅱ

専門専攻科目群

＊ソーシャルワークの基盤と専門職　＊ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）
＊ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ　＊ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ
＊ソーシャルワーク演習Ⅰ　＊ソーシャルワーク演習Ⅱ　＊ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

■ 対象資格：精神保健福祉士

・学外実習

学内で学んだ精神保健福祉の価値・倫理、知識、技術・技能を、学外の現場実習において統合した形で体験し、理論と実践を集約します。本実習は精神保健福祉士を目指し国家試験の受験資格を取得するために必須のものです。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
精神保健福祉援助実習	3年次前期・後期（2日程度）	精神科病院等、指定障害福祉サービス事業所	見学実習
	4年次前期（150時間以上）※	精神科病院等（必須）、指定障害福祉サービス事業所	本実習（配属実習）

※本学科の学生は、社会福祉士指定科目の「相談援助実習Ⅲ」を履修しており、60時間を上限として精神科病院等の医療機関以外の実習が免除されるため、精神保健福祉援助実習の時間数は150時間とします。

・履修基準

第4年次に開講される「精神保健福祉援助実習」を履修するためには、第3年次までに開講される精神保健福祉士・社会福祉士受験資格指定科目にかかわる科目をすべて修得しておかなければなりません。

【ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの履修に必要な科目＋下記科目】

専門基礎科目群

＊社会保障論Ⅰ　＊社会保障論Ⅱ　＊医学概論　＊保健医療福祉論　＊社会調査

専門専攻科目群

＊ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ　＊ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ
＊ソーシャルワーク演習Ⅲ　＊ソーシャルワーク演習Ⅳ　＊ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
＊ソーシャルワーク実習Ⅰ　＊ソーシャルワーク実習指導Ⅲ　＊精神医学Ⅰ
＊精神医学Ⅱ　＊精神保健学　＊精神保健福祉制度論　＊精神障害リハビリテーション論
＊精神保健福祉の原理　＊ソーシャルワークの理論と方法（専門）
＊精神保健福祉援助実習指導Ⅰ

（注）受験資格取得希望者多数の場合には、成績等により15名程度に「精神保健福祉援助実習」履修を調整します。受験資格取得を希望する学生は、学科アドバイザーか精神保健福祉コース担当者とよく相談してください。

■ 対象資格：介護福祉士

・学外実習

様々な生活の場における個々の生活状況を総合的に理解し、個別ケアや利用者・家族とのコミュニケーションさらに介護技術や多職種連携を実践的に体験し、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得することを目指します。本実習は介護福祉士国家試験受験資格を取得するために必須のものです。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
介護実習ⅠA	1年次前期（12日間）	通所介護事業所	介護保険事業所において、介護サービスのあり方について学ぶ。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
介護実習ＩＢ	1年次後期 （12日間）	小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、訪問介護、の事業所	多様な介護サービスを体験することにより、生活の継続性について学ぶ。
介護実習ＩＣ	2年次前期 （12日間）	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設	入所施設における生活支援を体系的に学ぶ。
介護実習Ⅱ	2年次後期 （22日間）	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設	施設における個別支援のあり方を介護過程をとおして学ぶ。

■ 対象資格：児童厚生１級指導員

・学外実習

学内での学習と現場での実践を結びつける児童館実習により、児童厚生１級指導員としての専門性や実践力を養うことを目的とします。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
児童館実習Ⅰ	2年次前期 （10日間）	児童館・放課後児童クラブ	体験実習 （配属実習）
児童館実習Ⅱ	2年次後期 （10日間）	児童館・放課後児童クラブ	本実習 （配属実習）

取得できる資格と免許

■ 社会福祉士国家試験受験資格　　…卒業により取得可

社会福祉士は、社会福祉業務に携わるための国家資格です。身体上あるいは精神上の障害がある人々、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある人々の福祉に関する相談に応じ、助言・指導や、福祉・保健・医療関係者等との連絡調整などの援助を行うものです。

活躍の場　社会福祉士は、都道府県等の児童相談所や福祉事務所などの行政機関をはじめとして、社会福祉協議会、病院、児童福祉施設、障害者支援施設、高齢者福祉施設等で幅広く活動しています。また、近年では、子育て支援センターや障害者地域生活支援センター、地域包括支援センター等のソーシャルワーカーとして相談業務に従事しています。
今後は保健・医療・福祉の分野だけでなく、教育や労働、司法等の分野において職域が拡大され、専門職としての活躍が期待されています。

社会福祉士国家試験の受験資格を得るためには、大学において文部科学省令・厚生労働省令で定める社会福祉に関する科目（指定科目）を修めて卒業しなければなりません。

社会福祉学科では、以下の科目を履修して卒業することで、社会福祉士国家試験の受験資格が得られます。

社会福祉士学校指定科目		本学開設科目					
科目名	時間数	科目群	授業科目名	配当年次	単位数	時間数	合計
医学概論	30	専門基礎	医学概論	3	2	30	30
心理学と心理的支援	30		心理学Ⅰ	1	2	30	60
			心理学Ⅱ	1	2	30	
社会学と社会システム	30		社会学Ⅰ	1	2	30	60
			社会学Ⅱ	1	2	30	
社会福祉の原理と政策	60		社会福祉原論Ⅰ	1	2	30	60
			社会福祉原論Ⅱ	4	2	30	
社会福祉調査の基盤	30		社会調査	3	2	30	30
地域福祉と包括的支援体制	60		地域福祉論Ⅰ	2	2	30	60
			地域福祉論Ⅱ	2	2	30	
福祉サービスの組織と経営	30		福祉サービス組織経営論	4	2	30	30
社会保障	60		社会保障論Ⅰ	3	2	30	60
			社会保障論Ⅱ	3	2	30	
高齢者福祉	30		高齢者福祉論Ⅰ	2	2	30	60
			高齢者福祉論Ⅱ	2	2	30	
障害者福祉	30		障害者福祉論Ⅰ	2	2	30	60
			障害者福祉論Ⅱ	2	2	30	
児童・家庭福祉	30		児童家庭福祉論Ⅰ	3	2	30	60
			児童家庭福祉論Ⅱ	3	2	30	
貧困に対する支援	30		公的扶助論Ⅰ	3	2	30	60
			公的扶助論Ⅱ	3	2	30	
保健医療と福祉	30		保健医療福祉論	3	2	30	30
権利擁護を支える法制度	30		権利擁護を支える法制度	1	2	30	60
刑事司法と福祉	30		司法福祉論	4	2	30	
ソーシャルワークの基盤と専門職	30	専門専攻	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	2	30	60
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	30		ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2	2	30	
ソーシャルワークの理論と方法	60		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2	30	120
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	30	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	60		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3	2	30	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3	2	30	
ソーシャルワーク演習	30		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	30	150
ソーシャルワーク演習（専門）	120		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	30	
			ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	1	30	
			ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	1	30	
			ソーシャルワーク演習Ⅴ	4	1	30	
ソーシャルワーク実習指導	90		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	1	30	90
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	1	30	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	1	30	
ソーシャルワーク実習	240		ソーシャルワーク実習Ⅰ	3	6	180	240
			ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	2	60	
合計	1200			合計	76	1380	

※本学開設科目は、すべて必修科目である。

■ 精神保健福祉士国家試験受験資格…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

精神保健福祉士は、病院の精神科に入院する患者や家族、障害者支援施設などを利用する人とその家族が抱えるさまざまな経済的・心理的・社会的問題の支援を行います。また、家族関係や社会とのつながりへの調整を行い、精神に障害をもつ人がスムーズに社会にとけこめるよう援助を行います。

活躍の場 精神保健福祉士の活躍が期待される場として、精神科病院、病院または診療所、精神保健福祉センター、保健所、市町村保健センター、指定障害福祉サービス事業所、地域活動支援センター等があります。こうした場で援助を必要とする人々に直接相談援助を行うことや、社会調査の実施など専門職員として従事します。

精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、大学において厚生労働大臣の指定する精神障害者の保健および福祉に関する科目（指定科目）を修めて卒業しなければなりません。

社会福祉学科では、以下の科目を履修して卒業することで、精神保健福祉士国家試験の受験資格が得られます。

精神保健福祉士養成施設指定科目		本学開設科目						
科目名	時間数	科目群	授業科目名	配当年次	単位数 コース必修	単位数 学科必修	時間数	計
医学概論	30	専門基礎	医学概論	3		2	30	30
心理学と心理的支援	30		心理学Ⅰ	1		2	30	60
			心理学Ⅱ	1		2	30	
社会学と社会システム	30		社会学Ⅰ	1		2	30	60
			社会学Ⅱ	1		2	30	
社会福祉の原理と政策	60		社会福祉原論Ⅰ	1		2	30	60
			社会福祉原論Ⅱ	4		2	30	
地域福祉と包括的支援体制	60		地域福祉論Ⅰ	2		2	30	60
			地域福祉論Ⅱ	2		2	30	
社会保障	60		社会保障論Ⅰ	3		2	30	60
			社会保障論Ⅱ	3		2	30	
障害者福祉	30		障害者福祉論Ⅰ	2		2	30	60
			障害者福祉論Ⅱ	2		2	30	
権利擁護を支える法制度	30		権利擁護を支える法制度	1		2	30	30
刑事司法と福祉	30		司法福祉論	4		2	30	30
社会福祉調査の基盤	30		社会調査	3		2	30	30
精神医学と精神治療	60	専門専攻	精神医学Ⅰ	2	2		30	60
			精神医学Ⅱ	2	2		30	
現在の精神保健の課題と支援	60		精神保健学	2	4		60	60
ソーシャルワークの基盤と専門職	30		ソーシャルワークの基盤と専門職	2		2	30	30
精神保健福祉の原理	60		精神保健福祉の原理	3	4		60	60
ソーシャルワークの理論と方法	60		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2		2	30	60
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2		2	30	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	60		ソーシャルワークの理論と方法（専門）	3	4		60	60
精神障害リハビリテーション論	30		精神障害リハビリテーション論	3	2		30	30
精神保健福祉制度論	30		精神保健福祉制度論	3	2		30	30
ソーシャルワーク演習	30		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2		1	30	150
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	2		1	30	
			ソーシャルワーク演習Ⅲ	3		1	30	
			ソーシャルワーク演習Ⅳ	3		1	30	
			ソーシャルワーク演習Ⅴ	4		1	30	
ソーシャルワーク演習（専門）	90		精神保健福祉援助演習Ⅰ	4	2		60	90
			精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	1		30	
ソーシャルワーク実習指導	90		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	1		30	90
			精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	1		30	
			精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4	1		30	
ソーシャルワーク実習	210		精神保健福祉援助実習	4	5		150	150
			ソーシャルワーク実習Ⅰ	3		6	180	240
			ソーシャルワーク実習Ⅱ	3		2	60	
合計	1200	合計			31	51	1590	
					82			

※取得希望者多数の場合は、成績等により15名程度に「精神保健福祉援助実習」履修を調整する。
取得を希望する学生は、学科アドバイザーか精神保健福祉コース担当者とよく相談すること。

■ 介護福祉士国家試験受験資格　…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

介護福祉士は、専門的知識や技術をもって身体上または精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある人へ、心身の状況に応じた介護の提供を行うばかりではなく、その指導を行う職種です。その人がその人らしく生活ができるよう自立を支えるためには高度な専門性が必要です。人間理解に基づいた介護の理論や技術を学びます。

活躍の場　生活支援を中心に様々な介護の実践に従事します。介護老人福祉施設や介護老人保健施設等の介護保険施設、訪問介護やデイサービス等の在宅サービス、また、資格取得後、介護の実務経験を５年間積むことにより、介護支援専門員の受験資格を得ることができます。実際の介護実践からケアマネジメントまで幅広い職域に従事し活躍しています。

介護福祉士国家試験の受験資格を得るためには、文部科学大臣および厚生労働大臣の指定した学校または厚生労働大臣の指定した養成施設において、２年以上介護福祉士として必要な知識および技能を修得しなければなりません。

社会福祉学科介護福祉コースは、文部科学大臣および厚生労働大臣より介護福祉士学校として指定を受けており、以下の科目を履修して卒業することで、介護福祉士国家試験の受験資格が得られます。

介護福祉士学校指定科目			本学開設科目						
領域	教育内容	時間数	科目群	授業科目名	配当年次	単位数 コース必修	単位数 学科必修	時間数	計
人間と社会	人間の尊厳と自立	30以上	保健医療福祉教養	人間を知る	1	1		15	30
				命の倫理	1	1		15	
	人間関係とコミュニケーション	60以上		コミュニケーション学入門	1	1		15	60
				対人コミュニケーション論	1	1		15	
			専門基礎	介護実践とチームマネジメント	3	2		30	
	社会の理解	60以上	専門基礎	社会福祉原論Ⅰ	1		2	30	90
				社会福祉原論Ⅱ	4		2	30	
				社会保障論Ⅰ	3		2	30	
	人間と社会に関する選択科目	–		児童家庭福祉論Ⅰ	2		2	30	60
				社会学Ⅰ	1		2	30	
	小計	240			小計	6	10	240	
介護	介護の基本	180	専門基礎	介護福祉論Ⅰ	1	2		30	180
				介護福祉論Ⅱ	1	2		30	
				基本介護Ⅰ	1	1		30	
				基本介護Ⅱ	1	1		30	
				基本介護Ⅲ	2	1		30	
				基本介護Ⅳ	2	1		30	
	コミュニケーション技術	60		介護におけるコミュニケーションⅠ	1	1		30	60
				介護におけるコミュニケーションⅡ	1	1		30	
	生活支援技術	300	専門専攻	生活援助技術Ⅰ	1	2		60	300
				生活援助技術Ⅱ	1	2		60	
				生活援助技術Ⅲ	2	2		60	
				生活援助技術Ⅳ	2	2		60	
				生活援助技術Ⅴ	3	1		30	
				生活援助技術Ⅵ	3	1		30	
	介護過程	150		介護過程Ⅰ	1	1		30	150
				介護過程Ⅱ	2	1		30	
				介護過程Ⅲ	2	1		30	
				介護過程Ⅳ	3	1		30	
				介護過程Ⅴ	3	1		30	

介護福祉士学校指定科目			本学開設科目						
領域	教育内容	時間数	科目群	授業科目名	配当年次	単位数 コース必修	単位数 学科必修	時間数	計
介護	介護総合演習	120	専門専攻	介護総合演習Ⅰ	1	1		30	120
				介護総合演習Ⅱ	1	1		30	
				介護総合演習Ⅲ	2	1		30	
				介護総合演習Ⅳ	2	1		30	
	介護実習	450		介護実習ⅠA	1	2		90	450
				介護実習ⅠB	1	2		90	
				介護実習ⅠC	2	2		90	
				介護実習Ⅱ	2	4		180	
	小計	1260			小計	39	0	1260	
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	120	専門基礎	医学概論	3		2	30	120
				保健医療福祉論	3		2	30	
				心理学Ⅰ	1		2	30	
				心理学Ⅱ	1		2	30	
	発達と老化の理解	60		高齢者福祉論Ⅰ	2		2	30	60
				高齢者福祉論Ⅱ	2		2	30	
	認知症の理解	60		認知症の理解Ⅰ	3	1		30	60
				認知症の理解Ⅱ	3	1		30	
	障害の理解	60		障害者福祉論Ⅰ	2		2	30	60
				障害者福祉論Ⅱ	2		2	30	
	小計	300			小計	2	16	300	
	医療的ケア（吸引喀痰等）	50以上	専門専攻	医療的ケア	3	4		60	90
				医療的ケア演習	3	1		30	
	小計	50			小計	5	0	90	
	合計	1850			合計	52	26	1890	

※保健医療福祉教養科目群の「人間を知る」「命の倫理」「コミュニケーション学入門」「対人コミュニケーション論」は、必修として選択履修すること。

■ 児童厚生１級指導員　　…指定科目の単位の修得および卒業により取得可

児童厚生１級指導員は、児童館・放課後児童クラブで指導的役割を担うとともに、地域関係機関との調整や連携にあたるソーシャルワーカーとして、地域における児童健全育成・子育て支援活動の推進に努める職員のための資格です。

活躍の場　児童の遊びと生活を通じた発達支援、さらに地域福祉活動や児童ソーシャルワークについて理解し、専門的スキルを身に付けた者に認定する資格であり、児童館・放課後児童クラブの指導員として従事し、活躍することができます。

児童厚生１級指導員の資格を得るためには、大学において一般財団法人児童健全育成推進財団が定める科目（指定科目）を修めて卒業しなければなりません。

社会福祉学科では、以下の科目を履修して卒業することで、児童厚生１級指導員の資格が得られます。

児童厚生１級指導員指定科目		本学開設科目				
科目名	単位数	授業科目名	配当年次	単位数		時間数
				必修	選択	
児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2	児童館の機能と運営	2		2	30
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	2	児童館の活動内容と指導法Ⅰ	2		2	30
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅱ	2	児童館の活動内容と指導法Ⅱ	3		2	30
児童館実習Ⅰ（10日）	2	児童館実習Ⅰ	2		2	90
児童館実習Ⅱ（10日）	2	児童館実習Ⅱ	2		2	90
合計	10	合計		0	10	270
				10		

※児童厚生１級指導員資格は、2017年度入学生から選択・取得できる。（2016年度以前の入学生は取得できない。）

※取得希望者数に応じて、学科内選考及び調整を行う場合がある。

心理健康学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	心理学に関する専門知識や技能を、人の理解や心身の健康支援に活かすことができる。また、自ら心理学や心身の健康に関する情報を収集・整理でき、論理的・批判的思考に基づく判断ができる。	心理学の学問体系を基盤とし、心身の健康に関して体系的に科目を編成しており、年次進行に沿って基礎的な科目から応用・発展的な科目を学修できるように専門基礎科目群、専門専攻科目群を配置している。また、2年次に心理学基礎実験、3年次に心理学実験を配置し、体験的学習を通して心理学の専門性を高められるように編成している。その成果は、認定心理士認定資格細則が指定する心理学関係科目の成績により評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	多様な人々と良好なコミュニケーションをとり、連携を図ることができる。組織や地域社会、または国際社会の一員としての役割を果たすことができる。円滑なコミュニケーション能力と積極的なリーダーシップ及び行動力で問題解決の取り組むことができる。	学生が主体的・能動的に学び、チームワークやコミュニケーション能力を養えるように、保健医療福祉連携科目群として、2年次に連携基礎ゼミを必修科目として配置し、1～3年次にチームアプローチ入門、保健医療福祉連携学、地域連携学と3～4年次連携総合ゼミから2単位必修とする。また、3年次からは、専門専攻科目群として、実習・演習関連科目（インターンシップ実習、心理演習、専門ゼミⅠ・Ⅱ）を配置し、円滑なコミュニケーション能力と積極的なリーダーシップ及び行動力を向上できるように編成している。その成果は、専門ゼミおよびインターンシップ実習の成績により評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と倫理観に基づいて、人々の多様性や個性を尊重できる。また、人々の多様性や個性を尊重する姿勢を人の支援に活かし、人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに寄与することができる。	心理専門職に相応しい倫理観を修得し、人々の多様性や個性を尊重する姿勢を養えるように、1年次から基礎教養科目群、専門基礎科目群として哲学、倫理学、ジェンダー論、科学論、情報科学、心理学研究法を配置する。また、3年次からは演習科目（専門ゼミⅠ、Ⅱ）や実習関連科目（インターンシップ実習、心理実習Ⅰ、Ⅱ）を配置し、人々の多様性を尊重し、人を支援する力を修得できるように編成している。その成果は、心理学実験、心理実習およびインターンシップ実習の成績により評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	心理学や心身の健康に関する課題に関心を持ち、理論と実践を結び付けながら人間や社会の問題解決に向けて取り組むことができ、自ら問題を発見し解決する発見的理解ができる。	地域社会における多様な課題に触れる機会を提供するため、1年次に保健医療福祉教養科目群や哲学、倫理学、ジェンダー論等の広い教養を育む科目を配置する。3年次からは理論と実践を結び付けながら学生自らが問題解決に向けて取り組む力を修得するために演習科目（専門ゼミⅠ、Ⅱ）や実習関連科目（インターンシップ実習、心理実習Ⅰ、Ⅱ）を配置し、発見的理解力を活かし、4年次に卒業研究A・Bを実施する。その成果は、卒業研究の成績により評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	人間や社会の変化にたえず関心を持ち、自ら学び続ける意欲を持ち続け、心理学や心身の健康に関する専門性を活かして、人類と社会の平和に貢献する意欲を持つことができる。	幅広い視野と自律的な学修姿勢を身に付けるため、1年次からゼミ活動を実施する。2年次からは心理学や心身の健康の専門基礎科目群と専門専攻科目群を配置し、3年次からは演習科目（専門ゼミⅠ、Ⅱ）や実習関連科目（インターンシップ実習、心理演習）を、4年次には卒業研究A・Bを配置し、自らの興味・関心に基づく専門性を活かして社会に貢献する能力を涵養する。その成果は、就職率により評価する。

カリキュラム表

心理健康学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期		1		30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				6	26	0	855	卒業要件単位数：１０単位以上

心理健康学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	32	0	495	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	6	0	165	
	保健医療福祉科目計 （②＋③）					1	38	0	660	卒業要件単位数：１４単位以上
全学科共通科目計Ⓐ （①＋②＋③）						7	64	0	1,515	卒業要件単位数：２４単位以上

心理健康学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	心理学概論Ⅰ	570000	1	前期	2			30	公認心理師科目
		心理学概論Ⅱ	570005	1	後期	2			30	公認心理師科目
		運動心理学概論	570015	1	前期		2		30	
		心理学研究法Ⅰ	570020	1	後期		2		30	公認心理師科目
		心理学研究法Ⅱ	570025	2	前期		2		30	公認心理師科目
		心理学統計法Ⅰ	570030	1	後期		2		30	公認心理師科目
		心理学統計法Ⅱ	570035	2	前期		2		30	公認心理師科目
		心理学基礎実験	570040	2	前期	2			90	
		心理学実験	570045	3	前期	2			90	公認心理師科目
		比較認知科学	570050	1	前期		2		30	
		ストレスと脳	570060	1	前期		2		30	
		脳とこころ	570065	1	後期		2		30	
		記憶の科学	570055	3	後期		2		30	
		心理プログラミング	570070	3	前期		2		30	
		臨床心理学概論	570010	2	前期		2		30	公認心理師科目
		精神医学	570075	2	後期		2		30	
		メンタルトレーニング	570080	2	前期		2		30	
		スポーツ心理臨床	570085	2	後期		2		30	
		コーチングの心理	570090	3	後期		2		30	
		スポーツ心理学	320066	2	前期		2		30	
		スポーツカウンセリング	322015	2	後期		2		30	
		アダプテッドスポーツ論	326020	2	後期		2		30	
		競技スポーツの心理学	322010	3	前期		2		30	
		社会福祉概論	570095	1	前期		2		30	
		精神保健学	570100	2	後期		2		30	
		介護概論	550110	3	前期		2		30	
		高齢者福祉論Ⅰ	550500	2	前期		2		30	
		高齢者福祉論Ⅱ	550505	2	後期		2		30	
		児童家庭福祉論Ⅰ	550050	3	前期		2		30	
		児童家庭福祉論Ⅱ	550055	3	後期		2		30	
		障害者福祉論Ⅰ	550060	3	前期		2		30	
		障害者福祉論Ⅱ	550065	3	後期		2		30	
小計④						8	56	0	1,080	卒業要件単位数：　４２単位以上

心理健康学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
専門科目	専門専攻科目群	感情・人格心理学	570120	2	前期		2		30	公認心理師科目
		知覚・認知心理学（感覚・知覚心理学）	570105	2	後期		2		30	公認心理師科目
		認知・言語心理学	570110	2	後期		2		30	
		神経・生理心理学Ⅰ（神経心理学）	570125	2	後期		2		30	公認心理師科目
		神経・生理心理学Ⅱ（生理心理学）	570130	3	前期		2		30	公認心理師科目
		学習・言語心理学（学習心理学）	570115	3	後期		2		30	公認心理師科目
		神経生理学	570220	3	前期		2		30	
		認知脳科学概論	570215	3	後期		2		30	
		発達心理学	570135	2	前期		2		30	公認心理師科目
		健康・医療心理学	570150	2	前期		2		30	公認心理師科目
		心理的アセスメント	570180	2	前期		2		30	公認心理師科目
		社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会心理学）	570165	2	前期		2		30	公認心理師科目
		社会・集団・家族心理学Ⅱ（集団心理学）	570170	2	前期		2		30	公認心理師科目
		社会・集団・家族心理学Ⅲ（家族心理学）	570155	2	後期		1		15	公認心理師科目
		福祉心理学	570157	2	後期		1		15	公認心理師科目
		障害者・障害児心理学Ⅰ（障害児の心理）	570275	2	前期		2		30	公認心理師科目
		障害者・障害児心理学Ⅱ（障害者心理学）	570160	3	前期		2		30	公認心理師科目
		プロセスワーク	570255	2	前期		2		30	
		心理学的支援法	570185	2	後期		2		30	公認心理師科目
		精神疾患とその治療	570200	2	後期		2		30	公認心理師科目
		精神分析学	570270	2	後期		2		30	
		健康・医療におけるコミュニケーション論	570280	2	後期		2		30	
		心理療法各論A（認知行動療法）	570230	2	後期		2		30	
		心理療法各論B（力動的心理療法）	570235	3	前期		2		30	
		心理療法各論C（自然体験療法）	570240	3	後期		2		30	
		教育・学校心理学	570140	3	前期		2		30	公認心理師科目
		司法・犯罪心理学	570190	3	前期		2		30	公認心理師科目
		人体の構造と機能及び疾病	570195	3	前期		2		30	公認心理師科目
		司法精神医療	570245	3	前期		2		30	
		教育相談論	570260	3	前期		2		30	
		青年心理学	570145	3	後期		2		30	
		産業・組織心理学	570175	3	後期		2		30	公認心理師科目
		関係行政論	570205	3	後期		2		30	公認心理師科目
		公認心理師の職責	570210	3	後期		2		30	公認心理師科目
		ブリーフ・セラピー	570250	3	後期		2		30	
		学校臨床心理学	570265	3	後期		2		30	
		キャンプ・カウンセリング	570305	2	前期		1		30	
		健康運動心理学	570290	2	前期		2		30	
		ボディワーク	570300	2	後期		1		30	
		生態心理学	570225	3	前期		2		30	
		運動学習論	570285	3	後期		2		30	
		ダンス・セラピー	570295	3	後期		2		30	
		心理健康科学特別講義A	570310	2～4	前期		1		15	
		心理健康科学特別講義B	570315	2～4	前期		1		15	
		心理健康科学特別講義C	570320	2～4	後期		1		15	
		心理演習	570325	3	後期		1		30	公認心理師科目
		心理実習Ⅰ	570330	4	前期		1		45	公認心理師科目
		心理実習Ⅱ	570335	4	後期		1		45	公認心理師科目
		インターンシップ実習	570340	3	前期		1		45	
		心理健康基礎ゼミ	570345	2	後期	1			30	
		専門ゼミⅠ	570350	3	前期	1			30	
		専門ゼミⅡ	570355	3	後期	1			30	
		卒業研究A	570360	4	前期	3			90	
		卒業研究B	570365	4	後期	3			90	
	小計⑤					9	87	0	1,710	卒業要件単位数：　６２単位以上
専門科目計Ⓑ （④＋⑤）						17	143	0	2,790	卒業要件単位数：１０４単位以上
合計 （Ⓐ＋Ⓑ）						24	207	0	4,305	卒業要件：４年以上在学し、 かつ１２８単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：公認心理師

・学外実習

公認心理師の資格取得を目指す学生は、４年次において「心理実習Ⅰ・Ⅱ」として、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪の４つの分野における施設での見学を主とする実習を行う。実習を通じて、公認心理師に求められる知識と技術を修得し、国民の心の健康の保持増進に寄与するための実践的な能力を身につけることを目的とします。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
心理実習Ⅰ	４年次前期 （１週間）	医療、教育機関	見学
心理実習Ⅱ	４年次後期 （１週間）	医療、教育・司法・犯罪、 福祉機関	見学

・履修基準

（１）第１年次の専門基礎科目

第１年次に開講される専門基礎科目のうち、下記の科目すべてを習得しておかなければなりません。

＊心理学概論Ⅰ　＊心理学概論Ⅱ　＊心理学統計法Ⅰ　＊心理学研究法Ⅰ

（２）第２年次の専門基礎・専門専攻科目

第２年次に開講される専門基礎・専門専攻科目のうち、下記の科目すべてを習得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊臨床心理学概論　＊心理学統計法Ⅱ　＊心理学研究法Ⅱ

専門専攻科目群

＊感情・人格心理学　＊発達心理学　＊健康・医療心理学
＊社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会心理学）　＊社会・集団・家族心理学Ⅱ（集団心理学）
＊心理的アセスメント　＊障害者・障害児心理学Ⅰ（障害児の心理）
＊知覚・認知心理学（感覚・知覚心理学）　＊福祉心理学
＊社会・集団・家族心理学Ⅲ（家族心理学）　＊神経・生理心理学Ⅰ（神経心理学）
＊心理学的支援法　＊精神疾患とその治療

（３）第３年次の専門基礎・専門専攻科目

第３年次に開講される専門基礎・専門専攻科目のうち、下記の科目すべてを習得しておかなければなりません。

専門基礎科目群

＊心理学実験

専門専攻科目群

＊教育・学校心理学　＊障害者・障害児心理学Ⅱ（障害者心理学）
＊神経・生理心理学Ⅱ（生理心理学）　＊人体の構造と機能及び疾病　＊司法・犯罪心理学
＊学習・言語心理学（学習心理学）　＊産業・組織心理学　＊関係行政論
＊公認心理師の職責　＊心理演習

（注）受験資格取得希望者多数の場合には、成績等により３年次後期に開講する「心理演習」の履修調整をします。

取得できる資格と免許

■ 認定心理士　…卒業により取得可

認定心理士資格は、「公益社団法人日本心理学会」が認定する心理学の基礎資格で、４年制大学で心理学の標準的な基礎知識と基礎技術を修得していることを認定するものです。

４年制大学で一定数の心理学の単位を修得したうえで申請すれば資格を取得できます。職業に直結する資格ではありませんが、人とかかわる仕事やボランティア活動などで心理学の基礎知識・技能を生かしたい人や、将来、心理学の専門職を目指す人にはぜひ取得していただきたい資格です。

活躍の場　児童相談所や各種福祉施設などで心理臨床を担当する地方公務員心理職、企業で人事・営業・マーケティングなどを担当する一般職など

認定心理士の資格を得るためには、大学において公益社団法人日本心理学会が定める科目を修めて卒業しなければなりません。

心理健康学科では、以下の科目を履修して卒業することで、認定心理士の資格を申請することができます。

	領域	本学での科目名	配当年次	単位数		単位数
				必修	選択	
基礎科目	a．心理学概論	心理学概論Ⅰ	1前	2		4単位以上
		心理学概論Ⅱ	1後	2		
		臨床心理学概論	2前		2	
	b．心理学研究法	心理学研究法Ⅰ	1後		2	8単位以上 最低4単位は c．心理学実験実習の単位
		心理学研究法Ⅱ	2前		2	
		心理学統計法Ⅰ	1後		2	
		心理学統計法Ⅱ	2前		2	
	c．心理学実験実習	心理学基礎実験	2前	2		
		心理学実験	3前	2		
	基礎科目小計					合計12単位以上
選択科目	d．知覚心理学・学習心理学	感情・人格心理学	2前		2	5領域のうち、 3領域以上で、 それぞれが少なくとも 4単位以上
		知覚・認知心理学（感覚・知覚心理学）	2後		2	
		認知・言語心理学	2後		2	
		学習・言語心理学（学習心理学）	3後		2	
	e．生理心理学・比較心理学	神経・生理心理学Ⅰ（神経心理学）	2後		2	
		神経・生理心理学Ⅱ（生理心理学）	3前		2	
	f．教育心理学・発達心理学	発達心理学	2前		2	
		教育・学校心理学	3前		2	
		青年心理学	3後		2	
	g．臨床心理学・人格心理学	健康・医療心理学	2前		2	
		障害者・障害児心理学Ⅰ（障害児の心理）	2前		2	
		精神医学	2後		2	
		精神分析学	2後		2	
		心理療法各論A（認知行動療法）	2後		2	
		障害者・障害児心理学Ⅱ（障害者心理学）	3前		2	
		心理療法各論B（力動的心理療法）	3前		2	
		心理療法各論C（自然体験療法）	3後		2	
	h．社会心理学・産業心理学	社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会心理学）	2前		2	
		社会・集団・家族心理学Ⅱ（集団心理学）	2前		2	
		産業・組織心理学	3後		2	
	選択科目小計					5領域計16単位以上
その他	i．心理学関連科目、卒業論文・卒業研究	卒業研究A	4前		3	卒論は最大4単位
		卒業研究B	4後		3	
総計						総計35単位以上

■ 公認心理師
…大学における必要な科目を履修後、大学院で必要な科目を履修後受験資格

平成27（2015）年9月9日に公認心理師法が成立し、平成29（2017）年9月15日に施行され、わが国初の心理職の国家資格として、公認心理師制度が推進されることになりました。

保健医療、福祉、教育、犯罪、産業などの分野で、心理に関する支援を必要とする人々とその関係者に対し、相談・助言・指導などを行います。

活躍の場　病院、学校、福祉施設、裁判所、企業等

公認心理師の受験資格を得るためには、大学において厚生労働省が定める科目を修めて卒業し、大学院でさらに指定科目を履修し修了すること、または規定の実務経験（2年以上）を経る必要があります。

心理健康学科では、以下の科目を履修して卒業することで、大学での指定科目の履修となります。

大学における必要な科目	本学での科目名	配当年次	単位数	
			必修	選択
1．公認心理師の職責	公認心理師の職責	3後		2
2．心理学概論	心理学概論Ⅰ	1前	2	
	心理学概論Ⅱ	1後	2	
3．臨床心理学概論	臨床心理学概論	2前		2
4．心理学研究法	心理学研究法Ⅰ	1後		2
	心理学研究法Ⅱ	2前		2
5．心理学統計法	心理学統計法Ⅰ	1後		2
	心理学統計法Ⅱ	2前		2
6．心理学実験	心理学実験	3前	2	
7．知覚・認知心理学	知覚・認知心理学（感覚・知覚心理学）	2後		2
8．学習・言語心理学	学習・言語心理学（学習心理学）	3後		2
9．感情・人格心理学	感情・人格心理学	2前		2
10．神経・生理学	神経・生理心理学Ⅰ（神経心理学）	2後		2
	神経・生理心理学Ⅱ（生理心理学）	3前		2
11．社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会心理学）	2前		2
	社会・集団・家族心理学Ⅱ（集団心理学）	2前		2
	社会・集団・家族心理学Ⅲ（家族心理学）	2後		1
12．発達心理学	発達心理学	2前		2
13．障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学Ⅰ（障害児の心理）	2前		2
	障害者・障害児心理学Ⅱ（障害者心理学）	3前		2
14．心理的アセスメント	心理的アセスメント	2前		2
15．心理学的支援法	心理学的支援法	2後		2
16．健康・医療心理学	健康・医療心理学	2前		2
17．福祉心理学	福祉心理学	2後		1
18．教育・学校心理学	教育・学校心理学	3前		2
19．司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	3前		2
20．産業・組織心理学	産業・組織心理学	3後		2
21．人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	3前		2
22．精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2後		2
23．関係行政論	関係行政論	3後		2
24．心理演習	心理演習	3後		1
25．心理実習	心理実習Ⅰ	4前		1
	心理実習Ⅱ	4後		1

医療情報管理学科

3つのポリシー
詳細はこちら▼

優れたQOLサポーターになるための3つのポリシー

本学では、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」のもと、優れたQOLサポーターに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

そこで本学では、これら建学の精神および教育の目的に共感する学生を広く受け入れ、特色ある教育を通じて、「優れたQOLサポーター」として社会貢献できる人材を育成するために、「アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）」、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）」の3つのポリシーを定めています。
※各学科のアドミッション・ポリシーは本学ホームページから閲覧できます。

優れたQOLサポーター人物像 STEPS		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
S	Science & Art 科学的知識と技能を学び続ける力	人を理解するための幅広い教養的知識と医療・経営・情報に関する専門的知識・技能を活用できる。	専門技術者として必要な技術や人間を理解できる教養を身につけるために医療・経営・情報に関する基礎から応用に至る幅広い内容をもつ専門基礎科目群を配置する。成果は資格試験合格率で評価する。
T	Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップを発揮する力	対象者、同僚及び保健医療福祉スポーツ分野の複数の職種との対話を通じたチームアプローチを図ることで、良好なコミュニケーション及び横断的・融合的な連携をとることができる。	自己を表現し、実践する能力を身につけるとともに、対象者や他の職種とコミュニケーションをとりながら連携する技術を身につけるためにゼミ形式の自己表現法、自己実現法、キャリア開発などの授業を配置する。成果は専門基礎科目の成績により評価する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	社会の一員としての礼節をわきまえ、専門的な職業人としての使命感や責任感を有する。また、豊かな人間性と倫理観に基づき対象者の多様性、尊厳を尊重し、QOL向上のため適切に行動できる。	医療福祉分野、情報分野などで活躍できる知識や技術を修得するために専門専攻科目を配置し、それを各分野で実践するための能力を涵養するために演習科目を配置する。成果は専門専攻の演習科目の成績で評価する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	職場や地域社会で医療情報管理分野の専門的知識・技能に根ざした思考と判断により問題解決できる。	医療・経営・情報に関する分野で、問題点を発見・分析・解決するための知識や技術を修得するために専門専攻科目を配置する。成果は専門専攻科目の成績で評価する。
S	Self-actualization 自己実現を達成する力	グローバル化、情報化が進む社会の変化や医療情報技術の進歩に関心をもち続け、自らを高めるため、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。	医療・経営・情報などの分野で生涯に渡って問題意識と探求心をもち続け、自分自身を向上させるための心構えを身につけるために卒業研究などの専門科目を配置する。成果は卒業研究で評価する。

カリキュラム表

医療情報管理学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
全学科共通科目	基礎教養科目群	基礎ゼミ	110000	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅰ	110005	1	前期	1			30	
		情報処理Ⅱ	110010	1	後期	1			30	
		情報処理Ⅲ	110015	2	前期	1			30	
		英語Ⅰ	110020	1	前期	1			30	
		英語Ⅱ	110025	1	後期	1			30	
		アカデミック英語Ⅰ	110265	2～4	前期		1		30	
		アカデミック英語Ⅱ	110270	2～4	後期		1		30	
		アカデミック英語Ⅲ	110275	2～4	後期		1		30	
		韓国語Ⅰ	110045	1･2	後期		1		30	
		中国語Ⅰ	110050	1･2	後期		1		30	
		スペイン語Ⅰ	110055	1･2	後期		1		30	
		ドイツ語Ⅰ	110060	1･2	後期		1		30	
		韓国語Ⅱ	110065	2･3	前期		1		30	Ⅰを履修し、修得することで Ⅱを履修できる
		中国語Ⅱ	110070	2･3	前期		1		30	
		スペイン語Ⅱ	110075	2･3	前期		1		30	
		ドイツ語Ⅱ	110080	2･3	前期		1		30	
		日本語表現法Ⅰ	110085	1	後期		1		15	
		日本語表現法Ⅱ	110090	1	後期		1		15	
		スポーツ・健康	110135	1	前/後	1			30	
		スポーツ・実践	110140	2～4	前/後		1		30	
		哲学	120000	1	前期		1		15	
		倫理学	120005	1	後期		1		15	
		ジェンダー論	120010	1	前期		1		15	
		科学論	120015	1	後期		1		15	
		情報科学	120020	1	後期		1		15	
		研究プロジェクト演習Ⅰ	160000	1	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅱ	160005	2	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅲ	160010	2	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅳ	160015	3	前期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅴ	160020	3	後期		1		30	
		研究プロジェクト演習Ⅵ	160025	4	前期		1		30	
		小計①				7	25	0	855	卒業要件単位数：　7単位以上

医療情報管理学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	時間数	卒業要件
全学科共通科目	保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	110145	1	前期		1		15	
		コミュニケーション学入門	110150	1	前期		1		15	
		対人コミュニケーション論	110155	1	後期		1		15	
		心理学の世界	110375	1	後期		1		15	
		人間を知る	110165	1	前期		1		15	
		命の倫理	110170	1	後期		1		15	
		ＱＯＬの世界	110175	1	後期		1		15	
		こどもの世界	110180	1	後期		1		15	
		アスリートの世界	110185	1	前期		1		15	
		臨床医の世界	110190	1	後期		1		15	
		加齢と身体	110195	1	後期		1		15	
		食を楽しむ	110200	1	前期		1		15	
		眼の神秘	110205	1	前期		1		15	
		義肢装具の世界	110280	1	後期		1		15	
		新潟学	110215	1	後期		1		15	
		国際保健の世界	110220	1	後期		1		15	
		国民の生活と健康を支える仕組み	110225	1	前期		1		15	
		現代社会と経済	110230	1	前期		1		15	
		法学Ⅰ	110235	1	前/後		1		15	
		法学Ⅱ	110240	1	前/後		1		15	
		臨床の哲学	110285	1	前期		1		15	
		臨床技術の世界	110290	1	前期		1		15	
		留学の魅力	110295	1	前期		1		15	
		シティズンシップ教育入門	110300	1	後期		1		15	
		放射線の基礎と人体への影響	110305	1	前期		1		15	
		新潟水俣病の理解	110310	1	前期		1		15	
		一次救命処置法	110320	1	前期		1		15	
		東洋医学的養生	110345	1	前期		1		15	
		自然人類学概論	110350	1	後期		1		15	
		データサイエンス概論	110355	1	後期		1		30	
		アスリートサポートの世界	110360	1	後期		1		15	
		比較認知科学の世界	110365	1	前期		1		15	
		アカデミック・ライティング	110370	1	後期		1		15	
		小計②				0	33	0	510	
	保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	110245	2	後期	1			30	
		チームアプローチ入門	110325	1	後期		1		15	２単位以上選択し修得すること ※選択必修
		保健医療福祉連携学	110250	2･3	前期		1		15	
		地域連携学	110330	3	前期		1		15	
		連携総合ゼミ	110260	3 4	後期 前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅰ	110335	1～4	前期		1		30	
		社会連携実践演習Ⅱ	110340	1～4	後期		1		30	
		国際交流演習Ⅰ	110380	1～4	前期		1		30	
		国際交流演習Ⅱ	110385	1～4	後期		1		30	
		小計③				1	8	0	225	
	保健医療福祉科目計 (②＋③)					1	41	0	735	卒業要件単位数： ７単位以上
全学科共通科目計Ⓐ (①＋②＋③)						8	66	0	1,590	卒業要件単位数：１４単位以上

医療情報管理学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門基礎科目群	自己表現法	410000	1	後期	2			30	
		自己実現法	410415	2	前期	2			30	
		問題解決技法	410010	2	後期		2		30	
		キャリア開発Ⅰ	410420	3	前期	1			15	
		キャリア開発Ⅱ	410425	3	後期	1			15	
		医療制度概論	410025	2	前期	2			30	
		社会保障制度論	410030	2	後期		2		30	
		社会福祉総論	410035	3	前期		2		30	
		医学概論	410040	1	前期	2			30	
		医学医療用語	410430	1	後期	2			30	
		人体の構造と機能	410441	1	前期	2			30	
		臨床医学総論	410060	1	後期	2			30	
		臨床医学Ⅰ	410065	1	後期		2		30	
		臨床医学Ⅱ	410070	2	前期		2		30	
		臨床医学Ⅲ	410075	2	後期		2		30	
		臨床医学Ⅳ	410080	3	前期		2		30	
		情報数学	410085	1	前期	2			30	
		統計数学	410445	1	後期	2			30	
		経営数学	410090	2	前期		2		30	
		情報理論	410100	1	前期	2			30	
		コンピュータシステムⅠ	410105	1	後期	4			60	
		コンピュータシステムⅡ	410110	2	前期	4			60	
		情報システム演習Ⅰ	410115	2	後期		1		30	
		情報システム演習Ⅱ	410120	3	前期		1		30	
		オペレーティングシステム	410125	2	後期		2		30	
		ネットワーク技術	410130	3	前期		2		30	
		データベース技術	410135	3	前期		2		30	
		セキュリティ技術	410141	2	後期		2		30	
		プログラミング概論	410155	2	後期		2		30	
		システム開発論	410321	2	後期		2		30	
		経営学	410510	2	前期	2			30	
		経営管理論	410515	2	後期	2			30	
		簿記論Ⅰ	410175	1	前期	2			30	
		簿記論Ⅱ	410180	1	後期	2			30	
		簿記演習Ⅰ	410185	1	前期		1		30	
		簿記演習Ⅱ	410190	1	後期		1		30	
		会計学	410195	2	前期		2		30	
		財務管理論	410200	2	後期		2		30	
		経営戦略論	410205	3	前期		2		30	
		経営組織論	410210	3	後期		2		30	
		経済学概論	410450	3	前期		2		30	
小計④						38	42	0	1,260	卒業要件単位数：　６５単位以上

医療情報管理学科

授業科目の名称			科目コード	配当年次	学期	単位数			時間数	卒業要件
						必修	選択	自由		
専門科目	専門専攻科目群	医療事務総論	410220	1	前期	2			30	
		医療秘書概論	410226	2	後期	2			30	
		医療文書管理	410520	3	前期		2		30	
		診療報酬請求事務	410235	1	後期	2			30	
		診療報酬請求事務演習Ⅰ	410530	2	前期		1		30	
		診療報酬請求事務演習Ⅱ	410455	2	後期		1		30	
		医療事務演習Ⅰ	410245	3	前期		1		30	
		医療事務演習Ⅱ	410250	3	後期		1		30	
		医療経済学	410260	3	後期		2		30	
		医療情報倫理学	410460	2	前期	2			30	
		医療福祉コミュニケーション論	410020	3	前期	2			30	
		医療福祉マネジメント論	410270	3	後期		2		30	
		医療福祉計画政策論	410275	3	後期		2		30	
		医療福祉サービス論	410280	4	前期		2		30	
		管理会計論	410560	3	前期		2		30	
		医療会計論	410286	3	後期		2		30	
		病院経営論	410471	4	前期		2		30	
		病院管理論	410475	4	後期		1		15	
		データサイエンス応用	410151	2	前期		2		30	
		Ｗｅｂデザイン技術	410536	3	後期		2		30	
		AI基礎	410546	3	後期		2		30	
		Ｗｅｂプログラミング	410480	4	前期		1		30	
		ソフトウェア演習	410525	2	後期		1		30	
		AI活用	410506	4	前期		2		30	
		プログラミング演習	410161	3	前期		2		60	
		システム開発演習	410326	3	前期		1		30	
		医療管理論	410330	2	前期	2			30	
		病院情報管理	410335	2	後期		2		30	
		保健医療情報学	410550	2	前期	2			30	
		医療統計学	410345	2	後期		2		30	
		国際疾病統計分類論	410555	2	後期		2		30	
		診療情報管理論	410355	2	後期		2		30	
		診療情報管理演習	410485	3	前期		2		60	
		医療福祉施設基礎実習	410370	3	前期		2		90	
		電子カルテシステム	410540	3	前期	1			30	
		臨床薬理学	410385	3	前期		2		30	
		栄養学総論	410390	3	後期		2		30	
		医療情報基礎演習	410490	3	後期	1			30	
		医療情報総合演習Ⅰ	410495	4	前期	1			30	
		医療情報総合演習Ⅱ	410500	4	後期	1			30	
		卒業研究	410410	4	後期	2			60	
	小計⑤					20	50	0	1,365	卒業要件単位数：　４５単位以上
専門科目計Ⓑ　(④＋⑤)						58	92	0	2,625	卒業要件単位数：１１０単位以上
合計　(Ⓐ＋Ⓑ)						66	158	0	4,215	卒業要件：４年以上在学し、 かつ１２４単位以上取得

学外実習と履修基準

■ 対象資格：診療情報管理士（および診療報酬請求事務能力認定試験）

・学外実習

病院の基本的機能、入院および外来診療録の具体的管理状況、診療報酬の請求方法の実践、診療録管理部門の病院内における位置づけ・機能の理解、疾病統計・サマリーなどに対する理解を深めることを目指します。また、診療録の量的・質的点検の方法および編纂、記録の収納、検索、貸出業務や傷病名、手術・処置等のコーディングの補助業務の実習を通じて、診療情報管理士や医療事務関連職種としての基本的な技能の習得を目指します。

科目名	時期・期間	実習場所	実習内容
医療福祉施設 基礎実習	3年次前期 （1週間）	病院	見学実習

・履修基準

履修登録前に別途連絡・指示しますので、それに従ってください。

取得できる資格と免許

■ 診療情報管理士認定試験受験資格　　…指定科目の単位の修得により取得可

診療情報管理士は、診療記録および情報を適切に管理し、そこに含まれるデータを加工、分析、編集し活用することにより、医療の安全管理、健康の質（QOL）の向上および病院の経営管理に寄与する専門職です。

活躍の場　2000年4月の診療報酬改定で診療録管理体制加算が新たに設けられたことで、診療録管理体制に対する評価がなされ、全国の病院において診療録管理の重要性が注目されはじめるとともに、診療情報管理士が注目を集めるようになりました。

診療情報管理士認定試験の受験資格を得るためには、日本病院会が実施する診療情報管理課程通信教育を修了するか、日本病院会が指定する大学または専門学校で指定単位を修得して、卒業する（3年生以上で卒業が見込まれる場合を含む）必要があります。

医療情報管理学科は、日本病院会の指定を受けており、以下の科目を修得することで、診療情報管理士認定試験の受験資格が得られます。

日本病院会通信教育科目			本学開設科目				
分野	科目名	単位数	授業科目名	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数
基礎科目	医療概論	2	医学概論	1	2		30
	人体構造・機能論	2	人体の構造と機能	1	2		30
	臨床医学総論（外傷学、先天異常等含む）	2	臨床医学総論	1	2		30
	臨床医学Ⅰ（感染症および寄生虫症）	2	臨床医学Ⅱ	2		2	30
	臨床医学Ⅱ（新生物）	2					
	臨床医学Ⅲ（血液・代謝・内分泌等）	2	臨床医学Ⅲ	2		2	30
	臨床医学Ⅳ（精神・脳神経・感覚器系等）	2					
	臨床医学Ⅴ（循環器・呼吸器系）	2	臨床医学Ⅰ	1		2	30
	臨床医学Ⅵ（消化器・泌尿器系）	2					
	臨床医学Ⅶ（周産期系）	2	臨床医学Ⅳ	3		2	30
	臨床医学Ⅷ（皮膚・筋骨格系等）	2					
	医学・医療用語	2	医学医療用語	1	2		30
	小計12科目	24	小計		8	8	240
専門科目	医療管理総論	2	医療管理論	2	2		30
	医療管理各論Ⅰ（病院管理）	2	病院情報管理	2		2	30
	医療管理各論Ⅱ（医療保険・介護保険制度）	2	医療制度概論	2	2		30
	医療管理各論Ⅲ（医療安全・医療の質管理）	2					
	保健医療情報学	2	保健医療情報学	2	2		30
	医療統計Ⅰ（統計理論）	2	医療統計学	2		2	30
	診療情報管理Ⅰ（法令・諸規則）	2	診療情報管理論	2		2	30
	診療情報管理Ⅱ（診療情報管理士の実務）	2					
	診療情報管理Ⅲ（DPC・医師事務作業補助者・がん登録の実務）	2	診療情報管理演習	3		2	60
	医療統計Ⅱ（病院統計・疾病統計）	2					
	国際統計分類Ⅰ	2	国際疾病統計分類論	2		2	30
	国際統計分類Ⅱ	2					
	小計12科目	24	小計		6	10	270
実習	病院実習		医療福祉施設基礎実習	3		2	90
	合計24科目+病院実習	48			14	20	600

■ 診療報酬請求事務能力認定試験

診療報酬請求事務能力認定試験とは、診療報酬請求事務に従事する者の資質の向上を図るため、公益財団法人日本医療保険事務協会が実施する全国一斉統一試験です。厚生労働省後援のため、医療保険事務関連の資格としては最も知名度が高いと言われます。

その分難易度も高く、医療事務系の資格試験の中では最難関、最高峰とも言われる資格です。

活躍の場 医療事務系最難関と言われる診療報酬請求事務能力認定試験に合格すれば、レセプト作成や医療現場での算定スキルがあることを示すことが可能であり、大きなアピール材料になるため、医事課系職員として働く人の多くが合格を目指しています。

■ 情報処理技術者

情報処理技術者は、情報処理の促進に関する法律第７条の規定に基づき、情報処理に関する業務を行う者を言います。経済産業省が情報処理技術者の技術の向上のため、情報処理に関して必要な知識および技能について情報処理技術者試験（国家試験）を実施しています。試験は４つのレベルに分かれています。

レベル１：ITパスポート試験

レベル２：基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験

レベル３：応用情報技術者試験

レベル４：ネットワークスペシャリスト試験など９種類

活躍の場 情報処理技術者試験は国家試験ですが、情報処理技術者は業務独占資格や名称独占資格ではないため、試験の合格者でなければできない業務ではありません。しかし、情報処理能力を評価する一つの尺度として使われることが多いため、情報処理に関係する業界や業務に就きたい場合は、有効な資格になります。

■ ドクターズクラーク　…認定試験の合格により取得可

ドクターズクラークは、社団法人全日本病院協会、(財)日本医療教育財団が主催する「医師事務作業補助技能認定試験」の合格者に与えられる称号で、病院勤務医の負担軽減策の一つとして医師事務作業補助体制に係る医師事務作業補助職の能力を認定する資格です。診療報酬の医療機関における体制加算のひとつである「医師事務作業補助体制加算」に対応した業務で、診療録や各種診断書・証明書・処方せん等の医療文書作成業務などを医師の指示の下で代行します。

活躍の場 医療機関において、医師の事務作業の補助を行う業務で、社会問題化されている病院勤務医の過重勤務を軽減するために、医師のサポート役としての活躍が期待されています。

認定試験の受験には受験資格が必要ですが、医療情報管理学科は（財）日本医療教育財団の認定を受けており、対象科目を修得することで受験資格が得られます。

教職課程履修規則

健康栄養学科　健康スポーツ学科　看護学科

◎教職課程について（健康栄養学科・健康スポーツ学科・看護学科）

教職課程とは、教育職員免許状（教員免許状）を取得するための課程である。当該課程で定められた所定の単位を修得し、都道府県教育委員会（本学の場合は、新潟県教育委員会）に教員免許状の取得申請をする。

健康スポーツ学科、看護学科は卒業時に大学で一括申請するが、卒業後に申請する場合は、個人で居住地の都道府県教育委員会に申請することとなる。また、健康栄養学科は卒業後に個人で申請をする。

2019年４月１日に教育職員免許法と同法施行規則が大きく改正された。（以下、改正前の法令を「旧法」、改正後の法令を「新法」と表記する。）

2019年度以降入学生には新法が適用され、この後のp.218～p.229に記載の表のとおり、必要な単位を修得しなければならない。2018年度までの入学生（旧法適用）とは、履修すべき科目数、内容等が一部異なるため、充分留意すること。

１．教育職員免許法及び同法施行規則に規定する免許状を取得するために必要な単位数

（１）中学校教諭及び高等学校教育免許状（数字は最低取得単位数）

<table>
<tr><th></th><th>免許状の種類</th><th>基礎資格</th><th colspan="2">教育職員免許法施行規則
第66条の６に定める科目</th><th>教科及び教職に関する科目</th></tr>
<tr><td rowspan="2">学部</td><td>中学校教諭一種免許状[1)]</td><td rowspan="2">学士の学位を有すること</td><td>日本国憲法（２単位）
体育（２単位）
外国語コミュニケーション（２単位）
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作（２単位）</td><td>８単位</td><td rowspan="2">59単位</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭一種免許状</td></tr>
<tr><td rowspan="2">大学院[2)]</td><td>中学校教諭専修免許状</td><td rowspan="2">修士の学位を有すること</td><td colspan="2"></td><td rowspan="2">24単位</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭専修免許状</td></tr>
</table>

（注）１）中学校教諭一種免許状を取得する場合は、上記のほかに「介護等体験」を行う必要がある。
２）大学院で中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状を取得する場合は、それぞれ一種免許状を取得済みであることが履修の条件である。

（２）栄養教諭免許状（数字は最低取得単位数）

<table>
<tr><th></th><th>免許状の種類</th><th>基礎資格</th><th colspan="2">教育職員免許法施行規則
第66条の６に定める科目</th><th>栄養に係る教育及び教職に関する科目</th></tr>
<tr><td>学部</td><td>栄養教諭一種免許状</td><td>学士の学位を有すること</td><td>日本国憲法（２単位）
体育（２単位）
外国語コミュニケーション（２単位）
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作（２単位）</td><td>８単位</td><td>22単位</td></tr>
</table>

（注）栄養教諭一種免許状を取得するためには、管理栄養士の免許を受けていること、又は管理栄養士養成施設の課程を修了して栄養士の免許を受けていることが必要である。

（3）養護教諭免許状（数字は最低取得単位数）

	免許状の種類	基礎資格	教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目		養護及び教職に関する科目
学部	養護教諭一種免許状	学士の学位を有すること	日本国憲法（２単位） 体育（２単位） 外国語コミュニケーション（２単位） 数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作（２単位）	８単位	56単位

（注）養護教諭二種免許状は、次の２つの要件をいずれも満たす場合に、居住地の都道府県教育委員会へ各自申請することにより取得できる。
イ）保健師国家資格を取得していること
ロ）教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目（４科目８単位）を修得していること

２．栄養教諭一種免許状の取得条件

健康栄養学科

（1）履修科目

①栄養に係る教育及び教職に関する科目（教育職員免許法施行規則第10条関係）

免許法施行規則に定める科目			本学開設科目			
科目区分	各科目区分に含めることが必要な事項	免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数 学科必修	単位数 教職必修
栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	4	学校栄養指導論Ⅰ	3		2
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項					
	食生活に関する歴史的及び文化的事項					
	食に関する指導の方法に関する事項		学校栄養指導論Ⅱ	3		2
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理	1		2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	1		2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育社会制度論Ⅰ	2		1
			教育社会制度論Ⅱ	2		1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学Ⅰ	2		1
			教育心理学Ⅱ	2		1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	3		1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2		2
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容	6	道徳教育指導論Ⅰ	3		1
			特別活動指導論Ⅰ	3		1
			総合的な学習の時間の指導論	3		1
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法・技術	2		2
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導論	3		2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	3		2
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	教育実習（栄養教諭）	4		3
	教職実践演習	2	教職実践演習（栄養教諭）	4		2
計		22			－	29

②教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目			本学開設科目			
科目区分	科目区分に含めることが必要な事項	免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数	
					学科必修	教職必修
教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目	日本国憲法	2	法学Ⅰ	1		1
			法学Ⅱ	1		1
	体育	2	スポーツ・健康	1	1	
			スポーツ・実践	2		1
	外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ	1	1	
			英語Ⅱ	1	1	
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	1	1	
			情報処理Ⅱ	1	1	
計		8			5	3

（注）教職必修科目は、教員免許状を取得するための必修科目である。必ず開講年次に履修すること。

（２）教育実習（栄養教諭）の履修に関して

①受講資格

・教育実習（栄養教諭）を履修するためには、次の授業科目を履修済みでなければならない。

ア）３年次後期までに開講されている「管理栄養士必修科目」の全科目
イ）３年次後期までに開講されている上記（１）①・②の表の本学開設科目の全科目

②実習期間

・教育実習（栄養教諭）：４年次５月～６月の間の10日間（２週間）（別途、事前・事後指導を行う。）

③実習校

・原則として、新潟市立の小学校

（３）諸費用

・教職課程の履修及び教育実習に関する費用は、別途連絡する。

＜栄養教諭について＞

・栄養教諭は、小学校・中学校（特別支援学校の小学部・中学部を含む）などの義務教育諸学校に配置される。また、幼稚園・高等学校（特別支援学校の幼稚部・高等部）においては、その他必要な職員として栄養教諭の配置が可能である。
・栄養教諭の職務は、「児童（及び生徒）の栄養に関する指導及び管理をつかさどる」ことである。このうち「指導」には、①児童生徒に対する栄養に関する個別的な相談指導、②学級担任・教科担任等と連携して関連教科や特別活動等において食に関する指導を行うこと、③食に関する指導に係る全体的な計画の策定等への参画などが含まれる。また、「管理」については、①学校給食を教材として活用することを前提とした給食管理、②児童生徒の栄養状態等の把握、③食に関する社会的問題等に関する情報の把握などが含まれる。

3．中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）の取得要件

健康スポーツ学科

（1）中学校教諭一種免許状（保健体育）取得に必要な履修科目

①教科及び教職に関する科目（教育職員免許法施行規則第4条関係）

免許法施行規則に定める科目				本学開設科目				
科目区分	各科目区分に含めることが必要な事項		免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数 学科必修	教職必修	教職選択
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	体育実技	28	陸上競技	1		1	
				水泳	1		1	
				器械運動	1		1	
				ダンス	1		1	
				体操(エアロビクスエクササイズ含む)	3		1以上	
				体つくり運動	3			
				柔道	3		1以上	
				剣道	3			
				サッカー	2		1以上	
				バスケットボール	2			
				バレーボール	2			
				テニス	3		1以上	
				バドミントン	3			
				野球ソフトボール	1		1	
				野外活動Ⅰ（冬期）	1			
				野外活動Ⅱ（夏期）	2		1以上	
				水辺実習	2			
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		体育原理・スポーツ哲学	1	2		
				スポーツ心理学	2	2		
				スポーツ経営学	1	2		
				スポーツ社会学	1	2		
				体育・スポーツ史	2	2		
				スポーツ運動学	2	2		
		生理学（運動生理学を含む。）		生理学	1	2		
				運動生理学	2	2		
		衛生学・公衆衛生学		衛生学・公衆衛生学	1	2		
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		学校保健	2		2	
				健康管理学	2	2		
				救急法実習Ⅰ	1		1	
				救急法実習Ⅱ	1			1
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			体育科教育法Ⅰ	2		2	
				体育科教育法Ⅱ	3		2	
				体育科教育法Ⅲ	3		2	
				保健科教育法	3		2	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		10	教育原理	1		2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職概論	1		2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育社会制度論Ⅰ	2		1	
				教育社会制度論Ⅱ	2		1	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学Ⅰ	2		1	
				教育心理学Ⅱ	2		1	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育論	3		1	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論	2		2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		10	道徳教育指導論Ⅰ	3		1	
				道徳教育指導論Ⅱ	3		1	
	総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習の時間の指導論	3		1	
	特別活動の指導法			特別活動指導論Ⅰ	3		1	
				特別活動指導論Ⅱ	3		1	
	教育の方法及び技術			教育方法・技術（情報通信技術の活用含む）	2		2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法							
	生徒指導の理論及び方法			生徒指導・進路指導論	3		2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談	3		2	
教育実践に関する科目	教育実習	事前及び事後の指導	5	教育実習指導論	4		1	
		教育実習		教育実習	4			
				教育実習（2週間）	4		4以上	
				教職インターンシップ	2			
	教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）	4		2	
小計A			55			20	50	1

免許法施行規則に定める科目			本学開設科目				
科目区分	各科目区分に含めることが必要な事項	免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数 学科必修	教職必修	教職選択
大学が独自に設定する科目		4	介護等体験実習講義	2		1	
			介護等体験実習	3		1	
			教職実践対応論	3		1	
			スポーツ栄養学	1	2		
			コーチング論	1	2		
			発育発達と老化	3			2
			体力測定評価Ⅰ	2	2		
			体力測定評価Ⅱ	3			2
			ストレングス&コンディショニング論	2	2		
			スポーツ医学総論	2	2		
			アダプテッドスポーツ論	2	2		
			陸上競技指導実習	3			1
			水泳指導実習	3			1
			ダンス指導実習	3			1
			サッカー指導実習	3			1
			バスケットボール指導実習	3			1
			バレーボール指導実習	3			1
			ベースボール指導実習	3			1
			レクリエーション指導論	3			2
			スポーツと法	3			2
			スポーツ文化論	3			2
小計B		4			12	3	17
計（A＋B）		59			32	53	－

②教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目			本学開設科目			
科目区分	科目区分に含めることが必要な事項	免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数 学科必修	教職必修
教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目	日本国憲法	2	法学Ⅰ	1		1
			法学Ⅱ	1		1
	体育	2	スポーツ・健康	1	1	
			スポーツ・実践	2		1
	外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ	1	1	
			英語Ⅱ	1	1	
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	1	1	
			情報処理Ⅱ	1	1	
計		8			5	3

（注）１）教職必修科目は、教員免許状を取得するための必修科目である。必ず開講年次に履修すること。
２）「大学が独自に設定する科目」で必要な修得単位数は４単位である。以下のいずれかの方法、あるいは複数の方法を組み合わせて履修すること。
① 「大学が独自に設定する科目」のうち、「介護等体験実習講義」（１単位:教職必修)、「教職実践対応論」（１単位:教職必修)、「介護等体験実習」（１単位：教職必修）の他に、教職選択科目から１単位以上選択して履修する。
② 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち、免許状の取得に必要な単位数28単位を超えて修得した科目を充てる。
③ 「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち、免許状の取得に必要な単位数計20単位を超えて修得した科目を充てる。
３）「教科に関する専門的事項」のうち、「体育実技」については、それぞれ次のとおりに履修する。
① 「体操（エアロビクスエクササイズ含む)」「体つくり運動」から必ず１科目以上履修する。
② 「柔道」「剣道」から必ず１科目以上履修する。
③ 「サッカー」「バスケットボール」から必ず１科目以上履修する。
④ 「バレーボール」「テニス」「バドミントン」から必ず１科目以上履修する。
⑤ 「野外活動Ⅰ（冬期)」「野外活動Ⅱ（夏期)」「水辺実習」から必ず１科目以上履修する。
４）「教育実践に関する科目」のうち、「教育実習」、「教育実習（２週間)」の履習については別途連絡する。

（2）高等学校教諭一種免許状（保健体育）取得に必要な履修科目

①教科及び教職に関する科目（教育職員免許法施行規則第5条関係）

免許法施行規則に定める科目				本学開設科目				
科目区分	各科目区分に含めることが必要な事項		免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数 学科必修	教職必修	教職選択
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	体育実技	24	陸上競技	1		1	
				水泳	1		1	
				器械運動	1		1	
				ダンス	1		1	
				体操（エアロビクスエクササイズ含む）	3		1以上	
				体つくり運動	3			
				柔道	3		1以上	
				剣道	3			
				サッカー	2		1以上	
				バスケットボール	2			
				バレーボール	2		1以上	
				テニス	3			
				バドミントン	3			
				野球ソフトボール	1		1	
				野外活動Ⅰ（冬期）	1		1以上	
				野外活動Ⅱ（夏期）	2			
				水辺実習	2			
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		体育原理・スポーツ哲学	1	2		
				スポーツ心理学	2	2		
				スポーツ経営学	1	2		
				スポーツ社会学	1	2		
				体育・スポーツ史	2	2		
				スポーツ運動学	2	2		
		生理学（運動生理学を含む。）		生理学	1	2		
				運動生理学	2	2		
		衛生学・公衆衛生学		衛生学・公衆衛生学	1	2		
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		学校保健	2		2	
				健康管理学	2	2		
				救急法実習Ⅰ	1		1	
				救急法実習Ⅱ	1			1
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			体育科教育法Ⅰ	2		2	
				体育科教育法Ⅱ	3		2	
				体育科教育法Ⅲ	3		2	
				保健科教育法	3		2	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		10	教育原理	1		2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職概論	1		2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育社会制度論Ⅰ	2		1	
				教育社会制度論Ⅱ	2		1	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学Ⅰ	2		1	
				教育心理学Ⅱ	2		1	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育論	3		1	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論	2		2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法		8	総合的な学習の時間の指導論	3		1	
	特別活動の指導法			特別活動指導論Ⅰ	3		1	
				特別活動指導論Ⅱ	3		1	
	教育の方法及び技術			教育方法・技術（情報通信技術の活用含む）	2		2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法							
	生徒指導の理論及び方法			生徒指導・進路指導論	3		2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談	3		2	
教育実践に関する科目	教育実習	事前及び事後の指導	3	教育実習指導論	4		1	
		教育実習		教育実習	4			
				教育実習（2週間）	4		3以上	
				教職インターンシップ	2			
	教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）	4		2	
小計A			47			20	47	1

免許法施行規則に定める科目			本学開設科目				
科目区分	各科目区分に含めることが必要な事項	免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数		
					学科必修	教職必修	教職選択
大学が独自に設定する科目		12	道徳教育指導論Ⅰ	3		1	
			道徳教育指導論Ⅱ	3			1
			介護等体験実習講義	2			1
			介護等体験実習	3			1
			教職実践対応論	3		1	
			スポーツ栄養学	1	2		
			コーチング論	1	2		
			発育発達と老化	3			2
			体力測定評価Ⅰ	2	2		
			体力測定評価Ⅱ	3			2
			ストレングス&コンディショニング論	2	2		
			スポーツ医学総論	2	2		
			アダプテッドスポーツ論	2	2		
			陸上競技指導実習	3			1
			水泳指導実習	3			1
			ダンス指導実習	3			1
			サッカー指導実習	3			1
			バスケットボール指導実習	3			1
			バレーボール指導実習	3			1
			ベースボール指導実習	3			1
			レクリエーション指導論	3			2
			スポーツと法	3			2
			スポーツ文化論	3			2
小計B		12			12	2	20
計（A＋B）		59			32	52	－

②教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目			本学開設科目			
科目区分	科目区分に含めることが必要な事項	免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数	
					学科必修	教職必修
教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目	日本国憲法	2	法学Ⅰ	1		1
			法学Ⅱ	1		1
	体育	2	スポーツ・健康	1	1	
			スポーツ・実践	2		1
	外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ	1	1	
			英語Ⅱ	1	1	
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	1	1	
			情報処理Ⅱ	1	1	
計		8			5	3

（注）１）教職必修科目は、教員免許状を取得するための必修科目である。必ず開講年次に履修すること。
２）「大学が独自に設定する科目」で必要な修得単位数は12単位である。以下のいずれかの方法、あるいは複数の方法を組み合わせて履修すること。
① 「大学が独自に設定する科目」のうち、「道徳教育指導論Ⅰ」（１単位：教職必修）、「教職実践対応論」（１単位：教職必修）の他に、教職選択科目から10単位以上選択して履修する。
② 教科及び教科の指導法に関する科目」のうち、免許状の取得に必要な単位数24単位を超えて修得した科目を充てる。
③ 「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち、免許状の取得に必要な単位数計18単位を超えて修得した科目を充てる。
３）「教科に関する専門的事項」のうち、「体育実技」については、それぞれ次のとおりに履修する。
① 「体操（エアロビクスエクササイズ含む）」「体つくり運動」から必ず１科目以上履修する。
② 「柔道」「剣道」から必ず１科目以上履修する。
③ 「サッカー」「バスケットボール」から必ず１科目以上履修する。
④ 「バレーボール」「テニス」「バドミントン」から必ず１科目以上履修する。
⑤ 「野外活動Ⅰ（冬期）」「野外活動Ⅱ（夏期）」「水辺実習」から必ず１科目以上履修する。
４）「教育実践に関する科目」のうち、「教育実習」、「教育実習（２週間）」の履習については別途連絡する。

（3）教職インターンシップ

第２年次後期に開講される「教職インターンシップ」を履修するためには、履修する年度の観察参加実習への申し込みを済ませ、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

教職科目群

＊教職概論　＊教育原理　＊教育心理学Ⅰ　＊教育心理学Ⅱ　＊教育社会制度論Ⅰ
＊教育社会制度論Ⅱ

（4）介護等体験実習講義

第２年次後期に開講される「介護等体験実習講義」を履修するためには、履修する次の年度の介護等体験実習への申し込みを済ませ、履修登録の時点で下記の科目を修得しておかなければなりません。

教職科目群

＊教職概論　＊教育原理　＊教育心理学Ⅰ　＊教育心理学Ⅱ　＊教育社会制度論Ⅰ
＊教育社会制度論Ⅱ

（5）介護等体験実習

第３年次前期に開講される「介護等体験実習」を履修するためには、教職課程への登録を済ませ、履修登録の時点で下記の科目・実習を修得しておかなければなりません。

教職科目群

＊介護等体験実習講義

実習

観察参加実習

さらに下記の科目を履修登録済みでなければなりません。

教職科目群

＊特別支援教育論　＊総合的な学習の時間の指導論

（6）教育実習

第４年次前期に開講される「教育実習」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目・実習を修得しておかなければなりません。

教職科目群

＊教職概論　＊教育原理　＊教育心理学Ⅰ　＊教育心理学Ⅱ　＊教育社会制度論Ⅰ
＊教育社会制度論Ⅱ　＊教育課程論　＊教育方法・技術（情報通信技術の活用含む）
＊体育科教育法Ⅰ　＊特別支援教育論　＊総合的な学習の時間の指導論　＊保健科教育法
＊体育科教育法Ⅱ　＊体育科教育法Ⅲ　＊道徳教育指導論Ⅰ
＊道徳教育指導論Ⅱ（中学校教諭一種免許取得希望者のみ）　＊生徒指導・進路指導論
＊特別活動指導論Ⅰ　＊特別活動指導論Ⅱ　＊教育相談　＊教職実践対応論

実習

観察参加実習

（7）教育実習（2週間）

第4年次前期に開講される「教育実習（2週間）」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目・実習を修得しておかなければなりません。

教職科目群

＊教職概論　＊教育原理　＊教育心理学Ⅰ　＊教育心理学Ⅱ　＊教育社会制度論Ⅰ
＊教育社会制度論Ⅱ　＊教育課程論　＊教育方法・技術（情報通信技術の活用含む）
＊体育科教育法Ⅰ　＊特別支援教育論　＊総合的な学習の時間の指導論　＊保健科教育法
＊体育科教育法Ⅱ　＊体育科教育法Ⅲ　＊道徳教育指導論Ⅰ
＊道徳教育指導論Ⅱ（中学校教諭一種免許取得希望者のみ）　＊生徒指導・進路指導論
＊特別活動指導論Ⅰ　＊特別活動指導論Ⅱ　＊教育相談　＊教職実践対応論
＊教職インターンシップ（中学校教諭一種免許取得希望者のみ）

実習
観察参加実習

（8）教育実習指導論

第4年次前期に開講される「教育実習指導論」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目・実習を修得しておかなければなりません。

教職科目群

＊教職概論　＊教育原理　＊教育心理学Ⅰ　＊教育心理学Ⅱ　＊教育社会制度論Ⅰ
＊教育社会制度論Ⅱ　＊教育課程論　＊教育方法・技術（情報通信技術の活用含む）
＊体育科教育法Ⅰ　＊特別支援教育論　＊総合的な学習の時間の指導論　＊保健科教育法
＊体育科教育法Ⅱ　＊体育科教育法Ⅲ　＊道徳教育指導論Ⅰ
＊道徳教育指導論Ⅱ（中学校教諭一種免許取得希望者のみ）　＊生徒指導・進路指導論
＊特別活動指導論Ⅰ　＊特別活動指導論Ⅱ　＊教育相談　＊教職実践対応論

実習
観察参加実習

（9）教職実践演習（中・高）

第4年次後期に開講される「教職実践演習（中・高）」を履修するためには、履修登録の時点で下記の科目を履修登録済みでなければなりません。

教職科目群

＊教育実習

(10) 諸費用

教職課程の履修、教育実習、介護等体験実習に係る費用については、別途連絡する。

(11) その他

①当該学生の学修状況等により、教職課程長の判断に基づき、各種実習の受講を認めない場合がある。なおその場合、当該学生は本学在学中に教員免許状を取得することができない。
②小学校教諭二種免許状（玉川大学通信教育部における併修）に関する事項については、別途連絡する。関心のある者は連絡に注意すること。
なお、主なスケジュールは以下の通りである。

2年次12月～：学内選考
3年次4月～4年次1月：小学校教員養成特別プログラム受講
4年次10月～11月：教育実習（新潟市内小学校／10日間（2週間））
教員免許状の取得申請については、4年次1月までにプログラムを修了した者について大学で一括申請を行う。

中学校教諭（保健体育）／高等学校教諭（保健体育）一種免許状取得者は、大学院で所定の科目と履修することにより、当該免許状の専修免許状を取得することが可能です。

4．養護教諭一種免許状の取得要件

看護学科

（1）履修科目

①養護及び教職に関する科目（教育職員免許法施行規則第９条関係）

免許法施行規則に定める科目				本学開設科目			
科目区分	各科目区分に含めることが必要な事項		免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数	
						学科必修	教職必修
養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		4	公衆衛生学（疫学を含む）	2		2
				保健統計学	3	2	
	学校保健		2	学校保健活動論	2		1
				学校保健	2		1
	養護概説		2	養護概論	2		2
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		2	公衆衛生看護学概論	2		1
				公衆衛生看護活動論Ⅱ	3		1
				公衆衛生看護活動演習Ⅱ	3		1
	栄養学（食品学を含む。）		2	食品学	1		1
				臨床栄養学	2	1	
	解剖学・生理学		2	人体の構造と機能Ⅰ	1	4	
				人体の構造と機能Ⅱ	1	3	
	「微生物学、免疫学、薬理概論」		2	感染防御と管理（微生物学を含む）	1	1	
				臨床薬理学	2	2	
	精神保健		2	こころの構造と機能	1	1	
				精神発達保健論	1	1	
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		10	小児発達保健論	1	1	
				小児看護学概論	2	2	
				小児看護学実習	3	2	
				災害看護論	3	1	
				基礎看護学実習Ⅰ	1	1	
				基礎看護学Ⅱ	2	1	
				基礎看護学演習Ⅱ	2	1	
				基礎看護学実習Ⅱ	2	2	
				成人急性期看護学	2	1	
				成人急性期看護学演習	3	1	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		8	教育原理	1		2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職概論	1		2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育社会制度論Ⅰ	2		1
				教育社会制度論Ⅱ	2		1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学Ⅰ	2		1
				教育心理学Ⅱ	2		1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育論	3		1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論	2		2
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容		6	道徳教育指導論Ⅰ	3		1
				特別活動指導論Ⅰ	3		1
				総合的な学習の時間の指導論	3		1
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			教育方法・技術	2		2
	生徒指導の理論及び方法			生徒指導論	3		2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談	3		2
教育実践に関する科目	養護実習	事前及び事後の指導	5	養護実習指導論	4		1
		養護実習		養護実習	4		4
	教職実践演習		2	教職実践演習（養護教諭）	4		2
大学が独自に設定する科目			7				
計			56			28	37

②教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目			本学開設科目			
科目区分	科目区分に含めることが必要な事項	免許状取得に必要な単位数	授業科目	配当年次	単位数 学科必修	単位数 教職必修
教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目	日本国憲法	2	法学Ⅰ	1		1
			法学Ⅱ	1		1
	体育	2	スポーツ・健康	1	1	
			スポーツ・実践	2		1
	外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ	1	1	
			英語Ⅱ	1	1	
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	1	1	
			情報処理Ⅱ	1	1	
計		8			5	3

（注）１）教職必修科目は、教員免許状を取得するための必修科目である。必ず履修すること。
２）「大学が独自に設定する科目」で必要な修得単位数は７単位である。以下のいずれかの方法、あるいは組み合わせて履修すること。
① 「養護に関する科目」のうち、免許状の取得に必要な単位数28単位を超えて修得した科目を充てる。
② 「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち免許状の取得に必要な単位数計14単位を超えて修得した科目を充てる。

（２）養護実習の履修に関して

①受講資格

・養護実習を履修するためには、３年次後期までの成績及び面接によって、履修資格の認定を行う。成績の対象となる科目は、次の授業科目である。

ア） ３年次後期までに開講されている「看護学科必修科目」の全科目
イ） ３年次後期までに開講されている上記（１）①、②の表の本学開設科目の全科目

②実習期間

・養護実習：４年次５月～６月の間の15日間（３週間）

③実習校

・原則として、新潟市立の小学校

（３）観察参加実習（養護）

①観察参加実習とは

・学校を訪問し見学・観察することにより、学校現場や教育職員に必要な能力や資質について理解し、教育職員を志す意志を確立し、今後の意欲的な取組に資するための実習である。

②受講資格

・観察参加実習に参加するためには、次の授業科目の単位を修得している必要がある。

・１年次後期までに開講されている上記（１）①、②の表の本学開設科目の全科目

③実習期間

・２年次２月の指定された期日（１日間）

④実習校

・新潟市内の小学校

（4）諸費用

・教職課程の履修及び養護実習に関する費用は、別途連絡する。

＜養護教諭について＞

・養護教諭は、学校教育法で規定されている「養護をつかさどる」教員で、学校において児童生徒の心身の健康管理を行うとともに、学校の保健教育の担い手となる教員である。

・養護教諭の職務を指す言葉である「養護」とは、児童生徒の心身の健康の保持（健康管理）と増進（健康教育）によって、児童生徒の発育・発達の支援を行うすべての教育活動を指す。

・そのため、養護教諭には医療・看護・保健衛生などの幅広い知識と、地域社会にまで及ぶ広い視野が必要とされる。また、身体上の問題を持つ児童生徒ばかりでなく、身体の不調を訴えながら心の病を持つ児童生徒が保健室を訪れるケースが増えているため、こうした児童生徒をやさしく受け止め、励まし、導いていける豊かな人間性が求められている。

学外実習で起こりうる個人情報の漏洩の防止ーガイドラインー

学外実習では、実習先の個人情報に触れる機会が少なくありません。個人情報の漏洩は絶対にあってはならないことですので、以下の記載をよく確認し、最大限の注意を払って臨んでください。

1．個人情報とは？

下記を参照してください。

－厚生労働省－

「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」

（令和７年６月一部改正版）

https://www.mhlw.go.jp/content/001470633.pdf

個人情報保護法令では特定の場合を除いて、本人の同意を得ることなく個人データを第三者に提供することを禁じています（第23条）。よって、**実習で知り得た患者様の情報や実習指導者の情報、実習施設の情報などを、本人の同意なく漏洩することは個人情報保護法令違反**となります。

また、各専門職の資格法でも、以下のとおり**守秘義務**が規定されています。

■理学療法士及び作業療法士法

（秘密を守る義務）

第16条　理学療法士又は作業療法士は、正当な理由がある場合を除き、その業務上知り得た人の秘密を他に漏らしてはならない。理学療法士又は作業療法士でなくなった後においても、同様とする。

■言語聴覚士法

（秘密を守る義務）

第44条　言語聴覚士は、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならない。言語聴覚士でなくなった後においても、同様とする。

■義肢装具士法

（秘密を守る義務）

第40条　義肢装具士は、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならない。義肢装具士でなくなった後においても、同様とする。

■あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律

第７条の２　施術者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならない。施術者でなくなった後においても、同様とする。

■臨床工学技士法

（秘密を守る義務）

第40条　臨床工学技士は、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならない。臨床工学技士でなくなった後においても、同様とする。

■臨床検査技師等に関する法律

（秘密を守る業務）

第19条　臨床検査技師は、正当な理由がなく、その業務上取り扱ったことについて知り得た秘密を他に漏らしてはならない。臨床検査技師でなくなった後においても、同様とする。

■視能訓練士法

（秘密を守る義務）

第19条　視能訓練士は、正当な理由がある場合を除き、その業務上知り得た人の秘密を他に漏らしてはならない。視能訓練士でなくなった後においても、同様とする。

■救急救命士法
（秘密を守る義務）
第47条　救急救命士は、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならない。救急救命士でなくなった後においても、同様とする。
■診療放射線技師法
（秘密を守る義務）
第29条　診療放射線技師は、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならない。診療放射線技師でなくなった後においても、同様とする。
■保健師助産師看護師法
第42条の２　保健師、看護師又は准看護師は、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならない。保健師、看護師又は准看護師でなくなった後においても、同様とする。
第44条の３　第42条の２の規定に違反して、業務上知り得た人の秘密を漏らした者は、６月以下の懲役又は10万円以下の罰金に処する。
■社会福祉士及び介護福祉士法
（秘密保持義務）
第46条　社会福祉士又は介護福祉士は、正当な理由がなく、その業務に関して知り得た人の秘密を漏らしてはならない。社会福祉士又は介護福祉士でなくなった後においても、同様とする。
■精神保健福祉士法
（秘密保持義務）
第40条　精神保健福祉士は、正当な理由がなく、その業務に関して知り得た人の秘密を漏らしてはならない。精神保健福祉士でなくなった後においても、同様とする。
■公認心理師法
（秘密保持義務）
第41条　公認心理師は、正当な理由がなく、その業務に関して知り得た人の秘密を漏らしてはならない。公認心理師でなくなった後においても、同様とする。

２．どのようにして漏洩はおこるのか？

学外実習において個人情報を取り扱う場合は、相当の配慮をする必要があります。個人情報保護に関する文書を交わしていない場合であっても同様です。

以下に、学外実習で起こり得る漏洩について例を示します。これらは、企業や病院、大学等で実際にあった事例、あるいはそれを基にアレンジしたものです。

・実習時に使用した、個人情報を含むメモ帳を紛失した。
・個人情報を含むケースレポートが入ったカバンを電車内に置き忘れた。
・個人情報を含む書き損じたケースレポートを、メモ用紙として再利用した。
・個人情報を含む資料をコピーした際、原本をコピー機に置き忘れてしまった。
・車上荒らしに遭い、個人情報が保存されたパソコンが盗まれた。
・個人情報が保存されたUSBメモリを紛失した。
・担当ケースについて相談するための個人情報を含む詳細なメールを､相手を誤って送信してしまった。
・ウィルス対策に不備のあるパソコンでインターネットに接続し、個人情報データを抜き取られた。
・友人に音楽CDを貸したつもりだったが、個人情報を含む担当ケースの情報を保存しておいたCD-ROMだった。
・パソコンを買い替えた際、下取りに出した古いパソコンに保存されていた個人情報データを消去し忘れた。
・FacebookやX（旧Twitter)、LINE等のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）に、実

習で知り得た患者様の情報や実習指導者の情報、実習施設の情報など、個人情報やプライバシーに関することを書き込んだ。

3．実習生として注意すべきことは？

実習生の不注意により、個人情報が漏洩する可能性があることが理解できたでしょうか？

これらを防ぐにはどうしたらよいか、例を挙げます。ただしこれらはあくまでも例であり、実習施設によって方針が異なる場合もありますので、詳細については実習指導者に指示を仰いでください。

1）パソコン関連

・ケースレポートなど個人情報を含むファイルおよびそれが保存されているフォルダ、USBメモリ、パソコンにパスワードを設定する。
・実習についてメールで報告や相談を行う際、個人情報は記載しない、またはメールでの報告・相談は行わない。
・ウィルス対策ソフトをインストール・アップデートし、ウィルスチェックを行う。
・「Winny」などのファイル交換ソフトは絶対に使用しない。

2）メモやケースレポート

・実習指導者に個人情報をどこまで記載して良いかをあらかじめ確認し、それに従う。文書を取り交わしている場合は、その内容を遵守する。
・電子カルテを実習生が閲覧して良いかなどをあらかじめ確認しておく。
・個人情報を記したメモや印刷した記録、情報を入力したパソコン等を、ケースレポート作成のために自宅や宿舎に持ち運んで良いか確認する。
・事後セミナー時の症例報告書には、氏名や施設名は記載しない（イニシャルも不可）。
・実習中に記したメモ類は、必ず実習後にシュレッダーで破棄処分する。
・見学させていただいた利用者様についての情報は、一切非公開とする。
・個人情報の消去は、新たにフォーマットを行うか削除ソフト（例：eraserなど）を用いて、復元できないようにする。
・バックアップは一切しない。
・コンビニエンスストアのコピー機では、原稿の置忘れや複写内容の漏洩が起こりかねないため、コピーをしない。

3）会話

・実習中に知り得た個人情報について、実習施設内の廊下やエレベーター、もしくは実習先への往復途上や帰宅後などにおいて、他者にわかるような会話はしない。

4）SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用

・FacebookやX（旧Twitter）、LINE等に、実習で知り得た患者様の情報や実習指導者の情報、実習施設の情報など、個人情報やプライバシーに関することを発信しない。
・個人情報に限らず、「違法または不当な行為・情報に関すること」や「人種・思想等の差別に関すること」「他者や組織・団体の誹謗中傷に関すること」等に関する情報を発信することの無いよう十分に注意する。

4．個人情報が漏洩した場合

・個人情報を含むメディアは紛失したり盗難にあったりしないよう、絶えず細心の注意を払う必要がありますが、もし紛失や盗難があった場合には、必ずその状況を実習先の実習指導者と大学の担当教員に報告して、指示を仰いでください。

・情報倫理に反する行為を行った場合は、退学や停学等の懲戒処分の対象となります。

「新潟医療福祉大学学生の懲戒に関する基準」より抜粋

懲戒の標準

区分	行為の種類	懲戒の標準
情報倫理	名誉棄損、人権侵害、誹謗中傷に関する行為	退学、停学又は訓告
	公序良俗に反する行為	退学、停学又は訓告
	個人のプライバシー及び肖像権を侵害する行為	退学、停学又は訓告
	学外実習における個人情報保護に関する規程及び学外実習における個人情報保護に関する方針に基づいて学科により行われる教育・指導に反する行為	退学、停学又は訓告
	その他、法令又は社会的通念に反する情報発信	退学、停学又は訓告

・また、学外実習において情報倫理に反する行為を行った場合は、当該学外実習科目または当該学期の全履修科目の評価区分を「D」とされた上で、懲戒処分を受けることとなります。

「新潟医療福祉大学授業科目の履修の認定、試験及び成績評価に関する細則」より抜粋

（学外実習に対する罰則）

第11条　学外実習において情報倫理に反する行為を行った学生に対しては、当該学外実習科目又は当該学期の全履修科目の評価区分をＤとした上で、学則第46条の規定に基づいて懲戒する。

【注】上記基準及び細則の全文は、「学生便覧」の「諸規程、規則等」を確認してください。

NIIGATA UNIVERSITY
OF HEALTH AND WELFARE

新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL：025-257-4455㈹ FAX：025-257-4456
URL：https://www.nuhw.ac.jp

・リハビリテーション学部　理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科/義肢装具自立支援学科/鍼灸健康学科
・医療技術学部　臨床技術学科/視機能科学科/救急救命学科/診療放射線学科
・健康科学部　健康栄養学科/健康スポーツ学科
・看護学部　看護学科
・心理・福祉学部　社会福祉学科/心理健康学科
・医療経営管理学部　医療情報管理学科